
遊戯王スパイラル

雪無サンタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王スパイラル

【Nコード】

N0382I

【作者名】

雪無サンタ

【あらすじ】

デュエルアカデミアに入学した新たな決闘者たちの物語・・・GXを舞台にオリカやら最近のカードやら色々出します。

turn:1入学試験

「BF 疾風のゲイルでダイレクトアタック！」

「ぐわっ！」

教師LP11000

「いててて・・・合格だ。おめでとう君は今日からデュエルアカデミアの生徒だ」

「よっしゃあー!」

「今日はもう帰っていいが、興味があるならこのあとの試合を見ていってもいいよ」

「マジですか!?!じゃあそうさせてもらっわ!」

ここはデュエルアカデミア入学試験会場

何人ものデュエリスト達がデュエルアカデミア入学を夢見てここに来る。

そしてここにもそれを夢見る一人のデュエリストがいた。

「次の受験者。前へ」

「はい!受験番号128番。日ノ原嵐。よろしくお願いします！」

「よし。では日ノ原くん、早速デュエルだ」

「はい！」

「デュエル！！」 教師LP4000

嵐LP4000

「私の先行、ドロー！アサルトガンドッグを攻撃表示で召喚！さらにカードを一枚セットしターンエンド」

アサルトガンドッグ（アニメオリジナル）

星4 / ATK1200 / DF500

このカードが戦闘によって破壊されたとき、デッキから「アサルトガンドッグ」を1体特殊召喚する。

「俺のターン、ドロー！スピードウォーリアを召喚！」

嵐の場に機械兵が現れる。

スピードウォーリア

星2 / ATK900 / DF400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にもみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「攻撃表示か。だが私の場のアサルトガンドッグには勝てないぞ」

「それはどうかな。モンスター効果発動！スピードウォーリアが召喚に成功したとき、エンドフェイズまでスピードウォーリアの攻撃力を2倍にする！」

スピードウォリア

ATK900 1800

「いけスピードウォリアー！アサルトガンドッグを攻撃！」

教師

LP4000 3400

「つく！こちらモンスター効果発動。デッキからアサルトガン
ドッグを特殊召喚」

教師の場に再びアサルトガンドッグが現れる。

「カードを1枚セットしてターンエンド」

スピードウォリア

ATK1800 900

「私のターン、ドロー。アサルトガンドッグをリリース。手錠龍
をアドバンス召喚」

フッパトドラゴン
手錠龍

星5/風属性/ドラゴン族/攻1800/守1800

このカードが相手モンスターの攻撃によって破壊され墓地へ送ら
れた時、このカードを装備カード扱いとしてそのモンスターに装備
する事ができる。

装備モンスターの攻撃力は1800ポイントダウンする。

装備モンスターが破壊される事によってこのカードが墓地へ送ら
れた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「バトル！手錠龍でスピードウォリアを攻撃」

「そうはさせるか！畏カードオープン！くず鉄のかかし！手錠龍の攻撃を無効にする！」

「残念だがそうは行かないよ。畏カードトラップジャマーを発動。くず鉄のかかしの効果を無効にする」

「なに！？」

手錠龍にスピードウォリアが破壊される。

「つくー！」

嵐

LP 4000 3100

「俺のターン、ドロー！ロードランナーを守備表示で召喚！カードを2枚セットしてターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

「私のターン、手札からアサルトガンドッグ、ガード・ドッグ、ジェリービーンズマンを墓地へ送り、モンタージュ・ドラゴンを特殊召喚」

モンタージュ・ドラゴン

星8 / ATK ? / DEF 0

このカードは通常召喚できない。

手札のモンスターカードを3枚墓地へ送った場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードの攻撃力は、このカードの特殊召喚時に墓地へ送ったモンスターのレベルの合計×300になる。

「墓地に送ったモンスターのレベルの合計は10。よってモンタージユ・ドラゴンの攻撃力は3000」

「なに!?!」

「手錠龍でロードランナーを攻撃」

手錠龍にロードランナーが破壊された。

「さらにモンタージユ・ドラゴンでダイレクトアタック」

「ぐわあああああ!?!」

嵐

LP 3100 100

「ターンエンド、残りライフは100だぞ。さあどうする?」

「くっそお。このドローで全てが決まる。頼む逆転のカードよ、来てくれ俺のターンドロ!...来た!チューナーモンスター、バブル・ナイトを召喚!」

嵐の場に泡のマントを羽織った戦士が現れる。

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロースするドロースしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「チューナーだと？」

「バブル・ナイトの効果発動！デッキからカードを1枚ドロース、それがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚できる！ドロース……ドロースカードはスピードウォリア！よって、場に特殊召喚する！」

スピードウォリアが再びフィールドに現れる。

「レベル2スピードウォリアに、レベル3バブル・ナイトをチューニング！！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚める！シンクロ召喚！水の騎士バブル・ブレイド！！」

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK 2300 / DF 2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

「シンクロ召喚だと！？しかし私のモンスタージュ・ドラゴンのほうが攻撃力は上だ」

「更に畏カードリビングデッドの呼び声！墓地からスピードウオ
ーリアを攻撃表示で特殊召喚！バブル・ブレイドのモンスター効果
！自分フィールドのレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モ
ンスターの攻撃力を下げる！」

手錠龍

ATK1800 900

「バブル・ブレイドで手錠龍を攻撃！バブルスラッシュー！」

水の騎士が手錠龍を両断する。

教師LP3400 2000

「つく！だが判断を誤ったな。手錠龍が破壊されたとき、このカ
ードを相手モンスターに装備し、攻撃力を1800ダウンさせる」

バブル・ブレイド

ATK2300 600

「その効果利用させてもらっぜ！畏発動！イクイップ・シユート
ー！」

バブル・ブレイドに取り付いていた手錠龍をモニタージュ・ド
ラゴンに投げつけた。

イクイップ・シユート

バトルフェイズ中のみ発動する事ができる。

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するモンスターに装備さ

れた装備カード1枚と相手フィールド上に存在する表側攻撃表示のモンスター1体を選択し、選択した装備カードを選択した相手モンスターに装備する。

その後、選択した装備カードを装備していた自分のモンスターと選択した相手モンスターで戦闘を行いダメージ計算を行う。

「これでモンスタージュ・ドラゴンの攻撃力は1800ダウン！更にバブル・ブレイドの効果で900ダウン、合計で2700ダウン！！」

モンスタージュ・ドラゴン

ATK3000 300

「そしてイクイップ・シュートの対象となったモンスター同士で強制戦闘だ！！」

バブル・ブレイドがモンスタージュ・ドラゴンを手錠龍ごと両断する。

「ぐわあああああ！！！！」

教師

LP2000 0

「やったぜえええええ！！！！」

「いたたた・・・おめでとう合格だよ。君は今日からデュエルアカデミアの生徒だ！」

「はい！！」

そして観覧席では

「……あの者……なかなかやるの」

「あいつ……もしかして……」

同じく入学試験に受かった2人の少年がそう呟いていた。

turn:1入学試験(後書き)

初のファンフィクションものを書きました雪無サントです。
ときどきキャラ紹介なんかもするのでよろしくお願いします。

t u r n 2 : 死神とのデュエル(前書き)

．．．．．オリジナルのカードを書くのがこんなにつらいなんて
思いませんでした．．．．

turn 2：死神とのデュエル

「つ……着いた……おえ！」

デュエルアカデミアの港にて嵐は船酔いによる吐き気を訴えていた。

「な……なんでデュエルアカデミアは島なんだよ……っーか飛行機移動とかでもいいだろっつぷ」

到着早々ピンチだ。

こんなときに世間は誰も助けてくれないのか……

「だ、大丈夫……ではなさそうだね。私薬持ってるけど、良かったら使って」

「ど……どうも」

そんな考えをよぎらせていた時一人の女子生徒が薬を分けてくれた。

「ごくごく……ぷはあ。助かったあ！どうもありがとう。マジで死ぬかと思った。俺は日ノ原嵐。よろしく」

「よろしくね嵐くん。私は両儀祭。祭って呼んでね」

「おう。祭、一つ訊きたいんだがここからオシリスレッドの寮にはどうやっていけばいいんだ？」

「レッド寮はその道をまっすぐ行った所にあるけど、あんなにすごいデュエルをしたのに嵐くんはオシリスレッドなんだ」

「いいと思うけどなあ。何か赤って良くねえか？こっちは情熱の色みたいない感じで」

「あはは。そっかそっかというとり方もあるもんね。じゃあ私も行くね。これからもよろしく」

「おう。じゃあな」

こうして俺はレッド寮を目指して歩き出した。

しばらく歩いた崖の上にレッド寮は建っていた。

「着いた。ここがレッド寮か。ブルー寮と比べるとえらく小さけれど、まあこっちのほうが性にあっていいな。さて俺の部屋は・・・」

とか言いながら自分の部屋を探していると

「おう。やっぱりそうだ。お〜い嵐〜！」

後ろのほうから俺を呼ぶ声が。結構近いぞ。

「おうおう」

「どぶおお!!」 振り向こうとした途端後方からドロップキックが飛んできた。

「痛たたた・・・誰だ!!今ドロップキックした野郎は!!」

「わりいわりい。つい興奮しちまってな。久しぶりだな嵐」

そうやってきたのは俺と同じオシリスレッドの制服を着たツンツン頭の少年(といっても嵐と同じ年であろう)だった。

「忘れちまったのか?俺だよ俺。鳥だよ!」

鳥?鳥・・・ああ!!

「鳥!!久しぶりだな。3年ぶりじゃねえか!」

「思い出すのが遅せえよ!あと今は黒羽鳥くろはねのとりってんだ」

改めてコイツは俺の古い友人の荒・・・いや黒羽鳥。家の近所に住んでいたんだけど、3年前に家出して今まで失踪中だった奴だ。

「鳥よ。おぬしの探しておった者はいたのか?」

鳥との会話に盛り上がっていると今度はじじい言葉を喋る美少女がやって来た。あれ?でもライイエローの制服着てる。確か女子寮ってブルーにしかなかったはず。

「ああ紹介するわ。こいつは藤山ふじやま佐助さすけ。お前を探すのを手伝ってくれたんだ」

「そうなんだ。よろしくな佐助・・・佐助ってことは男!？」

「そこまで驚かんでもよいじゃろう」

「いやだつて、そんな見た目してたら・・・」

「安心しろ。俺も最初は女と間違えた」

烏が俺に囁く。なら問題ねえな。

「それにわしもおぬしの事を探しておったのじゃ」

「俺を？」

「そうじゃ。嵐よ、わしとデュエルしてくれんか？」

「デュエル？別にいいけど」

「そうか。では早速始めよう」

「じゃあ俺審判やるわ」

デュエルモンスターズに審判があつただろうか？
まあいいや。では気を取り直して

「「デュエル!！」」

嵐LP4000

佐助LP4000

「俺の先行。ドロー！シールドウォーリアを守備表示で召喚。カードを一枚伏せてターンエンド」

シールドウォーリア

効果モンスター

星3 / ATK 800 / DF 1600

戦闘ダメージ計算時、自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスターはその戦闘では破壊されない。

「わしのターンドロー。死神戦士カルマを召喚じゃ！」

死神戦士カルマ（オリジナル）

効果モンスター

星4 / ATK 1400 / DF 500

このカードが守備モンスターを攻撃したとき、バトルフェイズ終了までこのモンスターの攻撃力は500アップする。

「死神戦士？聞いた事ないモンスターだな」

「バトルじゃ！死神戦士カルマでシールドウォーリア攻撃！」

「残念。カルマの攻撃力より、シールドウォーリアの守備力のほうが高い」

「モンスター効果発動！カルマが守備モンスターを攻撃するとき、攻撃力が500アップのじゃ」

「なに!?!」

死神戦士カルマ

ATK1400 1900

黒衣をまとった戦士にシールドウォーリアが切り裂かれた。

「つく!」

「カードを一枚セットして、ターンエンドじゃ」

「くつそお。俺のターンドロー!スピードウォーリアを召喚!」

スピードウォーリア

星2/ATK900/DF400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「その効果により、スピードウォーリアの攻撃力は2倍になる。

バトル!スピードウォーリアで死神戦士カルマを攻撃!」

「つく!」

佐助LP4000 3600

「わしのターンドロー!死神犬グリムを召喚じゃ!」

佐助の場に黒衣を羽織った黒犬が現れた。

死神犬グリム（オリジナル）

効果モンスター

星2 / ATK800 / DF1300

このカードが戦闘によって破壊されたとき、デッキからレベル4以下の『死神』と名のつくモンスター1体を特殊召喚する。

「さらに装備魔法、死神の鎌を死神犬グリムに装備！」

死神の鎌

装備魔法

このカードは『死神』と名のついたモンスターにのみ装備可能。
装備モンスターの攻撃力を400アップし、装備モンスターが先頭ダメージを与えたとき、相手の手札を一枚墓地に送る。

死神犬グリム

ATK800 1200

「グリムでスピードウォリアを攻撃！」

「墓地のシールドウォリアの効果！シールドウォリアをゲムから除外して破壊を無効にする。さらに罠カードガード・ブロック！戦闘ダメージを0にし、俺はカードを1枚ドローする」

ガード・ブロック

通常罠

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「なかなかやるの。ターンエンドじゃ」

「俺のターンドロワー！バブルナイトを召喚！」

泡の戦士がフィールドに現れた。

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK800 / DF800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロワーするドロワーしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「試験官を倒したチューナーか」

「バブル・ナイトの効果発動！デッキからカードを1枚ドロワーし、それがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚できる・・・ドロワーカードは魔法カードよってデッキの一番下に戻す。いくぜ！レベル2スピードウォリアに、レベル3バブル・ナイトをチューニング！！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚めろ！シンクロ召喚！バブル・ブレイド！！」

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK2300 / DF2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

「バブルブレイドで死神犬グリムを攻撃！バブルスラッシュュ！！」

「畏発動！ガード・ブロック！戦闘ダメージを0にする。さらにグリムの効果発動！デッキから、『死神』と名のつくモンスターを特殊召喚する。死神鳥ボルンを特殊召喚じゃ」

死神鳥ボルン

レベル3 / ATK 1100 / DF 500

効果モンスター

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分はデッキからカードを1枚ドローする。

「つち！カードを1枚伏せてターンエンド」

「わしのターンドロ。チューナーモンスター。死神技師スカルを召喚じゃ」

死神技師スカル

チューナー

レベル3 / ATK 1000 / DF 1000

「佐助も・・・チューナーか」

「レベル3死神鳥ボルんにレベル3死神技師スカルをチューニング！冥府の扉を守る獣よ。わしの前に姿を現せ！シンクロ召喚！！死神獣ケルベロス！！」

佐助の目の前に三つ首の巨犬が姿を現した。

死神獣ケルベロス

レベル6 / ATK 2500 / DF 1500

『死神』と名のつくチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを破壊したときもう一度攻撃することができる。

「死神獣ケルベロスでバブルブレイドを攻撃じゃ！」

バブルブレイドが三頭犬噛み砕かれた。

「つくー!!」

嵐LP 4000 3800

「さらにケルベロスの効果によりもう一度バトルを行う。行け！ケルベロス、ダイレクトアタックじゃ！」

「ぐああああああああああ!!」

嵐LP 3800 1300

「わしはこれでターンエンドじゃ」

「つつつ・・・強えな佐助。でも俺も負けねえぞ。俺のターンドロー!!」

・・・ボルト・ヘッジホッグ、コイツの攻撃力じゃ奴を倒せねえ。なら賭けるしかない。

「魔法カード打ち出の小槌！俺は手札を3枚デッキに戻し、新た

に3枚カードを引く！」

頼む！来てくれ・・・

「ドロー！・・・この4枚の手札ならいける！手札から魔法カード二重召喚と浅すぎた墓穴を発動！バブルブレイドを墓地から守備表示で特殊召喚。さらに手札からボルト・ヘッジホッグとチューナーモンスター、クラウンナイトを召喚！」

ボルト・ヘッジホッグ

効果モンスター

星2 / ATK 800 / DF 800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、

このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、

ゲームから除外される。

クラウンナイト（オリジナル）

チューナー・効果

星1 / ATK 500 / DF 500

このカードの召喚に成功したとき、フィールドのモンスター1体のレベルを1つ下げることができる。

「クラウンナイトの効果によりボルト・ヘッジホッグのレベルを1つ下げる！」

「浅すぎた墓穴の効果により、わしも墓地から死神犬グリムを守備表示で特殊召喚」

「レベル5バブルブレイドとレベル1ボルト・ヘッジホッグにレベル1クラウンナイトをチューニング！道化の仮面を被りし戦士よ、今戦いのろしを上げる！シンクロ召喚！！来い、クラウンブレイド！！」

道化の顔をした戦士がフィールドに現れた。

クラウンブレイド

星7 / ATK 2700 / DF 1500

「クラウン・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが攻撃するとき、攻撃対象の表示形式を変更することができる。

このカードがモンスターを破壊したとき、エンドフェイズまでそのモンスターの効果を得る。

「クラウンブレイドで、死神獣ケルベロスを攻撃！クラウンブレイク！！」

佐助LP3600 3400

「しまった！ケルベロスが！！」

「さらにクラウンブレイドの効果！破壊した相手モンスターの効果を使うことができる！二度目の攻撃だ。クラウンブレイドの効果により死神犬グリムを攻撃表示にする！いけ！」

佐助LP3400 1500

「わしのターン・・・モンスターをセットしてターンエンドじゃ」

「俺のターン。これで止めだ！クラウンブレイド！！」

クラウンブレイドの効果によりセットモンスターが表攻撃表示になる。セットモンスターは魂を削る死霊だった。

佐助LP15000

「いつよしやあ！！」

「ふう。負けてしまったわい。やはりおぬしは強いのお」

「いや。佐助だってすごいよ正直やばかったし」

「いや〜。2人ともいいデュエルだったな」

「ああ」

「うむ」

「これから三人仲良くしようぜ」

「「おお！！（うむ！！）」

デュエルアカデミア入学初日。俺はこの日2人の友達を手に入れた。

t u r n 2 : 死神とのデュエル(後書き)

キャラ紹介

日ノ原嵐

オシリスレッド1年

ウォーリアデッキ(おもに遊星使用)

藤山佐助

ライエロー1年

死神デッキ(作るの大変です・・・)

t u r n 3 : 鳥のデュエルとドロップン (前書き)

前回使用した浅すぎた墓穴に閉じまして間違った効果を使用したことを謝罪します。

あと今回はデュエルよりも会話のほうが多いです。
ちなみに鳥のデッキはアレです。

turn3：鳥のデュエルとドロパン

「しまったすっかり忘れてた」

デュエルアカデミアに入学してレッド寮の自室に入ったとき、俺はある事に気がついた。

「忘れてたつて。なにを？」

俺の相部屋で古い友人の黒羽鳥くろはねからすが訊いてきた。（コイツと相部屋だと知ったときはかなり驚いた。）

「お隣さんにまだ挨拶してなかった」

「ああそついやそうだな。ところで隣の部屋って誰だっけ？」

「遊城十代ゆしきじゅうだいって先輩だったと思う。ブルーの生徒とかが噂してたぜ。なんでも学園最強って」

「学園最強？すげ〜1回デュエルして〜」

「俺だっけしたいよ。とにかく、挨拶に行こうぜ」

「そうだな」

「こんちわ〜。今日から隣に住むことになりました日ノ原ひのはら風かぜです」
「同じく黒羽鳥です」

隣の部屋に入ると俺たちと同じレッドの制服を着た少年とデザイ
ンは似ているがどの寮のものとも違う制服を着た外国人生徒がいた。

「ん？ああ、新入生か。俺は遊城十代。こっちはヨハン」

「やあ」

「これからよろしくお願いします。十代さん、ヨハンさん」

「なあ嵐、この堅苦しい挨拶いつになったらやめれるんだ？さすがに疲れたぞ」

「もうちょい我慢しろ」

「いやコッチもその喋り方やめてもらえるとありがたいんだけど」

「ほら向こうもそう言ってるし」

・・・しょうがないなあ

「んじゃ、これからよろしく。十代さん、ヨハンさん」

「早速だがデュエルしてくれ」

「おつ、いいなそれ。嵐たちも一緒にドローパン買いに行こうぜ」
「ドローパン？」

「この学園の名物だ。中が見えないようにラッピングされて、開けてみるまで中身が何か分かんないようになってんだ。時々カードも入ってるし」

「中が見えないように・・・けどそれなら普通にパン買ったほうがいい気がするんだけど」

「と思うだろ。けどその中に1個だけ、学園にいる金の鶏が1日に1個しか産まない黄金の卵を使った卵パンが入ってるんだ」

「黄金の卵パン・・・(ゴクリ)」

俺と鳥がそろって唾を飲んだ。食ってみてえ。

「行きましょう十代さん！いざ購買へ！！」

「よし行こうぜ！けど卵パンは俺のものだ！」

「いや十代、俺のものだ！」

「先輩でも譲らねえ！俺が頂く！！」

レッド寮先輩後輩メンバー（1人留学生）は全速力で購買へと向かって行った。

「俺のターンドロー！・・・ごばあ！わ・・・わさびパン・・・
だど！？・・・」

「残念だったな嵐。デュエルやらなかった報いだ。卵パンは俺が
もらうぜ、ドロー！・・・アンパン」

「地味だなオイ！」

十代さん達と購買まで走ってきた俺たちは噂のドロパンを買っ
ていた。しかしやはりレアなのか黄金の卵パンは一向に出てこない。
（トメさんという人に聞いたところまだ誰も引いていないようだ）

「何じゃおぬしらも来ておったのか」

「佐助！お前もドロパン買いに来たのか？」

「まあ」

このライエローの制服を着た美少女（男）は俺と烏の友達ふの藤
山じやまひすけ佐助。

「けど全然卵パンが出ないんだよ。十代さんもいつもと違っつて
言ってたし。ところで佐助は何パンだった？」

「わしは栗パンで中にカードが入っておった」

「何のカード？」

「これじゃ」

デーモン・ビーバー

星2 / ATK 400 / DF 600

「悪魔のツノと翼を持つビーバー。どんぐりを投げつけて攻撃する。」

「いらねえ！」

「つかダメージのでかいの引いたの俺だけ！？」

「あつ、嵐くんも来てたんだ」

「今度は女子制服を着た髪の毛の長い女の子が話しかけてきた。」

「おつ、祭まつり。こないだはサンキューな」

「嵐よ、知り合いか？」

「まあな。命の恩人だ」

「なんと！それはまことか？」

「命の恩人って大げさだよ。ただ船酔いの薬あげただけ」

「笑いながら祭はそう言った。俺は本当にそう思ってるんだけど。」

「オイ祭！そいつらは誰だー！！」

今度はオベリスクブルーの男子だ。しかも何か怒ってる。

「お前ら、祭に手え出したらただじゃおかねえからな」

いやそれ以前にアンタ誰ですか？

「・・・紹介するね。私のお兄ちゃんりょうきえいげつで両儀影月」

「影月だ。祭に手え出したらただじゃおかねえからな」

いやそれはもういいですから。

「お兄ちゃんはどうか行ってて。すぐ行くから」

「・・・分かった。そいつらになんかされたらすぐ言えよ！」

何もしねえよ。

とりあえず影月は10メートルくらい遠くに行った。

「まったくお兄ちゃんは。嵐くんこれさっき買ったパックに入ってたんだけど、私使わないから、良かったら使って」

そう言っつて祭は俺に3枚のカードをくれた。

「サンキュー。ありがたく使わせてもらっわ」

「それで嵐くんをお願いなんだけど、私とデュエルしない？」

「俺と？別にいいけど」

「ちょっと待ったあー!!」

デュエルの約束をした途端、烏が俺と祭りの間に入ってきた。

「なんだ烏？」

「そのデュエル、俺が相手をする!!」

「なんで？」

「さっきの敗戦を無かったことにするぐらいの勝利をするんだ!!」

ああコイツ十代さんとのデュエルまだ根に持ってたのか。

「・・・ハア。悪いけど祭、そういうわけでコイツと変わってもいいか？」

「しょうがない。いいよ。ただし、勝てるかどうかはやってみないと分からないよ」

「おっじゃいくぜ!!」

「デュエル!!」

烏LP4000

祭LP4000

「俺の先攻、ドロー!!BF - 黒槍のプラスト召喚!更にBF - 疾風のゲイルを特殊召喚!!」

ブラックフェザー

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

BF - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分に
する事ができる。

「レベル4黒槍のブラストにレベル3BF - 疾風のゲイルをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF - アーマード・ウィング！」

BF - アーマード・ウィング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔カウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔カウンターを全て取り除く事で、楔カウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「烏の奴、ずいぶんとやる気じゃのう」

「まあちよつと前にいろいろあってな」

「なるほどの」

「俺はこれでターンエンドだ」

「わたしのターンドロ。闇霊使いダルクを攻撃表示で召喚」

闇霊使いダルク

効果モンスター

星3 / ATK 500 / DF 1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の闇属性モンスター1体のコントロールを得る。

「祭は魔法使いデッキか」

「しかしダルクはリバース効果モンスターじゃ。攻撃表示で召喚してはせつかくの効果が台無しじゃぞ」

『まあ見てるって、こつからがご主人^{マスター}の実力だ』

「カードが喋った!？」

「なんじゃ！？どうかしたか嵐？」

「いや今ダルクが喋っただろ！」

「？何を言っておるのじゃ？」

「いやだって今」

もう一度見てみたがダルクは一切喋っていない無かった。

「……気のせいか？」

そんな事を言っているうちにデュエルは進んでいた。

「更に魔法カード、サモンアンチリバースを発動」

サモン・アンチリバース（オリジナル）

魔法カード

自分フィールド上にリバース効果モンスターが表側表示で存在するとき発動できる。リバース効果モンスター1体の効果を発動できる。

「これにより闇霊使いダルクの効果発動。アーマード・ウイングのコントロールを得る」

「なに!？」

鳥の場にいるアーマード・ウイングが祭の場に移った。

「更に装備魔法、団結の力をダルクに装備」

闇霊使いダルク

ATK 500 2100

団結の力

装備魔法（制限カード）

自分フィールド上に存在する表側表示モンスター1体につき、装備モンスターの攻撃力・守備力を800ポイントアップする。

「バトル！闇霊使いダルクとBF・アーマード・ウィングでダイレクトアタック！！」

「ぐわああああああああああ！！！！」

鳥LP4000 0

「わ・・・1ターンキル・・・」

「何なんじゃあの者は・・・」

「当たり前だ」

いつの間にかすぐそばまで来ていた影月がそう言った。

「どっいづこと？」

「祭は今までいくつもの大会を総なめにしてきたんだ。当然の結
果だ」

「マジツすか！？よかった俺デュエルしなくて」

あとあなたは何で俺を睨んでるんですか？

「しかし、報われんのは鳥じゃのう」

「1日2連敗。相当なショックだな」

今も地面に両手ついて落ち込んでいる。

「あ。動き出した」

「ドローパン買ったのう」

「食った。またへこんだ!!」

なんかドローパンのかごの前でさっきより落ち込んでいる鳥にそつと近寄ってみた。

パンの袋にはカードが1枚入っていた。

スカゴブリン

通常モンスター

星1 / a t k 400 / D F 400

完璧な「スカ」の文字を極めるため、日々精進するゴブリン。その全てを一筆に注ぐ。

スカゴブリン 具なしパン

「・・・・・・・・」

俺は昔からの友人がかわいそうで仕方なかった。

t u r n 3 : 鳥のデュエルとドロopan (後書き)

読破ありがとうございます。雪無サントです。

とりあえず今回出たキャラがこの作品のメインキャラです。

次回はライディングデュエルを書こうと思っています。

カードのリクエスト随時募集中です。

t u r n 4 : ライディングデュエル！VS影月（前書き）

今回は予告どおりライディングデュエルです。これからもちよく
ちよく出したいと思っています。

turn 4：ライディングデュエル！VS影月

「そりゃあきつとデュエルモンスターの精霊だ」

とある日の授業中、俺は十代じゅうだいさんに喋ったダルクの事を話していた。

「精霊？」

「そう。カードの中にいる精霊だ。紹介する。俺の相棒のハネクリボーだ」

『クリクリ〜』

そう言う十代さんの肩の辺りをハネクリボーが飛んでいた。

「わっ！本当にハネクリボーだ！」

「嵐あらいは精霊が見えるみたいだし、いつかお前も手に入れるかもな。そんな時は仲良くしろよ」

「はい！」

「これそこの2人！授業中だぞ！」

「「すみません！」」

「まったく。では話の続きだが、今日は1・2年生合同でライディングデュエルの実習を行う」

今俺たちは屋外の巨大な円形のサーキットに来ていた。

「久々のライディングデュエル。ワクワクするな！嵐もそうだな！」

鳥が興奮した口調で話しかけてきた。

「そうに決まってるんだろ！アカデミアに来てから一回もやってなかったし、やりたくてしょうがねえよ！」

ライディングデュエルというのはD・ホイールという特別なバイクに乗ってサーキット場を走りながらデュエルする最近確立された新しい方式のデュエルだ。通常の魔法カードは使えず、スピードスベルspという特別な魔法カードを使用して戦うのだ。

「まずライディングデュエルの経験者にエキシビジョンデュエルをしてもらいたいのだが・・・誰かやってくれるものはいないか？」

「チャンスだぞ嵐！久々にやろうぜ！」

「そうするか！先生！ここに経験者がいま・・・」

「先生俺がやります」

俺が言い切る前に誰かが宣言した。あいつはたしか祭まつりの兄貴の・・・

「君は両儀影月りょうぎかげつきくんだね。いいでしょう。あと対戦相手ですが」

「先生、その1年生が経験者だといっています。彼でいいでしょ」
「よう」

そう言って影月は俺を指差した。

「わかりました。では嵐くん、前に来てください」

「ちえっ！せっかくのチャンスが」

「しょうがないって、また後でよろうぜ」

「約束だぞ」

「おお」

鳥と約束をして俺は影月の所まで行った。

「よろしく影月。いいデュエルをしようぜ」

「こちらこそよろしく」

そう言って影月と握手した時。

「（祭に手え出したらただじゃおかねえって言った意味を教えてくださいよ）」
「やるよ」

何かすんごい不気味なこと小声で言っていた。

「それでは2人とも、準備はいいか？」

「はい！」

「ええ」

D・ホイールに乗った状態で先生の質問に答えた。

「では、フィールド魔法『スピード・ワールド』セット・オン！」

先生がそう言ったと同時に空間がフィールド魔法に支配された。

デュエルモードオン、オートパイロットスタンバイ

「ライディングデュエル・・・」

「アクセラレーション！！」

2人のデュエリストが同時にスタートした。

嵐LP4000

影月LP4000

先攻 嵐

「先攻はもらうぜ！俺のターンドロロー！ロードランナーを守備表示で召喚！カードを1枚伏せてターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

嵐・影月 s p c 1

「俺のターンンドロー！ランサー・ドラゴニユートを召喚！ロードランナーを攻撃！」

ランサー・ドラゴニユート

効果モンスター

星4 / ATK 1500 / DF 1800

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「罨発動！くず鉄のかかし！ランサー・ドラゴニユートの攻撃を無効にし、再びセットする！」

くず鉄のかかし

通常罨

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

発動後このカードは墓地に送らず、そのままセットする。

突如現れた鉄製のかかしによりランサー・ドラゴニユートの攻撃は無効化された。

「ちっ！カードを1枚伏せてターンエンド」

嵐・影月 s p c 2

「俺のターンンドロー！s p -エンジェル・バトン発動！デッキか

らカードを2枚ドロし、手札を1枚墓地に送る」

Sp-エンジェルバトン(アニメオリジナル)

SpCが2つ以上あるとき発動できる。

デッキからカードを2枚ドロし、手札のカード1枚を墓地に送る。

「チューナーモンスター、バブルナイトを召喚！」

バブル・ナイト(オリジナル)

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロし、そのドロしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「バブル・ナイトの効果発動！デッキからカードを1枚ドロし、それがレベル4以下のモンスターだった場合、特殊召喚できる！ドロ！よし！スピードウォリアを特殊召喚！さらにチューナーがフィールドにいることにより、墓地のボルト・ヘッジホッグを特殊召喚！」

ボルト・ヘッジホッグ

効果モンスター

星2 / ATK 800 / DF 800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、

このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、

ゲームから除外される。

「残念だったな！罨発動！強欲な落とし穴！」

強欲な落とし穴 オリジナル

罨

モンスターが2体以上特殊召喚されたとき発動できる。

特殊召喚されたモンスターを全て破壊する。

「これによりボルト・ヘッジホッグとスピードウォーリアを破壊する！」

「つく！ターンエンド」

嵐・影月 spc3

「俺のターンドロ！。ダーク・リゾネーターを召喚」

ダーク・リゾネーター

チューナー・効果モンスター

星3 / ATK1300 / DF 300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

「レベル4、ランサー・ドラゴニースーツにレベル3ダーク・リゾネーターをチューニング！王者の叫びがこだまする！勝利の鉄槌よ、大地を砕け！シンクロ召喚！羽ばたけ、エクスプロード・ウィング・ドラゴン！」

エクスプロード・ウィング・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK2400 / DF1600

チューナー+チューナー以外のドラゴン族モンスター1体以上
このカードの攻撃力以下の攻撃力を持つ、フィールド上に表側表示で存在するモンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊し、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える事ができる。

「攻撃力2400・・・けど俺の場にくず鉄のかかしがある限り、あんたの攻撃は通用しないぜ！」

「ならその邪魔な盾を破壊させてもらおう。s p c - サイクロン・クラッシュ！フィールドの魔法・罠を1枚破壊する」

「しまった！」

s p c - サイクロン・クラッシュ（オリジナル）
S p c が2つ以上あるとき発動できる。
フィールドの魔法・罠を1枚破壊する。

「そしてエクスプロード・ウイング・ドラゴンでバブル・ナイトを攻撃！キング・ストーム！！」

「ぐわあああああああ！！」

嵐LP4000 2400

s p c 3 2

1000以上のダメージを受けたことで嵐のD・ホイールのスピードが落ちた。

「カードを1枚伏せてターンエンド」

嵐 s p c 2 3

影月 s p c 3 4

「俺のターンンドロー！ジャンク・シンクロンを召喚！」

ジャンク・シンクロン

チューナー・効果

星3 / ATK 1300 / DF 500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「ジャンク・シンクロンの効果により、墓地のスピードウォリアを特殊召喚！レベル2スピードウォリアにレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング！集いし星が新たな力を呼び起こす。光差す道となれ！シンクロ召喚！出でよ、ジャンク・ウォリアー！」

ジャンク・ウォリアー

シンクロ・効果モンスター

星5 / ATK 2300 / DF 1300

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする。

「ジャンク・ウォリアーの効果発動！自分フィールドのレベル2以下のモンスターの攻撃力分、攻撃力をアップする！」

ジャンク・ウォリアー

ATK2300 2600

「いけ！ジャンク・ウォリアー。スクラップ・フィスト！！」

影月

4000 3800

「ついで発動！ライバル登場！これにより手札から相手フィールドのモンスターと同じレベルのモンスターを特殊召喚する！レベル5のバイス・ドラゴンを特殊召喚！」

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5 / ATK2000 / DF2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードは手札から特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「カードを3枚伏せてターンエンド」

嵐spc3 4

影月spc4 5

「俺のターン！sp・サモン・スピード 発動！手札からダーク・リゾネーターを特殊召喚！」

sp・サモン・スピード（アニメオリジナル）

SpCが3つ以上あるとき発動できる。

手札からレベル4以下のモンスターを特殊召喚する。

「レベル5のバイス・ドラゴンにレベル3のダーク・リゾネーターをチューニング！紅蓮の龍よ、俺の誇りを汚すものを焼き尽くすべく現れる！！シンクロ召喚！紅蓮の竜、レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 3000 / DF 2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

影月の場に紅蓮の竜が光臨した。

「攻撃力3000!？」

「嵐の奴、ありゃやばいんじゃないか!？」

「お兄ちゃん、さっきから思ってたけどかなり本気だ!」

「何故そこまで本気になるのじゃ?これはエキシビジョンじゃろうっ?」

レッド・デーモンズの登場にデュエルを見ているメンバーも驚きを隠せないでいる。

「バトル！レッド・デーモンズ・ドラゴンでジャンク・ウォリアを攻撃！灼熱のクリムゾン・ヘルフレア！！」

灼熱の業火にジャンク・ウォリアが破壊された。

嵐 2400 2000

「つく畏発動！奇跡の残照！ジャンク・ウォリアを復活！」

奇跡の残照

通常畏

このターン戦闘によって破壊され自分の墓地へ送られたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを墓地から特殊召喚する。

「俺はこれでターンエンドだが、諦める。お前は俺に勝てない。たかがオシリスレッドに俺を倒せるわけが無いだろう」

「なっ！オシリスレッドをバカにするのは許さねえぞ！！」

「黙れ！俺も倒せないような奴に、お前みたいな奴に・・・」

「なんだ！？」

「俺のかわいい祭を渡すものか！！！」

「「・・・・・・・・」」

ああ言っちゃったよこの人・・・こんな大声で。

祭は溜め息ついているし鳥達は絶句している。

「・・・ああもう！そんなん気にしねえぞ！！デュエルはいつだって真剣勝負だ！俺のターン！」

嵐 s p c 3 4

影月 s p c 4 5

「よっし！俺はクラウン・ナイトを召喚！」

クラウン・ナイト（オリジナル）

チューナー・効果

星1 / ATK 500 / DF 500

このカードの召喚に成功したとき、フィールドのモンスター1体のレベルを1つ下げることができる。

「レベル5のジャンク・ウォーリアとレベル1のロードランナーにレベル1のクラウン・ナイトをチューニング！道化の仮面を被りし戦士よ、今戦いののろしを上げる！シンクロ召喚！！来い、クラウンブレイド！！！」

クラウンブレイド

星7 / ATK 2700 / DF 1500

「クラウン・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが攻撃するとき、攻撃対象の表示形式を変更することができる。

このカードがモンスターを破壊したとき、エンドフェイズまでそのモンスターの効果を得る。

「今更攻撃力2700のモンスターなんか出してどうするんだ？」

「クラウン・ブレイドでレッド・デーモンズ・ドラゴンを攻撃！
そしてこの瞬間畏発動！ストライク・ショット！」

ストライク・ショット

通常畏

自分フィールド上に存在するモンスターの攻撃宣言時に発動する
事ができる。

そのモンスターの攻撃力はエンドフェイズ時まで700ポイント
アップする。

そのモンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、その守備
力を攻撃力が越えていれば、
その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「さらにクラウン・ブレイドの効果により、レッド・デーモンズ・
ドラゴンを守備表示に変更！」

クラウン・ブレイド

ATK2700 3400

「いけ！クラウン・ブレイド！クラウンブレイク！！！」

守備表示となった竜を道化の騎士が八つ裂きにした。

「さらにストライク・ショットの効果により、貫通ダメージを与
える！」

「つく！」

影月

LP3800 2400
SPC5 4

「さらに罫カード緊急解除を発動！クラウン・ブレイドをシンク口前の状態に戻す！」

オリジナル
緊急解除

通常罫

このカードはバトルフェイズ中のみ発動する事ができる。

シンクロモンスター1体をエクストラ・デッキに戻し、シンクロに使用したモンスターを特殊召喚する。

クラウン・ブレイドが消え、再びジャンク・ウォーリアたちが姿を現した。

「とどめだ！いけジャンク・ウォーリア！スクラップ・フィスト
！！！」

「ぐあああああああああ！！！」

影月

LP2400 0

ライフが0になり影月のD・ホイールが煙を出しながら停止した。

「っと。サンキュー影月。楽しいデュエルだったぜ！」

「……うるさい俺は負けたんだ」

「ん〜お前が言ってる意味はよくわかんないけどさ、そっいつの

関係無しにこれからもデュエルしようぜ」

「・・・そうだな。嵐、これからも頼むぞ」

「おお！」

俺と影月は握手を交わした。

ちなみにこのあと影月がシスコンだということがアカデミア中に知れたのは言うまでもない。

turn 4：ライディングデュエル！VS影月（後書き）

読破ありがとうございます雪無サントです。

今回はシンクロ召喚多めに出してみました。

今回は新展開に入るかどうかと思っています。予告しますとダークシンクロを出します。

これからもよろしくお願いします。

キャラ紹介

黒羽烏

オシリスレッド

BFデッキ

両儀祭

オベリスクブルー

魔法使いデッキ（今度はもうちょい出します）

t u r n s : 動き出す闇。ダークシンクロ出現！(前書き)

い。今回から新章です。GXで言ったら幻魔の所です。楽しんでください。

turn5：動き出す闇。ダークシンクロ出現！

とある曇った日の校長室。デュエルアカデミア鮫島校長は暗い空を眺めていた。

「再び、戦いが始まるのですね……」

鮫島校長がそう言ったと同時に学園の森に雷が落ちた。

雷が落ちる5分前。その近くを嵐、鳥、佐助の3人が歩いていた

「すっかり遅くなっちゃったな」

「仕方ないじゃろ。3人揃って居残り受けておったんじゃから」

「てか雲行きが怪しいぞ。さっきも雷なってたし」

俺たちはそんな会話をしながら寮へ向かっていた。空はどんよりとしていて、かなり暗い。しばらく歩いたところでイエロー寮の近くまで来た。

「では、わしはここで」

「おう。じゃあな」

「気をつけていけよ」

俺たちはそう言って佐助と別れた。

「急ぐぞ鳥！この様子だともうすぐ降ってくるぞ！」

「俺だって急いでるわ！その証拠に走ってるだろ！」

「ならさらに加速す・・・ちよつとストップ！」

「どわつてあああ！！！」

立ち止まった俺の横で鳥が豪快にこけた。

「何だいきなり！！！」

「前、誰がいるぞ」

俺は人影に向かって指差した。そこには黒いマントを被った奴がいた。

「この生徒じゃねえのか？」

「だとしてもこの島である格好は変だろ。私服に黒マントなんて普通しねえぞ」

「そりゃそうだけど・・・気にするのはやめだ。急ぐぞ！」

「おい待てよ鳥！」

鳥が走って黒マントの横を通過した時だった。

「そこの奴は行かせないぞ」

「!？」

「なんだ!？」

紫の炎が俺と黒マントの周りを円状に囲んだ。
カラスは炎の向こう側でかなり驚いている。

「おい黒マント!何だこれは!」

「くつくつく。そうあわてるな。これは俺からの招待状だ」

「招待状？」

「そうだ。ここから出たければ俺とデュエルして勝利しろ。それ以外に出る方法は無い」

「そうかよ。ならやってみるぜ!」

「そうじゃなくてはな」

「いくぜ黒マント!」

「」「デュエル!」

嵐LP4000

黒マントLP4000

「気をつけるよ嵐!こいつはいつものデュエルと違う!」

「分かってるって」

「先攻は私がもらう。ドロ。ブリザード・リザードを守備表示で召喚！カードを1枚伏せてターンエンドだ」

ブリザード・リザード

効果モンスター

星3 / ATK 600 / DF 1800

このカードが戦闘で破壊されたとき、相手プレイヤーに300ポイントのダメージを与える。

「俺のターン！初っ端から容赦しないぞ！バブル・ナイトを召喚！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロースするドロースしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロースする！スピード・ウォーリアを特殊召喚！」

スピードウォーリア

星2 / ATK 900 / DF 400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「レベル2のスピード・ウォーリアにレベル3のバブル・ナイトをチューニング！！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚める！シンクロ召喚！水の騎士バブル・ブレイド！！」

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK 2300 / DF 2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターへの攻撃力をダウンさせる。

「いきなりバブル・ブレイドかよ！嵐そのままやっちまえ！！」

「バトル！バブル・ブレイドでブリザード・リザードを攻撃！バブルスラッシュ！！」

「ブリザードテイル！！」

バブル・ブレイドに切り裂かれる寸前、ブリザード・リザードが高速で尻尾を回転させ吹雪を起こした。

「ブリザード・リザードが戦闘で破壊されたことにより、相手に300ポイントのダメージを与える」

「つく！！」

嵐LP 4000 3700

「嵐！！」

俺は痛みでひざをついた。何だ今の痛みは？

「今のは・・・本物の衝撃？」

「嵐しっかりしろ！つてさぶー！」

さっきの吹雪の冷気が烏にまでとどいている。

「言い忘れていたが、このデュエルでの攻撃は全て本物の痛みとなる」

「何だと!？」

「さあまだお前のターンだ」

「・・・カードを2枚伏せてターンエンド」

「私のターン。永続罫リビングゲデッドの呼び声。私は墓地のブリザード・リザード復活させる。そして魔法カードアイス・ミラーを発動」

アイス・ミラー

魔法

自分フィールドのレベル3以下のモンスターを選択して発動する。選択したモンスターと同名のモンスターをデッキから特殊召喚する。

「ブリザード・リザードをデッキから特殊召喚。さらに手札から」

「2枚目のアイス・ミラーだと!？」

黒マントのフィールドに3体のブリザード・リザードが出現した。

「お前何する気だ!」

「見ているがよい。2体のブリザード・リザードをリリース。レベル8のダークチューナー、カタストロブをアドバンス召喚」

黒マントの場に見たことも無いモンスターが出現した。

「ダークチューナー!?!」

「何だあいつは!?!」

「レベル3のブリザード・リザードにレベル8のダークチューナーカタストロブをダークチューニング!」

カタストロブの星がブリザード・リザードの星を砕きかわりに黒い星が出現した。

「どういうことだ!?!星が闇に!?!」

「これがダークチューニングだ。ダークチューニングは素材としたモンスターのレベルからダークチューナーのレベルを引いたレベルのモンスターを召喚する」

「んなことできるわけ無いだろ!そんなことしたらレベルはマイナスになっちまう!」

外で見ている鳥も抗議している。

「あるのだよ。闇の世界にはレベルマイナス5のモンスターが」

「なに!?!」

「ヤミと闇重なりし時、冥府の扉は開かれる。光なき世界へ!!
ダークシンクロ!出でよ氷結のフィッツジェラルド!!」

黒マントの場に巨大な氷のモンスターが出現した。

氷結のフィッツジェラルド

レベルマイナス5 / ATK 2500 / DF 2500

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードが攻撃する場合、ダメージステップ終了時まで相手は魔法・罫カードを使うことができない。

戦闘によって破壊され墓地に存在するこのカードが、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、表側守備表示で特殊召喚する。

バトルフェイズ終了時にこのカードを攻撃したモンスターすべてを破壊する。

「嘘だろ・・・こんなモンスターがいるなんて」

「さらにカタストローブの効果発動。このカードがシンクロに使われたとき、相手フィールドのモンスターを破壊する」

「なに!?!」

バブル・ブレイドが墓地から現れたカタストローブに連れ去られた。

「バトル！氷結のフィッツジェラルド。ダイレクトアタック！」

「ぐあああああああああああああああ！！！」

嵐LP3700 3500

本物の衝撃で吹き飛ばされた嵐は見えない壁に激突した。

「ぐはっ！！！」

「嵐！！！」

「ふん。所詮はこの程度かターンエンド！」

「この程度つてのは侵害だな・・・いくぜ、俺のターン！畏発動！チューナーズ・リスペクト！」

チューナーズ・リスペクト（オリジナル）

畏

自分の手札1枚を墓地に送り発動する。自分の墓地のチューナーを除外して同じレベルのチューナーをデッキから特殊召喚する。

「手札からボルト・ヘッジホッグを墓地に送り、墓地のバブル・ナイトをゲームから除外して、レベル3のステイングガードナーを特殊召喚！」

ステイングガードナー

チューナー

星3 / ATK500 / DF 1800

このカードの召喚に成功したとき、デッキから『ステイング』と

名のつくモンスターを特殊召喚できる。

このモンスターをシンクロ素材とする場合、『ステイング』と名のついたモンスターのシンクロ素材にしか使用できない。

「これにより、ステイングソルジャーを特殊召喚！」

ステイングソルジャー

星4 / ATK 1200 / DF 1000

「レベル4ステイングソルジャーにレベル3のステイングガードナーをチューニング！シンクロ召喚！！来い！ステイングナイト！！」

ステイングナイト

シンクロ

星7 / ATK 2700 / DF 2500

このモンスターの召喚に成功したとき、墓地の『ステイング』と名のついたカードの枚数×800Pのダメージを相手ライフに与える。

「ステイングナイトの効果発動！このカードの召喚に成功したとき、墓地の『ステイング』と名のついたカード1枚につき相手に800のダメージを与える！！」

「つくー！！」

黒マント

LP 4000 2400

「ステイングナイトで氷結のフィッツジェラルドを攻撃！ステイ

ングアタック!!」

黒マント

LP2400 2200

「やるな嵐!でもお前そんなカード持ってたか?」

「こないだ祭まつりがくれたカードだ。あいつのおかげで助かった」

「騒いでもとこ悪いがモンスター効果発動。自分フィール後にモンスターが存在しない場合、墓地から氷結のフィツツジェラルドを守備表示で特殊召喚する。さらにバトルフェイズ終了時このカードを攻撃したモンスターを全て破壊する」

ステイングナイトが凍りに包まれ粉々に砕け散った。

「ステイングナイト!!」

「これでお前の場にモンスターはいない」

「っく、ロードランナーを守備表示で召喚しターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

「私のターン。なるほど、攻撃力1900以上のモンスターでは破壊されないカードか。ならば装備魔法ドレインストライク発動」

ドレインストライク

そのモンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、その守備力を攻撃力が越えていれば、その数値のダメージを与え、自分は半分の数値ライフを回復する。

「氷結のフィッツジェラルド、ロードランナーを攻撃！ブリザードストライク！！」

ロードランナーを攻撃した氷柱が俺の所まで飛んできた。

「あああああ！！」

嵐LP3500 1300

黒マント2200 3300

「私はこれでターンエンドだ」

「・・・俺の・・・ターン・・・」

体中が激痛で思うように動かない。けど負けられない。こんなことをする奴に負けちゃいけない！

「ドロー！！・・・来た！俺はチューナーモンスターダークネス・ナイトを召喚！」

ダークネス・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 1000 / DF 1300

このカードがシンクロに使用されたとき、デッキからカードを1枚引く。

「俺の場にチューナーが召喚されたことにより、墓地のボルト・ヘッジホッグを特殊召喚！」

ボルト・ヘッジホッグ

効果モンスター

星2 / ATK 800 / DF 800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、

このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、

ゲームから除外される。

「さらに罠カードエンジェル・リフト！スピードウォリアを特殊召喚！」

エンジェル・リフト

永続罠

自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する

「ロードランナー、スピードウォリア、ボルト・ヘッジホッグの3体にダークネス・ナイトをチューニング！黒き闇から現われし我がデッキ最強の戦士よ、今ここに君臨せよ！！シンクロ召喚！！来い！ダークネス・ブレイド！！」

ダークネス・ブレイド（オリジナル）

星8 / ATK 3000 / DF 2800

「ダークレス・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上
このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの
元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「さらにダークネス・ナイトの効果によりカードを1枚ドロ―！
装備魔法ジャンク・アタック発動！」

ジャンク・アタック

装備魔法

装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った
時、破壊したモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに
与える。

「たえそいつが何度復活しようとするこの攻撃で終わりだ！―いけ
！ダークネス・ブレイド！ダークネスエンドブレイク！」

「ぐわあああああああ！」

黒マントLP33000

嵐の勝利とともに周りの炎が消えた。

「やったな嵐！」

「ああなんとかな・・・それよりコイツはなんだったんだ？」

「とりあえず顔を拝ましてもらおうか」

烏が気絶した黒マントのフードを取った。

黒マントの正体は俺たちと変わらない学生だった。

「こいつ確か水谷みずたにだぞ」

「水谷？」

「そう。水谷みずたに風雅。オベリスクブルーの2年」

「何でそんな奴が・・・」

「デッキも見てみたが、ダークチューナーもダークシンクロモンスターが入ってない」

「マジでどうなってんだよ」

そういったとき俺と鳥の携帯端末が鳴った。

「鮫島校長がいますぐ校長室まで来いって」

「俺もだ。さっきのカードと何か関係あるんじゃないか？」

「さあな。言ってみれば分かるさ。あと鳥、ひとつ頼みがあるんだが」

「なんだ？」

「おぶってつてくれないか？体が全く動かないんだ」

「・・・・・・・・」

鳥は無言で俺をおぶってくれた。

校長に会えばきつとさっきの事も分かる。
そう思いながら俺たちは校長室へ向かった。
気絶した水谷を放置して…………。

t u r n 5 : 動き出す闇。ダークシンクロ出現！（後書き）

テスト期間の合間を縫って投稿しました。雪無サントです。

ちよつと勉強の現状がやばいので投稿が遅れました。

前書きでも言いましたが新章です！がんばって書き続けるので応援
よろしく願います。

あと最近気付いたのですがこの作品に集中しすぎて他のが手付かず
なのでそっちも何とかしたいな〜と思っています。

t u r n 6 : タ ッ グ デ ュ エ ル ! 伝 説 の 決 闘 者 V S 黒 嵐 (前 書 き)

テストも終わってようやく投稿できました！

テストは・・・ボロボロです！！(泣)

turn 6：タッグデュエル！伝説の決闘者VS黒嵐

ダークシンクロを使うデュエリストと戦ってから約30分後の午後6時30分。ようやく俺と鳥は鮫島校長のいる校長室に着いた。本来ならもうちょっと早く着くはずだったが、レッド寮の辺りから俺は鳥におぶってもらいながらここまで来たのでかなり時間がかかった。鳥も既にバテバテ。

「ぜえ・・・はあ・・・ぜえ。もうだめだ、もう当分動けない」

「鳥、本当にありがと。ここからは俺も歩くわ」

改めて鳥に礼を言ってから俺は地面に足をつけた。

「ここは既にゴール目の前だ・・・」

「そうだけどさ。とりあえず入ろうぜ」

俺たちは校長室の扉を開けて中に入った。

「あつ、嵐くんと鳥くん。二人も呼ばれてたんだ」

「だとしたらお前ら遅すぎだぞ。今まで何してたんだ!」

「おお嵐に鳥。お前ら遅かったな」

「呼ばれてた残りの2人ってお前達だったんだな」

「嵐!どうしたのじゃその怪我は!?!鳥もぐったりしておるし!」

校長室には俺と烏以外に両儀兄弟に佐助、それに十代さんとヨハ
ンさんがいた。

ちなみに佐助よ。烏のぐつたりの原因は俺だ。

「どつやら皆さん揃ったようですね」

そう言いながら部屋の奥からデュエルアカデミア校長の鮫島校長
が現れた。

「校長、俺たちに一体何の用ですか？」

呼ばれた側で一番最初に口を開いたのは祭の兄貴の影月だった。
なんだか怒ってるみたいだけど、何かあったのだろうか？

「そうでしたね。実はこの島に闇のデュエリスト集団が現れたの
です」

「『闇のデュエリスト集団！』」

「ええ。その者たちは自分達の事をセブンスシンと名乗っているま
す」

「セブンスシン？」

なんじゃそりゃ？

「日本語で七つの大罪って意味。人を罪に導くといわれている七
つの欲望や感情の事よ」

祭が横から説明してくれた。さすがブルー。博学だな。

「なんかセブンスターズの時と似てるな」

十代さんもなんか言ってる。セブンスターズって何のことだろう？

「ええ。彼らの目的の一つはセブンスターズと同じ三幻魔のカードですから」

「なんだって!？」

十代さんがかなり驚いてるけど、三幻魔ってなんだ？

「ここにいる生徒の中で三幻魔の事を知る者は十代君だけです。説明します。三幻魔というのはこの島に封印された3枚のカードの事です」

「封印された・・・」

「そうです。そしてその3枚を狙っていたのがセブンスターズ」

三幻魔・・・封印されてしかもそんな集団にまで狙われるって一体どんなカードなんだ。

「けど校長先生。目的の一つって、他にも何か狙われてるんですか？」

祭りが首をかしげながら聞いた。

「ええ。セブンスターズは三幻魔のほかに後3枚のカードを狙って

います。その3枚は通称、邪神」

鮫島校長が邪神と言ったのと同時に外で雷が鳴った。緊迫した空気が校長室を包んだ。

「邪神……」

「私も最近知ったのですが確かにこの島に封印されているそうです」

「……で、結局の所俺たちはどうすればいいんだ？」

烏！目上の人には敬語って言ったたろう！しかもまだ辛そうだし！

「今現在この島の7箇所には塔が立っています。そこで彼らとデューエルし勝ってください」

「何だそれだけでいいのか」

「ただし、向こうもかなりの強者揃いの集団です。すでに万丈目くんやクロノス教諭、この学園の強者が何人もやられています」

「万丈目まで……」

十代さんが万丈目さんの話を聞いて少しショックを受けていた。友達がやられたんだ。仕方ない。

「……分かりました。俺たちが必ずそのセブンスシンを倒します！」

「皆さん……ありがとうございます。これが7つの塔の場所です。気をつけて行って来てください」

そう言って鮫島校長は島の地図をくれた。

「よろしくお願いします」

「」「」「はい……」「」

俺たちは学園の外に出て改めて地図を見た。塔はこの島をグルッと囲むようにして立っているようだ。

「で、どつする？全員で一つずつ回るか？」

「却下」

試しに提案してみたが影月にあっさり却下された。それはそれでシヨックだ。

「それじゃさすがに効率が悪すぎる。くじ引きで誰がどこに行くか決めるぞ」

「くじって、そんな物用意してないぞ」

「何故かポケットに入っておったが」

そう言いながら佐助がポケットから7つの棒を出した。

「なんで!？」

「とりあえず引くぞ。全員棒を持って！」

影月の仕切りが納得いかないが、とりあえず全員棒を持った。

「「「セーの!」「」」

結果

俺〓暴食の塔

烏〓怠惰の塔

佐助〓強欲の塔

祭〓色欲の塔

影月〓嫉妬の塔

十代&ヨハン〓憤怒の塔

傲慢の塔〓該当者なし

「なんで同じのが2本あんだよ!？」

「すまぬ嵐。わしのミスじゃ」

「気にしないで佐助くん。最後の塔はみんなで行けばいいじゃない」

「祭がそういつならそうしてやっても俺は構わん」

「シスコンは黙っとけ」

「なんだとこの黒鳥が！」

「やんのかコラー!!」

「まあまあ落ち着け！俺とヨハンは2人で行くから。他は頼んだぜ」

「分かった。よし皆行くぞ!!」

「待つんじゃ嵐その前にお主にこのカードを渡しておく」

そうやって佐助は見たことも無いドラゴンのシンクロモンスターをくれた。

「コイツは？」

「その昔わしがもらった物なのじゃが、わしには使いこなせんかった。しかし、嵐ならきつとうまく使ってくれるじゃろう。受け取ってくれ」

「サンキュー佐助。大切に使う！じゃあ改めて、行くぞ！」

「「「おお!!」」」

俺の掛け声と同時に全員がそれぞれの目的地に向かった。D・ホイールに乗れる俺、鳥、影月はかなりのスピードで走っていった。

「嵐！遅れんじゃねえぞ！」

「烏こそ！」

目的地に近い俺と烏は途中まで2人で走ることに決めたので互いに競うようにD・ホイールを走らせていた時だった。
森の中から何か俺たちめがけ飛んできた。

「何だ！？」

「うわおわああ！！」

突然の事に対応しきれなかった俺達は飛来してきた攻撃に激突し急停止した。

「いてて・・・烏、大丈夫か？」

「俺は何か。けど今の攻撃でD・ホイールがやられちまってる。こりゃ当分動きそくに無い」

「こつちもだ。今の攻撃は一体・・・」

「はははは！早速罠にかかったようだな！」

何者かの声が森中に響いた。

「誰だ！」

「出てきやがれ！！」

「言われずとも行ってやる!とう!」

声の主らしき奴が木の上から飛び降りてきた。それも一人じゃない。

俺と烏の目の前に2人のはげ頭が現れた。

「お前ら誰だ!」

「我らは双子の番人。人呼んで迷宮兄弟」

「迷宮兄弟?」

「たしかデュエルキング武藤遊戯を苦しめたっていう伝説のデュエリスト・・・」

「ここから先へ行きなければ我らを倒してみよ!」

つまり、デュエルでこいつらに勝てばいいってことだな。相手にとって不足は無い!

「よし!俺が相手になってやる!」

「いや嵐!ここは俺に任せとけ!」

「いや俺がやる!」

「いや俺だ!」

「ぬぬぬぬ・・・」とかいう効果音を出しながら俺と烏がに

らみ合いを始めていると。

「口論する必要は無い。我らがするのはタッグデュエルだ。二人まとめてかかって来い」

「……だそうだぞ嵐。俺はやる気だけど、黒嵐コンビ復活といこうや」

「……そうだな。久々にやるか!」

「おっじゃあ!」

「闇の力を手に入れた我らの力」

「とくと味わうがいい!」

「タッグデュエル!」

タッグデュエル(タッグフォースルール)

嵐&烏LP4000

迷宮兄弟LP4000

先攻 烏 (烏 迷宮兄 嵐 迷宮弟の順)

「俺の先攻!ドロー!BF - 黒槍のブラストを召喚!カードを1枚伏せてターンエンド」

ブラックフェザー

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「私のターン。烈風の結界像を守備表示で召喚しターンエンド」

烈風の結界像

効果モンスター

星4 / ATK1000 / DF 1000

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、風属性モンスター以外の特殊召喚はできない。

「俺のターン！シールドウォーリアを守備表示で召喚してターンエンドだ」

シールドウォーリア

効果モンスター

星3 / ATK 800 / DF 1600

戦闘ダメージ計算時、自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスターはその戦闘では破壊されない。

「私のターン。カイザーシーホースを召喚しさらに魔法カード二重召喚発動。カイザーシーホースをリリース。いでよ雷魔神サンガ！」

雷魔神サンガ

効果モンスター

星7 / ATK 2600 / DF 2200

相手ターンの戦闘ダメージ計算時のみ発動する事ができる。

このカードを攻撃するモンスターの攻撃力を0にする。

この効果はこのカードが表側表示でフィールド上に存在する限り1度しか使えない。

「1ターン目からレベル7のモンスターだと!？」

「カードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターン！残念だがそいつにはさっさと退場してもらおうぜ！

B F - 疾風のゲイルを召喚し効果発動！サンガの攻撃力・守備力を半分にする！」

B F - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「B F - 疾風のゲイル」以外の「B F」と名をついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分に
する事ができる。

雷魔神サンガ

ATK 2600 1300

「いけ！黒槍のブラスト！ブラックスパイラル！」

「雷魔神サンガの効果発動！このカードを攻撃した相手モンスターの攻撃力を0にする！」

「っち！ターンエンドだ」

「私のターン。魔法カードプラスエネミー！これにより烈風の結界像は風属性の生贄に使用する場合、2体分の生贄となる」

プラスエネミー（オリジナル）

魔法

自分フィールド上のレベル4以下のモンスターを選択して発動する。

選択されたモンスターがアドバンス召喚に使用されそのモンスターが同じ属性だった場合、選択されたモンスターは2体分の生贄となる。

「烈風の結界像をリリース！いでよ風魔神ヒューガ！」

風魔神ヒューガ

効果モンスター

星7 / ATK 2600 / DF 2200

相手ターンの戦闘ダメージ計算時のみ発動する事ができる。

このカードを攻撃するモンスターの攻撃力を0にする。

この効果はこのカードが表側表示でフィールド上に存在する限り1度しか使えない。

「2体目の魔神・・・」

「こいつらの目的が見えてきたけど」

「……やっかいすぎるぞ」

こいつらどう考えてもゲートガーディアンを召喚するつもりだ。まずいぞ、あんな上級モンスター召喚されたらこっちの勝ち目が少なくなる。

「バトル！風魔神ヒューガで疾風のゲイルを攻撃！」

「罨発動！黒羽の向かい風！」

黒羽の向かい風オリジナル

罨

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスター1体をデッキに戻して発動する。

相手モンスターの攻撃を無効にしバトルフェイズを終了する。

「俺は疾風のゲイルを手札に戻し、風魔神ヒューガの攻撃を無効にする！」

「ならばしょうがない。私はカードを1枚セットし魔法カード闇の指名者を発動」

闇の指名者

通常魔法

モンスターカード名を1つ宣言する。

宣言したカードが相手のデッキにある場合、そのカード1枚を相手の手札に加える。

「私が指名するのは水魔神スーガ！」

「そんなの俺たちのデッキに入ってるわけ無いだろ！」

「いや。俺たちに無くてモ」

「その通り。貴様らのデッキに無くとも私のデッキにはある。水魔神スーガを手札に加える」

なんて奴らだ。互いのデッキを把握しきっている。このままいけば次のターン確実にゲートガーディアンをよばれるだろう。だったら！

「ゲートガーディアンを出させなりたいだけの事だ！俺のターン！魔法カード手札抹殺を発動！」

手札抹殺

通常魔法（制限カード）

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

「残念だったな。これでスーガは墓地に行ったぜ」

「ナイスだ嵐！」

「「ふふふふふふ・・・」」

突然迷宮兄弟が笑い出した。ショックでどうかなったちまったのか？

「本当にナイスだよ！」「貴様のおかげで！」「我らの切り札が召喚できる！！」

「なんだと!？」

「つーか喋り方キモツ!!！」

「罨発動!リビングゲッドの呼び声!蘇れ水魔神スーガ!」

罨の発動とともに奴らの場に3体目の魔神が現れた。

「さらに罨発動!魔界門開口!」

魔界門開口 (オリジナル)

罨

自分フィールド上に雷魔神サンガ、水魔神スーガ、風魔神ヒューガが存在するときのみ発動できる。自分フィールドのモンスターをすべて破壊し、デッキまたは手札から「ゲート・ガーディアン」を特殊召喚する。

「3体の魔神を墓地に送り、いでよ!ゲート・ガーディアン!!」

ゲート・ガーディアン

効果モンスター

星11 / ATK3750 / DF3400

このカードは通常召喚できない。

自分フィールド上に存在する「雷魔神・サンガ」「風魔神・ヒューガ」「水魔神・スーガ」をそれぞれ1体ずつリリースした場合に特殊召喚する事ができる。

「出ちまった・・・つくそ!カードを2枚伏せてターンエンド!」

「私のターン。ゲート・ガーディアンで黒槍のプラストを攻撃!

!」

嵐&烏LP4000 2950

「ぐわあああ!!」

ダメージを受け叫び声を挙げた。

「・・・やっぱ本物の衝撃か・・・」

「いててて・・・こりゃきついな・・・」

「けど、罨発動!同族の絆!デッキからBF-銀盾のミストラルを特殊召喚!」

同族の絆 オリジナル

罨

自分フィールドのモンスターが破壊されたとき発動できる。

自分のデッキから破壊されたモンスターよりレベルの低い同じ種族のモンスターを特殊召喚する。

BF-銀盾のミストラル

チューナー(効果モンスター)

星2/atk 100/df1800

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた場合、このターン自分が受ける戦闘ダメージを1度だけ0にする

「カードを1枚伏せてターンエンドだ」

状況

ターン・烏 嵐 LP2950

伏せカード1枚

フィールド

銀盾のミストラル（嵐フィールド）

シールドウォーリア（嵐フィールド）

迷宮兄弟 LP4000

伏せカード1枚

フィールド

ゲートガーディアン（兄フィールド）

「俺のターン！！魔法カードおろかな埋葬！デッキからBF - 大
旆のヴァーユを墓地に送り、効果発動！墓地のレベル6のBF - 漆
黒のエルフェンにレベル1のBF - 大旆のヴァーユをチューニング
！！」

BF - 大旆のヴァーユ

チューナー（効果モンスター）

星1 / ATK 800 / DF 0

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカ
ードをシンクロ素材とする事はできない。

このカードが墓地に存在する場合、このカードと墓地に存在する
チューナー以外の「BF」と名のついたモンスター1体をゲームか
ら除外し、そのレベルの合計と同じレベルの「BF」と名のついた
シンクロモンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する事が
できる。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

「そんなカードいつの間にも!?」

「さつき嵐が手札抹殺を使ったときに墓地にいったのさ！大いな

る風よ。全てを切り裂く翼となれ！シンクロ召喚！BF - 連撃のクロス・ウインド！」

BF - 連撃のクロス・ウインド（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2200 / DF 1900

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは1ターンに2回攻撃することができる。

「BF - そよ風のチルットを通常召喚！」

BF - そよ風のチルット（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK 1000 / DF 1000

このカードがフィールドに存在する限り、相手はこのカード以外の『BF』を攻撃することができない。

「さらに嵐の場のレベル4シールドウォーリアと俺の場のレベル1そよ風のチルットにレベル2銀盾のミストラルをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF - アイマード・ウイング！」

BF - アイマード・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔カウンターを1つ置く事が

できる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔力ウンターを全て取り除く事で、楔力ウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「バトル！アーマード・ウイングでゲート・ガーディアンを攻撃！ブラックハリケーン！！」

「バカめ、ゲート・ガーディアンより攻撃力の低いアーマード・ウイングで攻撃などして」「自滅する気か！」

「アーマード・ウイングが攻撃するとき、戦闘ダメージは0になり、破壊もされない！もういっちょ連撃のアーマード・ウイングで攻撃！」

「やはり貴様はバカだ！」「今度こそ自滅しろ！」

「バカはお前らだ！ゲート・ガーディアンの攻撃力を見てみな！」

今の状況に気付きもしない兄弟に俺が言ってやった。

ゲート・ガーディアン

ATK0

「なに！！？」

「アーマード・ウイングのもう一つの効果。攻撃した相手に楔力ウンターを乗せ、それを取り除くことにより、エンドフェイズまでそのモンスターの攻撃力・守備力を0にする！いけ！クロス・ウインド！！クロス・ハリケーン！！」

デュエルモンスター史上最強クラスのモンスターが切り裂かれた。

「ぐわあああああああああー!!」

迷宮兄弟

LP4000 1800

「やったな烏！」

「嵐もナイスアシスト！」

「よくもやってくれたな・・・」
「しかしここからが本当の地獄の始まりだ！」
「畏カード地獄の闇人形発動!!」

地獄の闇人形オリジナル

畏

自分フィールドのモンスターが破壊されたとき発動可能。

そのモンスターのレベルの半分のマイナスレベルトークンを特殊召喚する。

「レベルマイナス6のトークンか・・・カードを1枚伏せてターンエンド！」

「私のターン！ダークチューナーデスガードを召喚！」

デスガード（オリジナル）

レベルマイナス2 / ATK0 / DF0

「レベルマイナス6のトークンにデスガードをダークチューニ

ングー！冥府の扉よ。全てを葬る化身となれ！！ダークシンクロ！
現れるカオス・ガーディアン！！」

フィールドに黒いゲート・ガーディアンが現れた。雷、風、水と
いう漢字が書かれていた場所には巨大な目が浮かんでいる。

カオス・ガーディアン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK 1850 / DFO

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

墓地にゲート・ガーディアンが存在するときこのカードの攻撃力・
守備力はゲート・ガーディアンの攻撃力・守備力分アップする。

「やっぱダークシンクロを使うのか・・・けど攻撃力1850。
たいしたことないな」

「それはどうかな？墓地にゲート・ガーディアンが存在すると
き、カオス・ガーディアンの攻撃力は5600となる」

「なに！？」

「とどめだ！やれカオス・ガーディアン！！クロスウインドを攻
撃！カオス・バースト！！」

「畏発動！くず鉄のかかし！お前の攻撃を無効にする！」

鳥の畏でなんとか絶体絶命の危機を脱した。

「つち！ならば速攻魔法ご隠居の猛毒薬。貴様らに800のダメ
ージを与える！」

「「つく!!」」

嵐&鳥LP2950 2150

「カードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ―！バブルナイトを召喚！バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロ―！スピード・ウォーリアを特殊召喚！レベル2のスピード・ウォーリアにレベル3のバブル・ナイトをチューニング！！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚める！シンクロ召喚！水の騎士バブル・ブレイド！！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK800 / DF800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロ―するドロ―したカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK2300 / DF2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

「さらにアーマードウイングでカオス・ガーディアンを攻撃！」

「そう何度も食らうものか！永続罫拷問車輪！」

拷問車輪

永続罾

このカードがフィールド上に存在する限り、指定した相手モンスター1体は攻撃できず、表示形式も変更できない。

自分のスタンバイフェイズ時、このカードは相手ライフに500ポイントのダメージを与える。

指定モンスターがフィールド上から離れた時、このカードを破壊する。

「これでアーマードウイングは攻撃できず毎ターン500のダメージを受ける」

「くっそ。カードを2枚伏せてターンエンド」

(このターンの攻撃で勝てるかどうかが決まる。たのむ・・・)

「私のターン。拷問車輪の効果により貴様らは500ポイントのダメージを受ける!」

「くっく!!」

嵐&鳥LP2150 1650

「さらに速攻魔法サイクロン。邪魔な盾は消させてもらっぞ」

強烈な突風によりセットされていたくず鉄のかかしが破壊された。

「しまった!!」

「カオス・ガーディアンで連撃のクロス・ウインドを攻撃！カオス・ブラスト！！死ねえ！！！！」

カオスガーディアンの攻撃が届く瞬間

「畏発動！ガード・ブロック！戦闘ダメージを0にし、俺はカードを1枚ドローする」

ガード・ブロック

通常畏

相手ターンの戦闘ダメージ計算時に発動する事ができる。

その戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になり、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「ならば仕方ないせっかく楽にしてやろうと思っていたのに。魔法カード魔法石の採掘。手札を2枚捨て、墓地のご隠居の猛毒薬を手札に戻し発動！800のダメージを与える！」

「「があああああ！！」」

嵐&鳥LP1650 850

「これでターンエンドだ」「貴様らのライフは風前の灯」「もはや勝ち目などあるまい」

「……いいや」

傷だらけになりながら俺は奴らの言葉を否定した。

「……逆転の準備は整った。行くぜ嵐！」

「おうー!!」

「俺のターンー!!」

烏がカードをドロ―したのを確認し俺達は声をそろえて喋りだした。

「魔法カード黙する死者！墓地から疾風のゲイルを守備表示で特殊召喚！！」

烏の場に疾風のゲイルが現れる。

「レベル5のバブル・ブレイドにレベル3の疾風のゲイルをチューニング！！黒き翼が天を裂く！友との絆が嵐を起こす！！我ら無敵の黒嵐！！シンクロ召喚！！BF - 共闘のハリケーン！！！！」

俺と烏の場に巨大な剣を持ったモンスターが出現した。

BF - 共闘のハリケーン（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 3000 / DF 2800

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外の戦士族モンスター1体以上

自分フィールドのこのカード以外のモンスターの攻撃力を0にすることで、このカードの攻撃力はほかのモンスターの攻撃力の合計分アップしそのモンスター効果を得る。

この効果を使ったターンのバトルフェイズ終了時このカードの攻撃力は次の自分のエンドフェイズまで0になる。

「「さらに永続罨リビングデッドの呼び声！蘇れ連撃のクロス・ウインド！！」」

二刀の剣を持ったクロス・ウインドが再びフィールドに現れた。

「「さらにハリケーンの効果発動！他のモンスターの攻撃力をハリケーンに集める！」」

B F - 共闘のハリケーン

ATK 3000 7700

「「7700だと!?!」」

「「バトル！共闘のハリケーンでカオス・ガーディアンを攻撃！ブラック・スラッシュ！！」」

「「ぐああああああああああ！！」」

迷宮兄弟

LP 1800 0

「「俺たち2人に敵はなし！俺たち無敵の黒嵐！！」」

そう言っただけ俺達はハイタッチをした。実はこのセリフ、昔鳥とタッグを組んでいた頃に二人で作った決め台詞だ。

「面白いデュエルだったぜ！またやろうなって気絶してるか・・・

」

「「とりあえず先を急ごう！」」

「ここが分かれ道みたいだな。じゃあ俺は左に行く。嵐、負けん
じゃねえぞ！」

「烏こそ！」

そう言って俺達は自分の戦う相手目指して走り出した。

t u r n 6 : タツゲデュエル！伝説の決闘者VS黒嵐（後書き）

やっと烏を活躍させることができてほっとしています。雪無です。

当分はこの話をやっけます。

あと最近クラスメイトに小説を書いていることがばれました。先生にいじられるのがちょっととしたダメージです……。あとカードリクエスト募集しています。

遅くなりましたが読破ありがとうございました。

t u r n 7 : V S 色欲の塔 (前書き)

今回は祭のデュエルです。1ターンキルじゃないデュエルです。

turn 7：VS色欲の塔

6時45分38秒

目的地に一番最初に到着したのは祭だった。

「色欲の塔ってここでいいんだよね？」

一人のはずの祭は誰かに問いかけるようにそう呟いた。

『いいんじゃないか？違ってたって別にいいだろ』

『何言ってるのヒータ。別にいいわけないでしょ』

『えっと……みんな落ち着いて……』

『はあ……なんでいつも喧嘩みたいな事が起こるのよ』

『結論としては行ってみるのが一番だぜ。主人^{マスター}』

一人のはずの祭の問いかけに対し、5人の声が答えていた。この5人は祭のデッキに入ったカードの精霊の5霊使いのカードたちだ。

「そうだね。まずは行ってみようか」

そう言っって私は目の前にそびえたつ塔めざして再び歩き出した。

それから数分で塔にたどり着いた。

「着いたはいいけど、デュエルの相手……何処にもいないみたい」

『もう帰ったんじゃないの？』

『それとも私らに恐れをなして逃げ出したとか？』

それはないと思うけど……。

「は～ははは！こりゃラッキーだぜ！俺の相手は女か！」

突然大声を上げながら一人の少年が塔の影から出てきた。

「あなたがセブンスシン？」

「いかにも！俺が色欲の塔の番人、霧島浩介だ」

やっぱりコイツが番人が。

「私は両儀祭りょうぎまつり。あなたの対戦相手よ」

「祭か。けっこうかわいいな。そういえばお前ら、どうすれば俺たちを止めれるか知ってるか？」

「あなたたちをデュエルで倒せばいいんですよ」

「それだけじゃ足りないんだな」

「足りない？」

霧島は自分の首にかかった不思議な形のペンダントを私に見せてきた。

「俺たちに勝った上で、あの塔の中にある鍵穴にこいつを入れなきゃなら無いんだ。分かったか？」

なるほど。

「……皆聞こえた？」

私は自分の携帯端末に向かってそういった。念のために通信機能をオンにしておいたのだ。

『聞いてたぜ！』

『サンキュー祭！』

『助かるぞい！』

『さすが我が妹！！』

「つち！男共にまで聞かれたか。男はすつこんどけ！消えろくずどもが！」

『なんだとゴラ！』 『つかお前誰だ！』 『祭！そいつにいやらしいことされな』

ブツ！！

とりあえず私は端末の電源を落とした。

「とにかくデュエルよ！」

「よしいだろう！お前が勝てば鍵は渡そう。負けたら俺の彼女になれ！」

「なっ!？」

彼女!？なんでそんなのに私が。

「分かったな!じゃあ始めるぞ！」

「ああ、もう流れが読めないまま、分かったわよ！」

「デュエル!!」

祭LP4000

霧島LP4000

デュエル開始と同時に私達の周りを紫炎が包んだ。これが嵐くんの言っていたデュエルか。

先攻 霧島

「俺の先攻ドロ!エレメント・ソルジャーを召喚！」

エレメント・ソルジャー

効果モンスター

星4 / 闇属性 / ATK1500 / DF1200

このモンスターはフィールド上に特定の属性を持つモンスターが存在する場合、以下の効果を得る。

水属性：このカードのコントロールを変更する事ができない。
地属性：このカードが戦闘によって破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

「さらにフィールド魔法、エレメント・ワールド発動！」

フィールドが七色に光りだした。

エレメント・ワールド（オリジナル）

フィールド魔法

お互いは、毎ターン自分フィールドのモンスターを選択する。選択したモンスターの属性によって以下を適用する。

光：自分フィールドのモンスターは1ターンに1度、戦闘では破壊されない。

闇：相手にダメージを与えたとき、相手フィールドのカードを1枚破壊する。

地：自分フィールドのモンスターが攻撃するとき、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫カードを発動できない。

水：モンスターの召喚に成功したときカードを1枚引くことができる。

炎：自分フィールドのモンスターの攻撃力を800ポイントアップする。

風：自分フィールドのモンスターは1ターンに2回攻撃することができる。

「何！？このフィールド魔法。こんなカード見たことない！」

「フィールド魔法、エレメント・ワールドの効果により、俺がモンスターを破壊する度、お前のカード破壊する！」

「けど1ターン目でしょ」

「そうだな。カードを2枚伏せてターンエンドだ」

属性によってメリットを与えるフィールド魔法か・・・面白い！

「私のターン！闇霊使いダルクを召喚！さらに魔法カード二重召喚発動！手札から見習い魔女を召喚！」 闇霊使いダルク

効果モンスター

星3闇属性 / ATK500 / DF 1500

リバース：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手フィールド上の闇属性モンスター1体のコントロールを得る。

見習い魔女

効果モンスター

星2 / 闇属性 / ATK550 / DF 500

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、全ての闇属性モンスターの攻撃力は500ポイントアップする。

光属性モンスターの攻撃力は400ポイントダウンする。

「さらにこの2体をリリース。憑依装着ダルクを特殊召喚！」

憑依装着ダルク（オリジナル）

効果モンスター

星4 / 闇属性 / ATK1850 / DF1500

自分フィールド上の「闇霊使いダルク」1体と他の闇属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚することができる。

この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻

撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「バトル！ダルクでエレメント・ソルジャーを攻撃！」

「かゝ効くね〜！」

霧島LP4000 3650

「さらにエレメント・ワールドの効果により伏せカードを破壊！カードを2枚伏せてターンエンド」

「俺のターンドロ。エレメント・ザウルスを召喚！さらに魔法カード怨念の炎！手札の炎族モンスターを墓地に送り、火の玉トークンを特殊召喚！」

怨念の炎 オリジナル

魔法

手札の炎族モンスター1体を墓地に送り発動。火の玉トークン（炎族・炎・星1・ATK/DF100）を1体守備表示で特殊召喚する。

エレメント・ザウルス

効果モンスター

星4 / 闇属性 / ATK1500 / DF1200

このモンスターはフィールド上に特定の属性を持つモンスターが存在する場合、以下の効果を得る。

炎属性：このカードの攻撃力は500ポイントアップする。

地属性：このカードが戦闘によって破壊した効果モンスターの効果は無効化される。

「エレメント・ザウルス効果発動！攻撃力500ポイントアップ！」

エレメント・ザウルス

ATK1500 2000

「エレメント・ザウルスでダルクを攻撃！」

「畏発動！攻撃の無力化！バトルフェイズを終了する！」

「やるな。さすが俺の彼女」

「彼女じゃない！！」

「ターンエンドだ」

「こいつ……どこまでふざけてるんだ。」

『主人、さつさとやっちまおうぜ』

場にいるダルクがそう言ってきた。

「そうだね。私のターン！憑依装着ダルクで火の玉トークンを攻撃！」

「残念。畏発動、強制脱出装置。男のカードは手札にもどれ！」

霧島の言葉とともにダルクが手札に戻された。

「なら憑依装着ヒータを召喚！エレメント・ワールドの効果で攻撃力800アップ！」

『よっしゃあ！私の出番だぜ！』

などと叫びながらヒータが現れた。

憑依装着ヒータ

効果モンスター

星4 / 炎属性 / ATK1850 / DF1500

自分フィールド上の「火霊使いヒータ」1体と他の炎属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚することができる。

この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

憑依装着ヒータ

ATK1850 2650

「ターンエンド」

「俺のターン。巨大ネズミ召喚。さらにエレメント・ワールド炎属性の効果発動。攻撃力800アップエレメント・ザウルスのこうかも加わり、合計1300アップ！」

巨大ネズミ

効果モンスター

星4 / 地属性 / ATK1400 / DF1450

このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、デッキから攻撃力1500以下の地属性モンスター1体を自分のフィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚することができる。その後デッキをシャッフルする。

エレメント・ザウルス

ATK1500 2800

「エレメント・ザウルスでヒータを攻撃！」

「きゃあ！」

祭LP4000 3850

「カードを1枚伏せてターンエンド」

今のは本物の衝撃・・・嵐くんの言ったとおりみたいね。

「けど、負けない！私のターン！憑依装着エリアを召喚！」

憑依装着エリア

効果モンスター

星4 / 水属性 / ATK1850 / DF1500

自分フィールド上の「水霊使いエリア」1体と他の水属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚することができる。

この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

『よし、いつちよやるか』

「さらに魔法カードデジャヴ！憑依装着ウインを特殊召喚！」

デジャヴ（オリジナル）

魔法

このターン召喚されたモンスターと同じレベル・攻撃力のモンスターを手札から特殊召喚する。

『が、がんばります！』

「エリアで火の玉トークンを攻撃！ウインで巨大ネズミを攻撃！」

「つと、巨大ネズミの効果によりデッキからダークチューナー、エレメント・ゼロを特殊召喚」

巨大ネズミの死骸から黒マントと七つの浮かんだ目玉が現れた。

ダークチューナー

Dエレメント・ゼロ（オリジナル）

星9 / 闇属性 / ATK0 / DF0

このカードは自分の墓地に存在するモンスターと同じ属性として扱う。

「な！？闇属性のモンスターを巨大ネズミの効果で!？」

「エレメント・ゼロは墓地のモンスターと同じ属性になる。つまり、今のコイツの属性は闇、地、炎属性で、効果の対象内だ」

「カードを2枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、正直、もうちょい遊んでも良かったような気がするけど、これで終わりだ。魔法カードトークン化。エレメント・ザウルスを墓地に送りレベル1のザウルストークンを召喚しダークチユーンニング。人の心の七罪よ、今煉獄の杭を破り現れる！我、色欲の支配者なり！！ダークシンクロ！色欲 ラスト・アスモデウス！！！！」

色欲 ラスト・アスモデウス（オリジナル）

レベルマイナス8 / 闇属性 / ATK 3000 / DF 3000

チユーンナー以外のモンスター1体・ダークチユーンナー

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを5枚墓地に送る。墓地に送ったカードがモンスターカードだった場合、このカードは墓地に送ったモンスターと同じ属性になる。

闇属性を墓地に送った場合、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃ができる。

とても美しく、そしてとても邪悪なオーラをまとった美女が霧島場に現れた。

「ラスト・アスモデウスの効果によりデッキからカードを5枚墓地に送る。そして送ったカードの中にモンスターは3体。闇、炎、地、よってこのカードは炎、地属性としても扱う。さらに闇属性を墓地に送ったことでこのカードはダイレクトアタックが可能！

「そんな！！」

「バトル！アスモデウスでダイレクトアタック！！アブソート・ダーク！！」

「つ 罨発動！破壊輪！」

しかし私の場に伏せられたカードは作動しなかった。

「俺はエレメント・ワールドの対象をアスモデウスにした。よって地属性の効果。ダメージステップ終了時まで魔法・罨カードを発動できない。さらに炎属性の効果で攻撃力800アップだ。くえ」

色欲 ラスト・アスモデウス ATK 3000 3800

「きゃああああああああああああああああああああああああああああ！！！」

祭 LP 3850 50

『『マスター！！！！』』

今まで感じたことのない激痛が私を包んだ。エリアたちの声もかすかにしか聞き取れない。

「私は・・・大丈夫・・・まだ・・・やれる・・・」

「首の皮1枚で耐えたか。まあこれで俺の彼女確定だな。念のため、闇属性の効果でその破壊輪を破壊、ターンエンド！」

「わ、私の・・・ターン・・・」

痛みで目が霞む。デッキが良く見えない。もう駄目なのかな・・・？

『・・・みんな、言い忘れてたけど・・・絶対負けんじゃねえぞ！（ブツン！）』

その声は突然端末に入ってきた。その一言は私のピンチを予感していたかのようなタイミングで入ってきてあつという間に切れた。嵐くんの声だった。

「・・・あ」

その声を聞いた途端視界がハッキリした。体に力が戻ってきた！

「ドロー！私は儀式魔法ドリアードの祈りを発動！」

ドリアードの祈り

儀式魔法

「精霊術師 ドリアード」の降臨に必要。

フィールドか手札から、レベルが3以上になるようカードを生け贄に捧げなければならない。

「手札の憑依装着アウスを生贄に、精霊術師 ドリアードを儀式召喚！」

エレメンタル・マスター

精霊術師 ドリアード

儀式・効果モンスター

星3 / 光属性 / ATK1200 / DF1400

「ドリアードの祈り」により降臨。

このカードの属性は「風」「水」「炎」「地」としても扱う。

「さらに畏発動！憑依装着光臨！！」

憑依装着光臨（オリジナル）

罨

自分フィールド、墓地に憑依装着ヒータ、憑依装着アウス、憑依装着エリア、憑依装着ウインが存在する場合のみ発動することができる。

4枚をゲームから除外することで自分の手札、デッキ、墓地から憑依装着サーシャを特殊召喚する。

「4体の憑依装着を除外して、究極の憑依装着を召喚！来て、憑依装着サーシャー！」

長いブロンドの髪をなびかせながら憑依装着サーシャが祭の場に光臨した。

憑依装着サーシャ（オリジナル）

効果モンスター

星8 / 光属性 / ATK3600 / DF3000

「憑依装着光臨」・「精霊使いサーシャ」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「そしてもう1枚、私の最強の切り札。速攻魔法、究極錬金剣発動！！！」

究極錬金剣（オリジナル）

速攻魔法

自分フィールドにモンスターが2体以上存在するとき発動可能。モンスター1体を選択し他のモンスターに装備する。

装備モンスターはこのカードの発動から3ターンの間、選択したモンスターの攻撃力・守備力・モンスター効果を得る。

「ドリアードをサーシャに装備！サーシャはドリアードの攻撃力・守備力・モンスター効果を得る！さらにエレメント・ワールドの効果で攻撃力800アップ！」

祈りを捧げながらドリアードは1本の剣となりサーシャに装備された。

憑依装着サーシャ

ATK3600 5600

「攻撃力5600ってそんなのありかよ!？」

霧島が叫ぶ。そして彼は知らない。ちょっと前まで攻撃力7700クラスのモンスターがいたことを。

「これで終わりよ！憑依装着サーシャでラスト・アスモデウスを攻撃！究極剣・必斬!!！」

聖なる光をまとったサーシャが邪悪な闇を切り裂いた。

「つぐおおおおおおお!!！」

霧島LP3650 1850

「そしてエレメント・ワールド風属性の効果で2回目の攻撃！」

アスモデウスを切り裂いたサーシャが再び剣を構えた。

「ああ、それから私に勝ったら彼女になれって言ってたけど、私、今すっごく気になる人がいるの。ごめんなさい」

「そりやねえだおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお！！！！！
！」

霧島LP18500

「ふう。さて鍵はもらうわよ。あとは鍵を入れるだけね。そのあとは・・・一旦レッド寮に行ってみよつと。皆にメール送つといてと。よし！完璧！」

そう言いながら祭は塔の中に入り鍵を外した。

PM：7時5分37秒

色欲の塔 突破

turn7:VS色欲の塔(後書き)

やっとメインデュエルに入りました！

憑依装着ダルクは自分の願望も含みながら書きました。(カード化しないかな)

カードのリクエストは随時募集しております。感想などもいただけると本当に嬉しいです。

投稿したはずの第8話ですが私の手違いで消去してしまいました。大変ご迷惑をおかけします。

turn8 : vs 暴食の塔！ (前書き)

一度できたものを手違いで消してしまいましたが、最初の方よりイメージにあったものができました！

turn 8 : vs 暴食の塔！

祭の勝利から数分後。嵐は暴食の塔の前にいた。

「とりあえず着いた。さて俺の相手を探すか」

そう言っただ俺が一步前に出たときだった。
俺の周りを紫炎の炎が包んだ。

「探す必要はないわ。貴方の相手は私よ」

俺の前に青い髪をした少女が現れた。少女の瞳は深海のようによく
らい色をしていた。

「早速だけど、相手してもらおうよ」

「望むところだ！」

「デュエル！！」

嵐LP4000

番人LP4000

先攻 番人

「私のターン。モンスターをセットしてターンエンド」

あれ？番人っていうわりにアレだけか？

「俺のターン！スピードウォリアを召喚！モンスター効果により、スピードウォリアの攻撃力は2倍になる！」

スピードウォリア

星2 / ATK900 / DF400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「スピードウォリアでセットモンスターを攻撃！ソニックエッジ！」

破壊されたことによりセットモンスターの姿が現れた。

「素早いモモンガか!？」

素早いモモンガ

効果モンスター

星2 / ATK1000 / DF 100

このカードが戦闘によって墓地へ送られた時、自分は1000ライフポイント回復する。

さらにデッキから「素早いモモンガ」をフィールド上に裏側守備表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする。

「そのとおり。素早いモモンガの効果により私はライフを1000回復。さらにデッキから素早いモモンガを裏守備表示で特殊召喚」

番人LP4000 5000

「カードを1枚伏せてターンエンド」

「私のターン。セットモンスターをリリース。ミレニアム・スコ
ーピオンをアドバンス召喚」

ミレニアム・スコーピオン

効果モンスター

星5 / ATK2000 / DF1800

このカードが相手フィールド上モンスター1体を戦闘によって破
壊し墓地へ送る度に、このカードの攻撃力は500ポイントアップ
する。

「ミレニアム・スコーピオンでスピードウォリアを攻撃。食ら
え」

「つぐー!!」

嵐LP4000 2900

やっぱり本物の衝撃か・・・

「モンスターを破壊したことによりミレニアム・スコーピオンの
攻撃力は500アップする。カードを1枚伏せてターンエンド」

ミレニアム・スコーピオン

ATK2000 2500

「俺のターン！バブル・ナイトを召喚！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK800 / DF800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロースするドロースしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻る。

「バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロース！ドロースカードはボルト・ヘッジホッグ。よって場に特殊召喚！」

ボルト・ヘッジホッグ

効果モンスター

星2 / ATK 800 / DF 800

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、

このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

「レベル2のボルト・ヘッジホッグにレベル3バブル・ナイトをチューニング！！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚める！シンクロ召喚！バブル・ブレイド！！」

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK 2300 / DF 2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

「さらに永続畏エンジェル・リフト！スピードウォーリアを復活させる！」

エンジェル・リフト

永続罨

自分の墓地に存在するレベル2以下のモンスター1体を選択し、攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

「バブル・ブレイドの効果発動！俺の場のレベル2以下のモンスターの攻撃力分、お前のモンスターの攻撃力をダウンする！」

ミレニウム・スコープION

ATK2500 1600

「バブル・ブレイドでミレニウム・スコープIONを攻撃！バブルスラッシュュ！！」

番人LP5000 4300

「・・・罨発動。暴食王の強欲」

暴食王の強欲

オリジナル

罨

自分フィールドのモンスターが破壊されたとき発動可能。

相手モンスター1体を破壊し、破壊したモンスターの攻撃力分ライフを回復する。

「バブル・ブレイドを破壊して、私は2300のライフを回復す

る」

突然地面に出現した口にバブル・ブレイドが飲み込まれた。

「バブル・ブレイド!!」

番人LP4300 6600

あいつはライフをどんどん回復していく。・・・一体何がしたいんだ。

「カードを2枚伏せてターンエンド」

「私のターン。墓地の素早いモモンガを2体ゲームから除外して、
ダークチューナー、ソウルイーターを特殊召喚」

ダークチューナー
Dソウルイーター（オリジナル）

星9 / ATK0 / DEF0

このカードは墓地のモンスターを2体ゲームから除外することで
特殊召喚できる。

このカードがシンクロに使用されたとき、自分はライフを2000
ポイント回復する。

「さらにレベル1のヘルバウンドを召喚しダークチューニング。
人の心の七罪よ、今煉獄の杭を破り現れる。我、暴食の支配者なり。
ダークシンクロ。暴食 グラトニー・ベルゼブブ」

暴食 グラトニー・ベルゼブブ（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK3000 / DEF3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカードが相手モンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの攻撃力分ライフを回復する。
バトルフェイズをスキップすることでカードを1枚破壊できる。

少女の場に巨大な口の化け物（劇場版ハガレンのグラトニーを想像してください）が現れた。

「ソウルイーターの効果により私はライフを2000回復する」

「またかよ……」

番人LP6600 8600

「暴食 グラトニー・ベルゼブブでスピードウォーリアを攻撃。
喰え」

「ぐ、がああああああああああああああああああ！！」

嵐LP2900 800

番人LP8600 9500

「私はこれでターンエンド。もう分かったでしょ。貴方は私に勝てない。ライフポイントの差がそれを物語ってるわ」

「……うるせえ。俺はあいつらに負けるなって言ったんだ。言った本人が負けてたらカッコがつかないだろうが！俺のターン！……佐助、力を貸してくれ！畏発動！死ぬ気の根性！蘇れバブル・ブレイド！」

死ぬ気の根性
オリジナル

畏

自分の墓地からモンスター1対を特殊召喚する。

この効果で召喚されたモンスターはレベルが1つ下がり、このターンのエンドフェイズに破壊される。

嵐の場にバブル・ブレイドが再び現れた。

「さらに手札からハイパー・シンクロンを召喚！レベル4となったバブル・ブレイドにレベル4のハイパー・シンクロンをチューニング！友との絆が、新たに輝く星となる！シンクロ召喚！飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン！！」

ハイパー・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星4 / ATK1600 / DF 800

このカードがドラゴン族モンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、このカードをシンクロ素材としたシンクロモンスターの攻撃力は800ポイントアップし、エンドフェイズ時にゲームから除外される。

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「スターダスト・ドラゴンはハイパーシンクロンの効果により、攻撃力800アップ！さらに装備魔法クリスタル・ウイング！」

クリスタル・ウイング（オリジナル）

装備魔法

レベル8以上のドラゴン族シンクロモンスターにのみ装備可能。

装備モンスターが相手モンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。

スターダスト・ドラゴン

ATK2500 3300

「攻撃力がグラトニー・ベルゼブブを上回った・・・けど、私を倒せるのはまだ当分先のことね」

「それはどうかな？畏発動！ライフチェンジャー！」

ライフチェンジャー

通常畏

お互いのライフポイントに8000ポイント以上の差があった場合に発動する事ができる。

お互いのライフポイントは3000になる。

「これで俺達のライフは3000になる！」

嵐LP800 3000

番人LP9500 3000

「・・・終わりみたいね」

「ああそうだ！スターダストで、暴食 グラトニー・ベルゼブブを攻撃！響け、シューティング・ソニック！！」

スターダストの攻撃でグラトニー・ベルゼブブが砕け散った。

番人LP3000 0

デュエルに勝利したと同時に紫炎の炎が消え、少女も糸が切れたように倒れた。

かという俺もその場に座り込んだ。

「か、勝った・・・危なかった。って休んでる場合じゃなかった！」

俺は立ち上がり少女のそばまで行った。

祭の言ったとおり、少女の首には不思議な形をしたペンダントがかかっていた。

「・・・すいませ〜ん。おきてくださ〜い」

俺は鍵をもらうために気絶した少女に声を掛けた。さすがに気絶した女子の胸元に手を突っ込むのは・・・

「・・・ん・・・いたたたた」

呼びかけが効いたのか少女は目を覚ました。少女の瞳はデュエルのときとは違い明るいブルーをしていた。

「大丈夫か？今までのこと覚えてるか？」

「……ううん……」

少女は首を横に振った。デュエル那时的様子も考えると、どうやらだれかに操られていたようだ。

「その首にかけてるペンダント。必要なものなんだけど、よかつたらくれない？」

「は、はい。どうぞ……」

「ありがとう。すぐ戻ってくるから、ここで待っていて」

そう言っつて俺は暴食の塔に入っつていき、鍵を差し込んだ。

PM 7時5分25秒

暴食の塔 突破

「……あの男の子……めっちゃカッコええ……」

一人残された少女はそう呟っていた。

turn8：vs暴食の塔！（後書き）

今回の相手は無表情・ノーリアクションをイメージして書いたのですが、きつかったです。まだ次の対戦を誰にするか決めてません。どしよ〜（汗）

リクエストしていただいたデッキ、カードは時間をかけてでも使わせていただきます。本当にありがとうございます。

turn9:VS怠惰の塔!

「嵐の奴…こつぱずかしいこと言いやがって。ああ背中かゆっ
!」

くろばねからす
黒羽烏は一人ポツンとそんな事を呟いていた。

さつき、携帯端末から嵐の声が聞こえてきたが、よくあんな恥ずかしいことが言えたもんだ。

「にしても、この学園の森って結構広いな。道に迷っちゃまいそう
だぜ」

まったく、さつきからどんだけ歩いても塔までつかないし、どつちに曲がればいいのかも分かんないし、ていうかここがどこかも分からんしこれはまさに。

「……迷った……」

どうしよう。俺迷子だ。完全に迷子だ。

このままいくとみんな敵を倒して封印完了したのに、俺だけ道に迷って戦えませんでした的展開になってしまう。それだけは避けねば。避けるためにも。

「誰か~~~~~!!助けて~~~~~!!」

学園の何処にいても聞こえるんじゃないかというぐらいでかい声で助けを求めた。情けなくつつたっていい。今はピンチなのだ。

「だ~~~~れ~~~~か~~~~」

「……ハア。あんな人が僕の相手だなんて、なんかショックです……コッチですよ。ていうか人のすぐ横で何してるんですか？」

と、俺からほんの50メートルほど離れた場所から一人の少年が俺を呼んでいた。

俺は迷わずそいつの元へ全力疾走。

「いや、助かった。危うく孤独死するところだった！」

「そうは見えませんでしたけど。……それより、貴方が僕の相手ですね」

そう訊かれて俺は改めて周りを見た。側には巨大な塔が聳え立っていた。

「つてことはお前が怠惰の塔の番人か」

「そのとおりです。僕は遠藤カケルえんどうといいます」

「カケルか。俺は……ちょっと待て。名前もう一回言ってくれないか？」

「遠藤カケルです」

「もしもし嵐か！？一大事だ！！」

俺は大急ぎで嵐に連絡を取った。

『なんだ！どうした！？』

「相手が、俺の相手が」

『だからどうした！落ち着け！』

嵐に言われて俺は一度深呼吸をして再び喋りだした。

「俺の相手、怠惰の塔の番人は・・・カケルだ」

『なっ！？』

端末の向こうで嵐も驚いていた。当然だ。俺の目の前にいる番人、カケルは、俺と嵐がアカデミアに入る前、ずっと一緒につるんでいた仲間だ。

「カケル、覚えてないか？俺だ！烏だ！昔一緒につるんでただろ」

「・・・どうだったかな。覚えてないや」

「・・・覚えてないだと・・・」

「そんなことより勝負だ」

「・・・ああ分かった。やってやるよ！..」

「「デュエル！！」」

烏LP4000

カケルLP4000

先攻 烏

「俺の先攻！永続魔法、黒い旋風発動！さらにBF - 蒼炎のシユラを召喚！」

黒い旋風

永続魔法

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが召喚された時、自分のデッキからそのモンスターの攻撃力より低い攻撃力を持つ「BF」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

BF - 蒼炎のシユラ

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから攻撃力1500以下の「BF」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「黒い旋風の効果で、疾風のゲイルを手札に加える。BF - 疾風のゲイルを特殊召喚！」

BF - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分にする事ができる。

「レベル4の蒼炎のシユラにレベル3BF - 疾風のゲイルをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF - アーマード・ウイング！」

BF - アーマード・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔カウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔カウンターを全て取り除く事で、楔カウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「俺はこれでターンエンドだ！」

「僕のターン。永続魔法レベル制限B地区。アーマード・ウイングは守備表示になる」

「げっ!!！」

レベル制限B地区

永続魔法（制限カード）

フィールド上に表側表示で存在するレベル4以上のモンスターは全て守備表示になる。

「カードを3枚伏せてターンエンド」

こいつ、ロックデッキを使うのか。

「けど俺にそんなデッキは通用しないぜ！畏発動！黒羽の導き！」

黒羽の導き（オリジナル）

永続畏

自分の墓地からレベル4以下の「BF」と名のつくモンスターを1体選択して特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時このカードを破壊する。

「カウンター畏発動。マルファンクション 誤作動」

誤作動

カウンター畏

500ライフポイントを払う。

畏カードの発動を無効にし、そのカードを元に戻す。

「黒羽の導きの効果を無効にし、セットしなおす」

「っちー！」

カケルLP4000 3500

「さらに、錠前龍を守備表示で特殊召喚」

錠前龍ロック・ドラゴン（アニメオリジナル）

星3 / ATK 0 / DF 2000

このカードは通常召喚できない。自分がカウンター罠で相手がコントロールするカードの発動を無効にした場合のみ手札から特殊召喚する事ができる。

このカードがフィールド上に表守備表示で存在する限り、特殊召喚できない。

「これで貴方は特殊召喚できない。もちろんシンクロ召喚もできません。そして既にもう1枚のカードも発動しています。永続罠、カウンター・フォース」

カウンター・フォース（アニメオリジナル）

永続罠

カウンター罠が発動する度に、このカードにチャージカウンターを一つ置く。自分ターンのスタンバイフェイズ時にこのカードをゲームから除外することで、このカードに乗っているチャージカウンターの数×1000ポイントダメージを相手ライフに与える。

カウンター・フォース 現カウンター 一つ

「ああもう！次から次に！俺はBF 鉄鎖のフェーンを召喚！」

BF 鉄鎖のフェーン

効果モンスター

星2 / ATK 500 / DF 800

このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、相手フィールド上に攻撃表示で存在するモンスター1体を守

備表示にする。

「鉄鎖のフェーンでダイレクトアタック！」

カケルLP3500 3000

「カードを1枚伏せてターンエンド」

「僕のターン。永続魔法サモンパスを発動」

サモンパス

魔法

お互いのプレイヤーはモンスターを召喚するとき、相手はカードを1枚引き、自分はカードの種類を宣言する。ドローカードが宣言と違う場合、召喚したモンスターを破壊する。

またやっかいなカードを。

「カードを1枚セットしてターンエンド」

「俺のターン！」

カケルの場には伏せカードが2枚と永続魔法・罫が3枚。目的は十中八九カウンターフォースのカウンターをためて俺のライフを0にすることだろう。俺の場にBFは2体。これじゃデルタ・クロウ・アンチ・リバーも発動できない。・・・いっぺん賭けに出てみるか。

「俺はBF - そよ風のチルットを召喚！」

BF - そよ風のチルット（オリジナル）
効果モンスター

星1 / ATK100 / DF100

このカードがフィールドに存在する限り、相手はこのカード以外の『BF』を攻撃することができない。

「僕はカードを1枚ドロ。さあ。このカードの種類を言っ
てらん」

「なめやがって・・・魔法だ！」

「残念でした」

カケルはドロカードを俺に見せてきた。・・・畏だった。

「サモンパスの効果発動！そよ風のチルットを破壊！」

「チルット！」

召喚されたチルットが破壊された。

「なら俺は魔法カードシンクロ・ギフトを発動！」

シンクロ・ギフト（アニメオリジナル）

魔法

自分フィールドのシンクロモンスター1体の攻撃力を0にするこ
とで、自分フィールドのほかのモンスター1体の攻撃力をそのモン
スターの元々の攻撃力分アップする。

「アーマードウィングの攻撃力を鉄鎖のフェーンに与える！」

鉄鎖のフェーン

ATK500 3000

「バトル！鉄鎖のフェーンでダイレクトアタック！」

「カウンター罠、攻撃の無力化発動！」

「またカウンターかよ！」

フェーンの動きが空中で止まった。

「これにより、カウンター・フォースにさらにカウンターが乗る」

カウンター・フォース 現カウンター 2つ

「くそ！ターンエンドだ！」

「僕のターン。．．．そろそろ頃合でしょうか．．．手札からD・スロウス召喚」

「その前にサモンパスの効果！さあ俺の引いたカードは何だ？」

「．．．じゃあモンスターで」

「．．．つち！正解だ。つかレベル10!？」

俺はデッキから引いた極北のブリザードを見せた。

ダイクチューナー

D・スロウス

レベル10 / ATK 0 / DEF 0

このカードは生贄なしで召喚する事ができる。

この効果を使用した場合、プレイヤーはこのカードの召喚から3ターンの間攻撃できない。

「レベル3の錠前龍にレベル10のスロウスをダークチューニン
グ！人の心の七罪よ、今煉獄の杭を破り現れる！我、怠惰の支配者
なり！！ダークシンクロ！怠惰 スロウス・ベルフェゴール！！」

怠惰 スロウス・ベルフェゴール（オリジナル）

レベルマイナス7 / ATK 0 / DEF 3000

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードがフィールド上に表守備表示で存在する限り、特殊召喚できない。

このカードが表守備表示で存在するとき、レベル5以下の闇属性モンスターの効果は無効となる。

「スロウス・ベルフェゴールの出現により鉄鎖のフェーンの効果は無効となった」

「つくー！」

「僕はこれでターンエンド」

「・・・俺のターン！」

「じつなりややるしかない！

「BF 極北のブリザード召喚！」

B F 極北のブリザード

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK1300 / DF 0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「B F」と名の付いたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「サモンパスの効果発動。さあ、宣言してもらおうか」

・・・考えろ！さっきの奴のカードと奴のデッキを・・・

「・・・畏だ！！」

「・・・正解」

「よっしやあ！！」

今のカケルのデッキはロックデッキ。ならモンスターより畏の方が圧倒的に多く入っている。

「魔法カード死角からの一撃を発動！」

死角からの一撃（アニメオリジナル）

魔法

相手フィールドの守備表示モンスター1体を選択し発動。

そのモンスターの守備力分、自分フィールドのモンスター1体の攻撃力をアップする。

極北のブリザード

ATK1300 4600

「畏発動。マジック・ジャマー」

「なんだと!？」

マジック・ジャマー

カウンター罠

手札を1枚捨てて発動する。

魔法カードの発動を無効にし破壊する。

カウンター・フォース 現カウンター 3つ

発動したマジックが怪しい煙に飲み込まれた。

今、俺の手札にモンスターは・・・ない。

「・・・ターンエンド」

「僕のターン。永続魔法平和の使者を発動」

平和の使者

永続魔法

お互いに表側表示の攻撃力1500以上のモンスターは攻撃宣言が行えない。

自分のスタンバイフェイズ毎に100ライフポイントを払う。払わなければ、このカードを破壊する。

「また防御を固めたか。これじゃ攻撃できねえ!」

やっぱり、逆転のチャンスは一度きりか。

「俺のターン！罨発動！無謀な欲張り」

無謀な欲張り

通常罨

カードを2枚ドローし、以後自分のドローフェイズを2回スキップする。

「俺はカードを2枚引く！来い！逆転のカード！ドロー！！」

………来た。

「行くぜ！手札から魔法カード！ダブル・サイクロン発動！！」

ダブル・サイクロン（アニメオリジナル）

魔法

自分と相手フィールドの魔法・罨ゾーンのカードを1枚破壊する。

「カウンター・フォースを選択！吹き飛ばや！」

巨大な竜巻がカウンター・フォースに衝突する。

瞬間だった。

「カウンター罨発動。神の宣告」

「神の……宣告だと……」

神の宣告

カウンター罨（制限カード）

ライフポイントを半分払う。

魔法・罾の発動、モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし、それを破壊する。

カケルLP3000 1500

カウンター・フォース 現カウンター 4つ

奴の魔法・罾カードを破壊する術が、無くなった。

「……こんなもんでしたか。正直残念です。次のターンで僕の勝ちです」

「ああ、そうだな。お前の勝ちだ……。次のターンがきたらな！」

「なに!?!」

「お前が神の宣告を伏せてる事は最初から読めてたんだよ!俺の切り札はダブル・サイクロンじゃなくてこつちだ!罾発動!パニック・ウェーブ!」

パニック・ウェーブ(アニメオリジナル)

罾

自分フィールドに存在するカード1枚を破壊して発動する。

このターン、フィールド上に表側表示で存在する永続魔法・罾の効果は無効にする。

カケルの場の魔法・罾が機能を停止した。

「なに!?!」

「さらにBF 黒槍のブラストを召喚！」

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「行くぜ！レベル2の鉄鎖のフェーンとレベル4の黒槍のブラストに、レベル2の極北のブリザードをチューニング！吹き荒べ嵐よ！鋼鉄の意志と光の速さを得て、その姿を昇華せよ！シンクロ召喚！BF - 孤高のシルバー・ウィンド！」

BF - 孤高のシルバー・ウィンド

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 2000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に表側表示で存在する、このカードの攻撃力よりも低い守備力を持つモンスターを2体まで選択して破壊する事ができる。

この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

また、相手のターンに1度だけ、このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「BF」と名のついたモンスターは戦闘では破壊されない。

「さらに魔法カードカード・フリッパー！怠惰 スロウス・ベル
フェゴールを攻撃表示に変更！」

カード・フリッパー

魔法

手札を1枚墓地へ送って発動する。

相手フィールド上に存在する全てのモンスターの表示形式を変更
する。

「・・・そんな・・・」

「BF - 孤高のシルバー・ウィンドで怠惰 スロウス・ベルフェ
ゴールを攻撃！」

シルバー・ウィンドの持つ銀に輝く日本刀によって、スロウス・
ベルフェゴールは破壊された。

「あああああああああああああああああああ！！！！」

カケルLP 1500 0

「カケル！！」

デュエルが終わった瞬間、俺はカケルの元へ走った。
倒れるギリギリの所でカケルの体を受け止める。

「おい！しっかりしろ！」

「・・・ん・・・もしかして・・・鳥？・・・あは、久しぶり」

「久しぶりじゃねえよ！さっきまで俺のこと忘れてたくせに！それよりお前、何でデュエルアカデミアにいるんだ？」

「デュエルアカデミア？なんのこと？」

「お前、覚えてないのか？」

「うん・・・港で夕夜ゆいを送ったところまでは覚えてるんだけど、そこからはまったく」

「夕夜？夕夜もここにいいのか!？」

「うん。編入試験を受けるんだって張り切ってたけど」

「そうか・・・とりあえず、ちょっと待ってけ。すぐ戻ってくる。そしたら、俺の住んでる寮まで連れてくから」

「分かった」

俺はカケルの首から鍵を外した。

けど、まさか、夕夜までいるなんて・・・。

PM7時7分6秒 怠惰の塔 突破

t u r n g : V S 怠情の塔！ (後書き)

この小説を投稿した日(より正確には前日)、電撃文庫のとある魔術の禁書目録19巻とアスラクライン13巻を発売日よりちょっとはやく買いました。個人的感想ですがドツチもマジで良かったです!!興味のある方は是非読んでみてください。

名前だけ出したキャラは出るのもうちよい掛かります。

t u r n 1 0 : v s 嫉妬の塔！走り回るもの達（前書き）

先日この小説のアクセス数が1万を突破しました！！これも読んでくださる皆さんのおかげです！これからもよろしくお願いします
！！！！

「俺が貴様の対戦相手。嫉妬の塔番人、スカル・エバアンスだ！」

「名前なんかどうだっていい。さっさと始めるぞ」

「ノリ悪いな〜分かったよ。ライディングデュエル・・・」

「アクセラレーション!!」

2人のD・ホイールが勢いよく発進した。

「って、塔から離れてんじゃねえか！」

「気にすんな気にすんな!じゃあ始めるぜ」

影月LP4000

スカルLP4000

先攻 影月

「俺の先攻!ドロー!アックス・ドラゴニートを召喚!カードを1枚伏せてターンエンド」

アックス・ドラゴニート

効果モンスター

星4/ATK2000/DF1200

このカードは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。

影月・スカル spc0 1

「ふむふむ。ドラゴンを主体にしたパワーデッキか。俺はモンスターを裏守備で召喚！ターンエンド」

影月・スカル spc1 2

「さあ見せてくださいよ。あんたの力を！」

「俺のターン！ガキがなめた口聞いてんじゃねえ！バトル！アックス・ドラゴニユートでセットモンスターを攻撃！」

アックス・ドラゴニユートが巨大な斧でセットモンスターを切り裂いた。

「残念でした！セットカードはコイツ、ウォーム・ワームだ！」

ウォーム・ワーム

効果モンスター

星3 / ATK 600 / DF 1400

このカードが破壊された場合、相手のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。

「さあデッキからカードを捨てな！さらに攻撃したことによりアックス・ドラゴニユートは守備表示になる！」

「ち！」

俺のデッキから3枚のカードが墓地に吸い込まれていった。

「俺はドラグニティ・トリブルを守備表示で召喚。トリブルの効

果によりデッキからドラグニティ・フアランクスを墓地に送る」

ドラグニティ・トリプル

効果モンスター

星1 / ATK 500 / DF 300

このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、自分のデッキからレベル3以下のドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る事ができる。

影月・スカル spc2 3

「俺のターン！そのまま行ったらアンタのフィールドかなりモンスターが増えるな。そんなことさせねえよ！サーチ・ストライカー召喚！アックス・ドラゴニユートを破壊！！」

サーチ・ストライカー

効果モンスター

星4 / ATK 1600 / DF 1200

このカードが裏側守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わず裏側守備表示のままそのモンスターを破壊する事ができる。

この効果を発動した場合、このカードはバトルフェイズ終了時に守備表示になり、次の自分のターンのエンドフェイズ時まで表示形式を変更する事ができない。

「っち。めちやくちなデッキの作りしやがって」

「めちやくちな？何言ってるんだ？俺はデッキにはちゃんとしたコンセプトがあんだよ！」

雑魚のクセに言いたい放題言いやがって

「ワームを出したと思ったたら今度は戦士族。何処にコンセプトがあるんだよ」

「分かんないかな。俺は嫉妬だぜ？嫉妬は相手の持つものを妬み、壊す。俺のデッキはそいつを現してんだ！」

「つまりカード破壊か。バカ正直に良く喋る」

「だって俺の勝ちが決まってんだもん。カードを1枚伏せてターンエンド！」

影月・スカル spc2 3

二台のマシンはさらに加速していく。

「俺のターン！ドラグニティ・ドウクスを召喚！墓地のドラグニティ・ファランクスを装備し、特殊召喚！」

ドラグニティ・ドウクス

効果モンスター

星4 / ATK1500 / DF1000

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備することができる。

ドラグニティ・ファランクス

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK 500 / DF 1100

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合に発動する事ができる。

装備されているこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「レベル4のドラグニティ・ドゥクスとレベル1のドラグニティ・トリブルにレベル2のドラグニティ・ファランクスをチューニング！シンクロ召喚！ドラグニティナイト・トライデント！！」

ドラグニティナイト・トライデント

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2400 / DF 1700

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上

自分フィールド上に存在するカードを3枚まで墓地へ送って発動する。

相手のエクストラデッキを確認し、この効果を発動するために墓地へ送った枚数と同じ数だけカードを選択して墓地へ送る。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「ドラグニティナイト・トライデントでサーチ・ストライカーを攻撃！穿て、トライデント・ブレイク！！」

スカルLP 4000 3200

「痛っ！！うお、バランスが崩れる！」

「さらにトライデントの効果発動！伏せカード1枚を破壊し、お

前のエクストラ・デッキからカードを1枚墓地に送る！」

「・・・確認の必要はねえよ。俺のエクストラは1枚だけだ」

スカルはそう言っただけでカードを墓地に送った。

「カードを3枚伏せてターンエンド！」

影月・スカル s p c 3 4

「俺のターン。なあ、何でお前レッドデーモンズ出さないんだ？」

「！！お前、レッドデーモンズを知ってるのか！？」

「知ってるに決まってるだろ。あんたのデッキのエース。実は俺だ！ぶ前からこの学園に忍び込んでさ、こないだのデュエルも見させてもらったぜ」

嵐とのデュエルのことか。

「いいよなあそんなカード持ってて。羨ましいねえ欲しいねえ壊したいねえ。だからはやく召喚してくんないか」

「ふん。お前程度に出す価値もない！」

「・・・あっそう。なら無理矢理にでも出させてやるよ！
！煉獄の邪教本！！」

煉獄の邪教本（オリジナル）

罨

自分の墓地に強欲、暴食、怠惰、嫉妬、色欲、憤怒、傲慢と名のつくモンスターが存在する場合、そのモンスターを召喚条件を無視して可能な限り特殊召喚する。

「現れる！！嫉妬 エンヴィー・レヴィアタン！！」

嫉妬 エンヴィー・レヴィアタン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK 2800 / DF 3000

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードの召喚に成功したとき、このモンスターは以下の効果を得る。

- ・手札を1枚墓地に送ることで相手フィールドのカード1枚を破壊することができる。
- ・デッキからカードを墓地に送ることで相手の手札を1枚破壊することができる。

「まず手始めだ。俺の残りの手札3枚を墓地に送りお前のモンスターとセットカード2枚を破壊！」

「なに！？つぐ！！」

影月に向かってものすごい突風が吹いた。

たった1枚の伏せカードを残し、影月の場のカードは破壊された。

「さらにデッキからカードを2枚墓地に送り、お前の手札を全て破壊する！！」

「つくそ！！ならその前に罨発動！メテオ・プロミネンス！手札2枚を墓地に送り、2000のダメージを食らえ！！」

「があああああ！！！！」

スカルLP3200 1200

メテオ・プロミネンス
通常罾

相手ライフが3000ポイントよりも多い場合、手札を2枚墓地へ送って発動する事ができる。相手ライフに2000ポイントダメージを与える。

このカードが墓地に存在する場合、自分のドローフェイズ時に通常のドローを行う代わりに、このカードを手札に加える事ができる。

「・・・やってくれんじゃねえか。殺れ、エンヴィー！！ダイレクトアタック！！」

「ぐああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！」

影月LP4000 1200 spc4 2

二人のライフが並んだ。しかし、状況は圧倒的不利だ。

影月の前を走るスカルの後ろで、凶悪な悪魔が悠然と笑っている。

「これで俺の勝ちは決まりだな。お前は場も手札もゼロ。為す術はない。ターンエンド」

「・・・何言ってたんだ。誰が負けるって！！！！」

俺は、両儀影月はまだ終わってねえ！！！！

「・・・まだやるんだ。あつついこと」

「用はこのドローで全てが決まるってことだろ？ だったら決めてやるぜ、奇跡のドロー！ 俺のターン！！」

影月・スカル space 2 3

「・・・いくぜ。手札からsp-エンジェル・バトン発動デッキから2枚ドロー！ 1枚を墓地に送る！ そして手札からドラグニティ・ドウクスを召喚し、ドラグニティ・フアランクスを再び装備し、特殊召喚！！ レベル4のドラグニティ・ドウクスにレベル2のドラグニティ・フアランクスをチューニング！ シンクロ召喚！ 来い！ ドラグニティナイト-ゲイボルグ！！」

ドラグニティナイト-ゲイボルグ

シンクロ・効果モンスター

星6 / ATK 2000 / DF 1100

ドラゴン族チューナー+チューナー以外の鳥獣族モンスター1体以上

このカードが戦闘を行うダメージステップ時に1度だけ、自分の墓地に存在する鳥獣族モンスター1体をゲームから除外して発動する事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、ゲームから除外したそのモンスターの攻撃力分アップする。

「ゲイボルグの効果発動！ 墓地の鳥獣族を除外し、攻撃力を上げる！！」

「つつたつて、たいした奴いないんだろ？ ドラグニティだし」

「それはどうかな？俺はダーク・シムルグをゲームから除外！」

「何でそんなカードいれてんだよ！」

「ドラグニティ強化のために入れたんだが、本当に役に立つとは思わなかった。これにより攻撃力2700アップ！」

ドラグニティナイト-ゲイボルグ

ATK2000 4700

「やれ！ゲイボルグ！！エンヴィー・レヴィアタンを攻撃！！」

誇り高き竜輝士により邪悪な悪魔は葬られた

「ああああああああああああああああ！！！」

スカルLP1200 0

スカルのD・ホイールが蒸気を上げながら止まった。

「俺の勝ちだ。これでこの塔は終わりだ」

「そうかな。実はこの塔でまだやることがあるんだよね」

やること？

その時、端末から男の声が流れた。

『俺たちに勝った上で、あの塔の中にある鍵穴にこいつを入れなきゃなら無いんだ。分かったか？』

『みんな聞こえた？』

続けて入る少女の声、この声は我が愛しき妹祭！！

「おう！聞こえたぞ！さすが我が妹！！」

そう言っつて俺は端末を切った。

「……………」

2人の間に訪れる沈黙。

「……………逃げろ！」

「あ！待てこら！！！」

こうして再び俺はD・ホイールで走り回ることとなった。

PM 6時46分10秒
嫉妬の塔 ……通過

t u r n 1 0 : v s 嫉妬の塔！走り回るもの達（後書き）

先日新型インフルエンザにかかりました。

．．．．．今も少しやばいです．．．．．

皆さんも気をつけてください。

．．．．．リクエスト、お待ちしております。

t u r n 1 1 : v s 憤怒の塔！ダブルデュエル！（前書き）

テスト期間も終わってようやく投稿できました。

小説が書けない日々はつらかったです。発作起きるかと思いましたが、でもって今回は十代&ヨハンです。

turn11：vs憤怒の塔！ダブルデュエル！

「お前らがここの番人か」

PM7時3分56秒

目的地、憤怒の塔に着いた十代、ヨハンは目の前にいる2人の男女に話しかけていた。

「そのとおり。私は憤怒の塔番人、ながわらん長和蘭。でコッチは下僕3号」

「誰が下僕3号だ！？てかあと2人いるのか!?!」

「えっと・・・結局、どちら様？」

「俺は（元）憤怒の塔番人、しまいけようすけ島池洋介だ!」

「なんで（元）がついてんだよ」

「そっだそっだ」

相手に対して質問する2人。

「この作戦始める直前に私に負けて仕事を下ろされたからよ。で、今は私の下僕3号」

質問に対して丁寧に答える番人。

「だから下僕じゃねえ!?!」

「さて、早速デュエルしましょう」

「聞けやあ!!!」

何なんだこのコンビは。

「2人同士つて事は、タッグデュエルか？」

「いいえ。1体1の決闘よ。やりたかったら、この下僕と戦つてもいいわよ」

「よし、ならお前の相手はこの遊城十代がするぜ！」

「なら俺はアッチの奴の相手をする」

「んじゃ、さっさと始めましょうか」

「ぶつつぶす！」

「」「」「デュエル!!!!」「」「」

十代LP4000

蘭LP4000

ヨハンLP4000

洋介LP4000

ヨハンside 先攻 ヨハン

「俺のターン、宝玉獣エメラルド・タートルを守備表示で召喚！」

カードを1枚伏せてターンエンド」

エメラルド・タートル

効果モンスター

星3 / ATK600 / DF2000

このターン中に攻撃を行った自分フィールド上に存在するモンスター1体を守備表示にする事ができる。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永續魔法カード扱いとして自分の魔法&罠カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

「俺のターン！マシンナーズ・ソルジャーを召喚。さらにマシンナーズ・ソルジャーの効果により、マシンナーズ・スナイパーを特殊召喚。カードを1枚伏せてターンエンド！」

マシンナーズ・ソルジャー

効果モンスター

星4 / ATK1600 / DF1500

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合にこのカードが召喚に成功した時、手札から「マシンナーズ・ソルジャー」以外の「マシンナーズ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

マシンナーズ・スナイパー

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF 800

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、「マシンナーズ・スナイパー」以外の「マシンナーズ」と名のついたモンスターを攻撃する事ができない。

「機械デッキか。俺のターン！宝玉獣トパーズ・タイガーを召喚！さらにフィールド魔法虹の古代都市・レインボー・ルイン！」

フィールドが古い巨大な都市になった。

宝玉獣 トパーズ・タイガー

効果モンスター

星4 / ATK1600 / DF1000

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。

このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永續魔法カード扱いとして自分の魔法＆罠カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

虹の古代都市・レインボー・ルイン

フィールド魔法

自分の魔法＆罠カードゾーンに存在する「宝玉獣」と名のついたカードの数により以下の効果を得る。

1枚以上：このカードはカードの効果によっては破壊されない。

2枚以上：1ターンに1度だけプレイヤーが受ける戦闘ダメージを半分にすることができる。

3枚以上：自分フィールド上の「宝玉獣」と名のついたモンスター1体を墓地へ送る事で、魔法・罠カードの発動を無効にし破壊する。

4枚以上：1ターンに1度だけ自分のメインフェイズ時に自分のデッキからカードを1枚ドローすることができる。

5枚：1ターンに1度だけ自分のメインフェイズ時に魔法＆罠カードゾーンに存在する「宝玉獣」と名のついたカード1枚を特殊召喚することができる。

「トパーズ・タイガーでマシンナーズ・スナイパーを攻撃！」

「畏発動！炸裂装甲！トパーズ・タイガーを破壊！」

「だが、宝玉獣は破壊されても墓地へはいかず、魔法・畏ゾーンに置く。ターンエンド」

破壊されたトパーズ・タイガーがトパーズの原石となりヨハンの場にとどまった。

「その女に負けたとはいえ、俺は仮にも番人だったんだぜ。そう簡単に攻撃されるわけないだろ」

「私には瞬殺されたけどね」

「お前は黙れ！！」

再び番人コンビのコントが

「・・・まあいい。俺のターン！速攻魔法手札断殺」

手札断殺

速攻魔法

お互いのプレイヤーは手札を2枚墓地へ送り、デッキからカードを2枚ドロースする。

「さらに畏発動。リビングデッドの呼び声。これにより、墓地からマシンナーズ・ディフェンダーを特殊召喚。んでもって、督戦官コヴィントンを守備表示で通常召喚」

督戦官コヴィントン

効果モンスター

星4 / ATK1000 / DF 600

自分フィールド上に表側表示で存在する「マシンナーズ・ソルジャー」「マシンナーズ・スナイパー」「マシンナーズ・ディフェンダー」をそれぞれ1体ずつ墓地へ送る事で、

手札またはデッキから「マシンナーズ・フォース」1体を特殊召喚する。

マシンナーズ・ディフェンダー

効果モンスター

星4 / ATK1200 / DF1800

リバーズ：自分のデッキから「督戦官コヴィントン」1体を自分の手札に加える。

「マシンナーズ・ソルジャー、マシンナーズ・スナイパー、マシンナーズ・ディフェンダー」を墓地に送り、マシンナーズ・フォースを特殊召喚！！」

マシンナーズ・フォース

効果モンスター

星10 / ATK4600 / DF4100

このカードは通常召喚する事ができない。

「督戦官コヴィントン」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードは、1000ライフポイント払わなければ攻撃宣言をする事ができない。フィールド上に存在するこのカードを墓地へ送る事で、自分の墓地から「マシンナーズ・ソルジャー」「マシンナーズ・スナイパー」「マシンナーズ・ディフェンダー」をそれぞれ1体ずつ選択して特殊召喚する。

「さらあああああに！手札のマシナーズ・フォース2枚目を生贄にマシナーズ・フォートレスをしょおおおおおおうかあああん！！！」

マシナーズ・フォートレス

効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DEF 1600

このカードは手札の機械族モンスターをレベルの合計が8以上になるように捨てて、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

また、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手の効果モンスターの効果の対象になった時、相手の手札を確認して1枚捨てる。

「バトル！！マシナーズ・フォートレスでエメラルド・タートルを攻撃！さらにライフを1000払い、マシナーズ・フォースでダイレクトアタック！！マシナツクル！」

洋介LP 4000 3000

「罨発動！宝玉の双壁！ルビーを魔法・罨ゾーンに置き、このターンのダメージを0にする！」

宝玉の双壁

通常罨

自分フィールド上に存在する「宝玉獣」と名のついたモンスターが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。

デッキから「宝玉獣」と名のついたモンスター1体を永續魔法力

ード扱いとして自分の魔法&罾カードゾーンに表側表示で置く。
このターン、自分が受ける戦闘ダメージは0になる。

「生き延びたか。俺は装備魔法ミスと・ボディをコヴィントンに
装備。カードを1枚伏せてターンエンド」

コイツ強い・・・けど、スツゲー楽しい。

「俺のターン！宝玉獣 サファイア・ペガサスを召喚！その効果
により、アンバー・マンモスを魔法・罾ゾーンに置く！」

宝玉獣 サファイア・ペガサス

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、自分の手
札・デッキ・墓地から「宝玉獣」と名のついたモンスター1体を永
続魔法カード扱いとして自分の魔法&罾カードゾーンに表側表示で
置く事ができる。

このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地
へ送らずに永続魔法カード扱いとして自分の魔法&罾カードゾーン
に表側表示で置く事ができる

「これで準備は整った。頼むぜみんな！手札から究極宝玉神レイ
ンボー・ドラゴンを特殊召喚！」

場と墓地の宝玉の光が集まり、七色に光る龍、レインボー・ドラ
ゴンが姿を現した。

究極宝玉神レインボー・ドラゴン

効果モンスター

このカードは通常召喚できない。

自分のフィールド上及び墓地に「宝玉獣」と名のついたカードが合計7種類存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。

このカードは特殊召喚されたターンには以下の効果を発動できない。

自分フィールド上の「宝玉獣」と名のついたモンスターを全て墓地に送る。墓地へ送ったカード1枚につき、このカードの攻撃力は1000ポイントアップする。

この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

自分の墓地に存在する「宝玉獣」と名のついたモンスターを全てゲームから除外する事で、フィールド上に存在するカードを全て持ち主のデッキに戻す。

「・・・あれえ？けど場にある宝玉は5枚のはずじゃ・・・」

「お前のおかげさ。手札断殺のとき、残りの2枚を墓地に送ることができた！いけ！レインボードラゴン！」

「畏発動！攻撃の無力化！バトルフェイズ強制終了！」

「俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ」

「俺のターンー!!」

(さつきから思ったけど、あのヨハンって奴、デッキにカード破壊が入ってないのか・・・なら話は簡単だ)

「魔法カード治療の神ディアンケト！ライフを1000回復し、その1000ポイントのライフを払い、マシンナーズ・フォースで

レインボー・ドラゴンを攻撃！マシン・ナックル！」

「この瞬間レインボー・ドラゴンの効果発動！フィールドに存在する宝玉獣を全て墓地に送り、1体につき1000ポイント攻撃力をアップする！俺の場の宝玉獣は合計で5体。よって攻撃力5000ポイントアップ！！！」

究極宝玉神レインボー・ドラゴン ATK4000 9000

「……マジ？」

「迎え撃て、レインボー・ドラゴン！オーバー・ザ・レインボー！」

「ちくしょ返り討ちかあああああああああああああああ！！！！」

洋介LP30000

「よしやあ！！楽しいデュエルだったぜ！」

十代Side

先攻 十代

「俺の先攻！ドロー！E・HERO フォレストマンを召喚！」

E・HERO エレメンタルヒーロー フォレストマン

効果モンスター

星4 / ATK1000 / DF2000

1ターンに1度だけ自分のスタンバイフェイズ時に発動する事ができる。

自分のデッキまたは墓地に存在する「融合」魔法カード1枚を手札に加える。

「フォレストマンの効果により融合を手札に加え発動！場のフォレストマンと手札のオーシャンを融合！来い！E・HERO ジ・アース！！」

E・HERO ジ・アース

融合・効果モンスター

星8 / ATK2500 / DF2000

「E・HERO オーシャン」+「E・HERO フォレストマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

自分フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO」と名のついたモンスター1体を生け贄に捧げる事で、このターンのエンドフェイズ時までこのカードの攻撃力は生け贄に捧げたモンスターの攻撃力分だけアップする。

「カードを1枚セットしてターンエンド」

「さつそくお得意の融合ね。私のターン。速攻魔法スケープ・ゴート。さらに本気ギレパンダを召喚。さらにトークン収穫祭でライフ回復兼パンダの攻撃力アップ」

本気ギレパンダ

効果モンスター

星4 / ATK 1000 / DF800

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、フィールド上の獣族モンスターが破壊される度にこのカードの攻撃力は500ポイントアップする。

トークン収穫祭

通常魔法

フィールド上のトークンを全て破壊する。

破壊したトークンの数×800ライフポイントを回復する。

蘭LP4000 7200

パンダATK10000 1500

「畏発動！アース・グラビティ！本気ギレパンダはジ・アースと強制戦闘だ！」

パンダが吸い込まれるようにジ・アースに接近し爆発した。

蘭LP7200 6200

「きゃあ！こんにやる。カードを1枚セットしてターンエンド！」

「俺のターン！ジ・アースでダイレクトアタック！」

蘭LP6200 2700

「……いい気になりやがって……畏発動！ダメージ・バック・サモン！」

ダメージ・バック・サモン（オリジナル）

罨

1000ポイント以上のダメージを受けたとき発動できる。
受けたダメージと同じ攻撃力のモンスターをデッキまたは手札から特殊召喚する。

「お前から受けたダメージと同じ攻撃力2500のデーモンの召喚を特殊召喚！」

「俺はこれでターンエンドだ」

「私のターン。ドロー！手札からフィールド魔法始皇帝の陵墓発動！」

皇帝の陵墓

フィールド魔法

お互いのプレイヤーは、生け贄召喚に必要なモンスターの数×1000ライフポイントを払う事で、生け贄モンスター無しでそのモンスターを通常召喚する事ができる。

「ライフを2000払い、ダークチューナー・デモンエイブを召喚！！」

蘭LP2700 700

ダークチューナー

D・デモン・エイブ（オリジナル）

星9 / ATK 0 / DEF 0

このカードがシンクロ素材になった場合、他のシンクロ素材モンスターは手札のモンスター1体でなければならない。

このカードがシンクロに使用された場合、自分フィールドのモンスター1体をリリースし、その攻撃力分ライフを回復する。

「手札のレベル1金華猫にレベル9のデモン・エイプをダークチ
ユーンング！人の心の七罪よ、今煉獄の杭を破り現れる！我、憤怒
の支配者なり！！ダークシンクロ！！憤怒 ラース・サタン！！」

憤怒 ラース・サタン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK3000 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカード以外の自分フィールドのモンスターが場を離れたとき、
そのモンスターの元々の攻撃力分このカードの攻撃力をアップする。
このカードがフィールドを離れたとき、他のカードを全て破壊す
る。

「さらにデモン・エイプの効果でデーモンの召喚を破壊し、ライ
フを回復。ラース・サタンの攻撃力も上昇」

蘭 LP700 3200

憤怒 ラース・サタン ATK3000 5500

「ラース・サタンでジ・アースを攻撃！！デモニック・バン！！」

「ああああああああああ！！！！」

十代 LP4000 1000

「・・・暴発動！ヒーロー・シグナル！デッキからE・HERO
バブルマンを特殊召喚！その効果により、カードを2枚引く！」

E・HERO バブルマン

効果モンスター

星4 / ATK 800 / DF 1200

手札がこのカード1枚だけの場合、このカードを手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時に自分のフィールド上と手札に他のカードが無い場合、デッキからカードを2枚ドローする事ができる。

「私はこれでターンエンド。分かったかしら？これが番人である私の力。憤怒の力。壊されれば壊されるほど私の力は増すのよ！！」

「いや、さっきの攻撃効いたぜ！本当に衝撃がくるんだもんないけど楽しくてしょうがねえ！！」

・・・話がかみ合っていない。

「いくぜ。俺のターン！魔法カードミラクル・フージョン！墓地のフォレストマンと場のバブルマンを融合！！E・HERO アブソルトZeroを召喚！！」

E・HERO アブソルトZero

融合・効果モンスター

星8 / ATK 2500 / DF 2000

「HERO」と名のついたモンスター＋水属性モンスター

このカードは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在する「E・HERO アブソルトZero」以外の水属性モンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「さらに魔法カードフェイク・ヒーロー！E・HEROネオスを召喚！！」

十代のフィールドに最強のエース、ネオスが出現した。

「はっ。今更そんな雑魚出したって意味ないのよ」

「俺のデッキに、雑魚なんていない！見せてやるぜ新たなヒーローを！融合発動！ネオスとアブソルトZeroを融合！！来い！新たなヒーロー、E・HERO Zeroネオス！！」

アブソルトZeroの装甲とマントをまとったネオスが十代の場に現れた。

E・HERO Zeroネオス（オリジナル）
星8 / ATK3500 / DF3000

「E・HERO ネオス」+「E・HERO アブソルトZero」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードの攻撃力は、フィールド上に表側表示で存在するこのカード以外のモンスターの数×500ポイントアップする。

このカードがフィールド上から離れた時、相手フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

「畏発動！バトルマニア！これでアンタのモンスターの強制戦闘が決定！！私の勝ちよ！！！！」

「そいつはどうか？速攻魔法バトルフュージョン！！これでZeroネオスの攻撃力はラース・サタンの攻撃力分アップする！！」

バトルフュージョン

速攻魔法

戦闘を行う相手モンスターの攻撃力分、自分の戦闘を行うモンスターの攻撃力をアップする。

Zeroネオス ATK3500 9000

「そんな・・・私は、憤怒の塔の番人、負けるはずが・・・」

「いけ！Zeroネオス！ラーズ・サタンを攻撃！！アブソルト・ネオスファイア！！」

Zeroネオスの一撃が巨大な悪魔を砕いた。

「ああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！」

蘭LP3200 0

「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ！さあ鍵を渡してもらおうか」

「負けた・・・私が・・・ダメ、勝てなきゃ・・・意味がない！！！！」

デュエルが終わった途端、長和蘭がブツブツ呟き始めた。

「ええいいわ。こんな鍵あげるわよ・・・でも、あんた達はここから先には行かせない！！！！」

蘭が十代に鍵を投げたのと同時に後方の崖、唯一の帰り道が閉ざされた。

「なに!?!」

「・・・さあ、こつから先は好きにすればいいわ。けどあんた達2人は、ここでゲームオーバーよ」

十代は憤怒の塔に入り鍵を入れ、塔の外に出た。

「十代、これからどうする?」

「・・・あとはみんなに任せるしかないみたいだな。とりあえずあの瓦礫の山を何とかしようぜ」

「おう!」

PM 7時9分20秒

憤怒の塔 突破及び十代・ヨハンリタイア

t u r n 1 1 : v s 憤怒の塔！ダブルデュエル！（後書き）

気付いたら後半戦に入ってるに気付いた雪無サンタです。
次回はちよつとした休憩的な話にしようかなと思います。

佐助が中々でないのは・・・まあアレです（笑）。

読んでくださってありがとうございます。

カードのリクエスト、募集中です。

t u r n 1 2 : 休憩地での新たな動き(前書き)

タイトルあつてないような気が・・・

turn 12：休憩地での新たな動き

暴食の塔での戦いから数分後。俺は念のため戦った少女を保健室に送ってからレッド寮に戻った。

俺の部屋に入ってみると既に勝負がついていた両儀兄弟が部屋の真ん中に座っていた。

「あつ。嵐くんおかえり」

「やっと勝負がついたのか。時間かかりすぎだぞ」

「しょうがねえだろ。番人だった奴を保健室まで送ったんだから」

「ま、勝ったなら文句は無えがな。にしてもあのヤロウ。次に会ったら・・・」

「・・・・・・・・」

影月はなにかあったのだろうか？

と、3人で会話をしていると今度は後ろに一人の少年を引き連れた鳥が入ってきた。

「おつかれ鳥。あと、久しぶりだな、カケル」

「本当に久しぶりだね嵐。元気そうだなによりだよ」

鳥の後ろにいるのは俺と鳥の友人、遠藤カケル。

俺たちより1つ年下で、本当ならデュエルアカデミアにいないはずの奴だ。

「ついでに補足情報。なんか、夕夜もこの島に来てるらしいぜ」

「夕夜も！？念のために聞くがそいつって・・・あかつきゆうせ暁夕夜？」

「イエス」

なんてこった。

「嵐くん、さっきから言ってる夕夜って誰？」

ちよつとシヨックを受けている俺に祭りが聞いてきた。

「夕夜つてのはここに来る前、俺たちがつるんでた友達だ。デュエルの腕は俺たちの中じゃ最強。俺たち3人が束になっても勝てるかどうか分からないほどの実力者」

「？そんなに強いなら何で3人も難しい顔してるの？そんな人が仲間になつてくれれば心強いじゃない」

「状況が状況だからな」

祭の問に烏が答えた。

「カケルが番人にされてたくらいだ。夕夜も番人になってると考えた方がいい」

「だな。だとすると、夕夜は強欲、傲慢、憤怒のどれかにいる」

「憤怒はたぶん違うぞ。十代から憤怒の塔の番人は倒したって連

絡が来た」

「じゃあ傲慢か強欲・・・そついやまだ佐助が戻ってないな」

そついや・・・よし

「烏、カケル。強欲の塔に行くぞ！」

「おう！」「僕も！？」

「じゃあ私も」

「ダメだ！！祭は俺と来い！！嵐！俺たちは傲慢の塔に向かうぞいいいな！？」

「え？別にいいけど」

「よし！いくぞ祭！兄弟の力見せてやる　　！！」

「ちょ、お兄ちゃん待つてえ　　」

雄たけびとも悲鳴ともとれる声を出しながら両儀兄妹は言ってしまった。

「んじゃ、俺たちも行くか」

「でも嵐、どうしてそつちを選んだの？もしかしたらあの人がちが行った方に夕夜がいるかも」

「甘いなカケル。夕夜の性格を考えてみるよ。待てると思うか？」

先攻 カケル

「僕のターン！D（ディフォー・マー）・モバホン
を攻撃表示で召喚！」

D（ディフォー・マー）・モバホン

効果モンスター

星1 / ATK 1000 / DF 1000

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードをめくる。

その中にレベル4以下の「D」と名のついたモンスターが存在する
場合、1体を召喚条件を無視して特殊召喚する。

それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

守備表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードを確認して元
に戻す。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「モバホンの効果！出た目の分カードをめくってその中にレベル
4以下のディフォー・マーがいた時、特殊召喚する！ダイヤル・オン
！」

掛け声と同時にモバホンの胸の数字が光り始めた。

「ダイヤルの数字は3。3枚確認する。D・チャッカンを守備表
示で特殊召喚！！チャッカンの効果で300のダメージを与える！」

D・チャッカン

効果モンスター

星3 / ATK1200 / DF 600

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：自分フィールド上に存在するモンスター1体をリリ
ーする事で相手ライフに600ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

守備表示：1ターンに1度、相手ライフに300ポイントダメージを与える事ができる。

「つく！」

ブルーLP4000 3700

「ターンエンドです」

「俺のターン。キャノン・ソルジャーを召喚。モバホンを攻撃」

キャノン・ソルジャー

効果モンスター

星4 / ATK1400 / DF1300

自分のフィールド上に存在するモンスター1体を生け贄に捧げる
度に、相手ライフポイントに500ポイントダメージを与える。

「うわ！」

カケルLP4000 2700

「カードを2枚伏せてターンエンド」

（さあ攻撃して来い。今伏せたのは炸裂装甲、聖なるバリアミラ

「フオース、そして手札には攻撃力2400のライトニングギア桜花。これで俺の勝利は確定だ」

「おいカケル。急いでるからこのターンで終わらせろ」

「分かったよ」

なに？

「僕のターン。魔法カードジャンクBOX！モバホンを墓地から召喚！」

ジャンクBOX

通常魔法

自分の墓地に存在するレベル4以下の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される。

「さらにスコープンを召喚！レベル1のモバホンとレベル3のチャッカンにレベル3のスコープンをチューニング！世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛と正義の使者、パワー・ツール・ドラゴン！」

D・スコープン

チューナー（効果モンスター）

星3 / 光属性 / 機械族 / 攻 800 / 守 1400

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、手札からレベル4の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードのレベルは4になる。

パワー・ツール・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2300 / DF 2500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動することができる。自分のデッキから装備魔法カードを3枚選択し、相手はその中からランダムに1枚選択する。

相手が選択したカード1枚を自分の手札に加え、残りのカードをデッキに戻してシャッフルする。

また、装備魔法カードを装備したこのカードが破壊される場合、代わりにこのカードに装備された装備魔法カード1枚を墓地へ送る事ができる。

「魔法カード大嵐！これで場の魔法・罫は全て破壊される！」

「なに！？」

「よっしゃ！いけ！カケル！！」

「パワー・ツールの効果でデッキから装備魔法を手札に加える。装備魔法巨大化を装備！パワー・ツールの攻撃力は2倍になる！」

パワー・ツール・ドラゴン ATK 2300 4600

「だからといってこのターンで俺のライフを0にする事はできな

い！」

「いいえ。できるんですよ。さらに装備魔法流星の弓シールをキヤノン・ソルジャーに装備！攻撃力10000ポイントダウン！」

キヤノン・ソルジャー ATK1400 400

「パワー・ツール・ドラゴンでキヤノン・ソルジャーを攻撃！クラフティ・ブレイク！」

ブルーLP3700 0

「よし勝負ついたな。行くぞ！」

「あ！待ってよ2人とも！」

そう言って鳥は嵐を引きずりながら目的地へ歩き出していた。

番外編・新年特別短編？

嵐「あけましておめでとございます！」

烏「今年も遊戯王スパイラルをよろしく願います！」

佐「というわけで今回は新年特別番外編じゃ！」

祭「ちなみに決闘は一切ありません！」

嵐「……とか言って始めたものの、いったい何すりゃいいんだ？」

烏「さあ？つかなんで俺達こんなことしてんだ？本編は今まさに戦いの最中じゃん」

祭「なんか他の人が新年番外編やってるの作者が見て、ヤバ！って思ったらしいよ」

佐「……存外気の小さい作者じゃのう」

嵐「とりあえず、今後の予告でもしとこつぜ」

烏「やるか」

～予告～

嵐「ついに俺たちの戦いも終盤戦に突入！」

烏「強欲の塔で待ち受けるのは古き友、夕夜なのか!？」

祭「私達はこの戦いの黒幕に勝てるのか!？」

嵐「佐助の敵は討てるのか!？」

佐「わしはやられたのか!!？」

嵐「次回、遊戯王スパイラル。vs強欲の塔!乞うご期待!！」

〈予告後〉

祭「まだ文字数足りないので雑談のコーナー」

嵐「突然だけど、最近佐助は女なんじゃって思うことがあるんだ
が」

烏「奇遇だな。俺もだ」

佐「何故じゃ!？」

嵐「しょうがないじゃん。元々佐助のモデルが女なんだし」

佐「わしのモデルは男じゃ!！」

烏「作者だって、佐助はそういう方向に進めるって言ってたぞ」

佐「作者よ!目を覚ませ!わしは男じゃ」

番外編・新年特別短編？（後書き）

ボロボロの文でスミマセンでした・・・
今年もよろしくお願ひします。

t u r n 1 4 : v s 強欲の塔！死神、再臨！！（前書き）

この小説のアクセス数が2万を超えました！本当にありがとうございます！！
います！これからも応援よろしくお願いします！！！！

turn 14 : vs 強欲の塔！死神、再臨！！

俺たちがレッド寮を出た直後、強欲の塔の方角で大きな爆発が起きた。

その時はまだ知らなかった。

強欲の塔で起こった戦いの事を、その時点で、一人しか立っていなかったことを。

「2人とも、今の爆発って僕らが向かってる方だよ！」

強欲の塔に向かう俺たちは巨大な爆発を目にし焦った。

「佐助！おい佐助！ ダメだでない！」

「2人とも急ぐぞ！！！」

D・ホイールがあればもう少し早く行けたかもしれないが今の俺たちは走っていくしかない。俺たちは懸命に走った。さっきの爆音が敗北を意味するものでないことを祈って。

結局、俺たちが強欲の塔に着いたのは爆発から10分以上が過ぎた頃だった。

「佐助！いるなら返事しろ！佐助 ……！！！」

「佐助 ……！！！」

「佐助さ ……ん！！！」

それでも俺たちは大声で佐助を探しながら塔へと近付いてつた。
すると

「わしならこじじゃ」

強欲の塔に隣接する木の影から出てきたのはいつもと同じ優しい
笑顔をした佐助だった。

「無事だったのか佐助！心配させやがってコノヤロー！！」

「まったくだぜ。あ、紹介するよ。俺たちの旧友で遠藤カケルだ」

「よろしく佐助さん」

「うむ。よろしく頼むぞ、カケル」

そう言っただけカケルに対しても笑顔で対応した。そして軽く冷静に
なったとき、佐助の不審な点に気付いた。

「あれ？佐助、お前ってそんな黒い制服持ってたっけ？」

佐助が着ていたのはいつものイエロー生徒用の制服ではなく、例
えるなら万丈目先輩バリの黒い制服だった。

「……あと俺からも訊くが、お前が出てきた木の影に見えるの。
あれって人、だよな……」

「……」

佐助の顔から笑顔が消え、無表情になった。

「佐助、お前強欲の塔の番人と戦ったんだよな？それで、塔にも鍵したんだよな？」

「……そこにおる者は番人だった者じゃ。鍵は……。まだしておらぬ」

「どうして!?!」

そう訊いたとき、佐助の顔には再び笑顔が戻っていた。しかし、それはいつもの優しい笑顔ではなかった。おぞましい、邪悪な笑顔。

「番人が自ら封印をするわけにはいかんからのう」

「……は?」

「言っただじやろう。そこにおる者は番人だった者じゃと、つまり今は番人ではない。今の番人はわしじゃ!!!」

一瞬、言葉を失った。佐助が？番人？

「我は強欲の塔が番人藤山佐助!!!我が命を全うすべく、嵐、貴様に決闘を申し込む!!!」

その瞬間、俺たちの周りを紫炎の炎が走り、俺のデュエルディスクが作動した。

「どうしてもやらなきゃいけないのか?……佐助」

「当然じゃ」

「・・・やってやるよ。勝つてお前の目を覚ましてやるよ!」

「デュエル!」

嵐LP4000

佐助LP4000

先攻 嵐

「俺のターン! マックス・ウォリアーを攻撃表示で召喚! カードを2枚伏せてターンエンド!」

マックス・ウォリアー

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF 800

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、次の自分のスタンバイフェイズ時までこのカードのレベルは2になり、元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「烏、嵐ならきつと勝つよね?」

僕も嵐の実力は知っているけど、ここに着てからの事は分からない。そう思った僕はここに来てからの嵐の事を知っている烏に訊いた。勝利の可能性は有るかどうか。

「・・・どうだかな」

「え？」

「俺たちはずっと3人でつるんでた。暇な時はデュエルやったりしてたし、デッキの構成も相談してた。だから互いのデッキの事は3人とも知ってる。けど今の佐助のデッキは何が入ってるか分からない。どっちが不利かって言ったら・・・間違いなく嵐だ」

「そんな・・・」

そんな2人のデュエルを、僕はただ見守るしかできなかった。

「わしのターン！死神銃士ドレイクを召喚！」

死神銃士ドレイク（オリジナル）

効果モンスター

星3 / ATK800 / DF1500

このカードの召喚に成功したとき、相手に800ポイントのダメージを与える。

「ドレイクの効果により、嵐に800のダメージ！デス・シヨット！」

「ぐがっ!？」

嵐LP4000 3200

「さらに永続魔法繋がりの激痛発動」

繋がりの激痛（オリジナル）

永続魔法

プレイヤーがダメージを受けたとき、相手プレイヤーに同じ数値分のダメージを与える。手札が0の場合このカードを破壊する。

「バトルじゃ！ドレイクでマックス・ウォーリアを攻撃！！」

「つく、迎え撃て！マックス・ウォーリア！！」

ドレイクが放った弾丸は弾かれ自らの心臓を貫いた。

「永続魔法繋がりの激痛の効果によりダメージは互いのプレイヤーが受ける！」

「ああああああああ！！！！」

嵐LP3200 2500

佐助LP4000 3300

「……わしはカードを2枚伏せてターンエンドじゃ」

「……俺のターン！（あの永続魔法が厄介だな。ここはあいつの破壊に徹する！）速攻魔法サイクロン！繋がりの激痛をはか」

「マジックドレイク発動！サイクロンを無効にし破壊」

巨大な竜巻がカードに当たる前に消え去った。

「何！？」「ふふふ。嵐よ、もうちょっと策を練らねばのう。読まれては意味が無いわ」

やっば、読まれてたか。

「……なら直接攻撃すりゃいいだけの事か。バブル・ナイトを召喚！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロースするドロースしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「んじゃ恒例行事いくぜ！バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロース！ドロースカードはいつもの様にスピード・ウォーリア！よって場に特殊召喚！」

スピードウォーリア

星2 / ATK 900 / DF 400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「畏発動。昇天の黒角笛」

「スピード・ウォーリアああああ！！」

ダメか！？この手もダメなのか！？

「……お主の手は分かりすぎじゃ」

「つく。なら、俺は魔法カード降格処分を発動！バブル・ナイト

のレベルを1に下げる。レベル4のマックス・ウォーリアに、レベル1となったバブル・ナイトをチューニング！水の力を秘めた戦士よ！今ここに目覚めろ！シンクロ召喚！水の騎士バブル・ブレイド！」「」

バブル・ブレイド（オリジナル）

レベル5 / ATK 2300 / DF 2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

バブル・ブレイドをだしたはいいが、佐助の場には繋がり激痛がある。攻撃しようものならその時点で引き分けた。

「カードを2枚伏せる。これで俺はターンエンドだ」

「わしのターン。どうした嵐よ。そんなんでは勝てぬぞ」

「うるさい！んなことは分かってんだよ！！」

「そうか。わしは死神魔鏡リービを特殊召喚！」

死神魔鏡リービ（オリジナル）

チューナー

レベル1 / ATK 0 / DF 0

相手の場のみモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚できる。

1ターンに1度、このカードのレベルを他のモンスターのレベルと同じレベルにすることができる。

「リービの効果により、レベルを5に上げる。さらに死神鳥ボルンを通常召喚！」

死神鳥ボルン（オリジナル）

レベル3 / ATK1100 / DF500

効果モンスター

このカードがシンクロモンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分はデッキからカードを1枚ドローする。

「レベル3の死神鳥ボルンにレベル5の死神魔鏡リービをチューニング！冥界の扉を守りし黒き獣よ。呪縛の鎖を破り現れよ！シンクロ召喚！！いでよ死神魔獣オルトロス！！」

死神魔獣オルトロス（オリジナル）

レベル8 / ATK3000 / DF2900

『死神』と名のつくチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは1ターンに2回攻撃することができる。

このカードがレベル4以下のモンスターと戦闘を行った場合、ダメージステップ終了時にそのモンスターを破壊する。

自分フィールド上に「死神獣ケルベロス」が存在する場合、このカードは戦闘によって破壊されない。

「死神鳥ボルンの効果によりカードを1枚引く。バトル！オルトロスでバブル・ブレイドを攻撃！！」

「畏発動！攻撃の無力化！バトルフェイズを終了する！」

「なかなかじゃの。ターンエンド！」

「俺のターン。ダークネス・ナイトを召喚！」

ダークネス・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 1000 / DF 1300

このカードがシンクロに使用されたとき、デッキからカードを1枚引く。

「レベル5のバブルブレイドにレベル3のダークネス・ナイトをチューニング！黒き闇から現われし我がデッキ最強の戦士よ、今ここに君臨せよ！！シンクロ召喚！！来い！ダークネス・ブレイド！！」

ダークネス・ブレイド（オリジナル）

星8 / ATK 3000 / DF 2800

「ダークレス・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「でた！嵐の最強カード！」 「行け！嵐！！」

「ダークネス・ナイトの効果によりカードを1枚ドロウ！永続罨リビングデッドの呼び声！バブルブレイドを復活！さらに魔法カード死者の選択発動！」

死者の選択（オリジナル）

魔法

・自分の墓地に存在するモンスターカードが相手より少ないとき、自分の手札を1枚墓地に送る。

相手はデッキからカードを2枚ひく。

・自分の墓地に存在するモンスターカードが相手より多いとき、デッキからカードを2枚引く。
相手は手札を全て墓地に送る。

「死者の選択は互いの墓地のモンスターカードの数で効果が決まる！俺の墓地に存在するモンスターは4体！佐助の墓地に3体！よって俺はカードを2枚引く！そして！佐助は手札を全て墓地へ送る！！」

「つく！繋がりへの激痛の効果により、このカードを破壊する」

佐助を守るもつとも厄介な盾が砕かれた。

「これでとどめだ！！ダークネス・ブレイドで死神魔獣オルトロスを攻撃！ダークネスエンドブレイク！！」

「手札から墓地へ送った死神幻影ファントムをゲームから除外し、オルトロスの破壊を無効にする！」

激突した2体のうち黒い戦士だけが吹き飛んだ。

死神幻影ファントム（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK 800 / DF 1600

戦闘ダメージ計算時、自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスターはその戦闘では破壊されない。

「やはりお主と戦うのはおもしろいぞ！！嵐よ！もつとだ！もつ

とわしを楽しませろ！！」

「……なあ、下手な芝居はもうやめにしてくれないか？佐助の姿でそう言う事言われるの気持ち悪いんだよ」

「？なにをいうておる。わしはこの塔の番人、藤山さす」

「だからやめろって言うてんだろ！もうとつくにばれてんだよ！」

俺が怒号を上げたとき、佐助の表情が今までみたことの無い物に変わった。

「……へえ。気付いてたんだ。ばれないと思ってたんだけどねえ。いつから気付いてたの」

「怪しいと思ってたのは最初からだ。確証がついたのはさっきお前の喋り方を聞いてた。佐助なら「もつとだ」「じゃなくて」「もつとじゃ」「って言うはずだ」

「なるほど」

「おい嵐、どう言う事だよ？コイツが佐助じゃない？」

「いーや。この体は真正銘お前らの知っている佐助ってガキだ。ただし中身は違う。今こいつを支配しているのは大いなる闇、強欲そのものだ。このガキはそこでのびてる雑魚を倒したあと迷うことなく強欲のカードを手に取った。こいつは欲しくてたまらなかつたんだよ！闇の力がな！！だからくれてやったんだよこいつの体と引き換えに！！！」

「……」

そう言う事か。相違や佐助の奴、俺にスターダストをくれたとき、
小声で言ってたな。

『わしはそのカードよりダークシンクロというものに興味がある
つて。』

「だったら尚更お前を倒す！そして必ず佐助を取り戻す！！俺は
カードを2枚伏せてターンエンド！！」

「はっ！言うわりにそれだけかよ！俺のターン！死神幻影ミラー
ジユを召喚！」

死神幻影ミラージユ（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK 0 / DEF 0

自分フィールド上のこのカードをリリースすることで墓地から「
死神」と名のつくモンスターを2体特殊召喚できる。

「ミラージユをリリースして墓地から死神魔境リービ、死神鳥ボ
ルンを特殊召喚！」

佐助、いや強欲の場に2体のモンスターが蘇った。

「レベル3死神鳥ボルンにレベル3となった死神魔境リービをチ
ューニング！冥府の扉を守る獣。俺様の前に姿を現せ！シンクロ召
喚！！死神獣ケルベロス！！」

死神獣ケルベロス

レベル6 / ATK 2500 / DF 1500

『死神』と名のつくチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを破壊したときもう一度攻撃することができる。

「ボルンの効果で俺は1枚ドロ。んでもって死ねえ!! オルトロスでバブル・ブレイドを攻撃い!!」

オルトロスの牙がバブル・ブレイドに向かっていく。

「嵐!!」

「畏カード聖なるバリア ミラーフォース 発動! お前の場の攻撃表示モンスターを全て破壊する!!」

「なに!!?」

突如現れた光の壁により強欲の攻撃は全て跳ね返った。

「へへ・・・これで形勢逆転だ」

「・・・上等だあ見いせてやるよ。本当の絶望を!! 手札から魔法カードダーク・サモン発動!!」

ダーク・サモン（オリジナル）

魔法

手札が0のとき発動可能。

デッキからダークチューナー1体を選択し、特殊召喚する。

「その効果によりデッキからダークチューナー、ナイトメア・グ
リードを召喚！！」

ダークチューナー

Dナイトメア・グリード（オリジナル）

星9 / 闇属性 / ATK0 / DF0

このカードの召喚に成功したとき、墓地から闇属性モンスターを
1体特殊召喚する事ができる。

「俺はミラージユを特殊召喚してダークチューニング！人の心の
七罪よ、今煉獄の杭を破り現れる！我、強欲の支配者なり！！ダ
クシンクロ！強欲 グリード・マモン！！！！」

強欲 グリード・マモン（オリジナル）

レベルマイナス8 / 闇属性 / ATK3600 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

1ターンに1度相手フィールドのモンスター1体のコントロール
を得る。エンドフェイズ時、そのモンスターのコントロールを戻す。
手札を1枚墓地へ送り相手フィールド上の魔法・罨ゾーンのカー
ドを全て破壊する。

このカードは相手プレイヤーを直接攻撃することができる。

このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの
元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

このカードの召喚に成功したとき、墓地に存在するダークチュー
ナーと名のつくモンスター1体の効果を得る。

このカードが召喚されたターン、このカードはダークチューナー
以外の効果を使用できない。

「邪悪な闇を纏った悪魔が佐助の場に現れた。」

「きははは。コイツこそが俺の最強モンスター！！グリードの効果により、バブル・ブレイドのコントロールを得る！！と言いたいところだが、こいつは償還されたターンその効果は使えねえ。だが、墓地のナイトメア・グリードの効果を選択してその効果を発動！！墓地から死神幻影ミラー・ジユを召喚しリリース！死神獣ケルベロスと死神魔獣オルトロスを復活！！」

佐助の場に、最悪の状況が完成した。

「つく、永続罨スピリット・シールド発動！！」

スピリット・シールド（オリジナル）

永続罨

墓地のモンスターをゲームから除外することでバトルでのモンスターの破壊を1度だけ無効にする。

「んなもん関係ないねえ！！バトル！！ケルベロス、オルトロス、グリードでバブル・ブレイドを攻撃い！！！！」

「墓地のスピードウォーリア、バブル・ナイト、マックス・ウォーリア、ダークネス・ナイトを除外して、スピリット・シールドの効果発動！！」

魂の盾により4度の攻撃からバブル・ブレイドは守られた。

「だがダメージは受けてもらっせえ！！」

「がああああああああああああ！！！！」

嵐LP3200 100

「つち！ギリギリのところで耐えたか。ターンエンド！！」

「・・・俺の、ターン！！魔法カード異次元の宝札！ゲームから除外されたモンスターを全て墓地へ送りカードを2枚ドロ！魔法カード戦士の生還！」

戦士の生還

通常魔法

自分の墓地に存在する戦士族モンスター1体を選択して手札に加える。

「墓地からダークネス・ナイトを手札に戻し召喚！レベル5のバブル・ブレイドにレベル3のダークネス・ナイトをチューニング！友との絆が、新たに輝く星となる！シンクロ召喚！飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン！！」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「ふん。今更こいつの捨てたカードか」

「佐助は捨ててなんかいない！こいつを、スターダストを俺に託してくれたんだ！ダークネス・ナイトの効果でカードを1枚引く！カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

「……結局何もできずか。がっかりだよ。スターダストのコントロールを奪いダイレクトアタック」

やる気無さげに強欲は言った。

「攻撃の無力化！」

しかし俺はまだ粘る！

「……ターンエンド」

「俺のターン！今のターンで俺を倒せなかったことを後悔するんだな！！」

「……うるせえ！！死にかけは黙れ！！」

「いいやこれで決まりだ！俺は救世竜 セイヴァー・ドラゴンを召喚！！」

救世竜 セイヴァー・ドラゴン
チューナー（効果モンスター）
星1 / ATK 0 / DF 0

このカードをシンクロ素材とする場合、「セイヴァー」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「さらにチューナーが召喚されたことにより手札からリトル・ナ

イトを召喚！レベル8のスターダストとレベル1のリトル・ナイトにレベル1の救世竜 セイヴァー・ドラゴンをチューニング！！集いし星の輝きが、新たな奇跡を照らし出す。光差す道となれ！シンクロ召喚！光来せよ、セイヴァー・スター・ドラゴン！」

セイヴァー・スター・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK3800 / DF3000

「救世竜 セイヴァー・ドラゴン」 + 「スターダスト・ドラゴン」
+ チューナー以外のモンスター1体

相手が魔法・罫・効果モンスターの効果を発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし、相手フィールド上のカードを全て破壊する。

1ターンに1度、エンドフェイズ時まで相手の表側表示モンスター1体の効果を無効化できる。

また、無効化したモンスターに記された効果をこのカードの効果として1度だけ発動できる。

エンドフェイズ時にこのカードをエクストラデッキに戻し、自分の墓地に存在する「スターダスト・ドラゴン」1体を特殊召喚する。

セイヴァー・スター・ドラゴンが召喚されたとき、嵐の左目の下にマーカーの様なものが浮かんだ。

「なんだよそいつは・・・すげえよ欲しい！！俺にくれえ！！！」

「セイヴァー・スターの効果発動！相手モンスターの効果を無効にし、その効果を得る！グリッド・マモンを選択！サブリーメーション・ドレイン！！！」

邪悪なる悪魔からその力が奪われた。

「これで最後だ！！行け！セイヴァー・スター・ドラゴン！！シ
ューティング・ブラスター・ソニック！！！！」

「ああああああああああああああああああ！！！！」

佐助・強欲LP33000

「……俺は……消えねえ……なんたって俺は……
強欲なんだからな……」

そう言っつて佐助はその場に倒れた。

「「佐助！！」「佐助さん！」

俺たちは倒れた佐助に駆け寄った。佐助は意識を失っておらず、
ゆっくりと答えた。

「すまん……みんな……わしの心が弱いばかりに」

「気にすんなよ。誰だっつてそういつときがあるさ」

「しかし」

「そのとおり！それより嵐、佐助、カケル、急ぐぞ！夕夜は傲慢
の塔にいる……」

「そつだな」

そう言っつて俺は佐助をおぶりながらまずは塔へ向かった。

「まつのじゃ嵐！降ろしてくれ！わしは平気」

「うるさいこれは俺の気分だ。異論は訊かん」

そう言いながら俺たちは封印をかけ、夕夜の待つであろう傲慢の塔に向かった。

P M 7 時 4 6 分 強欲の塔 突破

turn14:vs強欲の塔！死神、再臨！！（後書き）

実を言うとこの回が一番書きたかった雪無です。

アニメはやっと鬼柳（漢字あつてる？）が終わりましたね長かった

あと次回はいよいよ夕夜登場です！

turn 15 : vs 傲慢の塔？かつての友、暁夕夜！

嵐が強欲の塔の番人となった佐助と戦っていた最中、火山のふもとで2人の男が喋っていた。

「7つの塔のうち6つの塔が落ちた。これに関して、リーダーさんは何かご意見があたりで？」

「……特にないよ。これといった問題は0。事は順調に運んでる」

話している男の一人は先の戦いで影月と死闘を繰り広げたスカル・エヴァンス。その片割れには本を読む赤い髪の青年が立っている。

「んじゃ、俺は帰らせてもらうぜ。負けた以上ここにいる意味もないし、うまくやれよ」

「言われなくてもそのつまりだ」

そうしてスカルは山を下っていった。

スカルが見えなくなった頃、少年は本を閉じ山の麓に見える更地に目をやった。

「進んでいるよ。順調に、ね」

それから10分後の傲慢の塔付近。

「……でなんで結局俺が嵐をおぶってんだよ

「！！！！」

強欲の塔で佐助をおぶって出発したはずの俺は烏の背中で大人しくしていた。

「いや、本当にスマン」

「何故に1日に2度もお前をおぶって長距離歩かにならんのだ
!?!」

「烏、とりあえず落ち着こうよ」

怒鳴り声を上げる烏をカケルがなだめた。

何があつたかと言うと単純な話、俺が途中で力尽きて動けなくなつたので仕方なく烏が俺をおぶっているのだ。ちなみに佐助はもう回復して1人で歩いている。

「しかしセブンスシンの目的はなんなのじゃろうか？」

後ろを歩く佐助がぼそつと呟いた。

「そりゃあ邪神と三幻魔を復活させることだろ」

「その後じゃ。復活させた後どうするつもりじゃろう?」

「さあな。それは本人に聞くのが一番だろ。着いたぜ傲慢の塔」

喋っているうちに俺たちは最後の塔にたどり着いた。

烏が横で死に掛けているが。

「烏、本当にサンキューな」

「(けどあの喋りどう見たって本物だぞ)」

「(ならばあやつは操られてはおらんのではないか?)」

「?なにお前らはなしてんだよ?そんなことより久しぶりにデュエルしようぜ!」

嬉しそうに言う夕夜の首に封印の鍵がぶら下がっているのが見えた。

しかもそのはるか後方には気絶した祭と影月の姿があった。

「!!!・・・分かった。俺が相手になってやるよ!」

俺はそう言ってデュエルディスクを構えたとき

「ちょっと待て嵐」

「一人で戦おうなんて水臭いよ」

烏とカケルが同じくデュエルディスクを構えていた。

「俺らだってあいつのダチだ」

「ここは主に任せるとして、祭たちはわしに任せる」

みんなの心意気に思わず涙が出そうになった。

「お前ら・・・(グス)そうだな。夕夜!俺たち3人が相手だ!」

「よっしゃ！そう来なくっちゃな！行くぜ！！」

「『『『デュエル！！』』』」

嵐・鳥・カケル・夕夜 LP4000

先攻 夕夜 嵐 鳥 カケル

「んじゃ。俺から行かせてもらっぜ！ドロー！異次元の生還者を攻撃表示で召喚！さらに永続魔法次元の裂け目発動！」

異次元の生還者

星4 / ATK1800 / DF 200

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードがゲームから除外された場合、このカードはエンドフェイズ時にフィールド上に特殊召喚される。

次元の裂け目

永続魔法

墓地へ送られるモンスターは墓地へは行かずゲームから除外される。

「カードを3枚伏せてターンエンド！」

「やっぱり」

「アレが出てきたって事は」

「夕夜のデッキは」

「『『次元帝！！』』」

俺たちは口をそろえて言った。
やっぱり、昔と変わらずか

「おいおいナニばらしてんだよ！ネタバレは見てる人がガツカリするだろ！！」

「……見てる人って誰！？」「」

「……まあいい。気を取り直して

「俺のターン！バブル・ナイトを守備表示で召喚！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドローするドローしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻す。

「バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロー！ドローカードはロードランナー！守備表示で召喚！！カードを2枚伏せてターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

「俺のターン！永續魔法、黒い旋風発動！BF - 蒼炎のシユラを召喚！」

BF - 蒼炎のシユラ

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから攻撃力1500以下の「BF」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

黒い旋風

永続魔法

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが召喚された時、自分のデッキからそのモンスターの攻撃力より低い攻撃力を持つ「BF」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

「黒い旋風の効果でBF - そよ風のブリーズを手札に加えて特殊召喚！」

BF - そよ風のブリーズ

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK1100 / DF 300

このカードが魔法・罫・効果モンスターの効果によって自分のデッキから手札に加わった場合、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「BF」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「レベル4のBF - 蒼炎のシユラにレベル3そよ風のブリーズをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ

召喚！BF・アーマード・ウィング！ターンエンド」

BF・アーマード・ウィング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔カウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔カウンターを全て取り除く事で、楔カウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「僕のターン！D・クロックンを守備表示で召喚！ターンエンド」

D・クロックン

効果モンスター

星2 / ATK 600 / DF 1100

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：このカードに乗っているディフォーマーカウンター1つにつき、このカードの攻撃力は500ポイントアップする。

守備表示：1ターンに1度、このカードにディフォーマーカウンターを1つ置く事ができる。

このカードをリリースする事で、このカードに乗っているディフォーマーカウンターの数×1000ポイントダメージを相手ライフに与える。

そして2度目の夕夜のターン

「俺のターン！異次元の生還者をリリース！雷帝ザボルグをアドバンス召喚！」

雷帝ザボルグ

効果モンスター

星5 / ATK2400 / DF1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、フィールド上のモンスター1体を破壊する。

「ザボルグの効果でアーマード・ウイングを破壊！」

「マジかよ!?!」

「そりゃそうだろ!?!」

俺とカケルのダブルツッコミ。

それと同時に鳥の場がから空きになった。

「そしてザボルグでダイレクトアタック!?!」

鳥LP4000 1600

「鳥!?!」

「ああああああああああ?」

「ああ?」

「ああ?」って何だよ「ああ?」って。ちよっと上がり気味って。

「痛みがない」

「「ええ？」」

痛みがない？それって、どういうことだ？

「ターンエンドと同時に異次元の生還者を再び召喚！次は嵐のターンだぞ！」

「あ？ああ俺のターン。ステイングガードナーを召喚！ステイングガードナーの効果によりステイングソルジャーを特殊召喚！」

ステイングガードナー

チューナー

星3 / ATK 500 / DF 1800

このカードの召喚に成功したとき、デッキから『ステイング』と名がつくモンスターを特殊召喚できる。

このモンスターをシンクロ素材とする場合、『ステイング』と名をついたモンスターのシンクロ素材にしか使用できない。

ステイングソルジャー

星4 / ATK 1200 / DF 1000

「レベル4ステイングソルジャーにレベル3のステイングガードナーをチューニング！シンクロ召喚！！来い！ステイングナイト！！」

ステイングナイト

シンクロ

星7 / ATK 2700 / DF 2500

このモンスターの特殊召喚（またはシンクロ召喚）に成功したとき、墓地の『ステイング』と名のついたカードの枚数×800Pのダメージを相手ライフに与える。

「ステイングナイトで雷帝ザボルグを攻撃！ステイングアタック
！！」

「やっべ！畏発動！炸裂装甲！」

嵐の場のステイングナイトが一瞬で爆発した。
場に満足できる環境ができない。

「つく。カードを1枚伏せてターンエンド！」

「俺のターン！BF - 銀盾のミストラルを召喚！さらにBF 黒
槍のプラストを特殊召喚！」

BF - 銀盾のミストラル
チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK 100 / DF 1800

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた場合、このターン自分が受ける戦闘ダメージを1度だけ0にする。

BF - 黒槍のプラスト
効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のプラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「レベル4の黒槍のプラストにレベル2の銀盾のミストラルをチューニング！漆黒の力！大いなる翼に宿りて、神風を巻きおこせ！シンクロ召喚！吹きすさべ、BF-アームズ・ウィング！」

鳥の場に銃剣を携えたBFが現れた。

BF-アームズ・ウィング

シンクロ・効果モンスター

星6 / 闇属性 / 鳥獣族 / 攻2300 / 守1000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは守備表示モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「畏発動！威嚇する咆哮！これで鳥はこのターン攻撃できない！」

夕夜が鳥を指差しながら笑顔でそういった。

「・・・ターンエンド」

「僕のターン！D・モバホンを攻撃表示で召喚！」

D・モバホン

効果モンスター

星1 / ATK 100 / DF 100

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードをめくる。

その中にレベル4以下の「D」と名のついたモンスターデIFOォーマーが存在する場合、1体を召喚条件を無視して特殊召喚する。

それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

守備表示：サイコロを1回振る。

自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードを確認して元に戻す。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「モバホンの効果！出た目の分カードをめくってその中にレベル4以下のデIFOォーマーがいた時、特殊召喚する！ダイヤル・オン！・・・ダイヤルの数字は5！5枚確認。D・スコープンを守備表示で特殊召喚！」

D・スコープン

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 800 / DF 1400

このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。

攻撃表示：1ターンに1度、手札からレベル4の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。

守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、このカードのレベルは4になる。

「レベル1のモバホンとレベル2のクロツクンにレベル4となつたスコープンをチューニング！世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛と正義の使者、パワー・ツール・ドラゴン！」

パワー・ツール・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2300 / DF 2500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動することができる。自分のデッキから装備魔法カードを3枚選択し、相手はその中からランダムに1枚選択する。

相手が選択したカード1枚を自分の手札に加え、残りのカードをデッキに戻してシャッフルする。

また、装備魔法カードを装備したこのカードが破壊される場合、代わりにこのカードに装備された装備魔法カード1枚を墓地へ送る事ができる。

「パワー・ツールの効果でデッキから装備魔法を手札に加える。装備魔法ダブルツールD&Cを装備！パワーツールの攻撃力が1000ポイントアップ！」

パワー・ツール・ドラゴン ATK 2300 3300

「いけ！パワーツール・ドラゴン！クラフティ・ブレイク！」

「罨発動！ドレインシールド！」

夕夜 LP 4000 7300

「ご馳走様 カケル」

「僕はカードを1枚伏せてターンエンド」

結局俺たちは満足な攻撃もできずただ夕夜の有利な方向にデュエルを進めただけだった。

「再び俺のターンだ！俺は異次元の生還者をリリースし、邪帝ガイウスを召喚！！」

邪帝ガイウス

効果モンスター

星6 / ATK 2400 / DF 1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、フィールド上に存在するカード1枚を除外する。

除外したカードが闇属性モンスターカードだった場合、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

夕夜の場合に、夕夜のデッキの切り札が出現した。

「ガイウスの効果によりパワーツール・ドラゴンをゲームから除外する！」

「パワーツール！！」

悲しげない金属音を上げながらパワーツールが虚空へ消えた。

「装備魔法ビックバンアタックを雷帝ザボルグに装備！ガイウスでカケルをダイレクトアタック！ザボルグでバブル・ナイトを攻撃！！」

「あああああああああああ」

嵐LP4000 2400

カケルLP4000 1600

強烈な一撃を受けたが、確かに本物の衝撃は無かった。

「カードを1枚セット。俺はこれでターンエンドだ！」

「俺のターン！」

・・・やっぱり夕夜は強い。けど、祭たちのためにも一緒に戦ってくれるみんなのためにも、夕夜自身の為にも負けるわけにはいかない！！

「ドロー！！魔法カード次元の歪み！ステイングナイトを復活させる！」

次元の歪み

通常魔法

自分の墓地にカードが存在しない場合に発動する事ができる。

除外された自分のモンスター1体を選択し、自分のフィールド上に特殊召喚する。

「さらに手札からクラウン・ナイトを召喚！」

クラウン・ナイト（オリジナル）

チューナー・効果

星1 / ATK 500 / DF 500

このカードの召喚に成功したとき、フィールドのモンスター1体のレベルを1つ下げることができる。

「レベル6となったステイングナイトにレベル1クラウンナイトをチューニング！道化の仮面を被りし戦士よ、今戦いののろしを上げろ！シンクロ召喚！！来い、クラウン・ブレイド！！」

嵐の場に道化の戦士が現れた。久々の登場だ。

クラウンブレイド

星7 / ATK 2700 / DF 1500

「クラウン・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが攻撃するとき、攻撃対象の表示形式を変更することができる。

このカードがモンスターを破壊したとき、エンドフェイズまでそのモンスターの効果を得る。

「カードを1枚伏せターンエンド」

そして俺はターンエンドを宣言した。今伏せたカード。コイツが勝利への鍵。烏がドロウした瞬間俺たちの勝ちが決まる！！

「俺のターン・・・ドロウ！」

「・・・罨発動！破壊輪！！！！」

勝利を確信した瞬間、四人の声が重なり、響き渡った。

「・・・え？」

状況を把握しきれない間に場にいる全てのモンスターに爆破装置がセットされた。待て、まさか、全員、同じことを考えてた??

「「「「うっそおおおおおおおおおおおお!!??」「「

」

ズツドーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

ーーーーーーーーーーーーーーーーー!!!!!!

夕夜LP73000

嵐LP24000

烏・カケルLP16000

結局俺たちは全員、似たもの同士だった。

「いつやあ!まさかみんな同じ手使うとわな!思っても見なかったぜ!」

「そりゃコツチのセリフだ!せっかく夕夜に勝ったと思ったのに」

「全くだよ!」

「「「「はははははははははははははははは」「「「「

デュエル終了後、何か大切なことを忘れながら俺たちは雑談にふけっていた。

「おぬしら。番人の事はどうなったのじゃ」

「おお佐助！お前も一緒に喋ろうぜ・・・そうだった！！夕夜！お前、この傲慢の塔の番人だったのか！？」

「番人？何のことだ？」

夕夜は首をかしげながら逆に俺に聞いてきた。

「え？だってその鍵・・・」

「あ、これそっちにいた奴倒したとき、こそっと奪ったんだ」

「」「奪うなよ！！」「」

「いてて・・・たつくひどい目にあっただぜ」

「嵐くんそっちの方は大丈夫だった？」

さっきまで気絶していた両儀兄弟も寄ってきた。

「おう。俺たちより祭たちは大丈夫なのか？さっきまで気絶してたけど・・・」

「あれはおにいちゃんの所為。走りすぎてひっくり返ったちゃったの」

何て紛らわしい奴だ。

「嵐、それよりこの鍵、番人がどうとかって」

「ああその事は」

俺は夕夜にことの全てを話した。

「・・・そうか。よし！なら俺も手伝うぜ！まだヤバ間は見つかってないんだろ！」

「サンキュー夕夜！お前がいれば1万人力だぜ！！」

「そうと決まればあの塔に封印をかけてくるわ！」

そう言っただけで夕夜は塔に向かって走っていった。

PM 7時59分

傲慢の塔 突破

そして封印と同時に、島中が巨大な地震に襲われた。

t u r n 1 5 : v s 傲慢の塔？かつての友、暁夕夜！（後書き）

どうも雪無です。

この間遊戯王の映画見てきました。やっぱり3Dはいいですね。

後近いうちにキャラの詳しい紹介入れようとおもってますのでその時はよろしくお願いします。

キャラ紹介

どうも雪無です。先日、この小説を読んでいる知り合いに「嵐って男？女？」と聞かれてちょっとイラツときたのでこちら辺でメインキャラの詳しい紹介をしようと思います。(ネタバレけっこうあります)

ひのほろし
日ノ原嵐

性別 男

所属 オシリスレッド

新しくデュエルアカデミアに入った黒髪たれ目の少年。普段は仲のいい烏、佐助と一緒に行動している。デュエルモンスターの精霊を見ることができるとは精霊のカードは持っていない。仲間思いで熱い性格。精神的に弱い。

好物はカレー。趣味は釣り

戦士デッキを使う。主力カードはブレイドシリーズ

モデル アスラクライン夏目智春

くろばねからす
黒羽烏

性別 男

所属 オシリスレッド

嵐と同じくデュエルアカデミアに入った少年。イガグリの様なツンツン頭が特徴で嵐との付き合いは誰よりも長い。

本名は荒金烏

好物は揚げ物全般。

家出中の行動は不明。3年近く一人で過ごしていたおかげで料理はなかなかうまい。

メンバーの中で一番まじめで友達思い。

B F デッキを使う。主力カードはB F - アーマード・ウイング
モデル F F ザックス

ふじやまさすけ
藤山佐助

性別 秀吉

所属 ラーイエロー

この作品唯一のラーイエローの生徒。第三の性別秀吉でファンク
ラブも作られていると噂されている。

嵐、鳥と常に一緒に行動していてマイペースな性格からメンバー
の中ではマスコットの存在。（本人は知らない）

「わしは〜」「〜じゃ」とジジイ言葉を話すが実は国語が苦手。
好物はラーメン。わさびが苦手。趣味は日向ぼっこ

死神デッキを使う。主力カードは死神獣ケルベロス 死神魔獣オ
ルトロス 強欲・グリード・マモン

モデル バカテス木下秀吉

りょうぎまつり
両儀祭

性別 女

所属 オベリスクブルー

本作第1のヒロイン

デュエルアカデミアに来て嵐が一番初めに会った少女。カード
の精霊と心を通わせることができ、現在精霊のカードを8枚所有し
ている。

デュエルの腕はかなりのもので数々の大会を総なめにしてきた。
優しい性格だが怒るとかなり怖い。嵐に対し淡い感情を抱いてい
る様子。

好物は甘いもの全般で自分で作るのが趣味。

魔法使いデッキを使う。主力カードは霊使いシリーズ。

モデル 空の境界両儀式（外見のみ）

両儀影月 りょうぎえいげつ

性別 男

所属 オベリスクブルー

祭の実の兄でデュエルアカデミア2年。黒のロン毛に整った顔立ちで女子から人気があったが嵐とのデュエル以来徐々にファンが減ってきているが本人は気にしていない。極度のシスコン。

D・ホイールにも乗ることができ、腕前もなかなか。

妹の事意外ではいつも冷静。好物は祭りが作った料理（味は定かではない）

ドラゴンデッキを使う。主力カードはレッドデーモンズドラゴン
モデルなし

遠藤カケル えんどう

性別 男

所属 なし

嵐、烏の地元の友達。年は嵐たちより1つ下で中学の後輩。

地元に残っていたがセブンスシンの番人としてアカデミアに連れてこられた。

かつて嵐、烏、夕夜の4人で組んでいたチームのメンバーで唯一の常識人。

メカに詳しく、機械をいじるのが趣味。

デッキを使う。主力カードはパワーツール・ドラゴン

モデルなし

暁夕夜 あかつきゆうや

性別 男

所属 オシリス・レッド

かつて嵐、烏、カケルの4人で組んでいたチームのメンバーのリーダー。

中学時代に嵐達のいた中学に転校してきた少年。中学時代、とある大会に4人で出場し、優勝した経験がある。チーム名は「チーム・ザ・ジエネシス」

銀色の髪がコンプレックスで髪に対して何か言われるとかなり怒る。（嵐達の間では禁句とされている）

アカデミアの受験を大会出場を受けられず、編入試験を受け、入学した。

次元帝デッキを使う。主力カードは邪帝ガイウス

モデル 鬼柳

青野あおのつらら

性別 女

所属 オベリスクブルー

本作第2のヒロイン。

明るいブルーの瞳とポニーテールが特徴。

元暴食の塔番人で嵐によって倒された本人にそのときの記憶は無く、その事件以来、嵐にホの字。

氷結界デッキを使う。

海原うつなばら快晴

性別 男

所属 オシリス・レッド

嵐たちと同じレッドの生徒。

十代と同じくヒーローデッキを使うが、内容はまったくの別物。口癖は「激アツだぜ!!!」

ほつじょうひかり

北条光

性別 女

所属 オベリスクブルー

烏に惚れている女の子。高飛車な性格だが友人関係は割といいらしい。

勘違いの末のデュエル以来、祭とは親友になった。

ヴァイロンデッキを使う。

今の所以上ですが今後いろいろ変わったりしますのでちよくちよく見てくださると嬉しいです。

キャラに対しての質問等ありましたら送ってください。

t u r n 1 7 : 対決！闇を統べる者！（前書き）

だ
い
ぶ
間
が
開
き
ま
し
た
。 他
の
考
え
な
が
ら
だ
と
思
い
の
ほ
か
進
み
が
悪
い
！

turn17：対決！闇を統べる者！

夕夜が傲慢の塔に封印をかけた直後、デュエルアカデミアを巨大な地震が襲った。

「なんだ！？地震か！？」

「けっこんなデカさだぞ！」

「みんなおへそを隠して！！」

「それは雷！！」

俺、鳥、夕夜の3人で軽いコントをしている間も鳥は揺れ続けた。そして、地震に共鳴するかのごとく傲慢の塔が揺れだし、地中へともぐり始めた。

「なにがどうなってんだよ！こりゃあ！！」

大声で怒鳴る影月だったが、その間に答えられるものはいない。そして俺たちが混乱している中、突然俺の端末がけたたましい音を上げて鳴り出した。

「こんなタイミングで、一体ドコのドイツだ！！」

俺は乱暴に端末の電源を入れた。

『やあ』

端末の移された画像には赤い髪の青年が笑顔でこちらに手を振っていた。

「……本当に誰だ？」

『初めましてアカデミアの生徒さん達。僕の名は南雲なぐもハルト。君たちが戦ったセブンス・シンのリーダーです』

「!!！」

端末から流れる声を聞いていた全員が身を固くした。今画面に映っているこいつがリーダー？

『まず僕は皆さんにお礼を言わないといけません。作戦にご協力いただき、まことにありがとうございます』

「協力？」

『ええその通り。この作戦は我々セブンスシンに抵抗するあなた達の存在なくしては成功しなかった』

「……どういうことだ？」

『考えてもみなよ。そもそも、君たちが封印をかけたって事は、その前は封印されていなかったという事になる。なら何故僕らはわざわざ鍵を持って塔を守る必要があった？むしろ鍵を海にでも捨てた方が効率がいいだろ？つまり、封印は元々かかっていたんだよ。それを君たちが解くように仕組んだんだ。デュエルに勝利して封印をかける？逆だよ。デュエルに勝利して封印を解くんだよ』

「・・・ってことはつまり」

俺たちはこいつらに騙されてたってことか。

『では皆さん右手をご覧ください』

その声に従い右を向くと沈んだはずの塔がはるか向こうに出現し始めていた。その数7つ。

つまりこの島にあった塔全て。

『7つの塔が出現したそこがカードが封印された地だ。そこで最後の勝負をしよう。手下をたっぷり準備させてまってるよ』

そう言っただけで末端の電源は落ちた。

「!?!?おいこら待て!・・・くそ!!!」

「おい嵐」

末端をしまつ俺に鳥が喋りかけてきた

「今の話聞いてた。あそこに奴らの頭があるんだろ?だったら選択肢は一つだ。他の奴らも同じ気持ちみたいだし」

そういう鳥に促されて他のみんなを見ると全員が俺を見ていた。その目は使命に燃えていた。

「言っただろ。手伝って」

「及ばずながら、僕も協力するよ」

「きゃあああ!!きゃあああ!!」

「落ち着くのじゃ祭!嵐が死んでしまっ!!」

「祭!怖いなら兄ちゃんのトコに来い!」

「ふわああああん」

俺の首をきめていた祭は泣きながら影月の元へ行つた。

絞め技から解放された俺はケホケホ言いながら地面にひざをついた。ああ死ぬかと思つた。

「けほ・・・もしかして祭、お化け苦手?」

「うん・・・」

俺の問に祭が半泣きで答えた。

「小さいときに鎧武者ゾンビの精霊を視て、それ以来トラウマに・・・」

・・・そりゃしょうがない。

「しっかしゾンビってお前、非科学にも程があるだろ」

「そこはアレだ・・・気にすんな」

割と真面目に考え始めた鳥と既に考えるのをやめた夕夜。

「でもこれじゃ、祭さんは戦力にならないよ。それに置いてくとしても一人ここにおいて行くんじゃないよ……」

「そうだな……佐助、頼めるか？」

「別に良いが……なぜわしなのじゃ？」

「だって、女の子同士のほうが」

「訂正する。わしは残らん」

「なんで!？」

「わしは男だからじゃ！戦士としてならともかく、別の性別で扱われるのは嫌じゃ!！」

何故か自分は男だと抵抗する佐助。そんな子供だましな嘘をいわれても

「じゃあ誰が残るんだよ。この中じゃ……」

「僕が残るよ」

そう言って俺のすぐ横にいたかけるが手を挙げた。

「僕でいいよ。あの数相手にするのは僕にはつらいし。一対一にできそうなの辺なら何とかなるから」

「……分かった。頼むぜカケル」

「妹に手えだすなよ」

俺と影月はカケルにそう言った。

「つよつしやああ！！行くぜお前ら！！嵐、鳥、カケル！一旦整列！！いつものやるぞ！！」

大声で命令する夕夜に「ええ〜」とか「メンド〜」とか文句を言いつつ俺たちは指示に従い、丘の上で横一直線に並んだ。

「黒き弾丸、黒羽鳥！！」

「同じく、帝の懐刀、日ノ原嵐！！」

「チーム・ザ・ジエネシストップ！！暁夕夜！！」

まあ、いつものというのはこの声だしのことだ。

「……チーム唯一の良心、遠藤カケル」

「「唯一！？」」

佐助、影月。そこ突っ込まなくていいよ。

「「「いくぜえーーーーー！！！！！！！！！！」」」

そして俺たち三人はデュエルディスクにデッキをセットし、敵のいる更地に向かって丘を駆け下りていった。

「俺たちも行くぞ」

「承知!!」

それに続き残りの二人も駆け出す。

「行くぜ!」

「「「「デュエル!!!!」」」」

「いっけえ!クラウン・ブレイド!!」

「くらえ!ブラックハリケーン!!」

「クリムゾンヘルフレア!!」

次々と目の前にいるゾンビ兵を吹き飛ばしながら俺たちは進む。

「みなさん頑張ってください!」

俺たちのいる数メートル先から間の抜けた声が聞こえた。

「南雲ハルト!!」

「あ。でもその前にやられちゃうか。こんなにいつぱいの敵と戦ったことなさそうだし」

「あんにゃろ」

しかし、奴の言う事も一理ある。いくら雑魚でもこれだけ大勢。いつまでも持たない。

「おいテメエら!!」

後方からの声に振り向くといつの間に持ち出したのか影月がD・ホイールに乗り、俺たちのほうに向かってくる。

「乗れえ!!」

「!!!そうか!!」

影月が横を通過する瞬間、俺はD・ホイールの横部分にしがみついた。

「んじゃ俺も!!」

そう言っつてなんと鳥までもが俺の逆サイドに引っ付いてきた。

「っち!定員オーバーだが・・・しっかり?まってるお!!」

そうして影月はさらに加速をつけ、俺たちはD・ホイールごと宙に浮かんだ。

「うおおおおお!!」「ひゃっほおお!!」

宙を舞ったD・ホイールはゾンビの大群を易々と飛び越え、南雲ハルトの元まで俺たちを連れて行った。

「うおお!!ビックリ人間ショー!!」

「うるさい!!」

三人はD・ホイールから降り、デュエルディスクを構えた。

「さて。三対一だ。変則デュエルというや」

「うん。それもいいんだけどさ。それだとせっかく手に入れたカードが僕の真のデッキのどっちかしか使えない。・・・じゃあここは」

ハルトがにやりと笑った瞬間、ハルトの影が三つに割れ、そこから青い髪と緑の髪をしたハルトと全く同じ顔の人間が現れた。

「『これで僕達も三人だ。三対三のノーマルデュエルだ』」

「分身って・・・」

「そっちの方がビックリ人間ショーだったっつの」

「まあいい。行くぞ」

「『『『『『デュエル!!!!』』』』』」

7つの塔を黒炎の炎が覆った。これがラストだといってるが如く。

影月LP4000

ハルト(青)LP4000

先攻 影月

「俺のターン！アックス・ドラゴニユートを召喚！ターンエンド」

アックス・ドラゴニユート

効果モンスター

星4 / ATK2000 / DF1200

このカードは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。

「僕のターン。魔法カード封じられた禁術ダメージ・クロイツ」

封じられた禁術ダメージ・クロイツ（オリジナル）

通常魔法

ライフを×1000ライフポイントを払う事で手札からレベル4以下のモンスターを特殊召喚する。

「僕はライフを3000払い、ワイトを3体召喚しリリース。邪神ドレッド・ルートをアドバンス召喚」

3体のモンスターを生贄に、封印された邪神が目を覚ました。

邪神ドレッド・ルート

効果モンスター

星10 / ATK4000 / DF4000

このカードは特殊召喚できない。

自分フィールド上に存在するモンスター3体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚することができる。

このカードがフィールドに表側表示で存在する限り、このカード以外のフィールド上のモンスターの攻撃力・守備力は半分になる。

ハルトLP4000 1000

「1ターン目から邪神を・・・いやそれ以上に、1ターン目からライフを残り1000にするなんて」

「別にありえない話じゃないでしょ。アンタも同じ状況になるんだしドレッド・ルートの効果。ドレッド・ルート以外のモンスターの攻撃力を半分に」

「バカな!!?」

アックス・ドラゴニユート

ATK2000 1000

「バトル。ドレッド・ルートで攻撃。フィアーズノックダウン」

弱体化した竜は易々と砕かれた。そしてその拳は直接影月へ叩き込まれた。

影月LP4000 1000

「ぎ、がああああああああああああああああああ!!!!」

あまりの衝撃に影月が後方へ吹き飛ばされた。

「がああああああああ!!!!」

さらに背中を黒炎の壁に打ちつけた途端、背中を焼けるような激痛が走った。

その背中にはひどい火傷の痕が残っていた。

「「影月!!」」

突然の光景に思わず声を上げた二人。

「……問題ねえ……お前らは自分の心配しとけえ……」

そうは言っているが、影月のダメージはかなり深刻なものだった。

「驚いたでしょ？僕創り出すフィールドは見てのとおり特別でね。触っただけで命取りなんだよ」

「……んじゃあ……もうさわらねえよ!……俺のターン!
!バイス・ドラゴンを特殊召喚!」

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5 / ATK 2000 / DF 2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「さらにチューナーモンスター、ダーク・リゾネーターを召喚!」

ダーク・リゾネーター

チューナー・効果モンスター

星3 / ATK 1300 / DF 300

このカードは1ターンに1度だけ、戦闘では破壊されない。

「レベル5のバイス・ドラゴンにレベル3のダーク・リゾネーターをチューニング！紅蓮の龍よ、俺の誇りを汚すものを焼き尽くすべく現れる！！シンクロ召喚！紅蓮の竜、レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 3000 / DF 2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

影月のデッキが誇る、最強の竜が光臨した。

「カードを2枚伏せターンエンドだ！」

「ぷっ。判断を間違えましたね。今のトコはシンクロせずダーク・リゾネーターを場に残した方がいいのに。ま、守備表示ナトコだけほめてあげますよ。僕のターン。いけドレッド・ルート。ファイアーズノックダウン」

レッド・デーモンズに拳が届く瞬間。

「畏発動！ドレイン・シールド！攻撃を無効にし、俺はライフを

回復する！」

影月LP1000 5000

「ああ憎たらしい！僕はカードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターン！！ドラグニティ・トリプルを守備表示で召喚しターンエンド」

「ありやりやそんだけ？しょうがないよね？手が無いんだもん僕のターン罨カード凶骨の歌」

凶骨の歌（オリジナル）

罨

墓地に存在するレベル4以下のアンデッド族モンスターを可能な限り特殊召喚する。特殊召喚されたモンスターはエンドフェイズにゲームから除外される。

「そしてこの3体をリリース。いでよ邪神アバター」

そしてハルトの場に、黒い太陽が、破滅の象徴が現れた。

邪神アバター

効果モンスター

星10/ATK ? /DF ?

このカードは特殊召喚できない。

自分フィールド上に存在するモンスター3体を生け贄に捧げた場合のみ通常召喚する事ができる。

このカードが召喚に成功した場合、相手ターンで数えて2ターンの間、相手は魔法・罨カードを発動できない。

このカードの攻撃力・守備力は、フィールド上に表側表示で存在する

「邪神アバター」を除く、攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力+100ポイントの数値になる。

「黒い・・・太陽・・・？」

「そつ。コイツが邪神最強のモンスターアバター。コイツの攻撃力は、『場にいる最強モンスターの攻撃力+100つまりこの場合は4100だ!!』」

アバターの姿が揺らいだかと思うと、その姿が漆黒のドレツドルトとなった。

「・・・ただし、ドレツドルの効果で半分の2050になっちゃうけどね。それでもいいや装備魔法流星の弓・シールをアバターに装備」

邪神アバター ATK2050 1050

「邪神アバターでダイレクトアタック」

「畏発動！攻撃の」

「アバターが出たとき、君は2ターンの間魔法・畏が使えない！」

「何だと！？だが俺は手札のバトルフェーダーの効果を発動！バトルフェーダー特殊召喚し、バトルフェイズを終了する!!」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / ATK 0 / DEF 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「なら罨カードヘルインパクト！ドラグニティ・トリプルを破壊し、僕の場の最も攻撃力の高いモンスターの攻撃力分のダメージを与える！！アバターの4100！！」

「がああああああああああああああああああ！！！！」

影月LP5000 900

嵐たちの周りを囲んでいるのと全く同じ炎が、影月を飲み込んだ。身体中火傷だらけになり、もはやたっているのも限界だろう。

「ターンエンド。まあ安心してよ。もう一体の邪神はださない。ていうか出す必要もないし」

「……せえ……」

「君は良くやったよ。最初に飛び込んできたときも男気溢れる良いジャンプだった」

「……る……せえ……」

「けど、相手が相手だもん。負けるのはしょうが」

「うるせえって言うてんだろっが!!!」

「・・・わお逆ギレ。ケド事実だよ。君の場には攻撃力0と弱った竜。勝てる要素なんて無いもん」

「・・・それでもやるのが・・・俺だあ!!!俺の、ターン!!!」

影月がカードを引いた瞬間カードの姿が変わった。

「なんだコイツは・・・入れてねえカードがきたんだ。こいつに賭けるしかねえか!!!俺は救世竜 セイヴァー・ドラゴンを召喚!!!」

救世竜 セイヴァー・ドラゴン

チューナー（効果モンスター）

星1 / ATK 0 / DEF 0

このカードをシンクロ素材とする場合、「セイヴァー」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「レベル8のレッドデーモンズとレベル1のバトルフェーダーにレベル1の救世竜 セイヴァー・ドラゴンをチューニング!!!孤高の光が大地を照らす時、絶対的パワーが炸裂する!出でよ!大いなる魂、セイヴァー・デーモン・ドラゴン!!!」

セイヴァー・デーモン・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK 4000 / DEF 3000

「救世竜 セイヴァー・ドラゴン」+「レッド・デーモンズ・ド

ラゴン」+チューナー以外のモンスター1体

このカードはカードの効果では破壊されない。

このカードが攻撃した場合、ダメージ計算後にフィールド上に守備表示で存在するモンスターを全て破壊する。

1ターンに1度、エンドフェイズ時まで相手の表側表示モンスター1体の効果を無効にし、そのモンスターの攻撃力分このカードの攻撃力をアップする事ができる。

エンドフェイズ時にこのカードをエクストラデッキに戻し、自分の墓地に存在する「レッド・デーモンズ・ドラゴン」1体を特殊召喚する。

輝く誇り高き竜が現れたとき、影月の腕に翼の痣が浮かんだ。

「おおっと。この展開は」

「セイヴァー・デモン効果発動！相手モンスターの効果を無効にし、そのモンスターの攻撃力このカードに加える！！俺は邪神ドレツドルートを選択！！」

セイヴァー・デモン・ドラゴン

ATK4000 8000

「セイヴァー・デモン・ドラゴンで、邪神ドレツドルートを攻撃
！！」

ハルトLP1000 0

「・・・・・・・・」

青い髪のはルトはライフが尽きた途端、何も言わずに砕け散った。

そしてそれを見ることなく、影月はその場に倒れた。

t u r n 1 7 : 対決！闇を統べる者！（後書き）

というわけで邪神・幻魔編最終決戦1です。何故3度に分けたのか、自分でも分かりません！！

あとリクエスト、感想お待ちしております

t u r n 1 8 : 砕けゆく力！吹き荒れる黒い風！！（前書き）

長引きましたけどやっとの事できました。
ん〜どうもタイトルが納得いかない。

turn18：砕けゆく力！吹き荒れる黒い風！！

鳥LP4000

ハルト（緑）LP4000

先攻 鳥

「俺の先攻。ドロー！BF - 蒼炎のシユラを召喚！」

BF - 蒼炎のシユラ

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから攻撃力1500以下の「BF」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「カードを2枚セットしてターンエンド」

「僕のターン。ジェネシスリザードを召喚」

ジェネシスリザード（オリジナル）

効果モンスター

星4 / ATK1600 / DF1500

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られたとき、デッキからレベル4以下の「ジェネシス」と名のつくモンスターを1体特殊召喚する。

このカードは自分のスタンバイフェイズ毎に攻撃力・守備力が200ポイントダウンする。

ハルトの場に人の顔がついた片翼のモンスターが現れた。

「さらに魔法カード。ホルンダーの秘薬」

ホルンダーの秘薬（オリジナル）

魔法

自分フィールドに存在する「ジェネシス」「アンジール」と名のつく全てモンスターの攻撃力を300ポイントアップする。

ジェネシスリザード

ATK1600 1900

「バトル。ジェネシスリザードで蒼炎のシユラを攻撃」

「つく！！ぐあああ！！」

鳥LP4000 3900

ほんのわずかなダメージに関わらず、鳥の全身を激痛が襲った。

「・・・つつ〜！こりゃ確かに洒落にならんわ。影月が叫んだのも納得がいく・・・」

「分かっていただけで何よりです。それに貴方は運がいい。僕の真のデッキによって葬られるのですから」

「おお。まさかの俺が当たりってか？つつ事は、嵐がやりあつてる奴のデッキに幻魔が入ってるのか」

「違います。幻魔は誰一人使っていません」

「じゃあダークシンク口か？攻略済みのカードで挑むなんて、えらく余裕だな」

俺は多少の皮肉を込めながら話しかけた。

「いいえ。それも違うダークシンク口を使うのは外にいる彼です」

「!？」

その言葉に背筋に悪寒が走り、俺は黒炎の外を見た。10m先で繰り広げられる戦いを黒炎のすぐそばで見ている人。黄色の髪をした、4人目のハルト。

そして俺の視線に気づき、笑顔で手を振ると、佐助たちのいる戦場に向かって行った。

「!!待ちやがれ・・・熱ッ!!」

すぐに後を追おうとしたが、炎の壁に阻まれた。

「ダメですよ。行きたかったら僕を倒してからにしてください。

ターンエンド」

「・・・そのとおりみたいだな。俺のターン！永続罠リビンゲデツドの呼び声！墓地から蒼炎のシユラを復活！さらにBF - 銀盾のミストラルを召喚！」

BF - 銀盾のミストラル

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK 100 / DF 1800

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた場合、このターン自分が受ける戦闘ダメージを1度だけ0にする。

「レベル4の蒼炎のシユラにレベル2の銀盾のミストラルをチューニング！漆黒の力！大いなる翼に宿りて、神風を巻きおこせ！シンクロ召喚！吹きすさべ、BF - アームズ・ウイング！」

BF - アームズ・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星6 / ATK 2300 / DF 1000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは守備表示モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が500ポイントアップする。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「アームズ・ウイングでジェネシスリザードを攻撃！！」

アームズ・ウイングの攻撃がモンスターを砕いた。

「手札からジェネシスイーグルを墓地へ送り、僕の受けるダメージを0にする」

ジェネシスイーグル（オリジナル）

効果モンスター

星2 / ATK 600 / DF 1700

手札のこのカードを墓地に送ることで、自分の受ける戦闘ダメージ

ジを1度だけ0にする。

「さらにジェネシスリザードの効果により、ジェネシスナイトを特殊召喚。さらにモンスターが特殊召喚されたことによりアンジールウルフを特殊召喚」

ジェネシスナイト（オリジナル）

効果モンスター

星4 / ATK2000 / DF1000

このカードは攻撃した場合、ダメージステップ終了時に守備表示になる。

このカードは自分のスタンバイフェイズ毎に攻撃力・守備力が400ポイントダウンする。

アンジールウルフ（オリジナル）

効果モンスター

星5 / ATK2100 / DF1500

このカードはモンスターが特殊召喚されたとき、手札から特殊召喚することができる。

この効果によって特殊召喚された場合、このカードの攻撃力・守備力は500ポイントダウンする。

アンジールウルフ ATK2100 1600

「俺はカードを1枚伏せてターンエンドだ」

「僕のターン。ジェネシスナイトの効果により、このカードの攻撃力を400下げる」

ジェネシスナイトが凍りつくかのように白くこぼれた。

ジェネシスナイト ATK2000 1600

「僕はフィールド魔法、楽園への扉を発動」

ハルトの後方に巨大な扉と七つの窪みがある台座が出現した。

楽園への扉（オリジナル）

フィールド魔法

自分フィールド上に存在する「ジェネシス」「アンジール」と名のついたモンスターが墓地へ送られたとき、このカードに女神カウンターを1つ乗せる（最大7個）。

このカードに女神カウンターが7つ乗っている場合、自分フィールドに存在するモンスターの攻撃力・守備力は下がらない。

カウンターが7つ乗ったこのカードを破壊することでデッキ、手札、墓地から「ジェネシスオブジェノバ」を特殊召喚する。

「・・・なんだよ。このフィールド魔法は、こんなカード見たことが無えぞ」

「僕のデッキに入ってるカード全部見たことが無いの間違いでしょ。僕はジェネシスナイトとアンジールウルフをリリースして、アンジールオブジェノバをアドバンス召喚」

人の顔のついた醜い化け物が、ハルトの場に現出した。

アンジールオブジェノバ（オリジナル）

効果モンスター

星8 / ATK3000 / DF2500

このカードを召喚する場合、生贄に使用するモンスターは「ジェ

ネシス」「アンジール」と名のついたモンスターでなければならぬい。

このカードがフィールド上に存在する限り、相手は魔法を使用するとき300ポイントのダメージを受ける。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られたとき、相手フィールドに存在するモンスターを全て破壊する。

女神カウンター 2つ

「バトル。アンジールオブジェノバで、アームズ・ウィングを攻撃。憤怒の咆哮」

化け物の腹についた巨大な口から巨大な光線がアームズ・ウィングに向かって放たれた。

「ツチ!!! 畏発動! 黒い風!!! 手札からそよ風のチルットを特殊召喚!!!」

黒い風 (オリジナル)

畏

相手の攻撃宣言字に発動可能。手札からレベル4以下の「BF」を一体、特殊召喚する。

このカードが発動したとき、バトルを中断する事はできない。

「これにより、そいつの攻撃はチルットへ向かう!!!」

光線の前に現れたチルットにより、アームズ・ウィングは破壊を免れた。

「……カードを2枚伏せてターンエンドです」

「俺のターン！BF - 黒槍のブラスト、BF - 疾風のゲイルを特殊召喚！」

ブラックフェザー

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

BF - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分に
する事ができる。

「疾風のゲイルの効果によりアンジールオブジェノバの攻撃力を
半分にする！！」

アンジールオブジェノバ ATK3000 DF1500

「アームズ・ウィングでアンジールオブジェノバを攻 ！！」

「畏発動。怠惰の咆哮」

怠惰の咆哮

畏

このターン相手は攻撃宣言できない。

「なら俺はレベル4黒槍のプラストにレベル3BF・疾風のゲイルをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF・アーマード・ウイング！俺はこれでターンエンドだ」

BF・アーマード・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔カウンを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔カウンを全て取り除く事で、楔カウナーが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「僕のターン・・・装備魔法ジェノバ細胞。これによりアンジールオブジェノバの攻撃力は元に戻る」

ジェノバ細胞

装備魔法

「ジェネシス」「アンジール」と名のついたモンスターにのみ装備可能。

このカードを装備したモンスターの攻撃力・守備力は変化しない。

「畏発動。女神の贈り物。その効果により、楽園への扉に女神力ウンターを4つ乗せる」

女神カウンター 6つ

「アンジールオブジェノバで、アームズ・ウィングを攻撃。憤怒の咆哮」

「ぐがああああああああああああ！！！！！！」

今度こそ、化け物の咆哮が届いた。その衝撃で烏の体は炎の壁に思いつきり叩きつけられた。

「ぐあああああああああああああああ！！！！！！」

鳥LP3900 3200

「ターンエンド」

「こりゃあ……シヤレになんねえわな。……きつい。」

「……つぐ……俺のターン……来た！BF 極北のブリザード召喚！」

BF 極北のブリザード

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK1300 / DF 0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4

以下の「BF」と名の付いたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「けどこの瞬間アンジールオブジェノバの効果発動。400ポイントのダメージを与える」

「ぐっ!」

鳥LP3200 2800

「ブリザードの効果で墓地から黒槍のブラストを召喚!さらにリビングデッドの呼び声!鉄鎖のフェーン召喚!!レベル2の鉄鎖のフェーンとレベル4の黒槍のブラストに、レベル2の極北のブリザードをチューニング!吹き荒べ嵐よ!鋼鉄の意志と光の速さを得て、その姿を昇華せよ!シンクロ召喚!BF - 孤高のシルバー・ウィンド!」

BF - 孤高のシルバー・ウィンド
シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK2800 / DF2000

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター2体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に表側表示で存在する、このカードの攻撃力よりも低い守備力を持つモンスターを2体まで選択して破壊する事ができる。

この効果を発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

また、相手のターンに1度だけ、このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「BF」と名のついたモンスターは戦闘では破壊されない。

「シルバー・ウィンドの効果でアンジールオブジェノバを破壊！
パーフェクトストーム！！」

アンジールオブジェノバが、黒光りする日本刀によって一刀両断された。

「シルバー・ウィンドの効果でこのターン俺は攻撃できない。ターンエンドだ」

女神カウンター 7つ

「この瞬間、楽園への扉に7つ全てのカウンターが乗った！！」

台座の窪みは、既に赤く光る玉で埋められていた。

「カードを2枚伏せターンエンド！！」

「俺のターン！このときを待っていたぞ！！俺はサイクロンを発動し楽園への扉を破壊！デッキからジェネシスオブジェノバを攻撃表示で特殊召喚！！！！」

ジェネシスオブジェノバ（オリジナル）

効果モンスター

星12 / ATK4400 / DF4000

このカードは通常召喚できない。このカードは「楽園への扉」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

このカードが存在する限り相手は魔法・罫を発動する度800ポイントのダメージを受ける。

このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの

元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

このカードは魔法・罠の効果によって破壊されない。

このカードの攻撃対象となったモンスターの効果は無効となる。

「ジエネシスオブジェノバでアーマード・ウイングを攻撃！」

張るとの声に共鳴し、巨大な魔神がその手に持つ剣を掲げた。

「残念だったな！アーマード・ウイングは戦闘で破壊されない
がああああああああああああああああああ！！！！」

巨大な一閃を受けたアーマード・ウイングは何とか耐えたが、振り下ろされた剣がそのまま烏に直撃した。

烏LP2800 1300

「ジエネシスオブジェノバが攻撃するとき、モンスター効果は発動しない。そういえばシルバー・ウインドの効果があっただ。残念」

「つぐ……がはっ！！……」

あまりの衝撃に烏は血を吐き、一瞬だが意識も失った。
全身がこれ以上動くなとガンガン警報を鳴らしている。

「さて、この状況を打開する手はあるのかな？君の場には攻撃力で劣るシルバー・ウインドとアーマード・ウイングだけだ。勝てるわけないね。カードを1枚伏せてターンエンド」

（いや。今までの戦いを考えれば……）

「俺の、ターン……ドロー……」

……たしかに……もう、シンクロモンスターもない……
手札だって、確かに、準備はできる。けど、その後が存在しない……。

『……ゼ……』

……え？

『カ……ゼ……ヲ……』

カ……ゼ……風？

『風を！！』

その声はつきり頭に響いたとき、俺の周りを黒い風が吹き荒れていた。

そして俺は自分のデュエルディスクを見た。

赤い、レッド生徒専用のデュエルディスクが黒く染まる。

そして、新たな力が現出する。

「お、れは……BF・東雲（あづな）の（し）コチを、召喚……さらに、黒槍の
ブラストを、特殊召喚……」

ほとんど放心状態とも言える意識の中。ふらふらと揺れながら、
さらに言葉をつなげる。

「ディスクの色が変わった……やはり」

「レベル4の東雲のコチに、レベル4の黒槍のブラストを、チューニング。黒き疾風よ。秘めたる想いをその翼に現出せよ。シンクロ召喚……！！舞い上がれ、ブラックフェザー・ドラゴン……！！」

黒い翼を広げ、烏の、新たな力。ブラックフェザー・ドラゴンが舞い上がった。

ブラックフェザー・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 1600

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分がカードの効果によってダメージを受ける場合、代わりにこのカードに黒羽カウンターを1つ置く。

このカードの攻撃力は、このカードに乗っている黒羽カウンターの数×700ポイントダウンする。

1ターンに1度、このカードに乗っている黒羽カウンターを全て取り除く事で、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力を黒羽カウンターの数×700ポイントダウンし、ダウンした数値分のダメージを相手ライフに与える。

「さらに、俺は罫カードBF・アンカーを発動」

BF・アンカー

通常罫

「BF」と名のついたモンスター1体をリリースし、自分フィールド上に表側表示で存在するシンクロモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターの攻撃力はエンドフェイズ時まで、このカードを発動するためにリリースしたモンスターの攻撃力分アップする。

「だがジェネシスオブジェノバの効果で発動を800のダメージを与える!!!」

魔神から放たれた羽を持つ生物が、鳥に向かってくる。

だが、その攻撃はブラックフェザー・ドラゴンによって全て止められた。

「ダメージ・ドレイン・・・ブラックフェザー・ドラゴンに黒羽カウンターを乗せ、ダメージを0にする。アーマード・ウィングをリリースし、ブラックフェザー・ドラゴンの攻撃力をあげる」

ブラックフェザー・ドラゴン

ATK2800 2100 4600

「さらに・・・速攻魔法、BF ラスト・ウィンド」

BF ラスト・ウィンド(オリジナル)

速攻魔法

自分フィールドに存在する「BF」と名のついたモンスターまたは「ブラックフェザー・ドラゴン」を選択し発動する。

このターン選択したモンスターの攻撃力は2倍になる。
エンドフェイズ時、選択したモンスターを破壊する。

「そして、再び・・・ダメージ・ドレイン!」

ブラックフェザー・ドラゴン

ATK4600 3900 7800

「ブラックフェザー・ドラゴンの、もう一つの効果・・・発動、
ブラック・バースト!!」

鳥の声とともに、ブラックフェザー・ドラゴンから黒い波動が放
たれ、魔神から力を奪った。

ジェネシスオブジェノバ

ATK4000 2600

「ブラックフェザー・ドラゴンで、ジェネシスオブジェノバを・
・攻撃」

そしてその瞬間、鳥の足に力が抜け、両膝を地面につけた。しか
し、完全に勝負をつけるべく、全身の力を振り絞り、呟く。

「ノーブル・ストリーム」

真っ直ぐと放たれた赤い咆哮が、魔神を砕き、全てを終わらせた。
はずだった。

「畏発動。哀れな英雄の最後」

哀れな英雄の最後（オリジナル）

畏

攻撃力の変化したモンスターが破壊され墓地へ送られたとき発動
可能。

互いに戦闘を行うモンスターを破壊し、その攻撃力の合計分のダ
メージを受ける

「やっぱり、警戒して正解だった。かな？」

烏LP13000

ハルトLP15000

ブラックフェザー・ドラゴンの最後の攻撃が届くと同時に、2人を黒い炎が襲った。

t u r n 1 8 : 砕けゆく力！吹き荒れる黒い風！！（後書き）

という訳で最終決戦セカンドバトルです！ようやくって感じで自分感動してます！（はぁ？）

しかし・・・このまま行くと次、4人目？

感想、指摘、リクエスト。ガシガシお待ちしています。

turn 19：帝vs罪！真なる力

鳥、影月、嵐の3人が死闘を繰り広げていたのと同時刻。黒炎の外では……。

「ゆけえオルトロス！ダイレクトアタックじゃー！」

「ぐもおー！！」

ゾンビ兵LP12000

「ザボルグでとどめだあー！！」

ゾンビ兵×3LP0

残された佐助、夕夜がこれでもかというほどの死闘を繰り広げていた。

「佐助やるじゃねえか！きめたぜ！お前を俺のチームに入れる！！」

「ありがたい言葉じゃ！感謝するぞい」

メンバー増量の会話をしながらも二人の周りでは敵兵たちが次々宙へ舞い上がっていた。

そんな会話から数分後の出来事。

「はあ、はあだいぶ片付いてきたのう」

「なんだよ。もうばてたのか？まだまだこれからだぜ」

夕夜の底なしの体力に佐助は心底驚いた。

「ん？生身の奴か。今度はあいつの相手してくる！！」

「ま、待つんじゃ夕夜！一旦休憩を」

「戦場のど真ん中で何言ってるんだよ！よっしゃあデュエルだ！」

黄色い髪の少年はくすりと笑いながら頷いた。

あの顔どこかで？と佐助が疑問を抱いたとき。

「デュエル！！」

2人を紫炎の炎が取り囲み、戦いは始まった。

夕夜LP4000

ハルト(黄)LP4000

先攻 夕夜

「俺の先攻、ドロ！カードを2枚セット。異次元の女戦士を召喚してターンエンドだ！」

異次元の女戦士

効果モンスター

星4/ATK1500/DF1600

このカードが相手モンスターと戦闘を行った時、そのモンスターとこのカードをゲームから除外する事ができる。

「僕のターン。傲慢 ルシファー・プライドを特殊召喚」

傲慢 ルシファー・プライド（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK0 / DEF0

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは相手の攻撃対象にならない。

自分フィールドにこのカードのみ存在するとき相手は直接攻撃することができない。

このカードは相手の魔法・罠の効果では破壊されない。

モンスターがフィールドを離れたとき、このカードにプライドカウンターを1つ乗せる。

「ん・・・何か変なモンスターが出てきたな」

「プライド・・・傲慢じゃと!？」

炎の外でデュエルを見ていた佐助は驚愕した。

「デーモンソルジャー召喚。カードを1枚セットしてターンエンド」

「やはりあの者、髪の色は違うが奴らのリーダーの」

そう呟いたとき、佐助の周りを紫炎の炎が包んだ。

「ふふふ。気付いたみたいだけどダメ。貴方の相手は私達よ」

「今回の相手も女子か。ラッキー」

「さあて。ワンサイドゲーム一方的虐殺の始まりだ」

紫炎の中に立っていた他の3人は色欲、憤怒の塔を守っていた霧島浩介、長和蘭、島池洋介の3人であったが、佐助がその事を知る由もない。

「何者かは知らぬが、相手になろうぞ!!」

一方、そんな事が外で起こっているなど知る由もない夕夜の戦い。

「オレのターン！永続罨マクロコスモス。さらに異次元の女戦士をリリースし、雷帝ザボルグ召喚！その効果により、てめえの場のデーモンソルジャーを破壊してダイレクトアタック!!」

雷の槍がハルトに届く寸前。

「攻撃の無力化!!」

槍は異次元に吸収された。

「く〜。やっぱりそううまくはいかないか。ターンエンド」

プライドカウンター 1

「僕のターン。そういえば貴方にいい事を教えてあげましょう」

「?」

「僕のデッキには七罪のカードが4枚入っています。怠惰、嫉妬、暴食そして傲慢っていい事でもなんでもないですよね」

「・・・ナニ言ってるのか、よくわかんねえぞ?」

「ごめんなさい。気にしないで下さい忘れてもらっても結構です」

「そ、そうか」

「あ、僕のターンですよ。スケープゴートを発動してターンエンドです」

ハルトの場に4対の羊が現れた。

(どうやら彼は七罪のカードを見るのはこれが初の様ですね。しかも僕が誰かも分かっていないようですし)

「オレのターン！二重召喚発動！異次元の生還者召喚してリリース！邪帝ガイウスを召喚して2体でトークンを攻撃！！ガイウスでもう一体を攻撃！！ターンエンド」

邪帝ガイウス

効果モンスター

星6 / ATK2400 / DF1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、フィールド上に存在するカード1枚を除外する。

除外したカードが闇属性モンスターカードだった場合、相手ライ

フに1000ポイントダメージを与える。

プライドカウンター 4

「……はあ」

自分のターンが回ってきたとき、ハルトは軽く溜め息をついた。

「まさかこうもうまくいくとは、逆に拍子抜けしますね」

「？」

「貴方、傲慢の意味を知ってますか」

「知らん」

即答だった。

「おごりたかぶって人を見くだすこと。また、そのさま。だそうです。じゃあそんな力を使ってどう勝てるのでしょうか？僕はその力をどうプラスに使っているのでしょうか？」

「……」

「簡単です。僕ではなく相手が見下せばいい。七罪のカードがまさかこんなに弱いだ何て、と思ってもらえばいい。魔法発動。プライドオブダーク」

プライドオブダーク（オリジナル）

魔法

自分フィールドのプライドカウンターの乗ったモンスターをすべて破壊する。

エクストラデッキから強欲、暴食、怠惰、嫉妬、色欲、憤怒、傲慢と名のつくモンスターをカウンターの数だけ特殊召喚する。

「僕はデッキから嫉妬 エンヴィー・レヴィアタン、暴食 グラトニー・ベルゼブブ、怠惰 スロウス・ベルフェゴールを呼び出す！！」

怠惰 スロウス・ベルフェゴール（オリジナル）

レベルマイナス7 / ATK0 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードがフィールド上に表守備表示で存在する限り、特殊召喚できない。

このカードが表守備表示で存在するとき、レベル5以下の闇属性モンスターの効果は無効となる

嫉妬 エンヴィー・レヴィアタン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK2800 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体

このカードの召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

・手札を1枚捨てることで相手フィールドのカード1枚を破壊することができる。

・デッキからカードを墓地に送ることで相手の手札を1枚破壊することができる。

暴食 グラトニー・ベルゼブブ（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK3000 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体・ダークチューナー

このカードが相手モンスターを破壊したとき、破壊したモンスター

1の攻撃力分ライフを回復する。
バトルフェイズをスキップすることでカードを1枚破壊できる。

ハルトの場に、3人のデュエリストを絶望の淵へ追いつめた体の悪魔が光臨した。

「畏発動！和睦の使者！これで俺のモンスターは戦闘で破壊されないし、ダメージは0だ！！」

「けど、嫉妬 エンヴィー・レヴィアタンの効果。手札2枚を破壊して、帝2体を破壊」

影月を苦しめた悪魔の攻撃が、帝を葬り去った。

「そして、嫉妬、暴食でダイレクトアタック」

「なっ！？ダメージはねえのに」

「デュエルではね。けど現実には痛みがある」

巨大な悪魔達の攻撃が夕夜の体をなぎ払った。

「ぐ、おおおお！がっ！！っどは！！！」

吹き飛ばされた夕夜は壁と地面に何度も叩きつけられた。

しかし、和睦の使者のおかげか、軽い擦り傷程度の傷しか負わなかった。

「つつ。・・・やるな、お前、俺の予想通りだ」

「予想通り？」

「ああ。だって俺、お前が弱そうだ何て一度も思わなかったもん」
その一言に、ハルトは多少の疑問を抱いた。

今まで僕のこのデッキを見た者は、ほんの一瞬でも自分は勝てる
と思ったものばかりだった。

少なくとも、傲慢だけが出たときにはそう思うのが普通だろう。
しかし、今のこいつの発言はまるで

傲慢が出たときも僕は強いと思っていたみたいじゃないか。

「・・・僕のターンは終わっていないよ。残念だけど君の勝つ確
率を0にさせてもらう。君に敬意を称して、このカードを呼ぼう！
3体のモンスターをリリースし、罪深き者 *Shin* を召喚！」

罪深き者 *Sin* (オリジナル)

レベル12 / ATK0 / DFO

このカードは通常召喚できない。

自分フィールドの強欲、暴食、怠惰、嫉妬、色欲、憤怒、傲慢と
名のつくモンスターを任意の数だけリリースして特殊召喚する。

このカードの攻撃力はリリースした強欲、暴食、怠惰、嫉妬、色
欲、憤怒、傲慢と名のつくモンスター1体につき1000ポイント
アップする。

このカードは魔法・罠の効果を受けない

このカードが相手モンスターを攻撃したとき、このカードの攻撃
力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「すっげえ。すげえ！かっけえ！！こんなモンスター始めてみた
ぜー！」

本来なら絶望を呼ぶ罪人の姿を見て、夕夜は興奮していた。
これは、デュエリストとしての性なのか、はたまたただのバカなのか。

「僕はターンエンドです。さあ見せてください！貴方の力を！」
このとき、ハルト自身も気づかぬうちに、ハルトは変わっていた。
単純に、純粹に、感情的に、夕夜とのデュエルを心から楽しんでいた。

セブンス・シンのリーダーである事を忘れ、決死の戦いである事を忘れ、自分が造られた偽者である事を忘れ・・・

「ああ！行くぜ！俺のターン！！この瞬間、異次元の生還者が戻ってくる！さらにチューナーモンスター・ディメンション・マジシャンを召喚！」

ディメンション・マジシャン（オリジナル）

チューナー

レベル2 / ATK 1200 / DF 700

このカードをシンクロ素材とする場合、素材とするモンスターは除外されたモンスター1体で無ければならない。

「コイツはまだ嵐たちにも見せてないとおきだ！除外されたレベル6の邪帝ガイウスにレベル2のディメンション・マジシャンをチューニング！！異次元を統べる王。今空間を切り裂き、我が前に光臨せよ！！シンクロ召喚！！次元帝クロノス！！！」

次元帝クロノス（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 2100

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの召喚に成功したとき、フィールド上に存在するモンスター1体を除外する。

このカードの攻撃力は除外したモンスターの攻撃力分アップする。

「クロノスの効果により、罪深き者 Shinを除外！攻撃力3000アップ！！」

次元帝クロノス

ATK2800 5800

「・・・うん。やっぱり、僕の相手が君でよかったよ・・・本当に楽しかった」

「俺もだぜ！クロノスでダイレクトアタック！！空・断・絶・輪！！」

ハルトLP4000 0

そうして、夕夜は敵の名を知らぬまま、何の危なげも無く、勝利した。

「・・・つく・・・」

その頃、外で3人の相手をしている佐助は絶対のピンチに追い込まれていた。

ライフは1000以下にしたものの、相手フィールドには色欲

ラスト・アスモデウス、マシンナーズ・フォートレス、憤怒 ライス・サタンが揃っていた。対する佐助の場にモンスターはおらず、ライフも既に500しかなかった。

「さうしてお嬢さん。この状況、どう覆すかな？」

「・・・はあ・・・わしのターン！ドロー！！・・・こ、このカードは、そうかならば、わしに従うが良い！！魔法カードカードダーク・サモンを発動！！デッキからダークチューナー、ナイトメア・グリードを特殊召喚！その効果でミラージユを特殊召喚してダークチューニング！我がうちに眠りし闇の力。我が命に従い、敵を葬れ！ダークシンクロ！いでよ強欲 グリード・マモン！！！」

強欲 グリード・マモン（オリジナル）

レベルマイナス8 / 闇属性 / ATK 3600 / DF 3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

1ターンに1度相手フィールドのモンスター1体のコントロールを得る。エンドフェイズ時、そのモンスターのコントロールを手札を1枚墓地へ送り相手フィールド上の魔法・罨ゾーンのカードを全て破壊する。

このカードは相手プレイヤーを直接攻撃することができる。

このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

このカードの召喚に成功したとき、墓地に存在するダークチューナーと名のつくモンスター1体の効果を得る。

このカードが召喚されたターン、このカードはダークチューナー以外の効果を使用できない。

「・・・なに！！！！？」

己をのっとなっていた悪魔を、佐助は呼び出した。
目の前にいる敵を、倒すために！！

「ば、バカな」

「私達以外に何故七罪のカードを」

「墓地のナイトメア・グリードの効果を選択しその効果を発動！
！わしの墓地から死神幻影ミラージユを特殊召喚しリリース！死神
獣ケルベロスと死神魔獣オルトロスを我が元へ呼び戻す！！」

戦略は強欲と同じ、だが佐助の目の輝きは強欲などとは比べ物にな
ら無い物だった。

「バトル！！オルトロスで憤怒、色欲を破壊し、グリード・マモ
ンでマシンナーズフォートレスを破壊！！」

「ぐああああああああ」

洋介 L P O

「さらにケルベロスで、残りの2人とどめじゃああああああ
ああああああああああああ！！！！！！！！！！」

「うああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

蘭・浩介 L P O

「……それと、わしは女ではなく男じゃ」

勝負のついた後、佐助はポツンと呟いた。

turn 19：帝vs罪！真なる力（後書き）

どうも初めての方及び何回目の方、雪無サントです。

戦いの同時進行というものを始めて書いたのですがいかがだったでしょうか？おかしな点多いと思いますですが最後まで読んでいただけのなら光栄です。

という訳で、次はいよいよ本当のラスとバトルです！！（・・・
5人目とか言い出さないよな・・・）

t u r n 2 0 : 幻魔を超えた闇 (前書き)

今回でこの章は終了です。長かった。はつきり言って長かった。

追伸、この小説のアクセスが50000を超えました！本当にありがとうございます！！！！

turn20：幻魔を超えた闇

嵐LP4000

ハルトLP4000

先攻 嵐

「俺の先攻、ドロー！ステイングガードナーを召喚！ステイングガードナーの効果によりステイングソルジャーを特殊召喚しチューニング！シンクロ召喚！！来い！ステイングナイト！！」

ステイングガードナー

チューナー

星3 / ATK500 / DF 1800

このカードの召喚に成功したとき、デッキから『ステイング』と名のつくモンスターを特殊召喚できる。

このモンスターをシンクロ素材とする場合、『ステイング』と名のついたモンスターのシンクロ素材にしか使用できない。

ステイングソルジャー

星4 / ATK1200 / DF 1000

ステイングナイト

シンクロ

星7 / ATK2700 / DF 2500

「ステイングガードナー」+チューナー以外のモンスター1体以上

このモンスターの特殊召喚（またはシンクロ召喚）に成功したとき、墓地の『ステイング』と名のついたカードの枚数×800Pの

ダメージを相手ライフに与える。

「そしてステイングナイト効果！墓地の『ステイング』と名のついたカード1枚につき相手に800のダメージを与える！！」

「くっ！ぐはあ！！」

ハルトLP4000 2400

「さらに二重召喚を発動！バブル・ナイトを召喚！」

バブル・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK800 / DF800

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを1枚ドロースするドロースしたカードがレベル4以下のモンスターだった場合、そのモンスターを特殊召喚する。それ以外だった場合、デッキの一番下に戻る。

「バブル・ナイトの効果により、カードを1枚ドロースする！……ドロース！引いたカードはマックス・ウォリア、よって特殊召喚！」

マックス・ウォリアー

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF 800

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊した場合、次の自分のスタンバイフェイズ時までこのカードのレベルは2になり、元々の攻撃力・守備力は半分になる。

「レベル4マックス・ウォリアーにレベル3バブル・ナイトをチ

ユーニング！水の力、戦士に宿りて新たな力と為せ！シンクロ召喚！撃ち抜け、バブル・スナイパー！」

嵐の場にライフルを構えた戦士が現れた。

バブル・スナイパー（オリジナル）

星7 / ATK2800 / DF2600

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、手札のモンスターを墓地へ送り、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。このターンのエンドフェイズまで選択したモンスターの攻撃力を墓地に送ったモンスターの攻撃力分ダウンする。

攻撃表示のこのカードが攻撃対象となったとき、このカードを守備表示にすることができる。

「カードを2枚伏せてターンエンド！」

「手札をほとんど使って上級モンスターを2体呼びましたか。さすがに必死ですね」

「そりゃどうも」

相手はセブンス・シンのリーダー。出し惜しみなんかしてられない。

「では、僕のターン。バイス・ドラゴンを特殊召喚し、チューナーモンスター、カオスエンドマスターを通常召喚」

バイス・ドラゴン

効果モンスター

星5 / ATK 2000 / DF 2400

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、

このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚したこのカードの元々の攻撃力・守備力は半分になる。

カオスエンドマスター

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 1500 / DF 1000

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキからレベル5以上で攻撃力1600以下のモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「見せてあげます。邪神と幻魔が生み出した新たな神を。レベル5のバイス・ドラゴンにレベル3のカオスエンドマスターをチューニング！闇と闇重なりて混沌の魔王光を砕く。シンクロ召喚！闇呼びし神、幻魔神バアル！！」

ハルトの宣言と共に、黒い球体が出現した球体の上部には、紅い瞳の魔神の上半身がついている。

幻魔神バアル（オリジナル）

星8 / ATK 3800 / DF 3000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの攻撃力・守備力は、フィールド上に表側表示で存在する「幻魔神バアル」を除く、攻撃力が一番高いモンスターの攻撃力分アップする。

このカードのシンクロ召喚または特殊召喚に成功したとき相手の手札をすべて破壊する。

このカードをシンクロ召喚した次のターン、シンクロに使用したモンスターを特殊召喚する。この効果で召喚したチューナーのレベルは1上がる。

このカードが破壊された次のターン、墓地のこのカードを特殊召喚する。

「幻魔・・・神？」

「そのとおり。これこそが邪神と幻魔が融合した神。正直、僕自身驚いているんですよ。一足早くここへ来て、カードと対面してみれば、なんと新たに3枚のカードが現れたんですから。これが闇の力ですかね？では、幻魔神の力、とくにご覧下さい。バアルの効果で君の手札を全て破壊」

「つち！」

俺の残り少ない手札が全て墓地へ送られた。

「さらにフィールドの最も高い攻撃力をバアルの攻撃力に加算」

幻魔神バアル ATK 3800 6500

「攻撃力6500！？ふざけてるにも程があるだろ！！」

「バトル。幻魔神バアルでバブル・スナイパーを攻撃」

「ッ！！バブル・スナイパーの効果でこのカードを守備表示に変更し、永続罨スピリットシールドを発動！！墓地のステイングソルジャーをゲームから除外して戦闘での破壊を無効にする！」

スピリット・シールド（オリジナル）

永続罫

墓地のモンスターをゲームから除外することでバトルでのモンスターの破壊を1度だけ無効にする。

「さすがは僕の部下を倒した人だ。カードを1枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！異次元の宝札発動！ステイングソルジャーを墓地へ戻し、カードを2枚引く。ドロー・・・行くぜ、ライトニング・ボルテックス発動！手札を1枚捨ててお前の場のモンスターを全て破壊する！！」

轟く雷が、幻魔神バアルを焼き尽くした。

「お前の場はこれでから空きだ！とどめだ！いっけえ！バブル・スナイパー、ステイングナイトでダイレクトアタック！！」

「つ速攻魔法、皆既日食の書。君のモンスターを全て裏守備にする」

「つちターンエンド」

そしてエンドフェイズに俺はカードを2枚引いた。

クラウン・ナイトに聖なるバリア ミラーフォース か・・・この手札なら

「僕のターン。この瞬間墓地に存在する。幻魔神バアル、バイス・ドラゴン、カオスエンドマスターが復活する」

「なにいい!!?」

ハルトの場に再びモンスターが3体現れた。

「さらに幻魔神バルの効果で手札を全て墓地へ送ってもらおうよ」

「つくそ! いい手札だったのに」

あいつにとって、俺にドローさせることになんのデメリットもないってことか。

「けど攻撃はさせねえぞ!俺は畏カード威嚇する咆哮を発動!!」

「別にこのターン攻撃できなくなっただけいいけどね。レベル5のバイス・ドラゴンにバルの効果でレベル4となったカオスエンドマスターをチューニング!闇と闇重なりて混沌の魔王光を砕く。シンクロ召喚!光飲みし神、幻魔神ヨルムンガンド!!」

幻魔神ヨルムンガンド(オリジナル)

星9 / ATK4000 / DF3000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードのシンクロ召喚または特殊召喚に成功したとき相手フィールド魔法・罨ゾーンのカードをすべて破壊する。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

このカードをシンクロ召喚した次のターン、シンクロに使用したモンスターを特殊召喚する。この効果で召喚したチューナーのレベルは2上がる。

このカードが破壊された次のターン、墓地のこのカードを特殊召喚する。

そして今度は、龍の形造られた骨の巨獣が出現した。

「……2体目か」

「幻魔神ヨルムンガンドの効果で、君の場のスピリット・シールドを破壊するよ。場合によったらそれは無敵の盾になるしね。カードを1枚伏せてターンエンド」

そうして、今度はスピリット・シールドが破壊された。手札破壊に魔法・畏破壊。抜け目がないなんてもんじゃない。コイツは、俺がしうる全ての可能性を潰す気だ。

「俺のターン、ドロ。天よりの宝札発動。互いに手札が6枚になるようドロする」

天よりの宝札（原作）

通常魔法

互いのプレイヤーは手札が6枚になるようにカードを引く。

「捨てた分を一気に取り返しましたか」

「6枚ありや十分対抗できるだろ。俺は装備魔法、舞風金色メダルの首飾り（ペンダント）をバブル・スナイパーに装備！」

舞風金色メダルの首飾り（ペンダント）

装備魔法

このカードは装備した時、コイントスを行う。効果はそのコイントスで決る

表 モンスターの攻守を、500ポイントを上げ相手のモンスター

「効果を無効にする。」

裏 モンスターの攻守、を500上げ相手のモンスターすべてを破壊する

「首飾り（ペンダント）の効果でコイントス・・・コインは表！
よってお前の場のモンスターの効果を無効にする！！」

さすがにもとの攻撃力じゃ叶わないが、効果がなくなりや幾分やりやすくなる。

「・・・なかなか、ですね」

「さらに手札のバックアップ・ウォリアーを墓地へ送り、バブル・スナイパーの効果発動！スプラッシュ・ショット！！」

バブル・スナイパーの弾丸がバアル力をさらに弱めた。

幻魔神バアル ATK 3800 HP 1700

「バブル・スナイパーで幻魔神バアルを攻撃！スプラッシュ・スプレッド！！」

「・・・やりますねえ」

ハルト LP 2400 HP 800

「これでめえのライフは残りわずか！さらに俺はステイングナイトをリリースし、ターゲット・ウォリアーを特殊召喚！！」

ターゲット・ウォリアー

効果モンスター

星5 / ATK 1200 / DF 2000

このカードは自分フィールド上に存在する戦士族モンスター1体をリリースし、

手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚したこのカードの攻撃力は、リリースしたモンスターの元々の攻撃力分アップする。

「特殊召喚したターレット・ウォーリアの攻撃力はステイングナイトの攻撃力2700が加算される！」

ターレット・ウォーリア ATK 1200 3900

「そして！ダークネス・ナイトを通常召喚だ！！」

ダークネス・ナイト（オリジナル）

星3 / ATK 1000 / DF 1300

このカードがシンクロに使用されたとき、デッキからカードを1枚引く。

「レベル5のターレット・ウォーリアにレベル3のダークネス・ナイトをチューニング！！友との絆が、新たに輝く星となる！シンクロ召喚！飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン！！」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー＋チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罫・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「・・・来ましたね。あなたのエースモンスター」

「ダークネス・ナイトの効果でカードを1枚引く！カードを2枚伏せてターンエンドだ！」

あれだけの劣勢をたった1ターンで凌いだ。さすがにできる人だ。しかし、僕も負けるわけには行かない。

「僕のターン、ドロ。手札から速攻魔法サイクロンを発動し、キミの場の 舞風金色メダルの首飾りを破壊！」

「しまった！！」

「さらに墓地から幻魔神バアルと二体のモンスターを復活させる！バアルの効果で手札をすべて破壊する！！」

「そうはさせねえぞ！スターダストの効果！ヴィクテム・サンクチュアリ！！」

スターダストがバアルから放たれた波動を受け止め、バアルごと消え去った。

「ッ！しかしコレで君の最後の希望は封じた！レベル5のバイス・ドラゴンにヨルムンガンドの効果でレベル5となったカオスエンドマスターをチューニング！闇と闇重なりて混沌の魔王光を砕く。シ

ンクロ召喚！破滅呼びし絶望の神、幻魔神エンドレス！！」

幻魔神エンドレス（オリジナル）

星10 / ATK4400 / DF4000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードのシンクロ召喚または特殊召喚に成功したとき相手フィールドのモンスターをすべて破壊する。

このカードのシンクロ召喚または特殊召喚に成功したとき相手に1000ポイントのダメージを与える。

自分フィールド上に存在する「幻魔神」と名のつくモンスターを破壊し、相手に800ポイントのダメージを与える。

このカードが破壊された次のターン、墓地のこのカードを特殊召喚する。

そして、幻想的にして、絶望的な神。形すら満足にできていない最強の邪神が光臨した。

「では、まずは手始めに、エンドレスの効果発動。キミに場のモンスターをすべて破壊し、1000ポイントのダメージを与える」

「なにッ！？ああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！」

嵐LP4000 3000

そう告げたと同時、俺の足元から炎の柱が上がった。いや、炎かどうかすら、俺は認識できなかった。ただ俺の全身を駆け巡ったものは激痛。目の前が真っ白になるほどの痛み。

「ふふ、すさまじいでしょ。・・・しかし、あらためて見ると、

なかなか爽快な光景ですね。こんな悪魔達が僕の願いをかなえてくれると思うと、少し複雑な気分ですが」

「ね、願い？」

「ええそうです。ちょっと聞かせてあげます」

そう言って、ハルト語りはじめた。

「僕には一人の恋人がいました。とてもやさしく、とても美しい。最高の恋人でした。彼女という時間が僕の幸福だった。彼女こそが僕自身のすべてだった。そんなあるときです」

ハルトは、ひどく悲しげな声で

「彼女はとある事故に遭い行方不明となりました」

そう告げた。

「僕はその日から必死で彼女を探しました。事故の起こった近辺、彼女が行きそうな場所、しかし、どこを探しても彼女は見つからなかった。だから僕は誓った！必ず彼女をこの手に取り戻すと！この幻魔神の力を使い、彼女を生き返らせると！！！」

「・・・チヨイ待ち」

「・・・なんですか」

「その彼女は行方不明なんだろう？なのに生き返らせるなんて、死んでもいないのにそんなこと」

「キミは本当に純粹だ。純粹で人の心の闇を知らない！確かにそうかもしれない。彼女は生きていかもしれない、けども僕はそんな希望すら持てない！！彼女が生きていると、そう思い続けることができない！！！」

その言葉は、聞いているほうがつらくなる様な、言葉だった。彼がすでに限界まで達しているのだと、一瞬で理解できた。

「だから僕の邪魔はさせない！邪魔をするならだれであろうと消す！！！」

「畏発動！覇者の一括！これでこのターンは凌いだぜ」

「ならば、幻魔神エンドレスの効果発動！！エンドレスとヨルムンガンドを破壊して、1600のダメージを与える！ヘル・エンドレス！！！」

「がああああああああああああああああ！！！！！」

嵐LP3000 1400

「1枚伏せてターンエンドですが、僕の次のターン、3体の幻魔神がよみがえる」

「その前に、墓地のスターダストが復活する！！！」

「なら永続罨リビングデッドの呼び声を発動！墓地から幻魔神ヨルムンガンドを復活させる」

俺の墓地からスターダストが舞い戻った。

「行くぜえ。俺のターン！チューナーモンスター救世竜 セイヴァー・ドラゴンを召喚！さらにチューナーが召喚されたことにより手札からリトル・ナイトを特殊召喚！」

救世竜 セイヴァー・ドラゴン

チューナー（効果モンスター）

星1 / ATK 0 / DEF 0

このカードをシンクロ素材とする場合、「セイヴァー」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

リトル・ナイト（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK 300 / DEF 500

自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、このカードを手札または墓地から特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

「レベル8のスターダストとレベル1のリトル・ナイトにレベル1の救世竜 セイヴァー・ドラゴンをチューニング！！集いし星の輝きが、新たな奇跡を照らし出す。光差す道となれ！シンクロ召喚！光来せよ、セイヴァー・スター・ドラゴン！」

セイヴァー・スター・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK 3800 / DEF 3000

「救世竜 セイヴァー・ドラゴン」+「スターダスト・ドラゴン」

+チューナー以外のモンスター1体

相手が魔法・罨・効果モンスターの効果を発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし、相手フィールド上のカードを全て破壊する。

1ターンに1度、エンドフェイズ時まで相手の表側表示モンスター1体の効果を無効化できる。

また、無効化したモンスターに記された効果をこのカードの効果として1度だけ発動できる。

エンドフェイズ時にこのカードをエクストラデッキに戻し、自分の墓地に存在する「スターダスト・ドラゴン」1体を特殊召喚する。

セイヴァー・スターの出現と同時に、再び嵐の目の下にマーカーが浮かんだ。

「セイヴァー・スターの効果発動！相手モンスターの効果を無効にし、その効果を得る！サブリメーション・ドレイン！！」

ヨルムンガンドの力を奪い、セイヴァー・スターは自らの力となった。

「しかし、まだ攻撃力に劣る。なんて言われてられませんよね」

「その通り！罨カードシンクロ・ストライクを発動！セイヴァー・スターの攻撃力1500アップ！！」

セイヴァー・スター・ドラゴン ATK3800 5300

「いっけえ！セイヴァー・スター・ドラゴン！シユールディング・ブラスター・ソニック！！！」

「こっちも君の都合に合わせる道理はないんだよ！！万能地雷グ

レイモヤー!!」

「つく、セイヴァー・スターもう一つの効果!このカードをリリースし、相手のカードをすべて破壊する!!ヴィクテム・オーバー!!」

セイヴァー・スターが光に包まれ、ハルトの場のカードがすべて吹き飛んだ。

「そしてエンドフェイズにスターダストが復活する!カードを1枚伏せてターンエンド!!」

「僕のターン!!」

「畏発動!威嚇する咆哮!これでこのターンもお前は攻撃できない!!」

「それがどうした!僕は墓地から3体の幻魔神を復活させ、君のカードをすべて破壊する!!」

「ツヴィクテム・サンクチュアリ!!」

スターダストの力でエンドレスの効果は何とか無効にした。

「手札からファイヤー・ボールを2枚使い1000ポイントのダメージ!!」

「な!?!う、うわああああああああああああああああ!!」

次々降りかかる炎弾に、俺は吹き飛ばされた。

「ターンエンドだ。コレが君のラストターンだ！例えスターダストで受け止めようがこれ以上のことは不可能！！」

「……………つく！！」

「あとそれから、他の二人も決着みたいだよ」

「ツ！！？」

ハルトが告げたと同時に、左右からとてつもない爆音がした。影月の方からは眩しいほどの光が見えた。影月は勝ったのだと確信ができた。だが、俺がそれ以上にはつきり見てしまったものは黒い炎に飲まれた、傷だらけの鳥の姿だった。

「鳥？鳥！からす！？鳥……………！！！」

「無駄だよ」

告げられた無常な一言。同じ痛みを味わったはずなのに、他人のそれには一切動じない。ココロが限界だったから。そんなことすら、もう分からない。

俺は目を閉じ、最後のカードを引いた。

「…………たとえ何度蘇ろうが、絶対にあきらめない。それが俺のデュエルだから。それがお前を救う方法だから！！」

「なツ！？」

「魔法カード、スパイラル〈運命螺旋零うんめいらせんぜろの書しょ〉 発動!!!」

スパイラル〈運命螺旋零の書〉

魔法カード

手札をすべてデッキに戻して発動、お互いにフィールド、墓地、除外、しているカードをすべてデッキに戻して5枚ドロし、お互いにライフが4000にする。

そのカードが何なのか一切分からなかったが、使い方だけは、頭の中にはつきり出ていた。

発動と同時にすべてのカードがデッキへ戻ってゆく。

「そんなバカな!? そのカードは、幻魔神が!?!」

全てが元に、最初に戻ってゆく。

嵐LP4000

ハルトLP4000

「・・・降り出しました同じことを繰り返す気が!?!」

「いいや。コレがラストターンだ! バブル・ナイトを召喚! バブル・ナイトの効果で、カードを1枚ドロ! スピード・ウォーリアを特殊召喚! レベル2のスピード・ウォーリアにレベル3のバブル・ナイトをチューニング! 水の力を秘めた戦士よ! 今ここに目覚める! シンクロ召喚! 水の騎士バブル・ブレイド! さらに神・勇者ゴッド・ブレイ剣を装備!」

バブル・ブレイド(オリジナル)

レベル5 / ATK 2300 / DF 2000

「バブル・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル2以下のモンスターの攻撃力分、相手モンスターの攻撃力をダウンさせる。

コックピット・ブレイブソーラー
神・勇者剣

装備魔法

戦士族のみ装備可能。守備力を0にするかわりに攻撃力を0にした守備力分の攻撃力がアップする

バブル・ブレイド ATK 2300 4300

「バブル・ブレイドでダイレクトアタック!!バブル・ゴッド・スラッシュ!!!」

「う、ああああああああああああああ!!!!!!」

ハルト LP 4000 0

俺は、俺たちは、勝利した。

ギシギシと悲鳴をあげる体に鞭を打ち、俺はハルトの前に立った。

「……これで本当に終わりだ。だけど彼女が生きてるってことを信じるのをやめるのはやめてくれ。俺も協力する。だから、信じたいよっせ」

「・・・そうですね。もう少しだけ、信じてみます。だけど君たちは別の手で」

そのとき、無人のD・ホイールが俺たちのところへ突っ込んできた。

間一髪のところではけたが、ハルトはそのままD・ホイールに乗って走り去ってしまった。

「行っちゃったか・・・キュ〜（ボタン）」

安心したせいか、今まで疲れが全て戻ってきた。痛い、疲れた、ヤバイ。

心配だった鳥の方も傷だらけではあったが無事なのが見えた。うすすらだが、鳥を守っている黒い竜が見えた。

「お〜い嵐、鳥〜」

「3人とも、勝ったんだね！」

「お主ら、良くぞやってくれたのう！」

「嵐くんもお兄ちゃんも皆、傷だらけじゃない!!」

黒炎が消え、外にいた皆が近づいてきた。

「まあ、何とか」

「俺は・・・分けだったけど」

「・・・ふん当然だ」

3人そろって、意外と元気じゃないか。

「戦いも終わったし、あとは、夏休みを待つだけだ！」

「そうだな！」

「うむ！」

「つらかったけど、こつから先は楽しみなことが山ほどある！！
それまでに怪我を治さないと」

「そういえば嵐くん」

「何だ祭？」

「嵐くんたちって追試があるんじゃないっけ？」

「「「「・・・あ？」「」「」」」

そう、いえば。

俺たち3人（俺、鳥、佐助）、この戦いの直前、何してたんだっ
け？

補習。何のために？

追試のために

「「「忘れてた――――」」」

「！！！！！！！！！！」

神様、願うことなら
補習を、無かったことにしてください。

その頃、海上の1隻の船にて

「そろそろ終わった頃か。・・・お、来た来た」

港から一台のD・ホイールが勢いよく飛び出し、スカルの乗っていた船に着地した。

「つよ。大将さん。どうだった」

「負けたよ。完敗」

「そうか、で収穫は？」

「約5名。闇に飲まれて戻ったものと新たな力に目覚めたものが4人スパイラルを手に入れたものが1人」

「・・・そうか」

スパイラルを・・・ふっ

「まあいい。この件は保留だそうだ。カードは手に入ったし一応は成功だしな。次の任務はウエスト校の地縛神だ」

「了解」

そうして船は、ウエスト校へ向かう。二人が誰の指令で動いているかは、まだ分からない。

t u r n 2 0 : 幻魔を超えた闇（後書き）

という訳で1章終わりました。次は夏休みに入るまでのちよつとした期間を困うと思っっています。・・・ココはそれほど長くしないつもりですよ？

あと切りもいいので、遊戯王の小説を書いている作者さんがたにずっと気になっていた質問があります（見ててくれるかな？）

皆さんが遊戯王の小説を書き始めたきっかけはナンですか？

自分は先に書いてた小説の番外を作ろうとして、気づいたら新作方向に移行してこの小説ができました。

長々といいましたが、読んでくださり本当にありがとうございます。ありがとうございました。

t u r n 2 1 : 親子喧嘩！戦いの予告（前書き）

今回は前振りみたいな感じになっています。

かなり短め（駄文）でデュエルもありませんが、よろしく願います。

turn 21：親子喧嘩！戦いの予告

「祝！俺達勝利アンド夕夜編入確定を祝って、かんぱーい！」

『かんぱーい！！！！』

セブンス・シンとの戦いから3日後。俺たちは戦いの勝利と新たな仲間が入ったことを喜び合っていた。

「……けが人は静かにしなさい！」

……保健室で

その後祭たちが追い出され俺たちが絶対安静を言い渡されたのは言うまでもない。ちなみに影月は祭りが消えたと大声で泣いていた。それから3日後

「んで、そのデュエルディスクがコイツだ」

「確かに色が変わってる。ちよつと見せて」

だいぶ怪我也も治って保健室から解放された俺たちは寮の部屋で先日のデュエルで起きたことについて話し合っていた。烏はカケルと一緒に黒く染まったデュエルディスクについて調べていた。

ちなみに現在俺の部屋の住人は俺、烏、夕夜、カケルの4人である……狭い。

「佐助とのデュエルで現れたのがこの2枚。で、ハルトとのデュエルで現れたのがコイツ」

「セイヴァードラゴンとセイヴァースター……この2枚は別におかしくはない。問題なのはコッチのカードだ」

「スパイラル……」

俺は夕夜に3枚のカードを見せていた。

「全てのカードをデッキに戻し今までのデュエルを無かったことにするカード。常識的に考えてあるはずがない」

「……だよな」

「まっ。考えてもしょうがねえ。きっとそのうち分かるって」

「人事だと思いやがって……確かにそうかもしんないけど」

そういうわけで、この話は保留となった。

「だから、このパーツを取り外して」

「違うよ。そこはそうじゃなくてこう」

一方で、烏カケルチームはさらに熱を上げていた。

『コンコン』

とさらに熱が上がる二人を見物していると、扉を叩く音が聞こえた。

十代さんか丸藤先輩だろうか。そう思いながら扉を開けた。

「はい。ドチラサンです・・・か・・・」

外に立っていたのは十代先輩でもなければ学園の者ですらなかった。

作業服を着たいかにも頑固オヤジという中年の男。

『だれだれ』とか子供みたいな喋り方をしていた夕夜、カケルもその姿を見た途端蛇に睨まれたカエルの如く硬直した。そんな中、烏だけはその男を睨んでいた。

「・・・お、オツチャン!!!!!!」

「・・・オヤジ」

そう。そこに立っていたのは、烏の実の父親。荒金玄作あらがねけんさくさんだつた。

あらがねからす
荒金烏

それが黒羽烏の本名だ。聞いたところだと、黒羽という名字は、家出先で世話になった人の名字らしい。まあそんな事はいいとして。

「・・・」

「・・・」

「・・・」

俺の部屋は重苦しい空気に飲み込まれていた。烏とオツチャン。この2人が睨み合ったまま一切言葉を発しないことがその原因である。

「（誰だ！？オツチャンに烏のこと教えたの！？）」

「（俺じゃないぞ！？）」

「（ゴメン。たぶん僕だ。父さんと母さんにメール送ったから）」

「（おめえかカケル！！）」

そんな2人の横で俺たちはぼそぼそと小声で話し合っていた。

なぜこんなにも烏の父親を恐れるか？それはあの人がかく蔵しいからだ。現代社会で考えれば貴重な存在かもしれないが、子供からすれば恐怖そのものだ。

烏の家出の原因もそれだと俺は踏んでいる。

「……今までドコへ行っていた」

重い空気の中、最初にオツチャンが口を開いた。

「……オヤジには関係ないだろ」

「コッチは今までお前が人様に迷惑かけてるんじゃないかと不安で夜も眠れなかったんだぞ」

「別に迷惑なんかかけてねえよ」

「おまえの言う事など信用できるか。現に今だって嵐くんたちに

迷惑をかけているだろう！」

「あの、おじさん？俺たち別に迷惑じゃ」

「黙つとれ！！」

「はい。すみません」

誰かこの空気何とかして！！

「結局、親父は何しに来たんだ？」

いやみたつぷりの声で烏が訊いた。おそらく烏もオツチャンが来た理由は分かっているのだろう。

「お前を連れ戻しに来た。それとカケルくんも一緒に来てもらうつもりだ」

やっぱり。

「いやだ。俺はこの学園の生徒だ。絶対にやめたりなんかしないぞ」

「親に何の相談も無く決めた入学など誰が認めるか。カケルくんもここに来るにはまだ早い」

オツチャンがそう言ってカケルのほうを向いた。その時、カケルはオツチャンに向かって頭を下げていた。

「おじさんお願いします！もう少しだけ、夏休みには必ず帰りま

す！だからもう少し嵐たちといさせてください！！」

「ダメだ。君の事で親御さんがどれだけ心配したのかわっているのか！ワシは君も連れてくると君の両親と約束しているんだ」

「・・・わかった」

オッチャンがそういったとき、不意に鳥が立ち上がった。

「だったらデュエルだ！親父が勝ったら俺とカケルは素直に帰るけど、俺が勝ったら俺がここにいることを認めてもらおう！カケルがここに残ることも認めてもらおうぞ！！」

「デュエルをやめさせようとしているワシが、何故デュエルを決着をつけなければならんだ」

たしかに！！

「だが、いいだろう。それで気が済むのなら相手をしてやる」

「・・・学園に専用のリングがある。30分後に開始だ」

「わしは校長に話をつけてくる。帰り支度をしておくのだぞ！」

そうしてオッチャンは部屋を出て行った。

t u r n 2 1 : 親子喧嘩！戦いの予告（後書き）

という訳で次回、子供VS親対決です。オヤジさんはどんなデッキを使うのか？そんなところを楽しみしていただけるとありがたいです。

あと当分の間こんな書き方が続くかもです。

・・・時間が欲しい

リクエスト、お待ちしています。

T U R N 2 1 : ひねくれ親子のデュエル(前書き)

前回からだいぶ経過しての投稿、本当に申し訳ありません。
ようやくの投稿です！

T U R N 2 1 : ひねくれ親子のデュエル

「つまり、あそこにおるのが、烏の父親というわけじゃない」

「そういうことだ」

場所は変わって学園内のデュエルリング。烏の応援をするために俺たちは観客席でデュエルが始まるのを待っていた。

「2人ともがんばれ〜！」

「烏くんがんばれ〜！」

烏の応援には俺たちのほかに十代さんに丸藤先輩、剣山も来ていた。

佐助も俺が連絡してすぐに駆けつけてくれた。 うん。佐助は今日もかわいいな。

「……あそこにいるのがお前の友人か」

「そうだけど。それがどうした」

「……いや。なんでもない。始めるとするか」

「上等〜！」

「デュエル〜！」

鳥LP4000

玄作LP4000

「どうしたのじゃ嵐？そんな怪訝な顔をして」

デュエルが始まったとき、俺が一人複雑な顔をしているのに佐助が気づいた。

「いや、オツチャンのことなんだけど、どうも大切なことを忘れてる気がして」

「大切なこと？」

「まあ、忘れてるくらいだからたいしたことじゃないと思うんだけど」

先攻 烏

「俺のターン、ドロー！BF - 黒槍のブラスト召喚！カードを1枚伏せてターンエンド！」

ブラックフェザー

BF - 黒槍のブラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「わしのターン、スクラップ・ゴブリンを守備表示で召喚。カードを1枚伏せてターンエンドだ」

スクラップ・ゴブリン

チューナー（効果モンスター）

星3 / atk 0 / df 500

フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された場合、バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついたカードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、「スクラップ・ゴブリン」以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

また、このカードは戦闘では破壊されない。

「な・め・くさつてええええ！！俺のターン！！ブラストでスクラップ・ゴブリンを攻撃！！ブラックスパイラル！！！！」

「罨発動！スウラップ・カウンター！」

罨の発動と同時にブラストの槍にひびが入った。

スクラップ・ゴブリンDF500 2500

スクラップ・カウンター

通常罨

フィールド上に守備表示で存在する「スクラップ」と名のついたモンスターが攻撃された場合、そのダメージ計算時に発動する事ができる。

攻撃された「スクラップ」と名のついたモンスターの守備力は2000ポイントアップし、バトルフェイズ終了時に破壊される。

「なにい！？守備力2500!？」

鳥LP4000 3200

「あ、思い出した」

そのやりとりを見たとき、俺はあることを思いだした。

「？嵐よ。何を思い出したのじゃ？」

「オツチャンはさ、デュエル初心者じゃないんだよ」

「それは真か!？」

「うん。俺と鳥はオツチャンにデュエルを教えてもらったし」

いやすっかり忘れてた。

「なぜそのようなことを忘れるのじゃ!？」

「・・・そんなことよりホラ！デュエル見ないと！」

なんだかすつごい恥ずかしくなってきたので佐助の意識を元に戻した。

「そしてバトルフェイズ終了時にスクラップ・ゴブリンは破壊される」

寄せ集めのパーツで造られたゴブリンがこなごなに砕けた。

「カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

「わしのターン！永続魔法スクラップ・オイルゾーンを発動！墓地のゴブリンを特殊召喚しリリース。スクラップ・ゴーレムをアドバンス召喚！さらにゴーレムの効果でゴブリンを再び召喚！」

スクラップ・オイルゾーン

永続魔法

自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターを墓地から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターの効果は無効化される。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールドを離れた時このカードを破壊する。

このカードを発動するターン、自分はバトルフェイズを行う事ができない。

スクラップ・ゴーレム

効果モンスター

星5 / ATK 2300 / DF 1400

1ターンに1度、自分の墓地に存在するレベル4以下の「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択し、自分または相手フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「レベル5のスクラップ・ゴーレムにレベル3のスクラップ・ゴブリンをチューニング！さあ仕事の時間だ！見せる町工場魂！シンクロ召喚！現れるスクラップ・ドラゴン！！！」

スクラップ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分及び相手フィールド上に存在するカードを1枚ずつ選択して発動する事ができる。選択したカードを破壊する。このカードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、シンクロモンスター以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して特殊召喚する。

「おい嵐よ！鳥の父上殿とんでもない手だれではないか！！」

「あはは、すつげえな。まだ2ターン目なのに」

「あはは、ほんとほんと」

オツチャンの見事な戦術を見た俺と夕夜は笑いながら感心していた。

「なぜお主らは笑っておるのじゃ!？」

「いやだつてすげえから」

「確かに負けたら鳥がいなくなっちまうけど。しょうがないっちゃしょうがないしな」

「そうそうあの人、昔から頑固だったからな」

「遅刻とか絶対許さない人だったし」

「赤点取ると拳骨だったしな」

嵐 赤点で追試 夕夜 遅刻で編入試験

「・・・・・・・・」

あれ？ひょっとして、俺らも連れ戻されるんじゃない？

「「鳥負けんじゃねえぞおおおおおおお！！！」」

「おう！まかせとけ！！」

友がいなくなるなんて考えられない。俺たちはあいつが勝つことを心から信じている。

「お主らの間には本当の友情があるのか？・・・」

佐助、そこはあんま気にしないでくれ

・・・まあ。デュエルに戻ろう

「スクラップ・オイルゾーンを使用したターンわしは攻撃できない。ターンエンド」

「俺のターン！BF - 疾風のゲイルを召喚！！」

BF - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の「BF」と名

のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分にできる。

「レベル4黒槍のプラストにレベル3、BF - 疾風のゲイルをチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF - アーマード・ウイング！」

BF - アーマード・ウイング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔力ウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔力ウンターを全て取り除く事で、楔力ウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「アーマード・ウイングでスクラップ・ドラゴンを攻撃！ブラック・ハリケーンー！」

「バカのことを、とは言わん。楔の為だな」

「その通り！楔も乗せた！俺はこれでターンエンドだ！！」

烏は十分な状態を作った。このまま行けば烏の勝ちだ。

「わしのターン。カードを1枚伏せスクラップ・ドラゴンの効果を発動。セットカードとアーマード・ウィングを破壊」

「……どちつくしょお!!!!」

アーマード・ウィングの破壊で鳥が切れた。

「そしてスクラップ・ドラゴンでダイレクトアタック!スクラッププレス!」

「だああああ!!」

鳥LP3200 400

「カードを2枚伏せターンエンド」

「こんのくそジジイがあ……俺のターン!!永続魔法、黒い旋風発動!さらにBF-蒼炎のシユラを召喚!黒い旋風の効果でそよ風のブリーズを手札に加え特殊召喚!!」

黒い旋風

永続魔法

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが召喚された時、自分のデッキからそのモンスターの攻撃力より低い攻撃力を持つ「BF」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる。

BF-蒼炎のシユラ

効果モンスター

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから攻撃力1500以下の「BF」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

BF - そよ風のブリーズ

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 1100 / DF 300

このカードが魔法・罫・効果モンスターの効果によって自分のデッキから手札に加わった場合、

このカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「BF」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「レベル4に蒼炎のシユラレベル3、BF - そよ風のブリーズをチューニング！大いなる風よ。全てを切り裂く翼となれ！シンクロ召喚！BF - 連撃のクロス・ウインド！」

BF - 連撃のクロス・ウインド（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2200 / DF 1900

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードは1ターンに2回攻撃することができる。

「そして楔カウンターを取り除くことでスクラップ・ドラゴンの攻撃力は0に！」

スクラップ・ドラゴン

ATK 0

「連撃のクロス・ウインドで攻撃!!!クロス・ハリケーン!!!」

一撃目の攻撃でスクラップドラゴンが切り裂かれた。

玄作LP4000 1800

「んで、こんどはダイレクトアタック!!!」

「スクラップ・ドラゴンの効果により墓地からスクラップ・ゴーレムを特殊召喚!」

寄せ集めの巨人がクロス・ウインドの行く手を妨害した。

「ッ!攻撃を中止!ターンエンド!!!」

「わしのターン。スクラップ・ビーストを召喚」

スクラップ・ビースト

チューナー(効果モンスター)

星4/ATK1600/DF1300

フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された場合、バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついたカードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、「スクラップ・ビースト」以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

「レベル5のスクラップ・ゴーレムにレベル4のスクラップ・ビーストをチューニング!シンクロ召喚!!!スクラップ・ツイン・ド

ラゴン!!」

首の二つついたスクラップ・ドラゴンがオツチャンの場に現れた。

スクラップ・ツイン・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星9 / ATK 3000 / DF 2200

「スクラップ」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分フィールド上に存在するカード1枚と相手フィールド上に存在するカード2枚を選択して発動することができる。選択した自分のカードを破壊し、選択した相手のカードを手札に戻す。

このカードが相手によって破壊され墓地へ送られた時、シンクロモンスター以外の自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して特殊召喚する。

「スクラップ・ツイン・ドラゴンでクロス・ウインドを攻撃! スクラップ・ツイン・ブレス!!」

二つの咆哮がクロス・ウインドを襲う。

「ふっはははははは!! 残念だけど俺の勝ちだ!! 速攻魔法B

F ラスト・ウインド発動!!」

B F ラスト・ウインド(オリジナル)

速攻魔法

自分フィールドに存在する「BF」と名のついたモンスターまたは「ブラックフェザー・ドラゴン」を選択し発動する。

このターン選択したモンスターの攻撃力は2倍になる。

エンドフェイズ時、選択したモンスターを破壊する。

BF - 連撃のクロス・ウインド

ATK2200 4400

二刀の戦死がネジの混ざり込んだ咆哮を二首の竜ごと切り裂いた。

玄作LP1200 0

「おっしゃどうだみたかーーーー！！！！！！！！！！」

「「ようやったぞ鳥ーーーー！！！！！！！！！！」」

「お主らが言つと鳥を誉めとるのが分からなくなるぞい・・・」

「・・・ふん」

そうして、喜ぶ俺たちを少し眺めた後、オツチャンはリングから降りていった。

「・・・」

その姿を、何故か一人オツチャンサイドからデュエルを見物していたカケルだけが見ていた。

そして翌日

「オツチャン、明日の朝一番で帰るってね」

「・・・嵐、なんで俺にそんなこと言うんだよ」

その夜、ベッドで寝ながら俺は鳥に語りかけていた。
いくら喧嘩したって言ったって、やっぱり、親子なんだし。

「そもそもお前、なんで家出したんだよ。実家継ぐのが嫌だったのか？」

「・・・逆だ」

「「逆?」」

「俺は家を継ぐ気だった。今でもそうだ。でも、親父は俺には継がせないって、だから」

「はたから聞いてると、それはオツチャンなりの優しさだったんじゃないか？お前には自由に生きて欲しいって。」

自分の好きな道を進んで欲しいって。

で、今回やっぱ継がせようと思って鳥を連れ戻しにきた。

「その、デュエルのこと何だけど、おじさんもしかして、最初から連れ戻すつもりなかったんじゃないかって僕思うんだよ」

まだ起きていたらしいカケルが、言った。

「どつして」

「僕、さっきのデュエルおじさん側で見てたんだ。おじさんが最

後に伏せたカード、何だと思う？」

「・・・なんだよ」

「スクラップ・クラッシュ」

スクラップ・クラッシュ

通常罫

自分フィールド上に存在する「スクラップ」と名のついたモンスターが破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。

フィールド上に表側表示で存在する魔法・罫カードを全て破壊する。

「もし、スクラップ・ドラゴンが攻撃されたときアレを発動させてたら、烏、負けてたでしょ？」

「・・・」

「それにさ、おじさんデュエルしてる時、ずっと笑顔だったし、みんな気づかなかった？」

気づかなかった。

自分のことに必死すぎて。

「おじさんはただ、烏に会いたかっただけなんだよ。3年ぶりに、烏の顔が見たかっただけなんだよ」

「・・・」

「僕からの話はそれだけ。おやすみ」

その後すぐにカケルは寢息を立てだした。

「……どうすんだ鳥」

「……知るか」

そして、俺もそのまま夢の世界に落ちていった。

そして翌日、港にて

「では、私はこれで」

船に乗ろうとするオッチャンを、校長が見送っていた。

「最後にもう一度息子さんの顔、見ていなくてもよろしいんですか？」

そう問われ、オッチャンは苦笑した。

「いえ、喧嘩していたもので、アレだけ見ただけでも満足です」

「そうですか」

「息子のこと、よろしくお願いします」

そう言ってオッチャンが船に乗るために島から背を向けたときだった。

「親父!!」

振り返ると、ソコには烏が立っていた。

「その、あれだ・・・今度の夏休みにカケル連れて、一回家に帰るからよ・・・その、安心して帰れ!!」

「・・・ふん。最初から心配なぞしとらんわアホ」

「んがっ!だれがアホだとクソ親父!!」

「風邪引くなよ」

その一言に、烏は一瞬豆鉄砲を食らったような顔をしたが

「ああ」

すぐ笑顔になり、父親の乗った船が見えなくなるまで見送りつつ
けた。

TURN 21：ひねくれ親子のデュエル（後書き）

えっと、言い訳をさせてください。最初はテスト期間だったんです。それだけだったんですが、問題があったのはこの後なんです。

パソコンが壊れました（泣）

今も実は他人のを借りてです。早く戻ってきてほしいです。

ですが、私読者さまへの感謝は忘れません。本当にありがとうございます！！
います！！

t u r r o 2 3 …とある少女のひととき(前書き)

今回はいつもとは違う人の視点でのストーリーです。

turn23:とある少女のひととき

『おい主人、起きろ。朝になったぞ』

『祭ちゃん。そろそろ起きとかないとやばいかもだよ』

『あゝるゝじ』』

「……ん……もう朝？」

暖かいふかふかベッド。カーテンの間から日の光が入り込む朝、私は私にしか聞こえない友達の声で目を覚ました。

「……あと5分……」

訂正。覚ましてません。だって、昨日はいろいろあったから疲れ
てるんだもん。

『……起きんか主人！！美容と健康を保つには規則正しい生活
が重要なのだぞ！ええい離せウイン！！』

『ちよつとアウちゃん（アウスです）！祭ちゃん杖でたたいたら
ダメだよ！痛ただよ！』

……ええ、他人からは見えない状況ですが、現在二度寝を始め
ようとする祭の頭上で、その祭を持っている杖で殴ろうとしている
アウスをウインが必死で止めている状況です。

『つていうか祭ちゃん。あんまし寝すぎてお肌荒れちゃったりし
たら、嵐くん、きつと残念がるだろうな』』

「!!!?」

エリアの一言で私の意識は一気に覚醒した。

嵐くんはそんなに関係ないけど、お肌が荒れるのは大変だもんね。本当にお肌のことだけだからね。

『・・・なんて単純な主人だ』

『『『本当にね』』』

「おはようございます」

ベッドから体を起こしてから数十分後。私は女子寮の食堂で朝食をとっていた。

ちなみにメニユーはバターたっぷりなクロワッサンとサラダに砂糖とミルクたっぷりの甘いコーヒー。とってもおいしいです。

「祭ちゃんおはよう」

「あつ。明日香先輩！おはようございます」

後ろから声をかけられたので振り返ってみるとそこには私の先輩、天上院明日香さんが立っていた。

「よかった一緒に食べていい？」

「はい。どうぞ」

それから明日香先輩といろいろなことを話しながら朝食を済ませた。

場所は変わってアカデミアの廊下。

授業もだいぶ終わってこれから昼食をとりに行くところだ。今日は購買でドローパンでも買おうかな。もしかしたら嵐くんもいるかもしれないし。

と、そんなことを考えながら歩いていたら廊下の奥に妙に周りをキョロキョロ見回している明るいブルーの瞳でポニーテールの女の子が見えた。誰か探してるのかな？

「あつ。ちよつとそこの娘〜〜」

その女の子が私を前まで来て私の進行を妨害した。

「は、はい。何か用でしょう、か？」

「このあたりでカツコええ男の子見んかった？ものすごくカツコええんやけど」

・・・もうちよつと特徴を言ってほしいんだけど。

「えつと、その男の子の特徴は？」

「ものすごいカツコええのー！」

「だから、特徴・・・」

「カツコええのー！！」

今私、すごく泣きそうです。

「ごめんなさい。私、ちょっと知りません」

「そやったんか。ありがとう。ほな！」

そう言うと彼女はそのカッコええ男の子を捜してどこかへ行ってしまうた。

『・・・なんだったんだ？あの子』

「・・・さあ」

かつこいい男の子といわれて、一瞬嵐くんの顔が浮かんだけど、まさかね。

「だ〜もういいだろそのことは！てめえらニヤニヤすんな！〜」

「まあ烏ちゃんったらそんなこと言っちゃって！お父さんに感謝の言葉言ってきたくせに！〜」

「嵐さん！これが世にいうシンデレレと言つものですよ！〜」

「まあ！〜」

「カケル、ひとつ聞きたいのじゃが、こやつ等昔からこんなんじやったのか？」

「・・・そうですね」

「お主もか!？」

と、前を見ると大量のドロパンを抱えた状態で、なにやら妙なしゃべり方をしている一団がこちらに歩いてきていた。

「やったこの子ったら! おお祭、奇遇だな。あ、よかったらドロパン食うか？」

「ありがと。じゃあこれで。ところで、嵐くんたちさつきから何話してたの?」

「ああ。こないだ烏の父親が来たんだけどさ。帰り際にコイツったら」

「嵐! !他人に話すようなことじゃねえだろ! !」

「話すようなことだよ。つつか祭このこと知ってんじゃねえか? たしか烏の応援のとき連絡したし。結局こなかったけど」

連絡・・・ああ、昨日の。

「ごめん。そのときちょっと用事があったっていけなかったの」

「そっか。じゃあしゃあないな。・・・そっぴや影月のやつがないな。祭の傍にはいつもいるのに」

「ああ。お兄ちゃんなら忘れ物とりに教室に戻ってる。お兄ちゃんになにか用があった?」

「いや、なんか違和感を感じたというか」

お兄ちゃんがいないと違和感を感じられるんだ・・・私と、私にもふと疑問が

「そういえば嵐くん。追試はなにやるか決まったの？」

「「「「「「「「」」」」」」」」

あつ！！嵐くんたちがみんな眼を背けた！しかもすごく暗いオーラ発しながら！

「・・・筆記試験が2教科ずつ・・・」

「実技試験がタッグデュエル・・・」

「タッグパートナーの条件はこの後発表だそうじゃ・・・」

・・・なんか、すごくいたたまれないな。この三人。

「・・・そういや祭！用事ってなんだったんだ！！」

嵐くん、よっぽど追試のこと考えたくないんだね。

「えつとね。新しい・・・」

「両儀さん」

嵐くんが昨日のことを話そうとしたとき、誰かが話しに割り込んできた。

「あれ？北条さん？」

そこには同じ1年の北条光さんが鋭い目つきで立っていた。

「だれ？」

「1年の北条さん。成績よくて結構有名なんだよ」

「そんな事はいいですわ。両義さんコレ。では」

北条さんが私に何か突きつけてそのまま行ってしまった。

「・・・手紙？」

北条さんから渡された手紙を開いて内容を読んでみると

『両義祭さん。今日の放課後、デュエルリングにて待ちます。北条光』

「これって」

「世に言う。あれだな」

「・・・果たし状」

「でもなんで私が、北条さんと？」

t u r n 2 3 : ・ とある少女のひととき（後書き）

初の祭視点でのストーリーです。書いててすごく楽しかったです！
一体祭は烏がデュエルをしていた最中何をしていたのか。なぜ北条
さんは勝負を挑んできたのか。嵐たちは追試に受かるのか。
今上げたのは自分が今考えなきゃいけないことです。（オイ）
カードリクエスト、感想、お待ちしています。

t u r n 2 4 : 召喚！最後の霊使い（前書き）

今回も語り部は祭にやっていただきます。嵐、お前の出番は今回も
ほぼ無しだ！

turn24：召喚！最後の霊使い

そして放課後。

「それじゃあ。はじめましょうか」

「おっけ〜」

「デュエル！！」

祭LP4000

光LP4000

先攻 祭

「……………で、結局なんであの二人デュエルしてんだろうな」

「「「さあ」「」」

二人の希望により、なぜか観戦することとなった関係のない男衆（一名例外）の意見でした。

「私のターン。表意装着ダルクを攻撃表示で召喚。カードを1枚伏せてターンエンド」

『…………ま、いつちよやるか』

けだるそうな事を言いながら祭の場に杖を構えた少年が現れた。

憑依装着ダルク（オリジナル）

効果モンスター

星4 / ATK1850 / DF1500

自分フィールド上の「闇霊使いダルク」1体と他の闇属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚することができる。

この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「私のターン。私はヴァイロン・ソルジャーを攻撃表示で召喚。さらに装備魔法ヴァイロン・マテリアルを装備」

ヴァイロン・ソルジャー

効果モンスター

星4 / ATK1700 / DF1000

このカードの攻撃宣言時、このカードに装備された装備カードの数まで相手フィールド上に存在するモンスターを選択し、表示形式を変更する事ができる。

ヴァイロン・マテリアル

装備魔法

「ヴァイロン」と名のついたモンスターにのみ装備可能。装備モンスターの攻撃力は600ポイントアップする。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが墓地へ送られた場合、デッキから「ヴァイロン」と名のついた魔法カード1枚を手札に加える事ができる。

ヴァイロン・ソルジャー ATK1700 2300

「ヴァイロン・ソルジャーでダルクへ攻撃。さらにこの瞬間、ソルジャーの効果を発動。ダルクを守備表示に」

『なっ!?!』

ヴァイロン・ソルジャーの拳が守備になったダルクへ容赦なく叩き込まれた。

「ターンエンドよ」

「・・・なあ、あいつなんでわざわざ攻撃力で勝ってるのにダルクを守備にしたんだ？」

「さあ」

「意外と頭は俺らぐらいなのかも」

「ブルーの生徒がお前らレベルの馬鹿なわけねえだろ」

「ああ!?!」「やんのかてめえ!?!」

ああ、なんだか観客席のほうから聞きなれた言い争いが・・・
けど、正直今のはいたい。さすが北条さん。私の手を読んでたのか。

「私のターン。憑依装着ヒータを召喚。さらに罠カードライジン
グ・エナジー発動手札の憑依装着エリアを墓地へ送り、ヒータの攻撃力をアップ」

『いよつしやあ！いくぜえ！！』

憑依装着ヒータ

効果モンスター

星4 / ATK1850 / DF1500

自分フィールド上の「闇霊使いダルク」1体と他の闇属性モンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから特殊召喚することができる。

この方法で特殊召喚に成功した場合、以下の効果を得る。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

ライジング・エナジー

通常罫

手札を1枚捨てる。発動ターンのエンドフェイズ時まで、フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力は1500ポイントアップする。

憑依装着ヒータ ATK1850 3350

「ヒータでヴァイロン・ソルジャーを攻撃！」

威力の上だったヒータの刃がヴァイロンを切り裂いた。

光LP4000 2950

「ヴァイロン・マテリアルが墓地へ行ったことで、デッキのヴァイロン・マテリアルを手札へ加えます」

「ターンエンドなんだけど、ひとつ訊いていい?」

「なにかしら?」

「なんでデュエル申し込んできたの?」

はじめるときからずっと気になっていた疑問、元々彼女とはあまり接点がなかったはずだし。

「なぜ?そんなこともわかりませんの……分らないなら分からないでいいですわ。ただし、それ相応の裁きは受けてもらいますがね!!」

もう訳わかんない。ていうか北条さんなんだか怒ってない!?

「私のターン!ヴァイロン・オームを召喚!効果により墓地のヴァイロン・マテリアルを除外!」

ヴァイロン・オーム

星4 / ATK1500 / DF200

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する装備魔法カード1枚を選択し、ゲームから除外する。

次の自分のスタンバイフェイズ時にそのカードを手札に加える。

「手札のマハー・ヴァイロを墓地へ送り、破邪の大剣 - バオウをヴァイロン・オームに装備」

破邪の大剣 - バオウ

装備魔法

手札のカード1枚を墓地に送って装備する。

装備モンスターの攻撃力は500ポイントアップする。

このカードを装備したモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊した場合、そのモンスターの効果は無効化される。

ヴァイロン・オーム ATK1500 2000

「オームでヒータを攻撃!!カードを2枚伏せターンエンドです
!!!」

祭LP4000 3850

「わ、私のターン。カードを1枚伏せてターンエンド」

今手札に召喚できるカードはない。今は耐えるしか

「私のターン……いいですね。私程度モンスターなしでも勝てる。そう言いたいんですね!!」

盛大に勘違いされてる!!

「ここまでの侮辱は初めてです。なら私はあなたを完膚なきまでに叩き潰します!!」

「……怖ッ!!!!」(禍々しい殺気に気づいた観客陣の意見)

「私のターン!この瞬間、ゲームから除外されたヴァイロン・マテリアルが手札に加わる!さらにヴァイロン・キューブを召喚!レベル4のヴァイロン・オームにレベル3のヴァイロン・キューブを

チューニング！！シンクロ召喚！光させ！ヴァイロン・シグマ！！」

ヴァイロン・キューブ

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 800 / DF 800

このカードが光属性モンスターのシンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、自分のデッキから装備魔法カード1枚を選択し、手札に加える事ができる。

ヴァイロン・シグマ

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 1800 / DF 1000

光属性チューナー+チューナー以外の光属性モンスター1体以上
自分フィールド上にこのカード以外のモンスターが存在しない場合、このカードの攻撃宣言時に発動する事ができる。

自分のデッキから装備魔法カード1枚を選択し、このカードに装備する。

「そしてヴァイロン・キューブがシンクロに使用されたことでデッキの装備魔法を手札に加える！私は3枚目のヴァイロン・マテリアを手札に加え、3枚全てをシグマに装備！！」

ヴァイロン・シグマ ATK 1800 3600

「シグマでダイレクトアタック！！」

「きゃああー！！」

祭LP 3850 250

3000を超える攻撃を受け、私は少し悲鳴を上げた。

「カードを1枚伏せてターンエンド」

「ま〜っつ〜り〜っ！！殺す！今すぐあいつを殺す！！！」

「とまれ影月！今デュエル中だろ！夕夜たちもこのシスコン止めるの手伝え！！！」

ああ、なんで私の兄って、あんな人なんだろう……

『いいじゃんいいじゃん。にぎやかで楽しいよ。それじゃ、次私が出るからよろしくね。祭』

少し落ち込んでいたら、私の頭の中に陽気な声が響いた。そうだよね、あなたを使うのは、今回が初めてだもんね。それじゃやろう！

「私のターン！新しい仲間、光霊使いライナを召喚！」

カードをディスクに置いたと同時に、ショートヘアーの少女が私の場に現れた。

『いつえ〜！霊使いシリーズリーダー、ライナちゃん参上！』

この子が昨日1日、島中を探していた最後の霊使い、ライナ！ちなみに、呼びかける声も明るく少しうるさかった。

ちなみに、このとき嵐がなんかテンション高いのが入ったな。と思ったのは、当然誰も知らない。

「さらに手札から魔法カードサモンアンチリバーズを発動！ヴァ

「イロン・シグマのコントロールを得る！」

「サモン・アンチリバーズ（オリジナル）」

「魔法カード」

「自分フィールド上にリバーズ効果モンスターが表側表示で存在するとき発動できる。リバーズ効果モンスター1体の効果を発動できる。」

「ヴァイロン・シグマで、ダイレクトアタック！」

「そうわいきません！畏カード攻撃の無力化！！」

「シグマの攻撃が見えない力に吸い込まれた。」

「バトルフェイズは強制終了。さらに私の手札にはモンスターがあります。コレであなたの勝ち目はなくなりましたわ！」

「……………カードを1枚伏せて、ターンエンド」

「祭の奴……………コレで勝負はついたか」

「ああ……………祭の勝ちだ」

「……………え？」

「私のターン！ヴァイロン・チャージャーを召喚しライナへ攻撃！」

「畏発動ドレインプロック！ライナの効果を無効にし、一度だけ戦闘を無効に！」

ドレインブロック（オリジナル）
罨

効果モンスターが攻撃対象になったとき発動可能。
対象となったモンスターの効果を無効にし、一度だけ戦闘を無効にする。

「ですがこれで、シグマは私の場に戻る!」

「さらに罨発動。トロイボム!」

トロイボム

通常罨

自分フィールド上のモンスターのコントロールが相手のカードの効果によって相手プレイヤーに移った時に発動する事ができる。
そのモンスター1体を破壊して、その攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「ヴァイロン・シグマは破壊!北条さんに3600のダメージを与える!」

「うそ、きゃああ!」

光LP29500

「やった!勝ったよ!嵐くん!みんな!」

「……………負けましたわ。だけど、それでも私は彼のことを、
烏様のことを諦めきれません!」

「へ？鳥、くん？」

『ああ、もしかしてこの子』

『主がそつちに興味あつてしかも近くにいると勘違いして』

『デュエルを申し込んだと』

『そういえばいたねそんな子』

……なんて勘違い

「ほ、北条さん。大丈夫だよ私、鳥くんになんかに興味ないし」

「そ、そうなの？」

「うん。私が興味あるのは……いつも鳥くんの隣にいる子」

私は、嵐くんたちに聞こえないように、北条さんの耳元でそつとつぶやいた。

「……そうでしたの。勘違いしてしまってごめんなさい。それで、よかったらこれから仲良くしてくれませんか？」

「うん！これからもよろしくね。北条さん」

「私のことは光でいいですわ。祭」

「じゃあ、よろしくね。光」

こうして、勘違いは多かったけど、私は光と友達になった。

「……でも、女の子に興味を持つのは、ちょっと考えも
のですわよっ」

「だからソツチじゃなくて〜!!」

turn24：召喚！最後の霊使い（後書き）

読破ありがとうございます。雪無サンタです。

前回からだいぶ空きました。ようやくの投稿です。

最近、友人の力も借りながらスクラップデッキを自分も作ってみました。

見事にキマイラとドラゴンが足りません！！

友達とそのデッキでデュエルしたらフルボッコつけました（泣）

スクラップの強化法を知ってる方いましたら、教えてください。

あとデッキ、カードリクエストお待ちしています。（ネタがヤバげなので本当にお待ちしています）

turn25：パートナー探し

「では、ここにいるドロップアウトボーイ共に、追試タッグデュエルの内容を発表するノーネ」

祭と北条のデュエルから2日後、俺たちは学校に残り例の追試を受け、何とか筆記をクリアした。現在は実技の内容発表を待っているとこるだ。

「……………はあ。筆記試験は何とか乗り切ったな」

「ああ、正直最後の1問が間違いだったらアウトだった」

「お主らご苦労じゃったの。あとは得意の実技だけじゃ」

「つか、佐助。お前確か筆記のときいなかったよな」

「うむ。わしは別室で待機しておった。言うておらんかったか？わしの追試は実技だけじゃ。筆記はオール合格」

「裏切り者め！！」

知らんかったわ！

「そのドロップアウトは黙るノーネ！」

「……………」

「このタッグデュエルには二つのルールがあるノーネ。一つ目は、

追試受験者はエースカードの使用禁止なノーネ」

『ええ~~~~~!!!!!!』

これには教室中から文句が殺到した。

そんな文句をまつたく気にせず、クロノス教諭は各自に使用禁止カードのリストを配布した。

「エースの使用禁止……俺の場合シンクロモンスター。チ
ューナーもほとんどダメか」

「そうになると俺は……げっ!!ゲイルとシロツコモダメ
なのかよ!？」

そらそつだ。

「わしもケルベロスやらが使えるそうにないときついわ」

ああ、落ち込んだ顔の佐助もかわいいな。

「そしてもう一つの条件は……タッグパートナーは異性
であることなノーネ」

『おおおおおおおおお!!!!』

これには教室中から歓喜の声が上がった。が俺たちからすると

「……こらやばそつだな」「」

いやな予感しかしなかった。

「追試は明日の放課後。それまでにパートナーを見つけるように
以上なノーネ」

そして、俺たちの予想は見事に的中した。

パートナーになってもらうために女子生徒に話しかけてみたが、
案の定、オシリスレッドの生徒など相手にすらしてもらえなかった。

「予想外………と言っべきではないな」

「クロノスの野郎、絶対俺らのこと嫌いだぜ」

「それで、結局わしらはどうするべきなのじゃ？」

「………」

そんな佐助の問いに打開策も思いつかず黙りこくっていたら

「あ、嵐くん」

向かいから歩いてきた祭に遭遇した。

「………なあ烏、打開策だが」

「みなまで言つな。おそらく同じ意見だ」

俺と鳥の言葉を聞いて祭が驚いたような顔をした。

「……………同じじゃしょうがねえ。本人に選んでもらうしかねえな」

俺の言葉に顔を真っ赤にしてあたふたし始める祭。

「ええつと、その……………わ、私は嵐くんと」

「佐助頼む!!」

「主ら馬鹿か!?!いつも言っておるがわしは男じゃぞ!!」

「だからそれは親御さんが保健所に間違っただけで伝えてしまったことだっただけでいつも言っているだろう!」

「じゃから」

中略

「わかったよ。佐助と組むのはあきらめるよ」

「元から考えないでもらいたい」

さて、佐助が無理じゃどうするべきか……………

「そっぴい祭がいた。祭!」

「知らないわよ。そうだ佐助くん。よかつたら組みましょう」

祭の返答を聞いたとたん全身に悪寒が走った。怒ってる。笑顔だけどもっちゃん怒ってる!!

「わしはかまわんが、主はいいのか？」

「良いに決まってるわよ。さ、行きましょ」

「う、うむ……」

そうして申しわけなさそうな顔をしながら佐助は祭りについて行った。

「……どうしよう。佐助も決まっちゃったし、祭もアウト。こりゃ、二人そろって仲良く補習か？」

半ば冗談のつもりで笑いながら烏にそう話しかけると

「え！？タッグ組んでくれるってマジ!？」

「は、はいその……私なんかでよかつたら……」

「よっしゃあ!!—そうと決まったら早速デッキ調整しようぜ!—」

話しかけたとき、なんか向こうでも話が進んでおり気がついたら烏にもパートナーができていた。

「……」

t u r n 2 5 : パートナー探し (後書き)

本当なら今回でデュエルに突入するはずだったんですけど…
急がないと現実リアルの夏が終わる……

turn26：追試デュエル開始！パートナーは？

「それでは、追試タッグデュエルを開始します」

「んじゃ、よろしく頼むぜ」「任せといて！」

「よろしくお願ひします」「おう！激アツだぜ！！」

「」「」「デュエル！！」「」

嵐	つらら	LP4000
快晴	小麦	LP4000

え、唐突に話が進みすぎているので、軽い前回その後の回想

「……………追試開始まで後5分。どうすりゃいいんだよ」

何人もの生徒が次々と追試デュエルを受けに行く中、嵐は1人ポツンと自分の名が呼ばれるのを待っていた。まあ呼ばれたら死刑宣告も同然なのだが

「ああ！！ダーリンやつと見つけたあ！！」

「あばあ！？」

と、そんな絶望の中、何者かが嵐に向かってアメフトラインマン級のタックルをかまし、嵐ともども近くの壁に激突した。正確には嵐の背中しかぶつかっていないが。

「がばっ！！……つゝ誰だよ今のタツクル……」

「はいはいはい！今のタツクルはウチこと青野つららがしました〜！」

嵐の上にまたがるような状態になっている明るいブルーの瞳でポニテールの女の子が高々と手を上げながら嵐の問いに答えた。

「……正直だな……ん？てかお前確か暴食の塔の番人だった奴じゃ」

「その辺のことは覚えてないけど、ダーリンに助けてもらったのはよう覚えてるの！！」

「できればダーリンはやめて」

「だってダーリンの名前知らんもん！」

「ああそうか。俺は嵐、よろしくつらら」

「よろしくな嵐！で、なんで追試の会場におるん？」

少し考えれば分かりそうなことだが、つららは嵐に訊いた。

「いやそれは俺が追試を受けるからで……そうだったつらら、俺とタツグを組んでくれないか？」

「嵐の頼みやつたらどんな頼みでもウチはきくよ……」

「おっじゃあ……もうすぐ始まるから急いで……」

……まあ、こんな感じで、現在に至るわけです。
ちなみに対戦相手は嵐と同じくオシリスレッドの海原快晴うなはらかいせいとブル
ーの春野小麦はるのこむぎさんです。
では、デュエルの方、改めてスタートです。

先攻 嵐 小麦 つらら 快晴

「俺の先攻！ドロー！ロードランナーを守備表示で召喚。カード
を1枚伏せてターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊
されない。

「私のターン。X-セイバー アナペレラを攻撃表示で召喚。カ
ードを1枚伏せてターンエンド」

X-セイバー アナペレラ

星4 / ATK 1800 / DF 1100

「ウチのターン！氷結界の番人ブリズドを守備表示で召喚してウ
チのターンは終了！」

氷結界の番人ブリズド

効果モンスター

星1 / ATK 300 / DF 500

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデ

ツキからカードを1枚ドロースする。

なるほど、小麦さんはX・セイバー、つららは氷結界か。さて、快晴はどういうデッキを使ってくるか……。

「なるほど、お前ら全員激アツだな。俺のターンドロース！俺はE・HEROシャークマンを攻撃表示で召喚！！」

E・HEROシャークマン（オリジナル）
星4 / ATK1600 / DEF1400

快晴の場にサメを模したヒーローが現れた。

「なっ！？E・HERO！？」

十代さんと同じ？まさか他にいたのか！？

「さらに俺はE・エマーゼンシーコールを発動しデッキからE・HEROホークマンを手札に加える！カードを2枚伏せてターンエンドだ！！」

E・エマーゼンシーコール

通常魔法

自分のデッキから「E・HERO」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

「まさか、E・HEROとこんなトコで戦う羽目になるとはな。ドロース！シールドウォーリアを守備表示で召喚してターンエンド」

シールドウォーリア

効果モンスター

星3 / ATK 800 / DF 1600

戦闘ダメージ計算時、自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外して発動する事ができる。

自分フィールド上に存在するモンスターはその戦闘では破壊されない。

追試のルールでチューナーが使えないせいで俺の攻めの手はかなり狭まった。元々シンクロを主体にしていたせいもあって、それ以外の高レベルモンスターがあまりデッキに入っていないのだ。

「この瞬間俺の激アツ罫、ライバル登場！が発動！レベル3のE・HEROホークマンを召喚！！」

E・HEROホークマン（オリジナル）

星3 / ATK 1000 / DF 700

今度は驚を模したヒーロー、ホークマンを呼び出した。

けど、俺がチューナーを使えないように、あいつにだってペナルティがかかっているはず。おそらくは融合の使用禁止。融合がなければE・HEROの力は激減するはずだ。

「そして私のターン。フィールド魔法フュージョンゲートを発動し、ホークマンとシャークマンを融合。E・HEROスプラッシュウイングマンを召喚」

「まさかのソッチ！？」

E・HEROスプラッシュウイングマン（オリジナル）

星6 / ATK 2100 / DF 1800

「E・HERO シャークマン」+「E・HERO ホークマン」
このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが相手モンスターを戦闘によって破壊したとき、破壊したモンスターの元々の守備力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「調整のとき渡しといたんだ。ほら俺はダメでもパートナーはOKって言ってたし」

「きたねえ!!!」

「スプラッシュウイングマンでシールドウォーリアを攻撃。スプラッシュスライサー」

「うわっ!!!」 「きゃあ!!!」

嵐 つらら LP4000 2400

「さらにアナペレラで氷結界の番人ブリズドを攻撃してターンエンドよ」

「んっ！ブリズドの効果でウチはカードを1枚ドロウする。そしてウチのターンドロウ！ウチは魔法カード氷結界の三方陣を発動！ウチの手札の氷結界、グルナード、舞姫、水影を見せてそのセットカードを選択！セットカードを破壊して氷結界の虎将グルナードを特殊召喚!!!」

氷結界の三方陣

通常魔法

手札の「氷結界」と名のついたモンスター3種類を相手に見せ、

相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。

選択した相手のカードを破壊し、自分の手札から「氷結界」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

氷結界の虎将グルナード

効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 1000

このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分のメイフェイズ時に1度だけ、自分の通常召喚に加えて「氷結界」と名のついたモンスター1体の召喚を行う事ができる。

「さらに氷結界の舞姫を召喚！グルナードの効果で氷結界の水影を特殊召喚！！」

氷結界の舞姫

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 900

自分フィールド上にこのカード以外の「氷結界」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合に発動する事ができる。

1ターンに1度、手札の「氷結界」と名のついたモンスターを任意の枚数見せる事で、相手フィールド上にセットされた魔法・罫力カードを見せた枚数分だけ持ち主の手札に戻す。

氷結界の水影

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK 1200 / DF 800

自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターがレベル2以下のモンスターのみの場合、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

た、たった1ターンで3体のモンスターを……改めて思ったが、さすがブルー！

「レベル4の氷結界の舞姫にレベル2の氷結界の水影をチューニング！凍てつく冷気が、氷の竜を呼び起こす！シンクロ召喚！！氷結界の龍ブリューナク！！」

氷結界の龍ブリューナク

シンクロ・効果モンスター（制限カード）

星6 / ATK 2300 / DF 1400

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札を任意の枚数墓地に捨てて発動する。

その後、フィールド上に存在するカードを、墓地に送った枚数分だけ持ち主の手札に戻す。

「ブリューナクの効果！ウチの残りの手札3枚を墓地へ送り、あなた等の場に残ったカード全部手札に戻す！！」

「なに！？」「激アツだな！？」

すっげえ………たった1ターンで、

「ブリューナク、グルナードで」

完全にデュエルを、

「とどめやー！！」

制圧した。

「うおおー!!」 「きゃああー!!」

快晴 小麦 LP40000

「勝者、日ノ原嵐及び青野つらら」

「やった~~~~!!ウチらやったで嵐~~~~!!!!」

教師によって勝利が宣言されたと同時につららが嵐に向かって飛びついた。嵐のほうは倒れないよう必死になっていた。

「うわッ!!わかった、わかったから!抱きつかなくてもいいって!!」

「だってうれしいんやもん!!」

.....たく。

「負けてしまったか。コレで俺は補修決定か.....激アツだぜ!!」

.....あいつ、別に追試受けなくてもよかつたんじゃねえのか?

こうして俺たちは全員追試をクリアし、夏休みを手に入れることができた。

turn26：追試デュエル開始！パートナーは？（後書き）

ようやく、ようやくこの小説を夏休みに突入させる準備ができました！！24話位を書いていたときは「あれ？これ現実の夏が終わるまでに夏休みはいらさないんじゃない？」などという恐怖にかられましたが、ようやくはいりそうです！！

……さて、夏休みのネタはどうしよう………デッキ、カードリクエスト、お待ちしています。

今気づいたんですけど、嵐今回ほぼ何もしてない！

t u r n 2 7 : 新 た な 始 ま り は 船 出 と と も に (前 書 き)

現実の夏は終わりそうですが、こっちの夏は今からです！

turn27：新たな始まりは船出とともに

そして迎えた夏休み初日。カケルを実家に帰すため、ついでに里帰りもするためにいつものメンバーが港に集まっていた……

「嵐の奴、いつになったら来んだよ」

里帰りに関係のないはずの祭、佐助、影月までいるのに、なぜか嵐の姿だけがなかった。

「……………ねえ。僕、なんとなく思ったんだけど、もしかして嵐」

「「逃げたな」」

一向に姿を現さない嵐に対し、里帰りメンバーが口をそろえていった。

「じゃがなぜ嵐が逃げる必要がのじゃ？家出しておった鳥が逃げるなら納得がいくが」

「理由は、コイツだ」

鳥を海に浮かぶ船を指さした。

「船？……………ああ嵐くんってたしか船酔いしてたね」

祭は嵐と最初に出会った日のことを思い出しながら言った。

「追試のときは必死すぎて忘れてたみたいけど、昨日準備したときに思い出したらしくてな。「落ちときゃよかった」って本気で嘆いてた」

そんなに嫌だったんだ。

「しょうがない。烏、カケル。いったん部屋に戻るぞ。嵐を発見しだい捕獲だ。吊るし上げる」

「「イエツサー!!!」」

こうして烏たちは一旦寮へ戻って行った。

『旅に出ます。探さないでください 嵐』

寮の部屋にはいてまず目に入ったものは部屋の真ん中に置かれたミカン箱とその上に置かれた1枚の手紙だった。手紙を読んだ烏は舌打ちをしながら寮の壁を蹴りつけた。

「あんにやるゝ。マジで逃げやがったぞ!」

「荷物もデツキも置いていくって……必死すぎだよ」

「……しょうがない。烏、カケル、そのミカン箱を徹底的にガムテープで目張りしろ」

「「了解」」

夕夜の支持によりミカン箱は元の絵が分からなくなるまでガムテープでぐるぐる巻きにされた。

「カケルは嵐の荷物を持ってくれ。俺と烏はこのミカン箱を運ぶ」

「オツケー。持ち上げるぞ。いっせいのっせー!!うお!重……

……」

そして港にて

「嵐は見つからなかった。よって、嵐はおいていくことにする」

港に戻った夕夜は大声で宣言した。

「それはいいが、何故ミカン箱を持ってきたのじゃ?」

佐助は息を切らした烏の横に置いてあるミカン箱を見ながら言った。

「いや、嵐の代わりに持っていていこうと思って」

「その発想にいたる意味がわからぬ」

ガタン!!

「「「!?!?」「」

「………今、そのミカン箱、動かなかった?」

「ははは。なに言ってんだよミカン箱が動くわけないだろ。さあ。

さっさとそいつを運び込むぞ」

「「おっけー」」

そう言つて烏とカケルがミカン箱を持ち上げた途端

ガタガタガタガタ！！！！

「やっぱり動いてるよ！！お化け！？」

運ばれることに激しく抵抗するミカン箱を見た祭が半泣きで後退した。

「このミカン箱激しく抵抗します！！」

「無理やり運び込め！！」

「なんじゃこの状況は」

『や、やあ僕はミカン箱の妖精だよ！君たちが留守の間ここで留守番しててあげるよ！！』

「きゃあああああああ！！喋ったああああああああああ！！！！」

ここにきて喋りだしたミカン箱に祭は本腰を入れて泣き出した。

「いや今の声どう考えてもあの馬鹿だろ」

パニック状態の祭以外はすでに状況を把握しきっていた。

「ありがとうミカン箱くん。お礼に俺たちの故郷へ連れて行ってあげるよ」

『だ、ダメだよ！それじゃあ留守番にならないじゃないか！僕は絶対に行かないぞ！！』

「分かった。それじゃあ、連れて行かない代わりにミカン箱くんの中身を見せて、そしたら連れて行かない」

『しょ、しょうがないな。じゃあ特別だよ。……あれ出れない！？』

ここにきて目張りしたガムテープが本領を發揮したらしい。完全に隔離状態だ。

「出られないのか？それじゃあしょうがない。さあ行くでしょう」

『待つて！もうちょいで出れるから……おつらあ！！』

「「「あ、出てきた」「」」

「さあ出たぞコレで俺は船に乗らなくても」

「いやお前は乗るぞ」

「なんで！？乗らなくていいって……」

「たしかに乗らなくていいって言ったよミカン箱くんは」

「な……………」

「そんなに嫌ならデュエリストらしく俺とデュエルだ。ハンデとして、俺はいつものデッキはつかわねえから」

「え？……………ならいいけど」

「ほれ、デュエルディスク。デッキも入れてあるから」

「ああ……………ってこれペナルティディスクじゃねえか！！」

「おう」

ペナルティディスクというのは俺たち5人で造った特製のデュエルディスクだ。ダメージを受けたときつけていたプレイヤーに電流が走るといふ鬼グッズ。

「試運転も兼ねてだ。俺もつけてる」

そう言っただけで夕夜は俺にディスクを見せてきた。

「分かったよ。その代わりに、俺が勝ったら本気で乗らねえからな」

「OK」

「デュエル！！」

嵐LP4000

夕夜LP4000

デュエル開始の宣言とともに互いにデッキから5枚の手札を引く。

「……すまないが夕夜、手札に入れた覚えのないカードが大量にあるんだが」

詳しくいうとレベル5以上の通常モンスターと装備魔法しか手札にない。

「ああ、言い忘れたさつきカケルにお前のデッキを別のと取り返させた。今のお前のデッキにはレベル5以上の通常モンスターと装備魔法しか入っていない」

「なっ!?!」

「さらにごめん俺の手札は仕込んだおかげですでにエクゾディアが完成している」

「えっ!?!」

「さらにさらにごめん。お前のディスクは微調整に失敗したらしく電流が通常の倍流れるそうだ」

誤る夕夜の顔は満面の笑顔だ。

「ひ、卑怯だぞてめえ!!」

「はっはっは。嵐、俺は面倒起こす奴には制裁を与える。そういう男なんだ。というわけで、一回死ね」

「みぎゃあああああああああああ!!!!」

通常時の2倍の電流を受けた嵐は体から煙を上げながらその場に倒れ気絶した。

「よし。こいつそのまま運び込め」

「イエスマム」

その後、嵐たちを乗せた船はまっすぐと嵐たちの故郷へ向かって行った。

t u r n 2 7 : 新たな始まりは船出とともに (後書き)

今回から新章です。

今度はいろいろな種類のデッキが出せるといいなと思っています。

デッキ、カードリクエスト募集しています。

遅くなりましたが、読破ありがとうございました

turn28：そして、事件は起きた。

「ん〜風が気持ちいい〜」

デュエルアカデミアを出発した船の上で祭は風を体に受けながら言った。

「嵐くん。そういえば嵐くん達の住んでたのってどこの町なの？」

「……………」

甲板のすぐ横で虫の息になっている嵐に訊いたが、当然返事はなかった。

「童実野町だよ」

返答の不可能な嵐の変わりに近くを通った夕夜が祭の問いに答え

「童実野町って、武藤遊戯の育ったあの童実野町!？」

「正解」

「嵐くん達ってすごいところの生まれだったんだね!いいな〜デュエリストの聖地!」

「まあ、それが童実野町出身の誇りらしいしな。あ、忘れるトコだった。船長がもうすぐ着くから準備しろとさ」

「ありがとう。ほら嵐くんそろそろ起きて」

しかし、船が港に到着するまで、嵐は一切動かなかった。

「よ……よつやく、着いた……うぶ」

童実野町の港に到着はしたが、それでも嵐は死にそうだった。

「お主弱いの」

「ほら、薬」

「ど、どつも……」

その後嵐は祭からもらった薬で何とか調子を戻した。

「俺もつ絶対に船には乗らねえ」

(帰りに乗らなきゃいけないのに)

これは全員の意見だ。

「それじゃ、俺たちは一度家に戻って着替えてくる。祭たちはその間どうするんだ？」

「私は遊戯さんの実家の亀のゲーム屋に行ってみたいと思ってたから、みんなが来るまでソツチにいるね」

「双六じいさんのところか。俺たちもよく知ってる場所だし、そう

してもらえると助かるよ」

「俺もコイツの保護者としてソッチにいる」

だから影月、祭の片寄せながら俺をにらまないでよ。何もしないから。」

「では、わしも両儀兄弟に着いていくことにしよう」

「」「」「」「」「」

「なぜそれほどまでがっかりするのじゃ!？」

「」「」「いや、いいんだ。・・・いいんだ。・・・」「」「」

そうか、佐助に実家を見てもらえないのか、残念だ。

「そんなじゃ、また後でな」

「うんっ」

そうして俺は一旦祭と離れて。そして後に俺は、その行為を心から後悔することになった。

嵐side

「そういや嵐、この辺にあんなビルあったか？」

久しぶりに帰郷し、散々説教を受けた後、亀のゲーム屋に向かいながら鳥が遠くに見えるビルを指しながら言った。服装は俺が赤い

Tシャツにジーンズ、烏が紺色のジャージ、夕夜は青いTシャツに薄い服を羽織っている。

「ああ完成したのか。少し前から建ててたビルだよ。なんかすげえデカイ会社でアル・・・なんとかって企業の本社らしいよ」

「そうなのか。俺がいた頃あんなのはなかったからな。さすがに驚いたぜ」

「それより、だいぶ時間つかちまたんだ。急ぐぞ」

「分かってるって・・・佐助からのメールだ・・・ついにデートの誘いか!?!」

「キサマあああああああ!?!」

「ま、まだそうと決まったんじゃないやねんだからそんなに怒んなって!えつと内容は・・・」

「どうだ!?誘いか!?!」

「違った・・・二人とも、急ぐぞ」

「「は?」」

「いいから早く!!」

佐助からのメールを受けた後、俺達は全力で走った。間に合ってくれと祈りながら。

「私のターン。憑依装着ヒータでダイレクトアタック！」

「うわ〜また負けた。お姉ちゃんほんとに強いね」

「ふふ。ありがとっ」

「あの子を見ていると、なんだか遊戯を思い出すなあ。女の子なのにね」

嵐たちを待つ間、祭たちは地元の子供たちとのデュエルに明け暮れていた。そんな姿を見ている、店主の双六もうれしそうだ。

アカデミアに比べるとそれほどレベルの高いものではなかったが、祭はとても楽しい時間をすごしていた。

「お聞きしたいのですが、あなたは両儀、祭さんですか？」

そんな祭に黒いスーツを着た20代前半と思しき黒いスーツを着た青年が話しかけてきた。

「そう、ですけど。あなたどち」

「ウチの妹に、何か御用ですか？」

結構奥の方でしかもデュエルの最中だったはずの影月が祭と青年の間に割って入った。当然、眼を飛ばしつつ。

「失礼、お兄さんが一緒でしたか。私はそこに見えるビルにある会社の社長をしております。部下のものからはガンマと呼ばれてお

ります」

ガンマと名乗る男は窓に見えるひとときわ高いビルを指差しそう告げた。

「で、その社長さんが何の御用で？」

「いえ、先日あなたの妹さんについての噂をお聞きしましてね。何でも……デュエルモンスターの精霊と会話ができるそうで」

「……」

その問いを受け、影月は黙って祭を見た。祭はしばらくうつむいていたが、その後小さく顔を縦に振った。

「たしかに、祭には精霊を見る力がありますが、それが何か？」

「祭さんに、わが社の力になってもらいたいです」

「!？」

その答えに祭りは耳を疑った。自分のこの力を、会社の力に？

「わが社は祭さん、あなたのように力を持った方を多数呼んでおります。ですから、あなたに来てほしいのです。実力も名声も申し分のないあなたに」

そう言って手を差し出すガンマの眼は、とても怖かった。いや、別にいらんでいたりするわけではない。何か、心の奥底から寒気がするような、得体の知れない闇のような、そんな眼をしていたのだ。

「お断りします。祭はそんな会社には何の用もありません」

「いくら兄さんとはいえここから先あなたは関係ありませんそれとも、あなたにも妹さんのような力がおありで？」

「いいや、俺には精霊なんてまったく見えねえよ。ただ妹たばかりテメエがむかつくだけだ」

「なるほど、やはりあなたに用はありません。少々の間眠っててください。……『ファイア・ボール』」

そしてその瞬間、事件は起きた。

ガンマがその手につけたデュエルディスクにカードをセットしたその後突然影月の胴体に炎の球体が衝突したのだ。

炎を受けた影月はそのまま扉を破壊し、声も無く気絶した。

「いやあああああああああ！お兄ちゃん！おにいちゃん！
！しっかりしてえ！！」

自分の目の前で兄を吹き飛ばされ、祭は両目に涙を溜め影月に駆け寄ろうとしたが、左腕をガンマにつかまれ、駆け寄ることができなかった。

「離して！お兄ちゃんが、お兄ちゃんが！！」

「心配しなくてもいい。気絶させただけで命に別状はない。それより、事情が変わった。無理やりでもついて来てもらおうぞ」

「いやあ！離して！お兄ちゃん！！助けて！嵐くん！！」

祭の叫びも虚しく、そのまま祭は車に押し込まれてしまった。

「ついでだ、その兄貴も乗せる。妹のほうはしっかり眠らせておけ。騒がれると面倒だ」

「お主！祭を離してもらっぞ！」

デュエルディスクを構え、佐助がガンマを呼び止めた。

「…………なるほどあいつの連れというわけか。しかし、目的は達している以上貴様とやりあう必要もない消える。貴様一人に倒されるほど、私はやわじゃない」

「誰が一人だつて？」

その声は外からした。ガンマが振り向くと、嵐、烏、夕夜、の四人が私服バージョンで立っていた。

「ちなみにカケルは親からの説教中だ」

「お主と影月が長々と喋っていたおかげで、こやつらと呼ぶことができた」

「…………別にこの程度の数ではたかが知れる」

そう言ってガンマが指を鳴らすと同時に黒服のガードマン4人が嵐達の前に立ちふさがった。

「お前ら、こいつらを潰せ」

そう言って両儀兄弟を乗せた一台の車が行ってしまった。

「ふ、新生チームの初陣だ！テメエら気合入れる！！速攻決めてあの車追っぞ！」

「「「おう！」「」」

「「「デュエル！！」「」」

嵐・烏・佐助・夕夜 LP各自4000

ガードマン LP各自4000

先攻 ガードマン4人

「「「私のターン。カードを5枚セット」「」」

4人とも、まったく同じ行動？しかも5枚セットって、長期戦に持ち込む気か？

「「「そして、ガトリング・オーガを召喚」「」」

ガトリング・オーガ

効果モンスター

星3 / ATK800 / DF800

自分フィールド上の魔法・罫カード1枚を墓地に送ることで、相手に800ポイントのダメージを与える。

「「「ガトリング・オーガの効果発動。魔法・罫カード5枚を

墓地に送り、貴様らに4000のダメージを与える。ガトリング・ファイアー!!」「」

「」がああああああああ!!」「」

その瞬間、4人の全身にまるで本物の弾丸を受けたかのような衝撃を受けた。嵐たちはその感覚に覚えがあった。ほんの少し前、6枚のカードをかけて戦ったあのとときに受けた、ダメージが実体化したあの衝撃だった。

嵐・烏・佐助・夕夜 LP4000 0

そして嵐たちはその衝撃に耐え切れず、全員気絶した。

それを確認したガードマンの1人が携帯を取り出しガンマに指示を仰ぎ、電話を切った。

「こいつらも本社に連れて行け。念のために全員のデッキは回収してからとのことだ」

「」……」は……あれ?」

それは戦いからだいぶ時間がたってからのことだろう。
気絶していた俺が、次に眼を覚ましたとき、俺たちは全員どこかの倉庫らしき部屋で、鍵付きの鎖につながれていた。

t u r n 2 8 : そして、事件は起きた。(後書き)

いよいよ第2章稼動です!! 連れ去られた祭は、閉じ込められた嵐
たちの運命は!?

夏終わる直前でコレがかけて本当によかったです!!
そして改めて思います。ガトリング・オーガ、卑怯すぎねえ?

t u r n 2 9 : 囚われた中で (前書き)

ここまで長いを書いたの初めてかもしれない。

turn29：囚われた中で

「一言で言うと、最悪の状況だな」

全員が目覚めたのを確認して、夕夜は状況把握に専念していた。

「現在、俺たちがどこに閉じ込められているかは不明。ディスクはあるが全員のデッキは奪われた！おまけに鎖だの手錠だのでつながられて動けない！」

「俺だけなぜか首にU字ロックまでついてるぜ」

なぜかメンバーの中で一番嚴重につながれた鳥が苦笑しながら告げた。

「おそらくはあの者達のアジトであると思うのじゃが、動きが取れぬのではあまり関係ないの」

「だよなあ……………」

鳥はぼやきながら自らに絡みついた鎖、首を固定するU字ロック、両手をつなく手錠を慣れた手つきで開錠し始めた。

「ああ〜体中がいてえ……………」

全ての鍵を解錠し終えた鳥は体を伸ばしながら立ち上がった。

「……………お前なんでそれだけのモンを全部はずせんだよ！」

「？」

「いやあ家出中に似たような目に何度かあってな、この程度のことなら昼寝しながらでもできるようになったんだ」

家出中何があったよ!？

「少し待つてな今お前らのもはずしてやつから……っよ」

鳥が言い切らないうちに俺たち全員は鎖から解放された。

「よくやった鳥。後はここから出るだけだな」

「しかし、本当にたいしたものじゃのう」

「えっと出口は、ああ内側から空かないようにロックがかかってら。待つてろ、こいつコンピュター制御みてえだからすぐにハッキングかけろ。家出中よくあったことさ」

だから家出中何があったよ!？

「ここをこうしてこいつを解除して……こりゃダメだ。開かん」

「……開かんのかよ!」「」

期待させといて! がつかりだよ!!

「しょうがねえだろ!最後のセキュリティがこの状況でデュエル設定かけてんだからよ。ここを出たきゃデッキを持ってきて勝負に

勝ちな」

「そんな……」

「ここにきて、よりもよってデッキを奪われた状態で……ん？」

「そういや、もしかしたら……あつたあ!!俺のデッキい!!」

「嘘!?!」

「まことか!?!」

「ああ!実家に帰った時に昔使ってたデッキ見つけてさ、ポケットに入れといたんだけどさ、無事だったあ!!」

古いの持ってて本当によかったあ!

「んじゃ、早速やってくれるかい。嵐?」

「上等!?!」

「嵐、ディスクにこのケーブルを繋げ。時間はかかってもいい、とにかく一回で勝て!!」

「了解!」

「それじゃ、ロック解除、開始」

ピー　ピー・・・最終セキュリティシステム作動　デュエルラ
カイシシマス

嵐LP4000

システムLP4000

先攻　システム

「ワタシノターンドロー。魔法カード『終焉へのカウントダウン』
ヲ発動。ライフヲ2000ハラウ。カードヲ2マイフセターンエン
ド」

システムLP4000　2000

終焉へのカウントダウン

通常魔法

2000ライフポイント払う。

発動ターンより20ターン後、自分はデュエルに勝利する。

「俺のターン。ジェムナイト・ガネットを召喚！」

俺の場に、過去の相棒、ジェムナイトが召喚された。

ジェムナイト・ガネット

通常モンスター

星4 / ATK1900 / DF　　0

ガネットの力を宿すジェムナイトの戦士。

炎の鉄拳はあらゆる敵を粉碎するぞ。

「ジェムナイト・ガネットで、ダイレクトアタック！」

「おい馬鹿！こいつ明らかに長期戦用のデッキだぞ！もっと慎重に戦え！」

慎重？何それ？食べれるの？ジェムナイトを手にした俺の戦いは攻撃あるのみ！！

「手札カラ『バトルフェーダー』ヲ特殊召喚。バトルフェイズヲ終了させマス」

「なに！？」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / ATK 0 / DEF 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「「「分かりきってたことだろ……」「」」

外野！ため息つくな！！

「俺はコレでターンエンドだ」

2ターン経過

「ワタシノターン『ゼロ・ガードナー』ヲ守備表示デ召喚。ターンエンド」

ゼロ・ガードナー

効果モンスター

星4 / ATK 0 / DEF 0

このカードをリリースして発動する。

このターン自分のモンスターは戦闘では破壊されず、相手モンスターとの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

この効果は相手ターンでも発動することができる。

3ターン経過

「俺のターン！魔法カードジエムナイト・フュージョン発動！俺の場のジエムナイト・ガネットと手札のジエムナイト・サフィアを融合！ジエムナイト・ルビーズを攻撃表示で融合召喚だ！！」

ジエムナイト・ルビーズ

融合・効果モンスター

星6 / ATK 2500 / DEF 1300

「ジエムナイト・ガネット」+「ジエムナイト」と名のついたモンスター

このカードは上記のカードを融合素材にした融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在する「ジエム」と名のついたモンスター1体をリリースして発動する事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時までリリースしたモンスターの攻撃力分アップする。

また、このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

ジェムナイト・フュージョン

通常魔法

手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、「ジェムナイト」と名のついた融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

また、このカードが墓地に存在する場合、自分の墓地に存在する「ジェムナイト」と名のついたモンスター1体をゲームから除外する事で、このカードを手札に加える。

「さらにジェムレシスを通常召喚！その効果によりデッキからジェムナイト・ルマリンを手札に加える」

ジェムレシス

効果モンスター

星4 / ATK1700 / DF 500

このカードが召喚に成功した時、自分のデッキから「ジェムナイト」と名のついたモンスター1体を手札に加える事ができる

「そして、ジェムナイト・ルビーズの効果発動！ジェムレシスをリリースして、その攻撃力をルビーズに加算する！」

ジェムナイト・ルビーズ

ATK2500 4200

「ジェムナイト・ルビーズでバトルフェーダーを攻撃！」

「『ゼロ・ガードナー』ノ効果、コノカードヲリリースシ戦闘ニヨル破壊ヲ無効。ダメーシヲゼロニシマス」

「くっそ！」

また攻撃が通らなかつたか……。

「……だからみりや分かるだろ……」「」

だから三人ため息つくな！！

「お、俺はこれでターンエンドだ」

4ターン経過

けどまだ余裕もあるし、逆転は十分可能だ。ていうか、コイツのライフはルビーズの攻撃が一回通れば0になる程度の数値だし。

「ワタシノターン。ワタシハコレデターンエンドデス」

5ターン経過

「俺のターン。ジエムナイト・ルビーズでバトルフェーダーを攻撃」

「畏発動『威嚇する咆哮』コノターンアナタハ攻撃宣言ガデキマセン」

「……ターンエンド」

6ターン経過

「ワタシノターン魔法カード『ハンマーシユート』ヲ発動。攻撃カノ最モ高イ『ジエムナイト・ルビーズ』ヲ破壊」

「ルビーズ!!」

上空から墮ちてきた巨大な槌にルビーズの戦士が粉々に砕かれた。

「ワタシノターンハ終了デス」

7ターン経過

「俺のターン……ってなんかさっきから同じことの繰り返しな気が」

「そりゃ繰り返しだからな」

ですよ

「なんとか決着つけないと。俺は墓地のジエムナイト・フュージョンの効果を発動！墓地のガネットを除外してジエムナイト・フュージョンを手札に加える。そしてジエムナイト・フュージョン発動！手札のジエムナイト・サファイアとジエムナイト・アレキサンドを融合。ジエムナイト・アクアマリナを融合召喚！」

ジエムナイト・アクアマリナ

融合・効果モンスター

星6 / ATK1400 / DF2600

「ジエムナイト・サファイア」+「ジエムナイト」と名のついたモンスター

このカードは上記のカードを融合素材にした融合召喚でのみエク

ストラデツキから特殊召喚する事ができる。

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時に守備表示になる。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して持ち主の手札に戻す。

「もうここまでできたら攻めまくって突破口を見つける以外手はなさそうだな。ジェムナイト・アクアマリナでバトル・フェーダーを攻撃」

「罨カード『強制脱出装置』発動ジェムナイト・アクアマリナワアナタノエクストラデツキニモドシマス」

「くそっ！ターンエンド」

8ターン経過

「ワタシノターン。カードヲ3枚フセテターンエンド」

9ターン経過

・・・長い。もうここまでの長期戦は精神面にダメージを与えます。

「俺のターン・・・来たあ！！ハリケーン発動！！さあ手札にもどれセットカード共が！！」

フィールドにセットされた全ての魔法・罨カードが互いの手札に戻った。

「さらに戦士の生還発動！墓地のジェムナイト・サファイアを手札

に戻し、再びジェムナイト・フュージョン！！手札のジェムナイト・ルマリンとジェムナイト・サフィアを融合し、ジェムナイト・パイズを召喚」

ジェムナイト・パイズ

融合・効果モンスター

星6 / 地属性 / 雷族 / 攻1800 / 守1800

「ジェムナイト・ルマリン」+「ジェムナイト」と名のついたモンスター

このカードは上記のカードを融合素材にした融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

このカードは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地に送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

ようやく訪れた勝負を決める千載一遇のチャンス。逃してなるものかあ！！

「ジェムナイト・パイズのバトル・フェーダーを攻撃！パイズの効果によりもう一度バトルできる！いけえ！！」

システム本体にパイズの一撃を叩き込もうとした瞬間

「手札の『速攻のかかし』の効果ヲ発動。『速攻のかかし』ヲ墓地へ送り、バトルフェイズヲ終了シマス」

速攻のかかし

効果モンスター

星1 / 攻0 / 守0

相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて

発動する。

その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

「ターンエンド」

10ターン経過・・・ガードセキュリティ発動

俺がエンド宣言をしたとき、画面上に妙な文章が現れた。

「ん？なんだこれ？烏、なんか分かるか？」

「あ？えつと・・・こりゃあれだ。一定の時間が経過したら発動するっていう隠し機能」

「して、この場合はどういったものなのじゃ？」

しばらくして画面に続きであろう文章が現れた。

タ。
コレヨリ5分後ニコノ空間ニ毒ガスガ撒カレルコトガ確定シマシ

母さん、俺死ぬかもしれません。

「いやだあ！！こんなトコで死ぬのはいやだあ！！」

「デッキを！せめて死ぬときはデッキを手元に置かせてくれえ！」

「・・・16年、短いが、悪くない人生じゃったな・・・」

ああこいつら俺が負けること前提でいやがる。

「お前ら何言ってるんだよ。まるで俺が負けることが確定してるみたいじゃねえか」

「だってお前さつきからはほとんど攻撃通ってねえじゃん!」

「心配すんなって。俺の実力は知ってるだろ?」

「「知った上で言ってるんだチクショウ!」」

シクシクシクシクシクシクシクシクシクシクシクシクシク

「泣いてる暇があるなら勝て!」」

「ぐす……了解」

「ワタシハコレデターンエンドデス」

11ターン経過 残り4分30秒

「来てくよ、俺のターン……ドロー!」

……このカードは

「……ターンエンド」

12ターン経過 残り4分10秒

「馬鹿やろう!何で何もしないんだよ!後5分で俺ら死ぬかもし

れないんだぞ」

「だからこそ時間を無駄にはできないんだよ。……こっからは賭けだ」

今引いたカード、あれを使えば勝てるかもしれないけど、使うにはまだ手が足りない。

「大丈夫だ。俺は勝つ。信じる」

文句を言ってきた烏に俺は自信満々の笑みを見せた。

「……わかったよ。俺らの命、テメエに託した」

「了解！」

「ワタシノターン。ターンエンドデス」

13ターン経過 残り3分40秒

「俺のターンドロ。ターンエンドだ」

14ターン経過 残り3分10秒

まだ足りない

「ワタシノターン。ターンエンド」

15ターン経過 残り2分50秒

「俺のターンドロー！ターンエンド」

16ターン経過 残り2分40秒

まだ足りない

「ワタシノターン。永続魔法『平和の使者』ヲ発動シターンエンド」

平和の使者

永続魔法

お互いに表側表示の攻撃力1500以上のモンスターは攻撃宣言が行えない。

自分のスタンバイフェイズ毎に100ライフポイントを払う。払わなければ、このカードを破壊する。

「俺のターン、ドロー。ターンエンドだ」

まだ足りない

17ターン経過 残り2分30秒

「ワタシノターン『平和の使者』ノ維持コスト100ヲ払イターンエンドデス」

システムLP2000 1900

18ターン経過 残り2分

「俺のターン……ドロー！」

ラストターン……準備は整った。

「行くぜ。魔法カード死者の選択発動！」

死者の選択（オリジナル）

魔法

・自分の墓地に存在するモンスターカードが相手より少ないとき、自分の手札を1枚墓地に送る。

相手はデッキからカードを2枚ひく。

・自分の墓地に存在するモンスターカードが相手より多いとき、デッキからカードを2枚引く。

相手は手札を全て墓地に送る。

「死者の選択の効果でお前の手札を全て墓地へ送り俺はカードを2枚ドロ―する！魔法カード魔法石の採掘！手札を2枚捨て墓地のハリケーンを手札に戻し発動！互いの魔法・罠を全て手札に戻す！」

ようやく相手の場の伏せカードが消えた。そして、今奴の手札は全て魔法罠！

「さらに装備魔法フュージョン・ウエポンをパ―ズに装備」

フュージョン・ウエポン

装備魔法

レベル6以下の融合モンスターのみ装備可能。

装備モンスターの攻撃力と守備力は1500ポイントアップする。

ジェムナイト・パ―ズ ATK1800 3300

残り1分

「バトル！ジエムナイト・パーズでバトル・フェーダーを攻撃！
パーズ・サンダー！！」

敵の場にいつづけた唯一のモンスターをようやく破壊した。そして

「ジエムナイト・パーズの効果でダイレクトアタック！！」

とどめの一撃を加えた。

システム LP16000

『ピー・・・最終防衛ライン解除・・・扉ノロックヲ解除シマス』

扉が・・・開いた。

「「「よつしゃあ！！」「」」

残り時間13秒

「早くこつから出るお！！」

俺たちは一目散に部屋から抜け再び扉を閉めた。

「あつぶなかつたあ・・・」

「危機一髪とはこのことじゃな」

「さあて、こっからどうするか。デッキも取られたままだし」

『お！お前！やっと見つけた！！』

ようやく開放され一息ついていた俺に誰かが話しかけてきた。

「・・・ヒータ？」

『急いでくれ！うちの主人がヤバイ！！』

「祭が！？・・・でも俺たちのデッキは」

『それなら私たちが知ってる。急げ！！』

「わ、わかった。3人とも俺についてきてくれ。デッキのある場所が分かった」

「マジで！？」「まことか！？」

「だけど、何でお前が知ってた？」

「細かい事は後で話す。とにかくついて来てくれ」

「じゃあない。わかった。じゃあすぐ案内してくれ」

「サンキュー。頼むぞヒータ」

『しっかりついて来いよ！』

そして俺たちは見知らぬビルの中を走り出した。

TRUN30：創られたカード（前書き）

とうとう、この小説のアクセス数が10万を突破しました！！これ
からもよろしくお願いします！！

TRUN30：創られたカード

ヒータの案内で俺たちがたどり着いたのは、研究所のような部屋だった。

「薄気味悪い部屋だな。なあ嵐、本当にここにデッキがあるのか？」

「あるはずだよ。（ヒータ、どの辺にデッキが保管されてんだ？）」

「佐助たちに聞こえないように俺はヒータに訊いた。」

『その台座の上、ウチの主のデッキも含めてみんな置いてある』
そう言ってヒータが指差すほうを見てみると、確かにデッキらしき物がいくつか鉄でできた台座の上に置かれていた。
俺は早速みんなを台座の前に呼び集めた。

「あつたあ！俺のBF！！」

「わしの死神もじゃあ！！」

「俺の次元帝クロノスも無事だあ！！」

と全員がデッキの安否を確認し喜び合った。
だが夕夜、そのカードに関して俺は初耳だぞ。

「そうじゃ！ものついでに、お主らもこちらに来てみよ」

佐助が別の機材の前まで俺たちを連れて行った。機材の中には研究中と思しき見たことのないカードがいくつもおかれていた。

「なんだよこのカード。こんなカード初めて見たぞ・・・」

「ああ、俺も」

「しかし、わしらのデッキに使えるようなカードが何枚もある・・・ここから必要なものを持って行ってしまったらどうじゃろう」

なんか強欲の塔以来、佐助の物欲が時々見え隠れするようになったのは気のせいだろうか。

「佐助の意見には賛成だ。このあたりのカード、俺のデッキにはもってこいじゃねえか！」

鳥の意見には、俺も同じ意見だった。

「まあそれに関しては否定しないよ。このカードなんか、俺のために作られたっていつても過言じゃないし」

「そもそもあいつ等は俺たちのデッキを盗んだんだ。奴らは人のカードを奪う悪党だ！俺たちがかのカードを持っていくのは泥棒じゃない、義賊だ！」

「「「そのとおりですリーダー！」「」」

「それでは、とつとと欲しいカードを奪ってこの部屋を脱出、その後、この建物を暴れ回るぞー！！」

我らがリーダー夕夜の命令が下ったとき

「それは困りますね。研究中のカードを奪われた拳句、捕まえたはずの子供に暴れまわられたとあっては、アルカディアムーブメントの名折れです」

俺たちの後方から声が上がリ、振り返ると、真っ白な白衣をまとった研究員と思しき男が俺たちの後ろで不気味に笑っていた。

「・・・誰だお前？つてか、アルカディア・・・なんだって」

「アルカディアムーブメント。私が所属するサイコ・デュエリストの組織です。申遅れました私、御影みかげと申します」

サイコ・デュエリスト？

「聞いたことがあるぞ。たしかデュエルモンスターを実体化させ、他人に本当のダメージを与えられるものたちがおると。まさか、このお主らが！？」

「おや？そこのお嬢さんはなかなか聡明だ。そうです。アルカディアムーブメントとはサイコ・デュエリストが集められた集団です」

実際のダメージ・・・そうか、だからあいつらの攻撃は衝撃になって俺たちに

「で、そんな奴らが集まって、一体何をしようってんだ？」

「さあ。我らがリーダーの考えは私にはよく分かりません。私は

自分の研究ができればそれでいいのです。そうだちょっといい。どなたか私の実験の相手をしてくださいませんか？ついこの間完成したものを試したくてしょうがないんですよ」

「実験？ふざけんな！誰がそんな」

「俺が受けよう」

俺の言葉を遮り、夕夜がデュエルディスクを構えながら前に出た。

「夕夜！？」

「俺たちの目的はここで暴れて、両儀兄妹を助け出すことだろ？コイツは俺が相手するから先に行け」

「だけど！？」

食い下がろうとする俺の服を佐助が引っ張った

「・・・嵐、行くぞ」

「大丈夫だって、夕夜が負けるはずない」

「・・・分かった。夕夜！後で追いついて来いよ！！」

「おう！！」

拳は上に上げ笑う夕夜の顔を確認した後、俺は夕夜の前から姿を消した。

「……行っちゃまったけどよかったのか？あいつら、お前の実験中のカードみんな持って行っちゃまったぞ」

その問いに御影は笑顔で答えた。

「いいのです。私の研究成果が分かるなら、カードが誰の手に渡るうと関係ない」

「何だお前、ただの研究バカかよ」

「そのとおりです。では、実験を始めましょうか」

「その前にお前にもペナルティをつけさせてもらうぜ！！」

夕夜は声を上げたと同時にデュエルディスクから内蔵されたケーブルを伸ばし御影のデュエルディスクに向かって投げつけた。ケーブルの先端に取り付けられていた手錠のようなものが御影のデュエルディスクをがっちりつかんだ。

「これで、お前がダメージを受けるたびお前に電流が流れるようになった！」

「っふ。面白いものを造りますね。いいでしょう……実験開始」

「デュエル！！」

夕夜LP4000

御影LP4000

先攻 御影 (以降夕夜視点)

「では、私の先攻。ドロ。ふむ、モンスターをセットしてターンエンドです」

「え？それだけでいいの？・・・まあいいや。俺のターン！異次元の生還者を攻撃表示で召喚！」

異次元の生還者

星4 / ATK1800 / DF 200

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードがゲームから除外された場合、このカードはエンドフェイズ時にフィールド上に特殊召喚される。

「異次元の生還者でセットモンスターを攻撃！」

「ふふふ、私のセットモンスター、魔導雑貨商人の効果により魔法・罫カードが出るまでデッキからカードをめぐり墓地へと送る。・・・一枚目は魔轟神ソルクウス、二枚目は魔轟神クシャノ、三枚目は魔轟神レイヴン、四枚目はレベル・ステイラー、五枚目は愚かな埋葬・・・最初に引いた四枚のカードを墓地へ送ります」

そう言つて、御影はデッキからカードを次々墓地へ送つた。

魔導雑貨商人

効果モンスター

星1 / 攻 200 / 守 700

リバース：自分のデッキを上からめぐり、

一番最初に出た魔法か罫カード1枚を自分の手札に加える。

それ以外のカードは墓地へ送る。

「・・・魔轟神？知らないシリーズだな」

「ええ。何しろ私が開発したカードなのですから」

自分で作った？つまりこいつしか持ってないって事か！？

「マジかよ！？お前すげえな！！」

「ありがとうございます。しかし、あなたに楽しんでる余裕はありませんよ？」

「はあ？そんなのやってみなけりゃ分かんねえじゃないか。カードを1枚セットしてターンエンド」

「私のターン、墓地のソルキウスの効果発動。手札を2枚墓地へ送りソルキウスを特殊召喚」

がら空きだった御影のフィールドに見たことのないモンスターが出現した。

魔轟神ソルキウス

効果モンスター

星6 / 攻2200 / 守2100

手札から「魔轟神ソルキウス」以外のカード2枚を墓地へ送って発動する。

このカードを墓地から特殊召喚する。

「何！？」

「まだまだ続きますよ！魔轟神クシャノの効果発動！手札の魔轟神を墓地へ捨て、墓地の魔轟神を手札に戻す。更に墓地へ捨てた魔轟神クルスの効果により墓地に存在するレベル4以下の魔轟神を特殊召喚！さあ現れなさい！魔轟神レイヴン！！」

魔轟神クシャノ

チューナー（効果モンスター）

星3 / 攻1100 / 守800

手札から「魔轟神クシャノ」以外の「魔轟神」と名のついたモンスター1体を墓地へ捨てて発動する。

自分の墓地に存在するこのカードを手札に加える。

魔轟神クルス

効果モンスター

星2 / 攻1000 / 守800

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、自分の墓地に存在するこのカード以外のレベル4以下の「魔轟神」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。

魔轟神レイヴン

チューナー（効果モンスター）

星2 / 攻1300 / 守1000

自分の手札を任意の枚数捨てて、その枚数分このカードのレベルをエンドフェイズ時まで上げる事ができる。

このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、この効果によって捨てた手札の枚数×400ポイントアップする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「一気に2体のモンスターを特殊召喚って、BF並みのたちの悪さじゃねえか」

「BF?その程度のモンスターと一緒にされては困りますね!レイヴンの効果により手札の魔轟神獣ケルベラル、魔轟神獣キャシー、魔導雑貨商人を墓地へ捨てレベルを3つあげる。更にキャシーの効果により異次元の生還者を破壊!ケルベラルをその効果により特殊召喚!」

魔轟神獣ケルベラル

チューナー(効果モンスター)

星2/攻1000/守400

このカードが手札から墓地へ捨てられた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「レベル6の魔轟神ソルキウスにレベル2の魔轟神獣ケルベラルをチューニング!!神魔なる轟き、その片鱗を魅せなさい!シンクロ召喚!!現れなさい魔轟神ヴァルキュルス!!」

魔轟神ヴァルキュルス

シンクロ・効果モンスター

星8/攻2900/守1700

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

手札から悪魔族モンスター1体を捨てて発動する。

自分のデッキからカードを1枚ドロースする。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

御影のフィールドに現れたシンクロモンスター。おそらくあれが魔轟神の切り札なのだろう。しかし、うっすらと感じるこのピリピリした感覚はなんだ?それに、少しずつだが、御影の様子がおかしくなっていないか?

「ヴァルキュルスの効果！手札の悪魔族を墓地へ捨てカードを1枚ドロー！！ドローカードは魔轟神グリム口、そしてグリム口の効果発動！！魔轟神が場にいるときこのカードを墓地へ送りデッキの魔轟神を手札へ加える！私は魔轟神クルスを手札へ加えクシャノの効果を発動！クルスを墓地へ捨て回収し捨てられたクルスの効果で墓地のクシャノを特殊召喚。そして、手札を2枚捨てソルキウスを特殊召喚し墓地のレベル・ステイラーの効果発動レイヴンのレベルを1つ下げレベルステイラーを特殊召喚する！！」

レベル・ステイラー

効果モンスター

星1 / 攻 600 / 守 0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在するレベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

「レベル1のレベル・ステイラーにレベル4となった魔轟神レイヴンをチューニング！！神魔なる轟き、その片鱗を魅せなさい！シンクロ召喚！！現れなさい魔轟神レイジオン！！」

魔轟神レイジオン

シンクロ・効果モンスター

星5 / 攻2300 / 守1800

「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の手札が1枚以下の場合、このカードがシンクロ召喚に成功した時、自分の手札が2枚になるまでデッキからカードをドロース

る事ができる。

「魔轟神レイジオンで、私の手札が2枚になるようカードを引く！！そして再びレベル・ステイラー、対象はソルキウスだ」

ソルキウスの星を喰らい、再びあのとんとう虫が墓地から這い上がってきた。

「レベル1のレベル・ステイラーにレベル5となった魔轟神ソルキウスにレベル3の魔轟神チューニング。氷結界に封印されし最強の龍よ。全てを凍てつかせ絶望を植えつける！シンクロ召喚！氷結界の龍トリシューラ！トリシューラの効果によりフィールド、手札、墓地のカードを1枚ずつ除外！！」

「そう全部を思い通りにはさせねえぞ！畏発動！威嚇する咆哮！これでお前はこのターン攻撃宣言できない！」

「っは、悪あがきしやがって、カードを1枚セットしターンエンド」

っ、強い。正直威嚇する咆哮を伏せてなきやさっきのターンで負けてた。けど、メツチャ面白くなってきた！！

「俺のターン！！モンスターをセット。でもってカードも1枚セツトしてターンエンド」

（セットカードはD・Dアサルトだし、セットカードはミラーフォース。こいつならしばらくの時間は稼げるし、逆転も狙える）

「ふふふ、その2枚のカードに希望を託したみたいだが、そんな

カードは私に通用しませんよ！！私のターン！くくく、見せてあげましょう私の作った最高のカードを！！私はヴァルキュルスを手リリースし、魔法カード魔轟の書を発動！！！！」

魔轟の書（オリジナル）

魔法

自分フィールド上に存在する「魔轟神」と名のつくモンスター1体をリリースして発動する。

リリースしたモンスターのレベルによって以下の効果を1つずつ使用する。

LV1～4：墓地のモンスター1体を手札に加え、デッキからカードを1枚ドロウする。その後手札を1枚捨てる。

LV5～6：フィールド上の「魔轟神」以外のカードを墓地に送る。この効果を使用したターン、「魔轟神」以外のモンスターは攻撃宣言できない。

LV7～：手札が5枚になるようドロウし、その後手札を全て捨てる。

魔轟の書の発動と同時にどす黒い闇がカードからあふれ、御影の様子が更におかしく、いや狂った。

「ク、カカカカ・・・コイツの効果でリリースしたヴァルキュルスのレベルは8！よってコイツの全ての効果を使用可能！！1つ目の効果、モンスターを手札に加えカードを1枚ドロウ。そして1枚を墓地へ。今の効果でクルスを手札へ、クルスの効果でレイヴンを特殊、トクシュ召喚！！第2の効果、コウカ、こうか！！魔轟神以外を墓地へ！！」

魔轟の書により夕夜の場のカードは全て破壊、いや消滅してしま

「つく！だあくつそ！！カード効果からテメエの人格まで全ツ部ぶっ壊れてんじゃねえか！！」

「まだだ、マダだ、マダダ。3つ目の効果、互いに手札が5枚になるようカードを引く！！」

「え、いいの？あゝ・・・ご親切にどうも」

「そして手札を全てカードを墓地へ！！」

「意味ねえじゃん！！」

夕夜はちよつと怒り気味に手札を捨てた。

「けど墓地へ送られたD・Dコンダクターの効果発動！このカード除外してゲームから除外されたモンスターを1体特殊召喚する！来い！邪帝ガイウス！！」

D・Dコンダクター（オリジナル）

効果モンスター

星5 / 攻1800 / 守2000

このカードが手札から捨てられたとき、このカードをゲームから除外することでゲームから除外されている自分のモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターが破壊されたときそのモンスターはゲームから除外される。

邪帝ガイウス

効果モンスター

星6 / ATK2400 / DF1000

このカードの生け贄召喚に成功した時、フィールド上に存在するカード1枚を除外する。

除外したカードが闇属性モンスターカードだった場合、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

「俺は、おれは、オレ八墓地のレベル・ステイラーの効果発動！レイジオンを対象、にし、特殊召喚！レベル2のクルス、レベル1のレベル・ステイラー、レベル2のケルベラル・・・チューニング！！シンクロ召喚、魔轟神レイジオン！！その効果で2枚ドロ、レイヴン効果で手札を2枚捨て、捨てたクルスの効果でケルベラル、けるべらるを特殊しようかん！！レベル4になったレイヴンにケルベラルをチューニング！！か、くかかかか！！魔轟神ヴァルキュルスしんくる召喚！！ヴァルキュルスで、ガイウスを攻撃！！邪光轟魔閃！！」

「ぐおおおお！！」

夕夜LP4000 3500

「ケルベラル、レイジオンでダイレクトアタック！だいれくとあたたつく！！」

「ああああああああああああ！！」

夕夜LP3500 200

実体化したモンスターの攻撃を受け、俺は体に噛み傷やら火傷やらを負った。立てなくなるほどのものじゃないが、さすがにいてえな・・・。

「さらに、レイジオンに、レベル2のケルベラルチューニング！
！白き輝き天から遣わされし白銀の竜よ、圧倒的力をさらけ出せ！
シンクロ召喚、エンシエント・ホーリー・ワイバーン！！ワイバー
ンの攻撃力、ライフの差の分上昇！！ターンエンド、たーんえんど。
きゃはははははは」

エンシエント・ホーリー・ワイバーン
シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK2100 / DF2000

光属性チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分のライフポイントが相手より上の場合、その数値だけこのカ
ードの攻撃力はアップする。

自分のライフポイントが相手より下の場合、その数値だけこのカ
ードの攻撃力がダウンする。

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、1000
ライフポイントを払う事でこのカードを自分フィールド上に特殊召
喚する。

エンシエント・ホーリー・ワイバーン

ATK2100 5800

「たく、あの野郎、狂ってるくせに強いって、凶悪すぎんだろ。

「・・・なるほど、コレが嵐たちの言ってた。1キルのときに比
べたら、痛みは半端じゃねえな。正直、気絶しそうだぜ」

けど、あいつらの受けた痛みはきつと、俺なんか受けたダメー
ジより、もっと痛かったんだろうな。俺より受けた回数多いんだし。

「・・・だったら、リーダーの俺が、この暁夕夜さまが、戦いの途中で気い失うわけにはいかねえよな！」

そして俺はもう一度御影の狂った姿を見る。たぶん、あの作ったカードの効果が強すぎてあなっただらう。サイコ・デュエリストってのは、感受性が高いのかもな。

「くか、くかかか・・・けけ」

「けど、そんなことは同情する理由にはならねえ！俺は最後まで愉しませてもらう！んでもって勝つ！！ラストターン！ドロー！！チューナーモンスター・ディメンション・マジシャンを召喚！」

ディメンション・マジシャン（オリジナル）

チューナー

レベル2 / ATK 1200 / DF 700

このカードをシンクロ素材とする場合、素材とするモンスターは除外されたモンスター1体で無ければならない。

「除外されたレベル6の邪帝ガイウスにレベル2のディメンション・マジシャンをチューニング！！異次元を統べる王。今空間を切り裂き、我が前に光臨せよ！！シンクロ召喚！！次元帝クロノス！！」

次元帝クロノス（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 2100

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードの召喚に成功したとき、フィールド上に存在するモンスター1体を除外する。

このカードの攻撃力は除外したモンスターの攻撃力分アップする。

「次元帝クロノスの効果発動!! お前の場のエンシェント・ホーリー・ワイバーンを除外して、その攻撃力分クロノスの攻撃力を上げる!!」

エンシェント・ホーリー・ワイバーンの目の前にクロノスが両手をかざした途端、白銀の竜は次元の彼方へ吸い込まれた。

次元帝クロノス

ATK 2800 8200

「次元帝クロノスでヴァルキュルスを攻撃! 空・断・絶・輪!!」

次元をゆがませて生み出された円輪がヴァルキュルスに命中した。

御影LP 4000 0

「んでもって電流! さあ目え覚ませや!!」

「おおおおおおおおお!!!.....」

体中から煙を上げながら御影が音を立てて倒れた。

「ありや? ... ちょっと電流強すぎたかな? おゝい。生きてるか?」

倒れた御影のすぐそばまで行きとりあえず顔をペチペチ叩いてみた。

「……………なにが……………どうなって」

「途中でお前はおかしくなってたんだよ。んでもって勝負は俺の勝ちだ。そんじゃな」

そう言っただけ俺は研究室から出ようとしたとき

「待ってください」

多少移動し、壁に寄りかかった御影に呼び止められた。

「なんだよ」

「このデッキを、魔轟神を受け取ってもらえませんか？」

魔轟神を？

「はあ？お前、何言っただよ！そのデッキ、お前が作ったカードでできてんだろ？お前が使えよ」

「私が使っても扱いきれないことは今の実験でよく分かりました。そして君なら使いこなせると私の中の研究者としての勘が言いました」

「……………お前、作ったカードに愛着無いのかよ」

「言ったでしょう？私の研究成果が分かるなら、カードが誰の手に渡ろうと関係ないとだからあなたの手に渡ることに何の未練もありません」

「……この実験馬鹿が。分かったよ。そこまで言うならもら
ってやるよ。ただし、そう毎回はつかわねえぞ」

「ご自由に」

「じゃあな」

そうして俺は新たなデッキを手に、研究室を後にした。

「……さて、今度はどんなカードを作りましょうか」

御影は一人研究室で笑いながらそう呟いた。

TRUN30：創られたカード（後書き）

つらかった…御影のセリフ本当に長かった…
前書きでも書きましたがアクセス数が10万越えました。ありが
とございます。

それと、今回はこの小説を投稿した少しあとにもう一話投稿します
ので次話もよろしく願います。

TRUN31：リターンマッチ！（前書き）

連続？投稿2話目です。

本当はもう一話できたらなと思ったんですが、力不足により無理でした（泣）！

キャラ紹介を追加しました。

TRUN31：リターンマッチ！

「ああは言っただけど夕夜の奴、本当に大丈夫なのか・・・」

研究室から抜けてしばらくたったとき、俺は夕夜のこと少し不安になった。

「大丈夫だって。アイツはジェネシスのリーダーだぞ。そう簡単に負けたりしねえよ。しっかし、ここあの高いビルの中だったんだな。ここ何階ぐれえだろ？」

たしかに、あいつが負けてるとこんなに見たことが無いけど、でもダメージが実体化するサイコ・デュエリストが相手だし・・・

「嵐よ、こういうときこそ、信じるのが大事じゃぞ」

佐助も烏と同じく夕夜が負けるなんてことは一切考えていない顔だった。

「そうだよな。悪い、ちょっとダメージ実体化がトラウマになりそうだったのかもしれない」

「んなこと気にせず走れ。走って相手見つけて、ほんで祭救出だ」

「そうだな」

俺は気持ちを完全に切り替え、走っていた足を更に鞭を打ち、加速した。

だいぶ体力も消費した頃、俺たちは一旦走るのをやめた。なぜな

ら、通路が三パターンに別れていたからだ。一つはそのまま走り続けるルート。一つは階段、もう一つはエレベーター。

「はあ、はあ……こっからは一人づつになりそうだな」

「どうする？……俺はどれでもいいが、できれば休憩を含めエレベーターがいい……」

そりゃ、正直にいれば全員同じ考えだろう。

『主人がいるのはここから5階上がったトコだ！エレベーターでも階段でもいいから！とにかく逃げやばいんだよ！』

ヒータは俺をせかすように言葉を発し続ける。

俺がどちらを選ぼうか悩んでいたときエレベーターの扉が唐突に開き中から黒服の男が出てきた。

「ッ！？お前らいつの間に！？おい誰か来い！ガキどもが逃げたぞー！」

「まず！嵐！！お前は階段を使い！！こいつは俺が相手する！！」

烏はデュエルディスクを構えるとワイヤーのついた手錠のようなものを投げつけ黒服の男と自分のディスクを繋いだ。

「ならばわしは……向こうから来ておるもの度もの相手をしよ」

佐助のほうもディスクを構え、戦闘準備を整えた。

「って何言ってるんだよ！俺も手伝っ！」

「ばか。とらわれの姫様助けに行くのはナイト様の役目だろ？
・おめえが行った方がアイツも喜ぶしな。しししし」

「わしも同意見じゃ。まあ、おぬしに言っても理解せんじやろう
が、とにかくその訳はおぬしじゃ」

と、二人はこの状況でも笑いながら俺にそう言った。

「・・・分かった、分かりましたよ！行きゃいいんでしょ行きゃ
！」

俺は二人に背を向け階段を二段抜かして駆け上がって行った。

「ししし。じゃ、祭さんのナイトさまも行ったことだし、始める
か」

「デュエル！！」

鳥LP4000

黒服LP4000

先攻 鳥

「俺の先攻、ドロ！BF - 黒槍のプラスト召喚！カードを1枚
伏せてターンエンド！」

BF - 黒槍のプラスト

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 800

自分フィールド上に「BF - 黒槍のブラスト」以外の「BF」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

（こいつらの使うガトリング・オーガの対策は初ターンを奪うことが前提！そこは何とかなつたし、勝たせてもらうぜ！！）

「私のターン。ガトリング・オーガを召喚しカードを5枚セット」

ガトリング・オーガ

効果モンスター

星3 / ATK 800 / DF 800

自分フィールド上の魔法・罨カード1枚を墓地に送ることで、相手に800ポイントのダメージを与える。

（来た！！）

「罨発動！！デルタ・クロウ・アンチ・リバーズ！！」

デルタ・クロウ・アンチ・リバーズ

通常罨

自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

相手フィールド上にセットされた魔法・罨カードを全て破壊する。

また、自分フィールド上に「BF」と名のついたモンスターが3体存在する場合、このカードは手札から発動する事ができる。

鳥の罾の発動と同時にセットされた5枚のカードが全て破壊された。

「これでテメエのガトリング・オーガの効果は使えねえ！！」

「つく！ターンエンド」

「俺のターン！！BFの展開力を見せてやるぜ！！俺は永続魔法、黒い旋風発動しBF - 疾風のゲイルを特殊召喚！BF - 漆黒のエルフェンをリリースなしで通常召喚だ！！」

BF - 疾風のゲイル

チューナー（制限カード）

星3 / ATK 1300 / DF 400

自分フィールド上に「BF - 疾風のゲイル」以外の「BF」と名をついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

1ターンに1度、相手モンスター1体の攻撃力・守備力を半分に
する事ができる。

BF - 漆黒のエルフェン

効果モンスター

星6 / ATK 2200 / DF 1200

自分フィールド上に「BF」と名をついたモンスターが表側表示で存在する場合、このカードはリリースなしで召喚する事ができる。
このカードが召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスター1体の表示形式を変更する事ができる。

「黒い旋風の効果で俺はBF - そよ風のブリーズを手札に加え、

特殊召喚!!」

B F - そよ風のブリーズ

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 1100 / DF 300

このカードが魔法・罫・効果モンスターの効果によって自分のデッキから手札に加わった場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚することができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「B F」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「バトル! 黒槍のブラストでガトリング・オーガを攻撃! ブラックスパイラル!!」

「つぐ!! つが!!」

黒服の全身に強烈な電流が走る。

黒服 LP 4000 3100

「さらにそよ風のブリーズ、疾風のゲイル、漆黒のエルフェンでダイレクトアタック! テメエはとつとと気絶しろ」

「ぎゃあああああああ.....」

黒服 LP 3100 0

黒服の男はそのまま気絶し、その場に倒れた。

「はい完了。佐助、俺が残りの奴ら別のトコに移動させて相手し

とく。おら残りの奴ら俺について来あがれ!!」

「すまぬ烏。頼んだぞ」

烏は大勢のサイコ・デュエリストを引きつけながら、下の階へと降りていった。

t u r n 3 2 : リターンマッチ2ランクA (前書き)

部屋を出た夕夜のその後。

「・・・もしもシカケルか？」

『あ！夕夜！今まで何してたの！？双六さんは祭ちゃんがさらわれたって言うし、1日たってもみんな帰ってこないし、おじさんたち心配してるよ』

「え！？1日たってたのか？まいったな・・・それより、今の状況なんだからかくしかじか・・・」

「わかった。僕もあのビルに向かうよ。頼もしい助っ人もいるし」
『助っ人？もうすぐ分かるよそれじゃ』

・・・以上、本編で書けそうに無いところでした。

turn32:リターンマッチ2ランクA

「わしのターン！カルマで止めじゃ！！」

「ぐ、かはあああああああ！！（ボタン）」

また一人、アルカディア・ムーブメントの人間が煙を上げながら
気絶した。

（烏が大半を連れて行ったとはいえ、さすがに何人も敵を短い
ターンで倒すのは堪える）

「どけ。こいつの相手は俺がする。残った奴らは下に逃げたガキ
を追え。俺もすぐ行く」

『はっ！』

さつきまで佐助に攻撃を続けていた男たちが、蒼いコートを着た
短髪の男の一言を聞き、あっという間に下の階へ消えていった。

「……お主、相当の手だねじゃの」

「ほう。若いのに中々の観察眼だ。俺はこの組織の幹部の一人で
な。護衛兵の総監督をしている。名はジルと呼べ」

「なるほどの。幹部が相手ならこちらも本気でいかなばならぬ・
・ゆくぞ」

男は自ら手錠をデュエルディスクに装着させ、そして構えた。

勝負は1ターン目、なんとしても先攻を取らねば

「デュエル!!」

佐助LP4000

ジルLP4000

「わしのせんこ「私の先攻」」

先攻 ジル

「しまった!!」

先攻を奴に奪われた。そしてこやつがああ黒服の総監督なら、間違いない

「私はガトリング・オーガを召喚しカードを5枚セット」

ガトリング・オーガ

効果モンスター

星3/ATK800/DF800

自分フィールド上の魔法・罨カード1枚を墓地に送ることで、相手に800ポイントのダメージを与える。

やはりか。

「わしは手札からエフェクト・ヴェーラーを墓地へ送りガトリング・オーガの効果は無効にする!これで1ターンキルは不可能となった」

エフェクト・ヴェーラー

チューナー（効果モンスター）

星1 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻 0 / 守 0

このカードを手札から墓地へ送り、相手フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。

選択した相手モンスターの効果をエンドフェイズ時まで無効にする。

この効果は相手のメインフェイズ時のみ発動する事ができる。

「ほう。中々いい判断だ。しかし、その場しのぎにしかならんぞ」

「その場がしのげれば十分じゃろっ」

「……私はこれでターンエンドだ」

「わしのターン！死神銃士ドレイクを守備表示で召喚！さらに繋がりの激痛を発動！！」

死神銃士ドレイク（オリジナル）

効果モンスター

星3 / ATK800 / DF1500

このカードの召喚に成功したとき、相手に800ポイントのダメージを与える。

繋がりの激痛（オリジナル）

永続魔法

プレイヤーがダメージを受けたとき、相手プレイヤーに同じ数値分のダメージを与える。手札が0の場合このカードを破壊する。

「ドレイクの効果により、まずはお主に800のダメージ！デス・

ショット!」

「・・・つく!」

ジルLP4000 3200

「そして、繋がりの激痛がある限りガトリング・オーガの効果は使用できぬ!カードを1枚伏せてターンエンドじゃ」

それにしても、なんと言う耐久力じゃ。800とはいえ電流が流れたはずじゃのに、声すら上げんとは。

「私のターン。畏カード砂塵の大竜巻。繋がりの激痛を破壊」

吹き荒れる暴風に吸い込まれた。

「さらにガトリング・オーガの効果発動。魔法・畏カード4枚を墓地に送り、貴様に3200のダメージを与える。ガトリング・フアイア!」

「つく!ドレイクをリリースし畏カード!デス・キャンセルを発動!」

デス・キャンセル(オリジナル)

畏

自分フィールド上の『死神』と名のつくモンスター1体をリリースして発動する。

効果ダメージを1度だけ0にする。

「これにより、わしへの3200の効果ダメージは無効じゃ!」

佐助へ向けて発射された無数の弾丸が当たる直前で軌道をかえた。

「ならばガトリング・オーガでダイレクトアタック」

「つぐはあ！！」

佐助LP4000 3200

「私はビッグシールド・オーガを守備表示で召喚しターンエンド」

ビッグシールド・オーガ(オリジナル)

星3 / ATK1000 / DF2000

このカードは守備力を800下げること戦闘での破壊を無効にすることができる。

「わしのターン。スレイヤー・ファントムを攻撃表示で召喚」

スレイヤー・ファントム(オリジナル)

星3 / ATK0 / DF0

このカードをリリースして発動する。

フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

この効果でリリースされた場合エンドフェイズにこのカードを特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたこのカードの効果は無効になる。

「スレイヤー・ファントムをリリースし、お主の場のガトリング・オーガを破壊する！カードを1枚セットターンエンド。そしてエンドフェイズに墓地のスレイヤー・ファントムを特殊召喚」

「私のターン。ビッグシールド・オーガを守備表示で召喚しターンエンド」

2体目のビッグシールド・オーガ？何を考えておるのじゃ。

「わしのターン。死神技師スカルを召喚！レベル3のスレイヤー・ファントムにレベル3死神技師スカルをチューニング！冥府の扉を守る獣よ。わしの前に姿を現せ！シンクロ召喚！！死神獣ケルベロス！！」

死神獣ケルベロス

レベル6 / ATK 2500 / DF 1500

『死神』と名のつくチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが戦闘によってモンスターを破壊したときもう一度攻撃することができる

死神技師スカル

チューナー

レベル3 / ATK 1000 / DF 1000

「バトル！ケルベロスでビッグシールド・オーガを攻撃！！」

「ビッグシールド・オーガの効果発動。守備力を800下げ戦闘での破壊を無効にする」

ケルベロスに噛みつかれた巨大な盾は少しひびが入っただけで破壊しきれなかった。

「つく！ターンエンドじゃ」

「私のターン。2体のビッグシールド・オーガをリリース。レベル8のダークチューナー、デビル・オーガをアドバンス召喚」

ダークチューナー

Dデビル・オーガ

レベルマイナス8 / ATK0 / DF0

このカードの召喚に成功したとき、墓地に存在するレベル3以下のモンスターを特殊召喚する

「なっ！？ダークチューナーじゃと！？」

「デビル・オーガの効果により墓地のビッグシールド・オーガを特殊召喚しダークチューニング。ヤミと闇重なりし時、冥府の扉は開かれる。光なき世界へ！！ダークシンクロ！出でよヘルツイン・オーガ！！」

両肩に巨大なキャノン砲を装着した魔人が召喚された。

ヘルツイン・オーガ（オリジナル）

レベルマイナス5 / ATK2800 / DF1800

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

1ターンに1度、相手フィールドのモンスターを破壊し、そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。

手札のモンスターを1体墓地へ送り、そのモンスターのレベル×300のダメージを相手に与える。

「ヘルツイン・オーガの効果により貴様の場の死神獣ケルベロスを破壊し2500のダメージを与える。放てブラック・ナパーム」

「ぐああああああああ！！」

佐助 LP 3800 1300

「つつ〜・・・あつれ〜？おつかしいな〜。ダークシンクロモン
スター？そのカード、なんでダメエみたいな奴が持つてんだ？」

攻撃を受けた佐助の表情が、他人を小ばかにするような、普段の
佐助がするはずの無い笑顔になった。

「表情が変わった？・・・貴様、何者だ？」

「ああ？俺様は俺様だ。それに質問してんのはこっちだよ。そい
つは普通手に入るはずの無いカードだ。どこで手に入れた？」

「このカードは以前戦ったものから奪った。それだけだ」

「あっそう。にひひひ、ならいいや。さあ続き。続きやろうぜ」

「・・・ターンエンドだ」

「にししし、俺のターンドロ〜！つは。わしは一体・・・たしか
向こうの攻撃を喰らって・・・今はわしのターンか。考えるのは後
じゃ、わしは死神魔鏡リービを特殊召喚！」

死神魔鏡リービ（オリジナル）

チューナー

レベル1 / ATK0 / DF0

相手の場にのみモンスターが存在する場合、このカードは手札か
ら特殊召喚できる。

1ターンに1度、このカードのレベルを他のモンスターのレベル

と同じレベルにすることができると。

「さらに死神幻影ミラージユを通常召喚！」

死神幻影ミラージユ（オリジナル）

効果モンスター

星1 / ATK 0 / DF 0

自分フィールド上のこのカードをリリースすることで墓地から「死神」と名のつくモンスターを2体特殊召喚できる。

「ミラージユの効果発動！このカードをリリースし墓地より死神獣ケルベロスと死神銃士ドレイクを特殊召喚！！ゆくぞ！レベル3の死神銃士ドレイクにレベル1の死神魔境リービをチューニング！死の泉に眠りし美しき巫女よ。正しき死の道を示せ！シンクロ召喚！！導け、シンクロチューナー、死神妖姫センナ！！」

死神妖姫センナ（オリジナル）

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星4 / ATK 1000 / DF 1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードがフィールド上に存在する限り、戦闘以外でモンスターを破壊することはできない。

相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

美しい黒髪に黒い巫女装束を着た少女が佐助の場に現われた

「馬鹿な。それは我々が研究していたカード！？・・・御影の奴は何をしているんだ！！」

「奪ったばかりではあるが、存分に使わせてもらおうぞ！レベル6、シンクロモンスター死神獣ケルベロスにレベル4のシンクロチューナー、死神妖姫センナをチューニング！冥府の扉が開くとき、死を統べる神が舞い降りる。絶対的力を見せよ！アクセルシンクロ！！支配せよ！死神神龍デッド・ドラグーン！！」

しにがみしんりゅう
死神神龍デッド・ドラグーン（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK 3300 / DF 2800

シンクロモンスターのチューナー1体＋「死神」と名のついたシンクロモンスター

1ターンに1度、相手フィールドのモンスター1体を選択し、そのモンスターの効果を使用することができる。

また、このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手のカードの効果によって発生する自分への効果ダメージは代わりに相手が受ける。

相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

両腕に両刃の刃を携え、体の中央に水晶を浮かべた黒龍が召喚された。

「デッド・ドラグーンの効果！おぬしのヘルツイン・オーガの効果を使わせてもらう！ブラック・ナパーム！！」

青い水晶から放たれた黒炎が魔人の体を包み燃やし尽くした

「ぬっっっっ！！！！」

ジルLP4000 1200

「そして、デッド・ドラグーンでダイレクトアタック!! デス・ダイレクト!!」

ジルLP1200 0

「そして電流じゃ!」

ジルの体に高圧の電流が送られる。にもかかわらず、ジルは膝すらつかない。

「ぬづづづづづづづづづづづづづづづづ!」

「ば、バカな!? 1万ボルトは軽く超えておるはずじゃぞ!」

「わ、私は、この程度の攻撃では、やられん!!」

「あつそう。じゃあこの程度ではどうか?」

「ぐ、うわああああああああああ!!」

佐助の一言とともに電流の中に黒い色が混ざり、それがジルに達した途端、彼は悲痛な叫びを上げ倒れた。

「ありやくこの程度でダウンか。よわっ! しっかし、今の宿主は本当に乗っ取りやすいな、俺が言うのもなんだけど、少しは執着持てよ……っは! あれ? 何故こやつがすでに倒れて……まあよい。急いで鳥を追わねば! さすがにあやつだけでは持たん!」

そう言っ て佐助は会談を急いで下りて行った。ちなみにこの後夕
夜が倒れるジルに首をかしげながらエレベーターで下へ行ったこと
は、誰も知らない。

t u r n 3 2 : リターンマッチ2ランクA (後書き)

デュエリスとパック遊星編3、クロウ編早速買ってきました。・・・
なぜか魔法ばつかでした・・・なんで？

turn33：始まった死闘と嵐のさらなる弱点

・・・気がついてからかなりの時間が経った。巨大な窓から見える日はここに着いたときより少し高い。おそらく、すでに日付は変わっているだろう。

祭は、妹は無事なのだろうか。この結構豪勢な部屋に閉じ込められている間、そのことしか考えられなかった。

同じことを繰り返し考えていたとき、鍵のかかっていた扉が開き、妹を連れ去ったあの男が入ってきた。

「ご機嫌はいかがですか？お兄さん」

「・・・祭は？」

「ご安心を。彼女には傷一つ付いておりません。それどころか、彼女は我アルカディア・ムーブメントの一員となることが決まりました」

「・・・ふざけんな。祭がてめえらの仲間になるわけないだろんな戯言言ってる暇があったら俺を祭りに会わせる！！」

「そう思うと思っただけで彼女も連れてきましたよ。ほら」

そう言っただけで横にずれると、後ろに立っていた祭りが目に入ってきた。

俺はすぐさま祭の元に駆け寄った。

「祭！大丈夫だったか？怪我はしてないか？ひどい目に合わされたりしなかったか？」

「…………大丈夫です。兄さん」

そう答える祭の目を見て、俺は驚愕した。あいつの目には、まったくといっていいほど光がなかった。まるで、意識のない人形を見ているような…………

「…………てめえ、俺の妹に何した？」

「ふふ、ちよつとばかり催眠術をかけさせてもらいました。仲間になってくれると言ってくれたのもそのおかげなんですが」

「てめえ!!」

俺は奴に殴りかかろうとしたが、祭に腕をつかまれそれ以上進むことができなかった。

「つく！離せ祭!!アイツはぶん殴らなきゃいけないんだ!!」

「…………私たちのリーダーに手を挙げることは、たとえ兄であっても許しはしません」

!?

「…………そうだ。こうしましょうあなたたち兄妹で戦って、お兄さんが勝ったら妹さんを解放しましょう。もちろん、あなたに拒否権はありません」

「つな!?!…………クソ!!」

「では、がんばってくださいね」

奴は俺にデュエルディスクを渡し、ぽんと肩に手をおき少し離れた壁に寄りかかった。

俺は窓側に、祭は扉側に立ち、デュエルの準備を完了させ、勝負は始まった。

「祭、お前の目、兄ちゃんが覚ましてやるからな！」

「デュエル！！」

影月LP4000

祭LP4000

先攻 祭

「・・・私のターン。フェニキシアン・シードを召喚。このカードを墓地へ送りフェニキシアン・クラスター・アマリリスを特殊召喚カードを2枚伏せてターンエンド」

フェニキシアン・シード

効果モンスター

星2 / ATK 800 / DF 0

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードを墓地へ送って発動する。

自分の手札から「フェニキシアン・クラスター・アマリリス」1体を特殊召喚する。

フェニキシアン・クラスター・アマリリス

効果モンスター

星8 / ATK 2200 / DF 0

このカードは「フェニキシアン・シード」またはこのカードの効果でしか特殊召喚できない。

このカードは攻撃した場合、ダメージ計算後に破壊される。

自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時、800ポイントダメージを相手ライフに与える。

自分のエンドフェイズ時にこのカードが墓地に存在する場合、自分の墓地に存在する植物族モンスター1体をゲームから除外する事で、このカードを墓地から守備表示で特殊召喚する事ができる。

「俺のターン！手札からドラグニティ・トリブルを墓地へ送りパワー・ジャイアントを特殊召喚さらにドラグニティ・ピルムを通常召喚！レベル5となったパワー・ジャイアントにレベル3のドラグニティ・ピルムをチューニング！紅蓮の龍よ、俺の誇りを汚すすべてを焼き尽くすべく現れる！！シンクロ召喚！紅蓮の竜、レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 3000 / DF 2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

パワー・ジャイアント

効果モンスター

星6 / ATK 2200 / DF2000

このカードは手札からレベル4以下のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

この方法で特殊召喚した場合、手札から墓地へ送ったモンスターのレベルの数だけこのカードのレベルを下げる。

また、このカードが戦闘を行う場合、そのダメージステップ終了時まで自分が受ける効果ダメージは0になる。

ドラグニティ・ピルム

チューナー（効果モンスター）

星3 / ATK 1400 / DF1000

このカードが召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名をついた鳥獣族モンスター1体を特殊召喚し、このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。

このカードがカードの効果によって装備カード扱いとして装備されている場合、装備モンスターは相手プレイヤーに直接攻撃する事ができる。

この時、装備モンスターが相手ライフに与える戦闘ダメージは半分になる。

「レッド・デーモンズ・ドラゴンでフェニキアン・クワスター・アマリリスを攻撃！アブソリュート・パワーフォース！！」

「・・・フェニキアン・クワスター・アマリリスが破壊されたことで兄さんにも800のダメージが与えられます」

祭・影月LP4000 3200

爆散したアマリリスの欠片が俺に降り注ぎその身を焦がす。祭にこんな力は無かったはずなのに、あのヤロウ、催眠術のほかにか

しやがったな。

「カードをセットしてターンエンド。・・・本来、先に生まれたものが後に生まれた家族に手を挙げるなんてことあっちゃいけないことだが、お前の目を覚ますために、俺は、今回だけはお前を全力で倒しにいくぞ!!」

・・・ところ変わって嵐side

「うわああああああああ高い高い高い高い高い!!」

現在、俺はビル外に設置された非常用の螺旋階段に居る。理由は階段はあまりに敵が多かったからだ。俺は急いで階段を抜け走り回った結果ここに居るのだが、正直に言おう。俺は、おれは・・・

高所恐怖症なんだああああああああ!!

『・・・お前、よくこのビルに居て平気だったな・・・』

「し、下を見なきゃ平気なんだ! そう下を見なきゃ平気、見なきゃ平気・・・べ、別に怖くなんかないんだからね!!」

『何でツンデレ?』

今の俺の体制は両手で柱をしつかり握りまっすぐ頭上を見上げ、
ているというなんとも間抜けな状態。ちなみに足はがくがくだ。

そんなときに限って

「そのガキ、止まれ」

なんか下から来ちゃったよおおおおおおおおおおお！！

『おい下から敵が来たぞ』

「聞こえない！俺は何も聞こえない！！だから下なんか見ない！見る必要が無い！！べ、別にに怖くなんか無いんだから！こ、怖くないって言ってるんだろ！！」

俺なんで逆ギレ？

「……ファイアボー」

『おいお前走れ！！ここであれやられたら死ぬぞ！！』

「うわああああああああああん！！！！」

俺は両手を高速で動かし脚を分身して見えるくらいトコトコしながらすぐそばまで来た目的の階の扉を目指した。俺のすぐ下で何かが発する音が聞こえる。

「聞こえない！何も起こってない！！だから下は見ないiiiiiiiiiiiiiiiiiiii！！！！」

俺はようやくたどり着いた扉を開けビル内へと逃げ込んだ。

「ふ、ふはは。なんとか、逃げ切ってたぜ……」

「鬼ごっこはここまでだ」

振返ったと同時に開かれる扉。そしてその一瞬で

「下見ちまったじゃねえかちくしよおおおおおおおお！！」

怒りのままに錠を投げつけ

「デュエル！！テメエの先攻で始める！！」

勝手にデュエルを開始した。

嵐LP4000

?LP4000

先攻？

「へ？な、なにが」

「さっさと始めるクソヤロウ！！」

「は、はい！私はモンスターをセット。カードを1枚伏せてターンエンド」

「おっれ〜のターン〜！！」

『おい。今のお前すげえ邪悪だぞ』

「ジェムナイト・フュージョン発動！！手札のジェムナイト・ルマリンとジェムナイト・サファイアを融合し、ジェムナイト・パース

を召喚！！」

ジエムナイト・パース

融合・効果モンスター

星6 / 地属性 / 雷族 / 攻1800 / 守1800

「ジエムナイト・ルマリン」+「ジエムナイト」と名のついたモンスター

このカードは上記のカードを融合素材にした融合召喚でのみエクストラデッキから特殊召喚する事ができる。

このカードは1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。このカードが戦闘によってモンスターを破壊し墓地に送った時、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「さらに装備魔法フュージョン・ウエポンをパースに装備い！！」

フュージョン・ウエポン

装備魔法

レベル6以下の融合モンスターのみ装備可能。

装備モンスターの攻撃力と守備力は1500ポイントアップする。

ジエムナイト・パース ATK1800 3300

「さらにジエムナイト・ガネットを召喚し魔法カードジエム・インパクトを発動う！！」

ジエム・インパクト（オリジナル）

魔法

自分フィールド上の「ジエム」と名のつくモンスターを任意の枚数墓地へ送って発動する。

送った枚数と同じ数、相手フィールドのカードを破壊する。

「俺はガネットをリリースしテメエのモンスターを破壊！さらにサイクロンでセットカードも粉碎！！はははは弱い！弱すぎるぞお！！」

『おいなんかお前本気でどす黒いオーラ出てないか！？何なんだそれは！？私の見間違いか！？できれだそうであってほしいけど！』

「バトル！！ジエムナイト・パースでダイレクトアタック！！死ねやクズヤロウ！！」

?LP40000

「あびやああああああ！！！！」

名も知られないまま男は倒れた。・・・実は幹部だったのに

「ああ怖かった。で、祭はどこに居るんだ？」

『・・・えっと、この先の部屋だけど・・・こんな奴会わせて大丈夫なんだろうか』

「ん？なんか言ったか」

『・・・まあいいや！とにかく逃げ！！』

ヒータにせかさされ、俺は全速力で祭のいるという部屋の前に行き、勢いよく扉を開けた。

「祭！助けに来た・・・ぞ・・・」

俺の目におかしな光景が入った。

祭と影月がデュエルしている

祭の場には見たことの無い竜がいて

その竜が黒い炎を吐いている

影月の場のレッドデーモンズが粉碎されて

影月が、窓を突き破りはるか下の地面へと落下していった。

t u r n 3 3 : 始まった死闘と嵐のさらなる弱点(後書き)

読破ありがとうございます。毎度のごとく雪無です。

クロウVSホセ・・・クロウかっこよすぎるぜえ!! もつものすいよかったですよね!! と言ったらいいかい言葉が見つかりません!!

デッキ・オリカ募集してますのでよかったですらどうぞ。

t u r n 3 4 : 彼は無力だった(前書き)

カ「あそこにみんながいるらしいです。ってどこ見てるんですか？
今から乗り込むんですよってどこ行くんですか！？ソッチのビルじ
やないですよ！ちょっと・・・行っちゃった・・・はぁ・・・僕一
人で助けに行くしかないのか・・・行こう」

以上、本編で書けないとこパート2でした

turn34：彼は無力だった

祭LP3200

影月LP3200

影月フィールド

レッドデーモンズ・ドラゴン

伏せカード1枚

祭フィールド

伏せカード2枚

祭ターン

「私のターン。永続魔法、食草植物、ビルセクス、超栄養太陽を発動」

食草植物 ビルセクス（オリジナル）

永続魔法

フィールド上に存在する植物族モンスターがフィールドを離れる度に、このカードにフラワーカウンターを1つ置く。

このカードに乗っているフラワーカウンターを全て取り除く事で、カウンターの数×500ポイント自分フィールドのモンスター1体の攻撃力をアップする。

超栄養太陽

永続魔法

自分フィールド上に存在するレベル2以下の植物族モンスター1

体をリリースして発動する。

リリースしたモンスターのレベル+3以下の植物族モンスター1体を、手札またはデッキから特殊召喚する。

このカードがフィールド上に存在しなくなった時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターがフィールド上から離れた時、このカードを破壊する。

「さらにイービル・ソーンを召喚しリリース。兄さんに300ポイントダメージを与え2体のイービル・ソーンを特殊召喚」

イービル・ソーン

効果モンスター

星1 / ATK 100 / DF 300

このカードをリリースして発動する。

相手ライフに300ポイントダメージを与え、自分のデッキから「イービル・ソーン」を2体まで表側攻撃表示で特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚した「イービル・ソーン」は効果を発動する事ができない。

影月LP3200 2900

「さらにイービル・ソーン1体をリリースしデッキからダーク・ヴァージャーを守備表示で特殊召喚。そしてエンドフェイズ、墓地のイービル・ソーンを除外しフェニキシアン・クラスター・アマリリスを守備表示で特殊召喚しターンエンド」

ダーク・ヴァージャー

効果モンスター

星2 / ATK 0 / DF 1000

自分フィールド上に植物族のチューナーが召喚された時、このカードを墓地から攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

フラワーカウンター 2

「俺のターン。ドラグニティ・ミリトウムを召喚し罨カード風霊術 - 「雅」 を発動！」

風霊術 - 「雅」

通常罨

自分フィールド上に存在する風属性モンスター1体をリリースし、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して発動する。

選択した相手のカードを持ち主のデッキの一番下に戻す。

ドラグニティ・ミリトウム

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 1200

自分の魔法&罨カードゾーンに存在する「ドラグニティ」と名のついたカード1枚を選択して発動する。

選択したカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「ミリトウムをリリースしフェニキシアン・クラストー・アマリスをデッキの一番下へ！バトル！レッドデーモンズ・ドラゴンでイービル・ゾーンを攻撃！灼熱のクリムゾン・ヘルフレア！」

祭の場の植物が紅蓮の炎で全て焼き尽くされた。

「レッドデーモンズの効果で他の守備モンスターも全て破壊。カ

ードを2枚伏せターンエンド」

フラワーカウンター 4

「私のターン、夜薔薇の騎士を召喚。効果により手札からギガン
ト・セファロタス等特殊召喚。レベル4のギガント・セファロタス
にレベル3の夜薔薇の騎士をチューニング。黒い華がこの世の全て
を包み込む。漆黒の華よ、開け。シンクロ召喚！咲き乱れよ。ブラ
ック・ローズ・ドラゴン」

ブラック・ローズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7/炎属性/ドラゴン族/攻2400/守1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

フィールド上に存在するカードを全て破壊する事ができる。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する植物族モンスター1体を
ゲームから除外する事で、相手フィールド上に存在する守備表示モ
ンスター1体を攻撃表示にし、このターンのエンドフェイズ時まで
その攻撃力を0にする。

黒薔薇の竜が、祭の場に舞い降りる。

「・・・なんだよこのカードは・・・」

「いかかです。コレこそが我組織最強のドラゴン。魅せてあげな
さい祭さん！あなたたちの力を！！」

「・・・はい、リーダー。ブラックローズの効果」

「畏発動！デモンズ・チェーン！！」

黒薔薇の竜に無数の鎖が絡みついた。

デモンズ・チェーン

永続罫

フィールド上に表側表示で存在する効果モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは攻撃する事ができず、効果は無効化される。選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する

「これでそいつは効果を発動できない！悪いが、祭がそいつを使う前にこの勝負、終わらせてもらおう！！」

「・・・ターンエンド」

「俺のターン！！装備魔法クリスタル・ウイングを装備！しドラグニティ・ドウクスを召喚！その効果により墓地のドラグニティ・ピルムを装備！！バトル！レッド・デーモンズでブラックローズ・ドラゴンを攻撃！！」

クリスタル・ウイング（オリジナル）

装備魔法

レベル8以上のドラゴン族シンクロモンスターにのみ装備可能。装備モンスターが相手モンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手に与える。

ドラグニティ・ドウクス

効果モンスター

星4 / ATK1500 / DF1000

このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。

勝った、俺はそう確信した。

「畏発動チェンジ・デステニー」

祭の畏の発動と同時にレッドデーモンズの攻撃がとまり守備表示になってしまった。

チェンジ・デステニー

通常畏

相手モンスターの攻撃宣言時に発動することができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にし、そのモンスターを守備表示にする。

そのモンスターはフィールド上に表側表示で存在する限り、表示形式を変更する事ができなくなる。

その後、相手は以下の効果から1つを選択して適用する。

このカードの効果で攻撃が無効にされたモンスターの攻撃力の半分だけ自分のライフポイントを回復する。

このカードの効果で攻撃が無効にされたモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手ライフに与える。

・・・攻撃は止められたが、今の状態なら十分勝てる。そう思った。

「おや、これはお兄さんの勝利になりそうですね。ところで、お兄さん。祭さんの足元、焦げてると思いませんか？」

「ああ？」

そして、俺は見てしまった。確かに祭の足元には焦げた後があった。その場所は、さっきまで祭のモンスターがいた場所だった。

「……まさかテメエ！！」

「そのとおり。コレこそが私がこの組織のリーダーたる理由。私は、あなた方のような下等な人間にも、われわれと同じ力を付与することができる。まあ、そのためには、1度相手に触れる必要がありますし、われわれと同等の力にするには、それこそ、同じ建物に長時間いなければいけません」

「……触れる……長時間……」

『「では、がんばってくださいね」奴は俺にデュエルディスクを渡し、ぽんと肩に手をおき少し離れた壁に寄りかかった。』

まさか……あの時……

「さあ、チェンジ・デステニーの効果を選択してください。あなたのライフを回復か、妹さんを傷つけダメージを与えるか！」

「……俺は……俺のライフを回復……」

俺は、無気力に両腕を落とした。

回復を選択したことで俺の身体の傷が見る見るうちに治っていくけど

「・・・ターンエンド。そして、攻撃を行わなかったドウクスは破壊される」

俺の場の小型の竜が炎に飲まれ砕け散る。

「私のターン。サイクロンを発動。デモンズ・チェーン破壊」

ブラック・ローズ・ドラゴンが鎖の呪縛から開放される。

「ブラック・ローズ・ドラゴンの効果墓地のダーク・ヴァージャーを除外。レッド・デーモンズ・ドラゴンを攻撃表示にし攻撃力を0にさらに食草植物 ビルセクス のカウンターを取り除きブラック・ローズ・ドラゴンの攻撃力をアップ」

ブラック・ローズ・ドラゴン ATK2400 4400

すまない祭、弱い兄ちゃんて本当にごめん。

「ブラック・ローズ・ドラゴンで、レッド・デーモンズ・ドラゴンを攻撃。ブラックローズフレイム」

黒い炎が俺に向かってくる。扉が勢いよく開かれ、あのガキが何かを叫んでいた。・・・チクシヨウ。そういや祭の奴、最近アイツのこと気にかけてやがったな・・・祭、ごめんな。

そして俺は炎に押されるようにガラスを突き破り、何も無い空中

に投げ出された。

影月LP44000

T U R N 3 5 ・ 嵐 V S 祭 (前 書 き)

本年初の投稿です。遅くなりました！すみません！！

TURN 35：嵐VS祭

「影月!!!」

凍結していた俺の思考が回復した途端、俺は割れた窓に駆け寄った。

「……アイツは監禁していたはずのガキ。何故あそこから出て
いるんだ?」

俺が窓から顔を出したとき、重力に従いながら影月はまっすぐ地上へと向かっていった。

俺はと言つと

「見ちゃったよおおおおおおおおお!!!!」

こんなときでも律儀に高所恐怖症発動。ダメだ。もう下が見れない。

「はっはっは!!!」

「?」

そのとき、外の、それも結構近くから笑い声が聞こえた。
おそるおそる、それはもうおそる窓の外を見た。

ブルーの青い制服を着た影月を抱え宙を飛ぶ、赤い制服の男が、
今は補習を受けているはずの、海原快晴がそこにいた。おそらくい
る場所から考えて隣のビルの屋上から飛んだのだろう。

「はっはっは激アツう!!」

そして快晴はそのまま窓をぶち破りこちらのビルに侵入していった。

「……………アイツ、なんでここにいるんだ？」

「……………侵入者か。私は一旦部屋へ戻る。両義、こいつの相手をしてあげ」

俺の後ろで快晴の姿を確認していた男が一度俺の肩に手を置き部屋を出て行った。

「あつ！アイツあん時いた……………待ちやがれ!!」

俺が男の後を追おうとしたとき

「ガードヘッジ召喚」

突如目の前に出現したガードヘッジにより扉をふさがれてしまった。

「……………うお!?これって本物の……………」

「リーダーの邪魔はさせません」

まさか、祭がやったのか?でもアイツこんなことできなかったはずじゃ……………って、あいつになんかされたっただけのことか。なら

「よし、倒して正気に戻らすか!」

いつものパターンでなんとかなる!!

『待て!!』

勝負を始めようとしたとき、祭の精霊が全員出てきた。

『私たちにも戦わせてくれ!!』

『私たちも主を助けたいんだ』

『お願い!!』

「……当たり前だろ。全員であいつを救うぞ」

『『はい!!』』

俺は祭のデッキから何枚かカードを取り出し俺のデッキに入れる。

「んじゃ、はじめっか!!」

「『デュエル!!』」

嵐LP4000

祭LP4000

先攻 嵐

「俺のターン! モンスターをセット! カードを1枚伏せてターン
エンド」

「私のターン。ローン・ファイア・ブロッサムを召喚」

ローン・ファイア・ブロッサム

効果モンスター（準制限カード）

星3 / ATK 500 / DF 1400

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

自分のデッキから植物族モンスター1体を特殊召喚する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「さらにローン・ファイア・ブロッサムをリリースしデッキから椿姫ティタニアルを特殊召喚」

椿姫ティタニアル

効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 2600

自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。

フィールド上に存在するカードを対象にする魔法・罫・効果モンスターの発動を無効にし破壊する。

「椿姫ティタニアルでセットモンスターを攻撃」

「罫発動！くず鉄のかかし！椿姫の攻撃を無効にする！」

「私はカードを伏せターンエンド」

あぶねえ！祭の奴操られてるかなんかは知らねえが容赦ないな。

『なあ今なんか来なかった！？私死に掛けてなかった！？』

「ああエリア顔出さないで！！そうカードの下に行って。よし・
・俺のターン！」

ああもつやりづらい！！

「シールドウォーリアを守備表示で召喚してターンエンド」

「私のターン。イービル・ソーンを召喚しリリース。嵐くん3
00ポイントダメージを与え2体のイービル・ソーンを特殊召喚」

召喚と同時に破裂したイービル・ソーンの棘が嵐に襲い掛かる。

「つぐ・・・！」

嵐 LP4000 3700

「さらに椿姫でシールドウォーリアを攻撃！」

「残念！再びくず鉄のかかし発ど」

「椿姫の効果。イービル・ソーン1体をリリースしくず鉄のかか
しの発動を無効にし、破壊。攻撃を続行する」

「うそお！？」

椿姫のツルに縛られたシールドウォーリアが粉々に砕かれた。

「ターンエンド」

「つく・・・俺のターン！モンスターをセット！カードを1枚伏せてターンエンド」

「私のターン。椿姫でセットカードを攻撃」

「アウスすまん！！」

『このバカ！』

セットされたアウスは声だけを発しながら消えていった。

「ターンエンド」

「俺のターン手札の風霊使いウインを墓地へ送りバリアブル・ナイトを特殊召喚！！」

無数の刀を携えた戦士が俺の場に召喚された。

バリアブル・ナイト

チューナー（効果モンスター）

星5 / ATK 700 / DEF 1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「ナイト」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「ナイト」と名のついたチューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「さらに火霊使いヒータを通常召喚しチューニング！！黒き闇から現われし我がデッキ最強の戦士よ、今ここに君臨せよ！！シンク口召喚！！来い！ダークネス・ブレイド！！」

ダークネス・ブレイド（オリジナル）

星8 / ATK 3000 / DF 2800

「ダークレス・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「ダークネス・ブレイドで椿姫ティタニアを攻撃！ダークネスエンドブレイク！！」

黒騎士の一撃により椿の姫は真つ二つに両断された。

祭LP4000 3800

「さらにダークネス・ブレイドの効果で椿姫の攻撃力分のダメージを与える！！」

祭LP3800 1000

「俺はコレでターンエンド！おっし！！コレでアイツのライフは0間近だ！待ってるお前らもう少しであいつを助けられ」

『待て！！』

せつかく勢いに乗ろうとしたのに突然大声を出したダルクに止められた。

「どうした？」

『お前は見てないかも知れないけど、さっきから主人を黒いオーラみたいなのがつつんでんだ』

「そうなのか・・・で、それがどうかしたのか？」

『その黒いのがお前からも出始めたんだよ!!』

「ええ!？」

俺からも黒いオーラ的な物が？

「・・・くんくん」

『たぶん匂いはないぞ』

そらそうだ。

そついや、デュエルを始める前、ここにいたおっさんに肩触れられたな・・・そのときなんかされたか？

『悪いけど、その黒いのが取れるまで主人を攻撃しないでくれ。』

もし、お前がうちの主人を傷つけたら・・・殺すからな』

「分かった!分かりました!!だから殺すとか言うな!!」

呪いとかマジで出しそうでこええんだよ!!

「・・・私のターン。夜薔薇の騎士を召喚。その効果により手札からボタニティガールを特殊召喚。レベル3のボタニティ・ガール

とレベル1のイービル・ソーンにレベル3の夜薔薇の騎士をチューニング。冷たい炎が世界の全てを包み込む。漆黒の華よ、開け。シンクロ召喚。咲き乱れる。ブラック・ローズ・ドラゴン」

ブラック・ローズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星7/攻2400/守1800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に存在するカードを全て破壊する事ができる。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する植物族モンスター1体をゲームから除外する事で、相手フィールド上に存在する守備表示モンスター1体を攻撃表示にし、このターンのエンドフェイズ時までその攻撃力を0にする。

「ブラック・ローズの効果。フィールド上に存在するカードを全て破壊する。ブラック・ローズ・ガイル」

ブラック・ローズを中心に巻き起こった風にすべてのカードが粉砕される。

「さらにブラック・ローズの効果で破壊されたことにより、罨カードブラック・リボーン発動」

ブラック・リボーン（オリジナル）

罨

このカードは「ブラック・ローズ・ドラゴン」の効果で破壊されたときのみ発動可能。

フィールド上の「ブラック・ローズ・ドラゴン」をエクストラデッキに戻し、同レベルのシンクロモンスターをエクストラデッキか

ら特殊召喚する。

花びらの風とともに散った黒薔薇の龍が再び姿を現した。

「……………やっべ」

「バトル。ブラック・ローズでダイレクトアタック。ブラック・ローズ・フレア！」

「ぐあああああああああああああああ！！！」

嵐LP3700 1300

「ポタニティ・ガールの効果によりロードポイズンを手札に加えターンエンド」

「……………つてえ……………俺の、ターン！アンチ・マジッカードを守備表示で召喚！カード2枚伏せてターンエンド！」

アンチ・マジッカード（オリジナル）

効果モンスター

星3 / ATK1200 / DF1500

このカードがフィールド上に存在する限り、自分フィールド上のこのカード以外のモンスターは魔法カードの効果を受けない。

「私のターン。ロードポイズンを攻撃表示で召喚。さらにブラック・ローズの効果発動。墓地のイービル・ソーンを除外しアンチ・マジッカードを攻撃表示に変更し攻撃力を0にする。ローズ・リストリクシヨーン！」

アンチ・マジッカー ATK1200 0

「とどめです。ブラック・ローズ・ドラゴンでアンチ・マジッカーを攻撃。ブラック・ローズ・フレア！」

来た！！

「俺は墓地のシールド・ウォーリアの効果を発動！このカードをゲームから除外してアンチ・マジッカーの破壊を無効にする！！」

「でもダメージで嵐くんの負けだよ」

「残念！！畏発動！ガード・ブロック！戦闘ダメージを0にし、俺はカードを1枚ドローする」

黒い炎を受けつつも魔術師は場に残り続けた。

「・・・それでも、私の場にはまだロードポイズンがいる」

「焦るなよ！切り札は今から見せてやる！！畏カード精霊姫の祈り、発動！！」

精霊姫の祈り（オリジナル）

畏

自分フィールド、墓地に火霊使いヒータ、地霊使いアウス、水霊使いエリア、風霊使いウインが存在する場合のみ発動することができる。

4枚をゲームから除外することで自分の手札、デッキ、墓地から精霊使いサーシャを特殊召喚する。

「4人の霊使いを除外し、精霊使いサーシャを召喚!!」

嵐の場に王冠をかぶりブロンドの髪をなびかせた霊使いが舞い降りた。

精霊使いサーシャ（オリジナル）

星3 / ATK500 / DF 1500

「精霊姫の祈り」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードの召喚に成功したとき、相手フィールド上のモンスター1体のコントロールを得る。

このカードと自分フィールド上の他のモンスター1体を墓地に送る事で、手札またはデッキから「憑依装着サーシャ」を特殊召喚する事ができる。

『ふふ・・・待っててね祭ちゃん！今助けてあげるからね!!』

「んじゃ頼むぜ〜！サーシャの効果によりロードポイズンのコントロールを得る!!」

これでこのターン、祭は攻撃できない！

「・・・ターンエンド」

「俺のターン！フィールド上のサーシャ、ロードポイズンを墓地へ送り、デッキから憑依装着サーシャを特殊召喚!!」

憑依装着サーシャ（オリジナル）

効果モンスター

星8 / ATK3600 / DF3000

「憑依装着光臨」・「精霊使いサーシャ」の効果でのみ特殊召喚できる。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

「こいつでお前のブラック・ローズ・ドラゴンは倒せる！更に俺はまだモンスターを召喚できる！！」

『まだ黒いの取れてないから攻撃しちゃダメ』

……ええ〜ここまでできておあずけ〜？

『しょうがないだろ下手に攻撃したら主人が……ん？お前、そのカード』

手札にいたダルクがダルクの隣にあったカードを指差した。

「？こいつがどうかしたか？」

『いや、今お前が黒いのに包まれてるせいで他のカードも少し黒ずんでるんだけど、これだけは黒くない、ていうか、何も無いんだよ』

「ええっと……つまりこいつは使ってOKってことか？」

『んん〜……しょうがない許可する！〜！』

よしー！

「俺は手札から魔法カード、スパイラル〈運命螺旋零の書〉うんめいらせんぜろを
発動!!」

スパイラル〈運命螺旋零の書〉

魔法カード

手札をすべてデッキに戻して発動、お互いにフィールド、墓地、
除外、しているカードをすべてデッキに戻して5枚ドロし、お互
いにライフが4000にする。

『おお!主人とお前の黒いまで吸い込まれてる!!』

祭LP4000

嵐LP4000

スパイラルの発動と同時に、全てのカードがデッキに帰っていく、
否

「アンチ・マジツカーの効果により俺の場のサーシャはスパイラ
ルの効果を受けずフィールドに残り続ける!!そして!手札からス
ピード・ウォーリアを召喚!!」

「ん・・・あれ?私何してるんだろ・・・って嵐くん!？」

なんか空気の違いを感じるが気にせず

「スピード・ウォーリア、憑依装着サーシャでダイレクトアタッ
ク!!」

「なに!?!きゃあ!!」

「っ何するの嵐くん!!!さらわれて不安でなんだか分からないうちを攻撃してくるなんて!!!」

あ、元に戻ってる

「そ、それはちゃんと説明するから、まずここからでるぞ!」

そうして、怒る祭をなだめつつ、俺たちはビルの一階まで降りた。驚くことに誰にも会わず。

「……で、何故快晴がいるわけ?」

お前補修中だろ?

「はっはっは。終わったから遊びに来た!!!」

早ッ!!!

「いや〜よかったよかった。なんか戦ってたら敵みんなどっか行っちゃってよ。助かった〜」

「俺は新しいデッキも手に入っただし、満足満足。義賊最高!!!」

……まあ。みんな楽しそうで何より

「……えっと……嵐、くん」

「ん?」

みんなの楽しそうな会話を一歩離れた位置で眺めていると、祭が歯切れの悪い口調で話しかけてきた。心なしか顔も少し紅い。

「えっと、その・・・助けてくれて・・・あ、あり・・・ありが

「嵐い！！やっと見つけたでえ！！」

「おわあ！！」

祭が言葉を言い切る前に、俺は横からのタツクルに吹き飛ばされた。ってか今の声って

「つててえ・・・つらら！？お前も来てたのか！？」

「うん！レッド寮行ったら実家帰ったって言うってたから急いで追ってきたんよ！！会いたかったでえ嵐い！！」

「お、おい抱きつくなくて」

あああたってる！？胸の辺りに何か、やわらかい、マシユマ口的なものか！！

「・・・」

そして、ふっと祭のほうを見てみると、さっきとは違ってかわったものすごい無表情だった。

「・・・祭・・・さん？」

「……………嵐くんの」

「へ？」

「嵐くんの……………バアカア！！」

「ぎゃあああああああああああ！！」

……………今回の事件には、まだよく分かっていないことがあった。何故あれだけ大勢の敵が引いたのか。あのリーダーはどこに行ったのか。そして……………

俺は何故祭に殴られたのか……………本当に、どうして？

turn36：語られざる戦い

「くそっ！！何がどうなっているんだ！！」

嵐と祭が死闘を繰り広げているとき、男は最上階の社長室にいた。現在起きているイレギュラーに対応すべく策を練りつつも、少なからず男は動揺していた。

捕獲し、デツキを奪ったはずの嵐たちの逃走、知らぬ間に起きていた嵐たちの攻撃、なぜかそれらの情報は男の元に届いていなかった。

しかしそんな事は、男にとってはどうでもよかった。

「・・・いや、まあいい。逃げたガキどもは捕まえればいい。そしてもう一度逃げられないよう、四肢を切り落としてしまえばいい」

この男の、ガンマの恐ろしいところはここだった。邪魔者は消すわけではない。生かしたまま最大の苦痛を与え反撃の火をもみ消す。そして、いかなるイレギュラーでも冷静な判断を下す。その残忍な冷静さこそが、この男がアルカディア・ムーブメントという巨大な組織のリーダーたる最大の由縁だった。

「いや、そんなことされると困るな、あの少年たちにはまだまだ元気でもらいたいんだよ」

「!？」

扉のほうから聞こえた声にガンマは驚愕した。この部屋には組織のものが入ってこない。振り返った先にいたのは見たことのない男。

にやにやといやらしい笑みを浮かべ、扉を占拠している。

「誰だ貴様は？」

「お初にお目にかかります。私、スカル・エバンスと申します。以後お見知りおきを。」

「なぜここにいる」

「あなたが奪ったダークシンクロのカードの回収と、テメエの抹殺」

「抹殺？」

「そう、抹殺。お前はほっといたらいい事がなさそうだからな。今のうちに殺す」

「できるものなら、やってみる！！」

ガンマはデュエルディスクに数枚の魔法カードをセットした。それと同時に、無数の炎弾と雷がスカルを襲う。

「……っは。残念賞」

スカルがつぶやきながら一枚のカードをかざすと、ガンマのすべての攻撃がまるでカードに吸い込まれるかのように消えてしまった。

「なに！？……そうか、貴様も我々の同類か！！」

「そういつわけじゃないんだけどな。まあそう思いたきゃどうぞ」

「同類なら話は別だ！我々と来い！そして、下等な猿どもを殺し我々の理想郷を創るのだ！！」

「・・・アンタ、なかなかいいこと言っな。よし、それじゃ俺とデュエルして勝ったらあんたの仲間になってやる」

「いいだろう。私が負ければ、いさぎよく殺されてやる」

「よし、じゃあはじめますか。・・・闇のデュエルを」

「デュエル！！」

ガンマLP4000

スカルLP4000

先攻 ガンマ

「私のターン。サイコ・コマンダーを攻撃表示で召喚！カードを2枚伏せターンエンド！」

「俺のターン！エクストラ・スライムを攻撃表示で召喚！！」

エクストラ・スライム（オリジナル）

星3 / ATK1000 / DF 0

このカードの召喚に成功したときコイントスを1回行い以下の効果を得る。

表：自分のエクストラデッキからランダムに3枚墓地に送りこのカードの攻撃力は倍になる。

裏：相手のエクストラデッキからランダムに3枚墓地に送りこ

のカードの攻撃力は0になる。

「エクストラ?」

「エクストラ・スライムの効果でコイントス!・・・コインは裏。よってテメエのエクストラデッキからカードを3枚墓地へ送りな!」

「だが、かわりに君のモンスターの攻撃力は0だ」

「その通り!カードを1枚セットしてターンエンド!」

「私のターン。サイコ・ウォールドを召喚」

サイコ・ウォールド

効果モンスター

星4 / ATK1900 / DF1200

800ライフポイントを払って発動する。

自分フィールド上に表側表示で存在するサイキック族モンスター1体は、1度のバトルフェイズ中に2回攻撃する事ができる。

この効果を発動するターンこのカードは攻撃する事ができない。

「レベル4のサイコ・ウォールドにレベル3のサイコ・コマンドーをチューニング!シンクロ召喚!現れるサイコ・ヘルストランサー!」

サイコ・ヘルストランサー

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK2400 / DF2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分の墓地に存在するサイキック族モンスター1体をゲームから除外して発動する。

自分は1200ライフポイント回復する。

この効果は1ターンに1度しか使用できない。

「サイコ・ヘルストランサーでエクストラ・スライムを攻撃!!」

「うおおおおう!!」

スカルLP4000 1600

「いてて〜っと。畏発動エクストラ・リバイヴ!」

エクストラ・リバイヴ（オリジナル）

畏

「エクストラ」と名のつくモンスターが戦闘によって破壊されたとき発動可能。

デッキから破壊されたモンスター以外のレベル4以下の「エクストラ」と名のついたモンスターを特殊召喚する。

「俺はデッキからエクストラ・ゴーストを特殊召喚!その効果でテメエのエクストラデッキから4枚墓地へ!!」

エクストラ・ゴースト（オリジナル）

星4 / ATK1500 / DF 0

このカードの召喚に成功したとき相手のエクストラデッキからランダムに4枚墓地に送る。このカードがフィールドを離れるとき自分のエクストラデッキからランダムに4枚墓地に送る。

「……いいだろう。私は墓地のサイコ・コマンダーを除外しライ

フを1200ポイント回復しターンエンド」

ガンマLP4000 5200

「俺のターン！エクストラ・ゴーストをリリースし、エクストラ・ゴーレムをアドバンス召喚！！」

エクストラ・ゴーレム（オリジナル）

星6 / ATK2000 / DF 0

1ターンに1度、自分のエクストラデッキからカードを墓地に送りこのカードの攻撃力を500ポイントアップする。このカードが戦闘によって破壊されたときデッキからカードを1枚手札に加える。

「エクストラ・ゴーレムの効果！エクストラデッキ最後の1枚を墓地へ送り、攻撃力を上昇！！」

エクストラ・ゴーレム ATK2000 2500

「バトル！やれ！エクストラ・ゴーレム！！」

「畏発動。攻撃の無力化」

「つち！俺はこれでターンエンドだ！」

（ふ、どうやらあの男の目的は私のエクストラデッキを削りシククロを封じることのようだが）

「残念だが、貴様の負けだ！私のターン！メンタルマスターを召喚。さらに速攻魔法緊急レポートを発動。デッキからカバリストを特殊召喚。レベル7のサイコ・ヘルストランサーとレベル1のカ

バリストにレベル1のメンタルマスターをチューニング！！逆巻け、我が復讐の黒炎！呪いの業火ですべてを滅ぼせ！シンクロ召喚！来い、メンタルオーバー・デーモン！！」

メンタルオーバー・デーモン

シンクロ・効果モンスター

星9 / ATK 3300 / DF 3000

サイキック族チューナー+チューナー以外のサイキック族モンスター1体以上

1ターンに1度、自分の墓地に存在するサイキック族モンスター1体を選択してゲームから除外する事ができる。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた時、このカードの効果で除外したモンスターを可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

「メンタルオーバー・デーモンの効果により私は墓地のメンタルスフィア・デーモンを除外。バトル！エクストラ・ゴレムを攻撃！！」

「おわあああああ！！」

スカルLP 1600 800

「スカル、と言ったね。今からでも遅くはない。我々の仲間になりたまえ。君ほどの実力者ならすぐ幹部になれる」

「……へへ。俺程度で幹部、そら魅力的だな。だが、残念ながら俺にはすでに惚れ込んだボスがいてね。俺はそいつにしか従う気はない」

「ならば残念だが、死んでもらおう」

残念？死んでもらう？

「言ったたろう？死ぬのはてめえだって。ゴーレムの効果でデッキからカードを手札に加える」

「この状況で何を引いたところで状況は変わらん。ターンエンド
！！」

……きしし

「俺のターン……速攻魔法、スパイラルうんめいかいこうに運命邂逅しよ式の書しよを
発動！！」

スパイラルうんめいかいこうに運命邂逅しよ式の書
速攻魔法

自分のデッキ、手札、墓地から罠カードを任意の枚数選択し発動
する。

スパイラルが発動した瞬間、嵐とは真逆の事態、カードからどす
黒い霧が噴き出した。

「スパイラルだと？なんだ？なんなんだそのカードは！？」

「スパイラルの効果によりデッキから罠カード煉獄の邪教本を発
動！！」

煉獄の邪教本（オリジナル）

罠

自分の墓地に強欲、暴食、怠惰、嫉妬、色欲、憤怒、傲慢と名のつくモンスターが存在する場合、そのモンスターを召喚条件を無視して可能な限り特殊召喚する。

「さうておいでなさい。煉獄の七杭が五振り、暴食、嫉妬、怠惰、色欲、憤怒！！」

スパイラルの発動により噴き出した黒い霧から、最強のダークシンクロモンスター5体が這い出た。

暴食 グラトニー・ベルゼブブ（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK 3000 / DF 3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカードが相手モンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの攻撃力ライフを回復する。

バトルフェイズをスキップすることでカードを1枚破壊できる。

嫉妬 エンヴィー・レヴィアタン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK 2800 / DF 3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカードの召喚に成功したとき、このモンスターは以下の効果を得る。

・手札を1枚墓地に送ることで相手フィールドのカード1枚を破壊することができる。

・デッキからカードを墓地に送ることで相手の手札を1枚破壊することができる。

怠惰 スロウス・ベルフェゴール（オリジナル）

レベルマイナス7 / ATK 0 / DF 3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカードがフィールド上に表守備表示で存在する限り、特殊召喚できない。

このカードが表守備表示で存在するとき、レベル5以下の闇属性モンスターの効果は無効となる。

色欲 ラスト・アスモデウス（オリジナル）

レベルマイナス8 / 闇属性 / ATK3000 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカードの召喚に成功したときデッキからカードを5枚墓地に送る。墓地に送ったカードがモンスターカードだった場合、このカードは墓地に送ったモンスターと同じ属性になる。

闇属性を墓地に送った場合、このカードは相手プレイヤーに直接攻撃ができる。

憤怒 ラース・サタン（オリジナル）

レベルマイナス8 / ATK3000 / DF3000

チューナー以外のモンスター1体 - ダークチューナー

このカード以外の自分フィールドのモンスターが場を離れたとき、そのモンスターの元々の攻撃力分このカードの攻撃力をアップする。このカードがフィールドを離れたとき、他のカードを全て破壊する。

「ひ、ひい……………！」

最強の5体の出現に、さすがのガンマを腰を抜き後ずさった。

「さて、処刑の時間だ」

「い、いやまだだ。まだ私のモンスターの方が攻撃力が」

「それが通じないんだよね。嫉妬の効果。手札を墓地へ送りそいつを破壊」

「あ、あああああ……」

悪魔の噴き出した闇に、ガンマ最強のモンスターは飲み込まれた。そして、闇が消えた後、その場にメンタルスフィア・デーモンだけが残ったが、この5体を前にたかが鬼では非力すぎた。

「わ、私を本気で殺すのか？そんな事をしてみる、私の部下が、アルカディア・ムーブメントという巨大な組織がお前を殺しにかかるぞー!!」

「その事なんだけどさ。あんたの部下のええつと………ディバインって15くらいのカギから伝言があるんだ」

「ディバイン？」

「『安心して下さい。あなたの部下はすでに僕らの手に落ちました。もうあなたが死んでも誰も悲しみません。安心して死んでください。いつの日か僕が必ずアルカディア・ムーブメントを再興しますから』だとさ。ああちなみにあなたに情報が来なかったのも俺がスムーズに事を進めれたのもこのカギのおかげだから」

「そ、そんな……」

「きしししよかったな。いつの日かあなたの目的はきつと果たされる。だ〜か〜ら〜」

「や、やめる……」

「あんしんして」

「やめてくれ……」

「……死ね」

その言葉を受けた瞬間、実体化した煉獄の五つ振りが大口を開け一斉にガンマに襲いかかった。

「やめろおおおおおおおおおおおおお！！！！」

ガンマLP52000

「……………あ！もしもこちらスカル。言われた通り仕事を終ったぜえ……………え？また次？ふざけんな！これで何件目ああわかった、わかりました！今度は……………機皇帝ね。了解つと。たく人使いの荒い上司だった」

そしてスカルは戦いの終えた部屋を後にする。かつてガンマと呼ばれた男の血で汚れた部屋に、きししという笑い声だけが響いていた。

t u r n 3 6 : 語られざる戦い(後書き)

どうも、高校生活が終わろうとしている雪無サントです。

やっと、やっとここまで来た・・・・・・ようやくアルカディアムー

ブメント編終了です！やっと次だ〜！！

あ、嵐たちの夏はあとほんの少し続きます。というわけで、次回新キャラ登場です！

turn37:もつとも速き男登場!

アルカディアムーブメントでの戦いから数日。

俺は街で行われるライディングデュエル大会に参加することになった。ちなみにいつものメンツのうち参加者は俺だけだ。

鳥は家出していた罰としておじさんにD・ホイールを回収され参加は不可。

影月はかすり傷程度であったものの大事をとって不参加。

夕夜にいたってはそもそもD・ホイールに乗れないため参加は不可能。

というわけで、今は俺一人でD・ホイールのメンテ中。

「けど結局、アルカディア・ムーブメントってなんだったんだろうな……」

事件の翌日、もう一度ビルへ行ってみると、アルカディア・ムーブメントとは全く無関係な会社になっていた。その会社の偉い人も、前に入っていたやつがどこへ行ったかは知らないそうだ。

「……ま、解決できたんだしこのことは忘れよう。さあ大会まであと一時間!そろそろ行くか!」

と、俺が決意も新たに家を出たとき。

「お?そこにいるのは嵐じゃないか」

「あれ?空牙先輩?どうしてこんなところに」

なんとアカデミアの先輩に出くわした。この人はオベリスクブル

12年の空牙速彦^{くいつがはやひ}。頭がいいのになぜか飯はうちの寮で過ごす変わり者。

「ふ、俺は偶然通っただけさ。お前は？」

「ここが実家なんですよ。で、今から大会に行こうとしてたところです」

「ほほう。…….…….ところで、それは嵐のD・ホイールか？」

「そうですね、よかったら乗ってみます？」

「いいのか？」

「はい」

「すまないな。ではお言葉に甘えて」

そう言っって先輩は俺のD・ホイールに乗り、アクセルをまわした。

ヴォーン！ヴォオオオオオオオオオオオオン！！

豪快なエンジン音が街に響く。しばらくの間、先輩の運転を見ていたが、この人なかなかうまい。

音を聞きつけうちに止まっていたつらら、祭、佐助の三大美少女が家から出てきた。

「嵐くん、もう行く準備できたの？…….あれ？空牙先輩だ」

「ほんまや。なんでこの人が嵐のに乗っとるん？」

「嵐よ、乗せてよかったのか？」

「いいっていいって。この人なかなか運転うまいし」

「……わしはいやな予感がするのじゃが」

いやな予感？いやあの運転なら心配いらないだ

「はっはは！なんとということだ！！今俺はまた限界を超えてしま
っ
っ」

チユドーーーン！！

「ごRMんごRWLそGB、そあつかKふああRHがなTGI
—————！！！！」

「「「……うわあ」「」」

……え？何が起きたかって？あの人が急になんか言い出し
たと思ったらそのまま壁にぶつかって……俺の、俺のD・ホイ
ールが……大破。大爆発。

爆発に巻き込まれたはずの先輩は、無傷で無事着地した。

「はっはは！なんとということだろう！今俺はまたスピードの限界
を超えてしまったようだ！！」

「……」

ボーゼンとする俺の足元に、ころころと愛機の破片（前輪）が転
がってきた。俺は、無言でそれを抱きしめた。

そして迎えた大会、大型球場にデュエリストが集い、戦いのときを待っていた。が、選手の中に嵐の姿はなく、代わりに空牙がローブレードのようなD・ホイールをはき戦いのときを待っていた。

「ではこれより、ライディングデュエル大会を開催いたします！第一試合！空牙かがり選手VS篤選手！ではいくぞ！！スピード・ワールド2セット！ライディングデュエル……」

「アクセラレーション！！」

空牙LP4000

篤LP4000

先攻 空牙

……え、こんにちは、両義祭です。嵐くんがタイヤを抱きしめ再起不能状態になってしまったので、地の文は私が。デュエルは空牙先輩がやることになりました。どんなデュエルになるかとても楽しみ。そして、今も横で泣き続ける嵐くんが心配です……。

「って、つららさん！何やってるんですか!?!」

「決まっとるやろ。傷ついた嵐を慰めとるの」

「それは私がやりますから、つららさんはゆっくり試合を観戦しててください（ニコッ）」

「ええてええて。うちが好きだよっとなるんやから（ニコッ）」

「……………」

訂正。地の文は無理かもしれませんが。

「俺の先攻！！音速ソニックダックを召喚しターンエンド！！」

先輩が出したのは、アヒルのような姿をしたモンスターだった。かわいいけど、通常モンスターを使うなんて珍しい。

「僕のターン！」

空牙・篝 spc1

「ビッグ・ジョーズを召喚」

ビッグ・ジョーズ

効果モンスター

星3 / ATK1800 / DF 300

このカードは攻撃した場合、バトルフェイズ終了時にゲームから除外される。

「バトル、ビッグ・ジョーズで音速ダックを攻撃！」

「つくー！！」

空牙LP4000 3900

「ビッグ・ジョーズの効果により、このカードは除外される。そしてこの瞬間、僕はウイングトータスを特殊召喚！カードを1枚伏せてターンエンド」

ウイングトータス

効果モンスター

星3 / ATK1500 / DF1400

自分フィールド上に表側表示で存在する魚族・海竜族・水族モンスターがゲームから除外された時、このカードを手札または自分の墓地から特殊召喚する事ができる。

空牙・篝 spc2

「俺のターン！！スピード・ウォリアを召喚！そして、スピードウォリアでウイングトータスを攻撃！ソニックエッジ！！」

スピードウォリア

星2 / ATK900 / DF400

このカードの召喚に成功したターンのバトルフェイズ時にのみ発動する事ができる。

このカードの元々の攻撃力はバトルフェイズ終了時まで倍になる。

「そうはいかないよ！罨カードポセイドン・ウェーブを発動！バトルを無効にし、君に800のダメージを与える！！」

「なに！？うおお！！」

空牙LP3900 3100

ポセイドン・ウエーブ

通常罾

相手モンスターの攻撃宣言時に発動する事ができる。

相手モンスター1体の攻撃を無効にする。

自分フィールド上に魚族・海竜族・水族モンスターが表側表示で存在する場合、その数×800ポイントダメージを相手ライフに与える。

「やるな！カードを1枚伏せてターンエンドだ！！」

「僕のターン！！」

空牙・簞 spc3

「僕はスカルクラーケンを召喚！レベル3のスカルクラーケんとウイングトータスを」

「あの人、シンクロ召喚をするつもり！？」

でも、あの2体はどっちもチューナーじゃないはず、じゃあ何を？

「オーバーレイ！！」

「「オーバーレイ！？」」

「2体のユニットでオーバーレイネットワークを構築！エクシズ召喚！！現れる、せんこうぼかん潜航母艦エアロ・シャーク！！」

篝くんのフィールドに見たことのない歪みがあったと思ったら、歪みの中から機械をまとった巨大なサメが現れた。

潜航母艦せんこうぼかんエアロ・シャーク

エクシーズ・効果モンスター

ランク3 / 水属性 / 魚族 / 攻1900 / 守1000

レベル3モンスター×2

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

ゲームから除外されている自分のモンスターの数×1000ポイントダメージを相手ライフに与える。

「エクシーズ召喚？はじめて聞くな」

「そうなんですか？なら教えてあげましょう。エクシーズ召喚とは同じレベルのモンスターを素材として、エクストラデッキから上級モンスターを召喚するものです。最大の特徴は、素材となったモンスターは墓地へは行かずオーバーレイユニットとしてモンスターエクシーズをサポートすること、でしょうかね」

「ほう」

「では、講義はこれくらいにして、行きますよ！エアロ・シャークの効果！オーバーレイユニットを1つ取り除いて100ポイントダメージを相手ライフに与える！」

空牙LP3100 3000

「さらに、エアロ・シャークでスピード・ウォーリアを攻撃！！」

「うおおおお!!」

空牙LP3000 1900

そして、この攻撃を受けた瞬間、今まで前方を走っていた空牙が抜かれた。

「!!」

「僕はこれでターンエンド」

「……俺のターン」

空牙・篝 spc4

「俺はSp・サモン・スピダーを発動!手札からセカンド・ブスターを特殊召喚しリリース!フォトン・ブリッツをアドバンス召喚!!」

フォトン・ブリッツ(オリジナル)

星6/ATK2500/DF2100

このカードの攻撃力は自分のバトルフェイズ時のみ1000ポイントアップする。

このカードが墓地へ送られたときデッキまたは墓地から「スピード」と名のつくモンスターを召喚条件を無視して1体特殊召喚することができる。

「さらに罠発動!リミット・オーバーを発動!手札のスピード・キング スカル・フレイムを墓地へ送り、エンドフェイズまでスカルフレイムの攻撃力をフォトン・ブリッツに加える!!さらにバトル

ルフェイズ時攻撃力さらに上昇!!」

フォトン・ブリッツ ATK 2500 5100 6100

「攻撃力・・・6100!?!」

「ふ、少年、君にいいことを教えてやるう。どんな分厚い壁だろ
うがなんだろうが速さを一点に集中すれば砕け散るううううう
ううう!!」

そう言いながら先輩は自らも一緒に敵モンスターへ突っ込んだ。

・・・え?突っ込んだ!?

「うわああああああ!!」

籌LP4000 0

「君はなかなかの腕だった。俺に負けた敗因はただ一つ、速さが
足りなかったことだ!!はっはっはっはっはっはっは!!」

デュエルに勝利した先輩は、そんなことを言いながら決めポーズ
をとっていた。

そして、先輩はその大会で優勝しましたとき。

その日の夜

「ぐわあああああああああー!!」

箒 L P O

箒は何者かに襲われ、モンスターエキシーズを奪われた……

t u r n 3 8 : 開 幕 ! W D G P ! ! (前 書 き)

いよいよ新章！物語もクライマックスへ近付いております。

「……はい、残り2人、ライディングデュエル代表、黒羽鳥、日ノ原嵐……」

「急に手え抜きやがった!!」

司会者!ちゃんと仕事しろや!!

『ブーブー!!』

「会場中からブーイング!?」

なんだ!?俺たちなんか悪い事でもしたのか!?

「……さて、気をとりなおして、続いてはノース校代表!ノース校はたった三人で作られたチームだ!ゆえに、全員がただものではない!まず1人目、その一撃はいかなる盾も砕く!ほとばしる雷の使い手、かみつちとおる神槌透!!」

ノース校代表の一人目は短く切られた髪と華奢な見た目だ。漂う風格からして多分男だろう。男にこんなことを言うのは失礼かもしれないが、一瞬女と見間違うくらいかわいい。まあ佐助には劣るが。

「2人目、そのトリツキーな戦いは誰にも予想不可能!!最強のトリツクスター、かんばる神原ライカ!!」

「いつえい!!」

二人目は一人目とは全く異なる見た目だった。髪は赤く染められ、そのうえで自ら目立とうとしている。

れはそいつら、より正確に言うと1人の見た目のせいだ。

メンバー全員が仮面をかぶっているが、一人はサクリファイスの仮面、一人は銀色のフルフェイス、そして最後の一人が……

ピカソの絵みたいな仮面だ。

(やつべえ！これ笑うつて！絶対対笑うつて！！なんだよあの仮面！おもしろすぎだろ！！！)

今、会場にいる人間全員が口を押さえている。おそらく俺と同じで心の中では大笑いしてるのだろう。

「え、ええ〜では名前だけでも紹介していくぞ……1人目、サクリファイス。二人目、シルバーフェイス、そして、3、人、目が……パ……パンドラだ……ツプ」

あ、あの司会者微妙に笑い声出した。

「そ、それでは気をとりなおして、第一回戦の対戦カードを発表するぞ！！みんな、ステージの大スクリーンに注目だ！！」

司会の言葉に全員がスクリーンに注目した。スクリーンの中では大量のカードが動き回っている。その中から、4枚のカードの裏が拡大され、1枚づつ表になっていった。

「決まった！一回戦は、本校対ウエスト校！シングルライディン
グデュエル！！対戦カードは……六条炎羽ろくじょうえんぱ対日ノ原嵐！！」

「い、いきなり俺！？」

「試合開始は10分後！みんなそれまで楽しみにしてくれ！」

こうして、俺たちのデュエル大会は始った。

このときはまだ、この大会が俺の運命を大きく左右することになるとは、誰も思わなかった。

t u r n 3 8 : 開 幕 ! W D G P ! ! (後 書 き)

お久しぶりです。雪無です。

この小説、投稿ペースがかなり遅くなってしまいました。そのせいで起きた軽い問題。

終わっちゃたよ・・・5D's・・・

で、でもこれからシンクロ中心でやっていきますからね！エクスーツも出していきますよ！！感想・リクエストお待ちしております！！

turn 39 : vs 炎羽

「スピード・ワールド2セット！ライディングデュエル……」

「アクセラレーション！！」

実況の声と同時にスタンバイしていた二人が猛スピードで発進した。

嵐LP4000

炎羽LP4000

『さて、いよいよ始まりましたWDGP初戦！彼らは一体、どのような戦いを見せてくれるのでしょうか！！』

「嵐〜！ファイト〜！！」

「嵐くん頑張つて〜！！」

「負けたら地獄の拷問だぞお！！」

「お主らは本当に仲間なのか？」

みんなの激励（？）の声が俺の耳に届く。

この勝負、先に第一コーナーをとった方が先攻だ。絶対に第一コーナーは

「俺が、とる！！」

「それはこちらのセリフだ!!」

ほぼ同じ速度で2台のD・ホイールが第一コーナーに到達する。

「うおおおおおおおおおおお!!」

そして、第一コーナーをものにしたのは

先攻 嵐

「よっしゃあ!!俺の先攻、ドロ―!俺はロードランナーを守備表示で召喚。カードを1枚伏せてターンエンド」

ロードランナー

星1 / ATK 300 / DF 300

このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない

嵐・炎羽 s p c 1

「僕のターン!モンスター、カードを1枚づつセットしてターンエンド」

嵐・炎羽 s p c 2

『おゝとっ!初ターンはお互いにモンスターを守備表示で召喚だ!このあと二人はどう動くのか!』

「俺のターン!スピード・ウォーリアを召喚!効果で攻撃力が2

倍になったスピード・ウォーリアでセットモンスターを攻撃！」

強化された戦士の一撃が伏せられたモンスターを砕いた。

「この瞬間、破壊されたラヴアルの炎車回しの効果発動！自分のデッキから「ラヴアル」と名のついたモンスター2体を墓地へ送る！」

ラヴアルの炎車回し

効果モンスター

星3 / ATK 300 / DF 400

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから「ラヴアル」と名のついたモンスター2体を選択して墓地へ送る事ができる。

「なんだ？この程度かよ俺はこれでターンエンドだ！」

嵐・炎羽 spc3

「僕のターン！ラヴアルのマグマ砲兵を守備表示で召喚。さらにマグマ砲兵の効果！手札のラヴアルロード・ジャッジメントを墓地へ送り、500ポイントのダメージを与える！」

ラヴアルのマグマ砲兵

効果モンスター

星4 / ATK 1700 / DF 200

手札から炎属性モンスター1体を墓地へ送って発動する。相手ライフに500ポイントダメージを与える。

この効果は1ターンに2度まで使用できる。

「つわあー!!」

嵐LP4000 3500

「そして、墓地に「ラヴァル」と名のついたモンスターが3種類以上存在することにより、ラヴァルバーナー、ラヴァル・コアトルを特殊召喚!」

ラヴァルバーナー

効果モンスター

星5 / ATK2100 / DF1000

自分の墓地に「ラヴァル」と名のついたモンスターが3種類以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

ラヴァル・コアトル

チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK1300 / DF 700

自分の墓地に「ラヴァル」と名のついたモンスターが3種類以上存在する場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

「レベル4ラヴァルのマグマ砲兵にレベル2のラヴァル・コアトルをチューニング!シンクロ召喚!!現れるラヴァルバル・ドラグーン!」

ラヴァルバル・ドラグーン

シンクロ・効果モンスター

星6 / ATK2500 / DF1200

チューナー+チューナー以外の炎属性モンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動する事ができる。自分のデッキから「ラヴァル」と名のついたモンスター1体を手

札に加え、その後手札から「ラヴァル」と名のついたモンスター1体を墓地へ送る。

「つて、攻撃力2000越えが2体かよ!？」

「バトル!ラヴァルバル・ドラグーンでスピード・ウォーリアを攻撃!！」

「させるかあ!罫発動、くず鉄のかかし!！」

「カウンター罫、炎渦の胎動発動」

炎渦の胎動

カウンター罫

手札から「ラヴァル」と名のついたモンスター1体を墓地へ送って発動する。

罫カードの発動を無効にし破壊する。

また、このカードが墓地に存在する場合、自分の墓地に存在する炎属性モンスター2体をゲームから除外する事で、このカードを手札に加える。

くず鉄のかかしが高温で赤く変色しドロドロに溶けて消えてしまった。

「攻撃続行」

「なあああああ!！」

嵐LP3500 1900

「僕はこれでターンエンドです」

嵐・炎羽 s p c 4

「お、俺のターン（まっずいなあ・・・初戦だし負けたら後味悪いし、っていうかさつきから夕夜たちが負けたら処刑とか書いてあるプラカード掲げてるし）」

毎度のことながら、平気で出すなよああいうのを。

ま、負けが許されないのは当然のことだけど。

「いくぜ俺は手札のバブル・ナイトを墓地へ送りバリアブル・ナイトを特殊召喚!!」

バリアブル・ナイト

チューナー（効果モンスター）

星5 / ATK 700 / DEF 1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「ナイト」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とする事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「ナイト」と名のついたチューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

「さらに、シールドウォーリアを通常召喚！レベル3のシールドウォーリアにレベル5のバリアブル・ナイトをチューニング！黒き闇から現われし我がデッキ最強の戦士よ、今ここに君臨せよ!!! シンクロ召喚!!! 来い! ダークネス・ブレイド!!!」

ダークネス・ブレイド（オリジナル）

星8 / ATK 3000 / DF 2800

「ダークレス・ナイト」+チューナー以外のモンスター1体以上このカードがモンスターを破壊したとき、破壊したモンスターの元々の攻撃力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「ダークネス・ブレイドでラヴァルバル・ドラグーンを攻撃！ダークネスエンドブレイク！！」

炎羽LP4000 3500

「さらにダークネス・ブレイドの効果で破壊したモンスターの元々の攻撃力2500のダメージをお前に与える！！」

「うおおおお！！」

炎羽LP3500 1000

『嵐選手、ここにきて一気に形勢逆転だあ！！』

「「「ウオオオオオオオオオオ！！！！」」」

「カードを1枚伏せて、ターンエンド！！」

嵐・炎羽 spc5

「僕のターン！残念だけど、僕はオブライエン先輩たちの名誉に賭けて負けない！！ラヴァル炎湖畔の淑女を召喚！レベル5のラヴァルバーナーにレベル3のラヴァル炎湖畔の淑女をチューニング！！シンク口召喚！！溶かせ！！ラヴァルヴァル・ゴーレム！！！！」

ラヴァルヴァル・ゴーレム（オリジナル）

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 3100 / DF 2500

チューナー＋チューナー以外の炎属性モンスター1体以上

1ターンに1度墓地に存在する「ラヴァル」と名のついたモンスターを任意の枚数除外して発動する。除外したモンスター1体につきエンドフェイズまで攻撃力を200ポイントアップする。

「ラヴァルヴァル・ゴーレムの効果！墓地に存在する「ラヴァル」と名のつくモンスター6体を除外し。攻撃力を1200アップさせる！」

ラヴァルヴァル・ゴーレム ATK 3100 4300

「やれゴーレム！ダークネス・ブレイドを攻撃！！ラヴァルフィスト！！！」

「つ墓地のシールドウォーリアを除外し、破壊を無効にする！！」

「だがダメージは受けてもらおう！！！」

「わああああ！！！」

嵐LP 1900 600

「……生き残りしましたが、ターンエンド」

嵐・炎羽 spc 6

・・・やばい。負けるかも。次のドロウですべてが決まる・・・
って、これで何回目だか・・・

「ドロウ！！・・・クラウン・ナイトを召喚！！レベル1のロ
ードランナーにレベル1のクラウン・ナイトをチューニング！シン
クロ召喚！！新たな剣、シンクロチューナーソニック・ナイト！！」

ソニック・ナイト（オリジナル）

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK500 / DEF800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードの召喚に成功したとき、デッキからカードを1枚引く
ことができる。

相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在す
るこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

俺の新たな力、あの研究所で手に入れた数枚のカードのうちの1
枚を召喚した。

しかし、これで終わりではない。

「レベル8のダークネス・ブレイドにレベル2のソニック・ナイ
トをチューニング！！速さを超えた戦士の誇り、疾風となりて新た
な剣となる！！アクセルシンクロお！！！！」

その瞬間、俺の周りからすべてが消えた。景色も、匂いも、敵も、
味方も、風だけが俺を包んだ。

「消えた！？」

突然姿が消えた嵐に会場中が騒然とした。

『き、消えた？一体どこに』

次の瞬間、ソニック音と新たなモンスターと共に俺は現れた。

「あらたなる戦士、アクセルシンクロモンスター、ソニック・ブレイド!!!」

ソニック・ブレイド(オリジナル)

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK 3300 / DF 2800

シンクロモンスターのチューナー1体+シンクロモンスター

攻撃宣言時、墓地の「ナイト」・「ブレイド」と名のついたモンスターを任意の枚数除外して発動することができる。

攻撃対象1体の攻撃力を除外したモンスターのレベルの合計×200ポイントダウンする。

相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

「ソニック・ブレイドでラヴァルヴァル・ゴーレムを攻撃!!!そしてこの瞬間、墓地のバブル・ナイト、ダークネス・ナイトを除外しゴーレムの攻撃力を2200ダウンさせる!貫け、バニシング・ソード!!!」

俺の声に呼応するかのように、半透明な戦士が現れ、その剣をゴーレムに突き刺し、地面に縫い付けた。

ラヴァルヴァル・ゴーレム ATK 3100 900

「いけ、ソニック・ブレイド！メテオ・ソニック！！」

疾風の戦士の攻撃が、炎の魔人の体を貫いた。

「うわあああああ！！」

炎羽LP10000

『決まったあ！！WDGP一回戦、勝ったのは本校代表、嵐選手だあああああ！！！！』

会場中が歓喜の声に包まれた。俺はしばらくの間、何もかもを忘れ、その声に酔いしれたのだった。

turn40：vsシルバーフェイス

「勝ってきたぜえ！」

『いえええい！！』

控室戻ってみると、メンバーの熱気は会場にも引けを取らないほど高かった。

「よくやったぞ嵐！」

「ナイスファイト！」

部屋にいるみんなから祝いの言葉をかけられる。こういう言葉を聞くと本当に勝ってよかったと思える。

「（ボソツ）・・・せつかく用意した制裁グッズはお預けになったけど」

「.....」

勝って本当に良かった！！

「ま、とりあえずはご苦労だった。そしてここからは祝勝祝いじやあー！！」

『イエーイ！！』

「飲めや歌えや！我が部下どもよ！今日は祭りじゃあー！！」

『いやっほう！！』

本当に元気な奴らだなあ。

「……えっと、とりあえず嵐くん、お疲れ様」

「……そう言うなら、一休みさせてくれ……」

どつやら、彼らは俺に休息をくれないようだった。

……そこからは、まあいつも通りのばか騒ぎが続き、気づいた時には、俺以外は全員寝てしまった。

「てか、なんで一番疲れてる俺が起きてんだろ」

結局寝付けなかった俺は、車庫でD・ホイールのメンテをしていた。

「ここがこうなってるからこっちがこうで……んぐアクセルシンクロって、強いんだけどホイールへの負荷が大きいのがなあ……」

などとか言いながら、D・ホイールをいじっていると、ふと背後に人の気配を感じた。

「はっはっは〜お疲れ様だね〜。これ、よかつたらどうぞ〜」

振り返ってみると、地面に届かんばかりに伸びたブロンドの髪をした少女（年は俺より少し下くらい？）が笑いながらスポーツ飲料を差し出していた。

「あ、どうもありがとう。けど君、なんでこんなところに？ここは関係者以外立ち入り禁止で、君は開会式の時には見なかったから関係者じゃないだろ？」

「いやいやそこは無問題だよ〜。確かに私は大会には出てないけど、関係者ではあるのです〜」

「え〜と、それって、大会主催者の子供、とか」

「残念賞〜正解はゲストチーム候補でした〜現在はマネージャー兼補欠なのです〜開会式に補欠は出れないのです〜」

「ああそういつごと」

「私は時守間宵ときもりまよひと言います。以後お見知りおきを、本校の嵐クン」

「おう。こつちこそよろしく。俺は今からこいつの調子見るために走りに行くから、また今度ゆっくり話しようぜ」

「はいはい〜ではまたね〜……嵐クン」

そして、現在俺は最終確認のため、島の外周を走っている。横には海も見え、夜風も気持ちいい。

「にしても、最初の相手は強かったなあ。他の所も最低あのレベルはあるんだろうし・・・気合い入れなおさないと・・・」

などと考えていると俺のD・ホイールとは違うエンジン音が聞こえてきた。音はどんどん近づき、俺の横を通過した。

俺を追い越した白銀のD・ホイールには黒いライダースーツと銀色のフルフェイスをしたライダーが乗っていた。たしか、ゲストチームの・・・

「・・・・・・・・」

俺を追い越した後、フルフェイスのライダーはテールライトをちかちかと何度か点滅させている。あれって、デュエルの申し込み？

「・・・いいぜ。力量を測る意味も込めて、やってやるよ！スピード・ワールド2、セット！」

デュエルモードオン・マニュアルモード

「デュエル!!」

嵐LP4000

シルバーフェイスLP4000

先攻 嵐

「俺のターン、ドロ！俺はクラウン・ナイトを召喚！さらにリトルナイトを特殊召喚しチューニング！シンクロ召喚！！新たな剣、シンクロチューナーソニック・ナイト！」

ソニック・ナイト（オリジナル）

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星2 / ATK500 / DF800

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードの召喚に成功したとき、デッキからカードを1枚引くことができる。

相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在するこのカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

「ソニック・ナイトの効果で1枚ドロ。カードを3枚伏せてターンエンド」

「私のターン」

嵐・シルバーフェイス spc1

「私は、機巧天使クリアスを特殊召喚！」

機巧天使クリアス（オリジナル）

星5 / ATK2000 / DF1800

相手フィールド上にモンスターが存在し、自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

銀マスクの……おそらく女の声は機械で変声されていて少し声が聞き取りづらい。しかし、いきなり攻撃力2000かよ。

「さらに機巧天使コールを召喚！レベル5の機巧天使クリアスにレベル3の機巧天使コールをチューニング！鋼の天使、邪悪を読み解く魔導となれ！シンクロ召喚！解き明かせ、機巧智天使ケルビム！！」

機巧天使コール（オリジナル）

星3 / ATK700 / DF1000

自分の墓地に存在する「機巧」と名のつくモンスターをゲームから除外することでこのカードを墓地から特殊召喚することができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない。

機巧智天使ケルビム（オリジナル）

星8 / ATK2500 / DF2800

「機巧」と名のつくチューナー+チューナー以外の「機巧」と名のつくモンスター1体以上

このカードがフィールド上に存在する限り相手はシンクロ召喚することができない。

シルバーフェイスのフィールドに分厚い魔導書を携えた。4枚羽の武装天使が舞い降りた。

「バトル！ケルビムでソニック・ナイトを攻撃！！」

「そうはさせねえ！畏発動！シンクロ・ガード！」

シンクロ・ガード（オリジナル）

畏

カウンター罠

相手の攻撃宣言時に発動する事ができる。

その攻撃を無効にし、自分のエクストラデッキからシンクロモンスター1体をゲームから除外する。

「俺はスターダストをゲームから除外し、ケルビムの攻撃を無効にする！」

「やるわね。私はカードを1枚セット。これでターン終了よ」

嵐・シルバーフェイス spc2

「俺のターン。罠発動、異次元からの帰還！ライフを半分払い、スターダストを呼び戻す！！」

異次元からの帰還

通常罠（制限カード）

ライフポイントを半分払って発動する。

ゲームから除外されている自分のモンスターを可能な限り自分フィールド上に特殊召喚する。

エンドフェイズ時、この効果で特殊召喚した全てのモンスターはゲームから除外される。

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ魔法・罠・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。この

効果を適用したターンのエンドフェイズ時、この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「やるわね。だけど攻撃力が一緒じゃ、相討ちが精一杯でしょ？」

「それはどうかな？いくぜえ。レベル8のスターダスト・ドラゴンにレベル2のソニック・ナイトをチューニング！！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く。光さす道となれ！アクセルシンクロ！！」

……………ん？何も起きない??

「ケルビムがいるとき、貴方はシンクロ召喚できないわよ」

「げえ！？な、なら直接攻撃だ！スターダストで機巧智天使ケルビムを攻撃！」

「攻撃の無力化発動」

「くそっ！畏発動、デストラクト・ポーション！スターダストを選択！」

デストラクト・ポーション
通常畏

自分フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを破壊し、破壊したモンスターの攻撃力分だけ自分のライフポイントを回復する。

嵐LP2000 4500

「ターンエンド！」

俺がエンド宣言をしたとき、2台のマシンは深い谷をつなぐ巨大な橋に差し掛かった。

うっかり下を見ないように気を付けないと……

嵐・シルバーフェイス spc3

「私のターン。墓地のコールの効果を発動！クリアスを除外してコールを特殊召喚」

彼女の場に再び、1体の天使が現れる。

「さらに、機巧天使へカトを召喚！」

機巧天使へカト（オリジナル）

星4 / ATK1700 / DF1400

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られたとき、デッキからレベル4以下の「機巧」と名のつくモンスター1体を手札に加える。

「レベル4機巧天使へカトにレベル3の機巧天使コールをチューニング！鋼の天使、邪悪を切り裂く刃となれ！シンクロ召喚！舞え、機巧権天使アルケン！！」

機巧権天使アルケン（オリジナル）

星7 / ATK2400 / DF2000

「機巧」と名のつくチューナー+チューナー以外の「機巧」と名のつくモンスター1体以上

このカードがシンクロモンスターを戦闘によって破壊し墓地へ送ったとき、破壊したモンスターを相手フィールドに特殊召喚し、もう一度バトルすることができる。

4枚羽の天使の隣に2本の太刀を持った天使が舞い降りた。

「バトル！機巧権天使アルケンで、ソニック・ナイトを攻撃！リグレット・ダンス！！」

「ソニック・ナイト！！」

嵐LP4500 2600

高速の戦士は強力な天使の一太刀に耐え切れず二分され……いや！！

「耐えた？けど、ライフは減ってるし……ソニック・ナイトが攻撃表示に！？」

「アルケンの効果で、ソニック・ナイトを攻撃表示で復活させたの。さらに、復活したモンスターはアルケンともう一度バトルしなくてはいけない」

「なにっ！？」

「さあ、共に舞いましょう、セカンド・ダンス！」

「うおおおー！！」

嵐LP2600 700

く……そお……!!

「機巧智天使ケルビムでダイレクトアタック！魔導729ページ、イオシス」

「くっそおおおおおお!!」

嵐LP7000

そして、戦いに敗れたD・ホイールは白い煙を上げながら急停止・
・しない？

「な！？コントロールが効かない!……やばつぶつか」

俺のD・ホイールは停止せず、そのままガードレールに激突し

「うわああああああああああああ!!」

俺ごと谷に吸い込まれていった。

t u r n 4 1 : 神 V S ヒーロー (前書き)

久しぶりの投稿です。私事ですがツイッター始めました。
……遅れてすみません!!

turn 41：神VSヒーロー

『さあみんなノッてるか？WDGPもいよいよ2回戦！今日一番の対戦カードは……ノース校代表神槌透選手vs本校代表代理、海原快晴選手だあー!!』

『ウオオオオオオオオオオオオ!!』

WDGP開幕から3日目。初日に姿を消した嵐くん不在のまま、私たちは2回戦を行おうとしていた。ノース校との3対3のライディングデュエル。代役を買って出てくれた快晴くんは、空牙先輩に借りたローラーブレードのようなD・ホイールをはき戦いのときを待っていた。

「変わったD・ホイールをつけてるね。けど、デュエルに珍しさはいらないよ」

「心配するな。すぐ俺の実力を見せてやる」

「ふん」

『それでは行くぜ。スピード・ワールド2セット！ライディングデュエル……』

「アクセラレーション!!」

快晴LP4000

透LP4000

先攻 快晴

「激アツ俺の先攻、ドロー！E・HEROシャークマンを召喚！さらにカードを2枚伏せてターンエンド！！」

E・HEROシャークマン（オリジナル）

星4 / ATK1600 / DF1400

快晴・透spc1

「僕のターン、極星獣タンギリスニ召喚！タンギリスニでシャークマンを攻撃！つく！」

極星獣タンギリスニ

効果モンスター

星3 / 地属性 / 獣族 / 攻1200 / 守 800

このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分フィールド上に「極星獣トークン」（獣族・地・星3・攻/守0）2体を特殊召喚する。

透LP4000 3600

「そしてタンギリスニの効果により極星トークンを召喚。さらにモンスターが戦闘で破壊されたことにより極星獣タングニョーストを守備表示で特殊召喚。カードを2枚伏せてターンエンド！」

極星獣タングニョースト

効果モンスター

星3 / 地属性 / 獣族 / 攻 800 / 守1100

自分フィールド上に存在するモンスターが戦闘によって破壊され

墓地へ送られた時、このカードを手札から特殊召喚することができる。
1ターンに1度、フィールド上に守備表示で存在するこのカードが表側攻撃表示になった時、自分のデッキから「極星獣タングニョースト」以外の「極星獣」と名のついたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚することができる。

快晴・透spc2

「俺のターン！永続罫フュージョンホール発動！！」

フュージョンホール（オリジナル）

永続罫

このカードがフィールド上に存在する限り、ターンプレイヤーは手札・自分フィールド上から融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターをゲームから除外し、その融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚することができる。

「手札のホークマンとシャークマンを融合！ 激アツE・HEROスプラッシュウイングマンを召喚！！」

E・HEROスプラッシュウイングマン（オリジナル）

星6 / ATK2100 / DF1800

「E・HERO シャークマン」+「E・HERO ホークマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが相手モンスターを戦闘によって破壊したとき、破壊したモンスターの元々の守備力分のダメージを相手プレイヤーに与える。

「スプラッシュウイングマンで極星獣タングニョーストを攻撃。」

カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

快晴・透 spc3

「僕のターン！sp-エンジェル・バトン発動！デッキからカードを2枚ドロし、手札を1枚墓地に送る。さらに極星獣グルファクシを召喚！レベル3の極星トーケン2体に極星獣グルファクシをチューニング！星界の扉が開くとき、古の戦神がその魔鎚を振り上げん。大地を揺るがし轟く雷鳴とともに現れよ。シンクロ召喚！光臨せよ、極神皇トール！」

極神皇トール

シンクロ・効果モンスター

星10/神属性/幻獣神族/攻3500/守2800

「極星獣」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター12体以上

1ターンに1度、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターの効果をエンドフェイズ時まで無効化できる。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手によって破壊され墓地へ送られた場合、そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを墓地から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、相手ライフに800ポイントダメージを与える。

会場中に稲妻が走り、よどんだ空から巨大な槌を持った巨人が現れた。

『出たー！透選手最強の僕にして神、極神皇トールだああー！』

「おおお！激アツうー！！でけえのが来たぜえー！！」

「極神皇トールでスプラッシュウイングマンを攻撃！サンダーパイル！！」

「おおあああ！！」

快晴LP4000 2600

「つと、罨発動！ヒーロー・シグナル！E・HEROガードマンを守備表示で特殊召喚！」

「これでターンエンド」

E・HEROガードマン（オリジナル）

星4 / ATK400 / DF2000

快晴・透spc4

「俺のターン！フュージョンホールの効果発動！ガードマンと手札のボルトマンを融合！来い！E・HEROボルトゴーレム！！」

E・HEROボルトゴーレム（オリジナル）

星6 / ATK2300 / DF1800

「E・HERO ガードマン」+「E・HERO ボルトマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

1ターンに1度手札1枚を捨てて相手モンスター1体を破壊する。

「ボルトゴーレムの効果！手札を1枚捨ててトールを破壊！ボルトメテオ！」

雷をまとった隕石が神を砕いた。

「おつし！ボルトゴーレムでダイレクトアタック！」

LP4000 1700

「カードを2枚伏せてターンエンド！」

「くう！・・・だが、このターンのエンドフェイズ、トールは復活し800のダメージを与える！」

海を割り、神は再び雷とともに君臨した。

「がつ！」

快晴LP2600 1800

快晴・透 spc5

「僕のターン、トールでボルトゴーレムを攻撃！サンダーパイル！！！」

「畏発動！最後の抵抗！墓地のスプラッシュウイングを除外しダメージを半分に、つくー！」

快晴LP1800 1200

「ターンエンド！」

快晴・透 spc6

「……いいぜ、面白くなってきたあ！！俺のターン！！sp・エ
ンジェルバトン！デッキから2枚ドロし1枚を墓地へ！カードを
2枚伏せてターンエンド！！」

快晴・透spcf

「僕のターン！これで終わりだ！ツールでダイレクトアタック！
！」

ツールは快晴に向かって巨大な槌を振り上げた。

「畏発動！平行世界融合！激アツ俺は除外されたボルトマンとス
プラッシュウイングマンを融合！！出て来い！E・HEROサンシ
ヤイン！！」

E・HEROサンシャイン（オリジナル）

星8 / ATK2500 / DEF2200

「E・HERO スプラッシュウイングマン」+「E・HERO
ボルトマン」

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

このカードが特殊召喚されたときセットモンスターをすべて攻撃
表示に変更する。（リバー効果は発動しない）

墓地に存在する「E・HERO」1体につき攻撃力500アップ
する。

「何を出すかと思えば、攻撃力2500じゃ僕のツールには勝て
ない！！」

「サンシャインは墓地のヒーローの数だけ攻撃力を増す！墓地の

ヒーローは2体攻撃力は1000アップだ!!」

サンシャイン ATK 2500 3500

罨発動極星宝メギンギョルズ!! トールの攻撃力を倍に!!」

「無駄だ! トールの効果でその効果を無効にする!!」

「え? 嘘っ!?!」

サンシャイン ATK 2500

「さらに罨カード極星宝メギンギョルズを発動!! トールの攻撃力を倍にする!!」

極星宝メギンギョルズ

通常罨

自分フィールド上に表側表示で存在する「極神」または「極星」と名のついたモンスター1体を選択して発動する。

エンドフェイズ時まで、選択したモンスターの攻撃力・守備力は元々の数値の倍になる。

このターン、選択したモンスターは相手プレイヤーに直接攻撃をする事はできない。

「止めだ! サンダーパイル!!」

三度振り上げられた槌を見ながら、快晴は大きなため息をついた。

「はあく。しまったなあ……わりいみんな勝てなかったけど、引き分けて勘弁してくれ」

「は？」

「畏発動！決戦融合・ファイナルフュージョン！」

決戦融合 ファイナルフュージョン
通常畏

自分フィールド上に存在する融合モンスターと相手フィールド上に存在するモンスターが戦闘を行う場合、その攻撃宣言時に発動する事ができる。

お互いのプレイヤーは戦闘を行うモンスタの攻撃力の合計分のダメージを受ける。

「これで俺たちはお互いのモンスタの攻撃力の合計えつと……まあとにかくダメージを受ける！！！」

「なっ！バカな！？」

「おら激アツふつとべええええええええ！！！」

「うわあああああああああ！！！」

快晴LP12000
透LP17000

互いのモンスターが衝突し、プレイヤーも巻き込んで爆発した。

『け、決着！なんと第一試合は引き分けだあああ！！！！』

t u r n 4 2 : 第 2 の 神 は 世 界 を 笑 う (前 書 き)

まさかの連チャン速攻(？) 投稿ですよお！久しぶりに頑張ったあ
！！

turn42:第2の神は世界を笑う

「第二試合、神原ライカVS黒羽烏！両者同時にスタート！！」

ライカ・烏LP4000

先攻 ライカ

烏・ライカ spc7

「俺のターンドロツォ！カードを1枚セット！しターンエンドお
！」

『ライカ様〜がんばって〜』

「ありがとう〜お嬢さんたち！俺様頑張っちゃっよ〜」

客席からの声援にライカが手を振っていると

ブチッ！！

「ん？今なんか切れる音しなかった？」

烏・ライカ spc8

「お〜れ〜のターン！！」

「おわっなんか切れてる！？」

「黙れ！リア充！てめえに俺たちの気持ちなんかわかんねえだよ！ただカード伏せただけでキヤーキヤー言われやがって………ぶっ殺す！！！」

『殺れ烏！奴をぶちころせえ！！！！』

会場の半分の心が一つがなつた瞬間だった。

「俺は手札からBF・暁のシロツコを召喚！さらにBF・疾風のゲイルを特殊召喚！ゲイルの効果でトールの攻撃力を半分に！！！」

極神皇トール ATK 3500 1750

「さらに黒槍のブラストを召喚しチューニング！黒き旋風よ、天空へ駆け上がる翼となれ！シンクロ召喚！BF・アーマード・ウィング！」

BF・アーマード・ウィング

シンクロ・効果モンスター

星7 / ATK 2500 / DF 1500

「BF」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上このカードは戦闘では破壊されず、このカードの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。

このカードが攻撃したモンスターに楔力ウンターを1つ置く事ができる（最大1つまで）。

相手モンスターに乗っている楔力ウンターを全て取り除く事で、楔力ウンターが乗っていたモンスターの攻撃力・守備力をこのターンのエンドフェイズ時まで0にする。

「アーマード・ウィングでトールを攻撃！ブラックハリケーン！」

「！」

「ぐあああ!!」

ライカLP4000 3250

「まだ終わらねえぞ!シロッコでダイレクトアタック!!」

「う、うわあああああ!!」

ライカLP3250 1250

『素晴らしいいい!怒涛の猛攻で、ライカ選手のライフを大幅に削ったあ!つてかいいぞ烏!もつとやれ!!』

実況も味方なのか……!!

「どうだこの野郎!」

「お、俺のライフが……俺のライフがあああああああああああああ……なんてな 畏れ發動フリッグのリングゴ!!」

フリッグのリングゴ

通常畏

自分フィールド上にモンスターが存在しない場合、自分が戦闘ダメージを受けた時に発動する事ができる。

自分が受けた戦闘ダメージの数値分だけ自分のライフポイントを回復し、自分フィールド上に「邪精トークン」(悪魔族・闇・星1・攻/守?)1体を特殊召喚する。

このトークンの攻撃力・守備力は、この効果で自分が回復した数

値と同じになる。

「俺はライフを回復し受けたダメージと同じ数値の邪精トークンを特殊召喚！！」

ライカLP 1250 4000

邪精トークン ATK 2750

「カードを1枚伏せターンエンド」

「エンドフェイズ、ツールが復活し800のダメージを与える！」

「ぐああああ！！」

烏LP 4000 3200

烏・ライカ spc 8

「俺のターン。ツールの効果によりアーマード・ウイングの効果は無効化！さらに邪精トークンでシロッコを、ツールでアーマード・ウイングを攻撃！！」

「シロッコ！アーマード・ウイングああああああ！！」

烏LP 3200 2450 1450

「ぐっ……俺は手札からBF - 追い風のアリゼを特殊召喚！」

BF - 追い風のアリゼ

効果モンスター

星5 / ATK 1200 / DF 1800

自分フィールド上に表側表示で存在する「BF」と名のついたモンスターが2体以上破壊されたターン、このカードは手札から特殊召喚する事ができる。

このカードがシンクロ召喚の素材として墓地へ送られた場合、自分は600ライフポイント回復する。

「俺はこれでターンエンドお!!」

『きゃーライカ様!!』

「殺す!殺す殺す殺すう!!会場みんな!俺に力を!!」

『うおおおおおおおおお!!』

「こっ怖いよ!!」

鳥・ライカ spcg

「俺のターン!BF・極北のブリザードを召喚!ブリザードの効果で、疾風のゲイルを特殊召喚!」

BF・極北のブリザード

チューナー(効果モンスター)

星2 / ATK 1300 / DF 0

このカードは特殊召喚できない。

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル4以下の「BF」と名のついたモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「ゲイルの効果でトールの攻撃力を半分に！」

極神皇トール ATK 3500 1750

「BF - 追い風のアリゼに疾風のゲイルをチューニング！。黒き疾風よ。秘めたる想いをその翼に現出せよ。シンクロ召喚！！舞い上げ、ブラックフェザー・ドラゴン！！」

ブラックフェザー・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / ATK 2800 / DF 1600

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

自分がカードの効果によってダメージを受ける場合、代わりにこのカードに黒羽カウンターを1つ置く。

このカードの攻撃力は、このカードに乗っている黒羽カウンターの数×700ポイントダウンする。

1ターンに1度、このカードに乗っている黒羽カウンターを全て取り除く事で、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体の攻撃力を黒羽カウンターの数×700ポイントダウンし、ダウンした数値分のダメージを相手ライフに与える。

「アリゼの効果でライフを600回復！」

鳥LP 1750 2350

「ブラックフェザー・ドラゴンでトールを攻撃！ノーブルストリーム！」

「っち！」

ライカLP4000 2950

「カードを1枚伏せてターンエンド！」

烏・ライカ spc10

「残念！ツールは再びよみがえる！さらに800のダメージだ！」

「ブラックフェザー・ドラゴンの効果！ダメージドレイン！」

ブラックフェザー・ドラゴン ATK2800 2100

「俺は極星霊リヨースアールヴを召喚！」

極星霊リヨースアールヴ

効果モンスター

星4 / ATK1400 / DF1200

このカードが召喚に成功した時、このカード以外の自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動することができる。

選択したモンスターのレベル以下の「極星」と名のついたモンスター1体を手札から特殊召喚する。

「リヨースアールヴの効果で手札から極星霊デッキアールヴを特殊召喚！」

極星霊デッキアールヴ

チューナー（効果モンスター）

星5 / ATK1400 / DF1600

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「極星」

と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

「レベル1のトークンとレベル4のリョースアールヴにレベル5のデッキアールヴをチューニング！星界より生まれし気まぐれなる神よ、絶対の力を我らに示し世界を笑え！シンクロ召喚！来な、極神皇ロキ！」

極神皇ロキ

シンクロ・効果モンスター

星10 / ATK3300 / DF3000

「極星霊」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター12体以上

1ターンに1度、自分のバトルフェイズ中に相手が魔法・罨カードを発動した時、その発動を無効にし破壊する事ができる。

フィールド上に表側表示で存在するこのカードが相手によって破壊され墓地へ送られた場合、そのターンのエンドフェイズ時にこのカードを墓地から特殊召喚する。

この効果で特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する罨カード1枚を選択して手札に加える事ができる。

「に……！！」

『2体目の神だあ！！なんと神は、1体ではなかつたあ！！』

「やれ！ロキでブラックフェザー・ドラゴンを攻撃！バニティバレット！！」

ロキの指先に闇が集まり、弾丸となって放たれたる。

「罨発動！聖なるバリアー」

「ロキの効果！お前の罠を無効にする！！」

「な、なんだと！？」

「攻撃続行！！」

「うあああああああ！！」

鳥LP2350 1250

「さらにツールでブリザードを攻撃！サンダーパイル！！」

「くそっ！！」

「俺はカードをセットしてターンエンド。さくてこれからどうするからすん？会場の期待を背負ってるんだろあ？」

鳥・ライカ spc11

「つく……俺のターン！考えろ、どうすればあいつを……」

（次のつららに賭けるか？いやだめだ。それじゃ問題を先送りしただけだし何よりデュエリストとして俺が許せない……こつなりや）

「スピードワールド2の効果！spcを8取り除きカードを1枚ドロォー！！」

鳥 spc3

「……いくぜ！蒼炎のシユラを召喚！」

B F - 蒼炎のシユラ

星4 / ATK1800 / DF1200

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送った時、自分のデッキから攻撃力1500以下の「B F」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「ああ？今更そんなカードで何ができる！」

「さらに手札から罾カード、B F - ストリーム発動！！」

B F - ストリーム（オリジナル）

通常罾

自分フィールド上に「B F」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合のみ発動する事ができる。

ライフを1000ポイント払い墓地のシンクロモンスターをエンドフェイズまで特殊召喚する。

また、自分フィールド上に「B F」と名のついたモンスターが存在する場合、このカードは手札から発動する事ができる。

「手札から罾だと！？」

「俺はライフを1000払いブラックフェザー・ドラゴンを特殊召喚！！」

鳥LP1250 250

「っく。だが攻撃力は2800手札も0それで何ができるってい

うんだ！」

「……お前、忘れてるぜ？俺の場にも、ツールと同じで快晴から託されたカードがあるってことを！」

「……フュージョンホールか！」

「その通り！俺はBF・蒼炎のシユラとブラックフェザー・ドラゴンを融合！義賊の力、見せてやるよ！融合召喚！！鳥龍皇・バイトノート！！」

ウチ
鳥龍皇・バイトノート（オリジナル）

星10 / ATK 3500 / DF 2000

「ブラックフェザー・ドラゴン」 + 「BF」と名のついたモンスター

このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。

1ターンに1度、自分の墓地に存在する「BF」と名のついたモンスターを任意の枚数除外することで1体につき攻撃力を500ポイントアップする。

この効果を使ったターンのバトルフェイズ終了時このカードの攻撃力は次の自分のエンドフェイズまで0になる。

黒い羽根がフィールドを舞い、その中央に黒羽の王が降臨した。

「俺は墓地にいる5体のBFをすべて除外して効果発動！バイトノートの攻撃力は2500アップ！！」

鳥龍皇・バイトノート ATK 3500 6000

「攻撃力、6000だと!?!」

「くらええ!! 鳥龍皇・バイトノートで極神皇ロキを攻撃! バイオレントストーム!!」

「つく! そうはいくかよ!! 畏発動!! 極星宝ミストルティン!」

極星宝ミストルティン(オリジナル)

通常畏

自分及び相手フィールド上に表側表示で存在するモンスターを1体ずつ選択して発動する。

選択した互いのモンスターを破壊し、攻撃力の合計分のダメージを互いのプレイヤーに与える。

「いつけえええええええ!!」

「うおおおおおおお!!」

鳥LP 250 0

ライカLP 2950 0

『ま、ままままさか!? 2回戦も引き分けえ!! 勝負の行方は、ラストホイーラー紫苑、つららに託されたあ!! よおし野郎ども集まれ! ライカを殺しに行くぞお!!』

「……ほな、行ってくるわ。」

激闘が終わる少し前、私はつららのD・ホイールの調整に付き合

っていた。

「うん。気を付けてね」

「嵐の分まで活躍してくるからな」

「はいはい」

「失礼します」

二人で笑いながら他愛もない会話をしていた時、運営委員の人がD・ホイールを押しながらやってきた。そのホイールは影に隠れていてよく見えない。

「本校代表の嵐さんですが」

「嵐くん!？」

「見つかったんか!？」

「ええ、ただ見つかったのは本人ではなく」

そついいながら運営の人はさらに一步前に出た。そして、さつきまで見えなかったものが見えた。

それは

その傷だらけのD・ホイールは

嵐くんのもだった。

turn 42 : 第2の神は世界を笑う (後書き)

どうもお久しぶりです！いろいろ大変でしたが何とか完成しました
！！

あと、私事の番宣です。にこにこにて配信中のTMPラジオステーション知人が出てたりするのでよかったら聞いてください。
次回いよいよつららライディングデュエルです！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0382i/>

遊戯王スパイラル

2011年12月27日00時52分発行